

海外果樹農業情報 No. 167
2024-2

海外の果樹産業ニュース 2024 年度上期版

2024 年 7 月

公益財団法人 中央果実協会
[JAPAN FRUIT ASSOCIATION]

本書の内容について、ご質問やお気づきの点がありましたら、
下記あてにご連絡下さるようお願いいたします。

公益財団法人 中央果実協会 情報部

〒100-0011 千代田区内幸町 1-2-1 日土地内幸町ビル 2 階

【電 話】 03-6910-2922 (代)

【F A X】 03-6910-2923

序 文

果樹農業を取り巻く国際化の進展に伴い、我が国の果樹産業は外国産果実及びその加工品等との競争が激化しており、一方で果実の輸出促進の努力が行われています。

このような我が国の果樹産業を取り巻く環境の変化に対応した関係機関・団体等からの海外果樹関係の情報ニーズの高まりを踏まえ、当協会では農林水産省補助事業「果樹農業生産力増強総合対策」における調査研究等事業の一環として、海外における果実及びその加工品等の生産・流通事情等に関する情報の収集・提供を行うことにより、我が国果樹産業の振興・活性化並びに果実の需給と価格の安定及び輸出の振興に資することとしています。

具体的には、特定のテーマを対象とした調査報告書及び果樹全般についてのFAO(国連食糧農業機関)の生産貿易統計データ等を元とした報告書を取りまとめて刊行するほか、海外の果樹産業を扱う雑誌、新聞、ウェブサイトから我が国果樹産業に密接に関係する記事や公表資料を翻訳し関係者に提供しています。

この度は2024年3月から6月に翻訳・提供したニュースを取りまとめ刊行することといたしました。また、本書は当協会ウェブサイトにもカラー版を掲載しています。

本書が最近の世界の果樹産業事情を理解する上で少しでもお役に立てば幸いです。

なお、本書の翻訳責任は当協会にあることを申し添えます。

2024年7月

公益財団法人 中央果実協会

理事長 村 上 秀 徳

目 次

1. 中南米のアボカド生産が増える中、引き続きメキシコが王者	1
2. 南アフリカ 2024年の柑橘類輸出量は増加の見込み	2
3. イタリア産レモンを日本で発売	3
4. 台湾 パイナップルの栽培面積が4%減少	3
5. トルコ 柑橘類の輸出は概ね安定 日本向けには紅海危機の影響	4
6. ペルー 生食用ブドウの困難なシーズンを終了 日本は新市場	5
7. 米国 カリフォルニア州のサクランボは平年並みに	6
8. トルコ 旺盛な内需が核果類の輸出を抑制	7
9. トルコ サクランボの輸出は大幅増加が見込まれる	8
(関連記事)トルコ サクランボの収穫シーズンはすべて良い兆候	8
10. メキシコ 2024年のアボカド生産量予測は277万トン	9
11. メキシコ産ブドウ アジアとオセアニアへの輸出を拡大	9
12. ニュージーランド産エンヴィ・リンゴが世界市場へ	10
13. 台湾産パイナップルの輸入をニュージーランドが承認	10
14. 米国 リンゴの在庫量は5年平均よりまだ29%多い	11
15. 米国農務省が母親と子供のための果実・野菜支援を改訂	11
16. ブラジル 主要柑橘類産地の出荷量予想	12
17. 米国 柑橘類の輸入業者は南半球産の季節に向けて準備中	13
18. 韓国 リンゴ危機が深刻化する中での長期的な対策	14
19. 米国ワシントン州 ベトナムとの貿易を強化	15
20. スペインであふれかえるエジプト産オレンジ	15
21. インド 紅海危機がブドウの出荷シーズンを攪乱	16
22. 南アフリカ 生食用ブドウの輸出は2023/24年度に17%増加	17
23. イスラエル 今シーズンの柑橘類の輸出量は約35%減少	18
24. 米国北西部 最長のサクランボ出荷シーズンを予想	19
25. トルコ サクランボの収量が多く輸出業者は品質を重視	19
26. 南アフリカの柑橘類の未来	20
27. チリ 2024年の生食用ブドウの収穫が終わりに近づく	21
28. 中国のSNS上でブドウ品種にかかる権利侵害を阻止	21
29. 欧州で果実・野菜の消費量が減少	22
30. 南アフリカ 嵐の後の寒さでリンゴの着色が良好	23
31. エクアドル フザリウム菌に耐性のあるバナナ新品種が到着	24
(関連記事)課題に立ち向かうバナナ産業の未来	24
32. 台湾 マンゴーのシーズンが始まる 主な輸出市場は日本と韓国	25
33. 南アフリカ 2024年の柑橘類シーズンが異例のスタート	26
(関連記事)南アフリカ産柑橘類 アジア市場の見通しはまちまち	27
34. トルコ 今の天候はサクランボの栽培に最適	28
35. 南半球の2024年の柑橘類輸出量は7.45%増の予測	28
36. 世界のオレンジ市場(抜粋・要約)	29
37. 米国 果実業界が有機について楽観的である理由	30
38. 米国北西部 サクランボの収穫予想	32
39. ニュージーランド キウイフルーツは天候に恵まれ豊作	32
40. 中国 シャインマスカットが大量出荷で半値に	33
41. メキシコ ハリスコ州産アボカドの輸出市場拡大を模索	34
42. イタリアの共同事業体 レモンの日本向け供給を倍増	34
43. EU 包装資材に関する新規則	35
(関連記事)業界団体が包装規制を批判	36

44. 英国の研究 若者の果実・野菜摂取量の増加にソーシャルメディアが有効	37
45. ペルー産ブドウ 香港向けが最も価格が高い	38
46. 中国が台湾産柑橘類等の禁輸措置解除に言及	38
47. トルコ サクランボ輸出目標を3億ドルに上方修正	39
48. 南アフリカ ソフト柑橘類の輸出が大幅に増加	40
49. インド カシ米尔地方の冷蔵業者に問題	40
50. 中国 雲南省産ブルーベリーを初めて日本に出荷	41
51. イタリア リンゴをCAコンテナでインドに試験出荷	41
52. ペルー 新しいソフト柑橘類品種が輸出を促進	42
53. 米国北西部のサクランボは十分な出荷量が見込まれる	44
54. 米国カリフォルニア州 核果類シーズンの幕開け	45
55. 米国 2023年産果実(非柑橘類)の出荷量	46
56. 南アフリカのアボカド産業 インド、日本、中国へ初出荷の準備中	49
57. 南アフリカ グレープフルーツの輸出は100万箱減少の予測	50
58. 南アフリカ産生食用ブドウがベトナムで存在感を高める	51
59. カナダ ブリティッシュコロンビア州のリンゴは増収の可能性	52
60. ニュージーランド産リンゴは特に大玉の需要が高い	53
61. チリの落葉果実事情(ブドウ、リンゴ)	54
62. 米国の有機セクター 2023年に記録的な販売額を計上	60
63. ブラジル 病気と気候変動によりオレンジ生産量が激減	62
64. イタリア リンゴをCAコンテナでインドに試験出荷(2)	62
65. 北米のブルーベリー 品質が高く需給は旺盛	63
66. 米国 ベトナムとタイにおける農産物輸出機会(抜粋)	64
67. 米国 ワシントン州のサクランボは6月1日頃に収穫開始	66
68. トルコ サクランボのシーズンは過去2年よりもかなり良い予想	67
69. ニュージーランド産キウイ 輸送中のネズミ被害で100万箱以上廃棄	67
70. 南アフリカの落葉果実事情(リンゴ、生食用ブドウ)	68
71. ニュージーランドの落葉果実事情(リンゴ)	76
72. 米国産リンゴ 2023-24年度シーズンの振り返り	82
73. ブラジル 洪水はリンゴの生産と輸出に影響しない	84
74. ペルー産 生食用ブドウは新品種が従来品種を大きく上回る	85
75. 南アフリカ 品目の多様化でアボカドの生産が増加	86
76. トルコ サクランボの出荷が本格化へ	87
77. 欧州 オレンジ果汁価格が主産地の生産減少で大幅に上昇	87
78. ペルー 2024年のマンダリンの出荷は良い見通しで始まる	88
79. オーストラリア 3つのマンゴー新品種を導入	88
80. フィリピン 日本のアボカド市場に目を向ける	89
81. 海上コンテナ運賃 主要航路のスポットレートが急騰	89
82. 米国 サクランボはワシントン州産に移行	90
83. 南アフリカ 東欧がアボカド需要を喚起	91
84. 南アフリカ ネーブルオレンジの輸出予測を14.5%下方修正	92
(関連記事)南アフリカ オレンジ果汁の価格高騰は輸出業者のチャンス	92
85. ニュージーランド キウイフルーツの出荷開始に多くの期待	93
86. トルコ サクランボの出荷量は少ないが粒は大きい	93
87. 米国 ワシントン州のサクランボの出荷最盛期は6月中旬から	94
88. オーストラリア 柑橘類産業へのブラジル産オレンジ危機の影響	95
89. ペルー 早生マンダリンの輸出は減少、晩生は平年並み	96
90. 韓国 果実・食品の関税低減を延長	96

91. 台湾 日本が赤肉系ドラゴンフルーツの輸入を承認	97
92. チリ 果実輸出のアジア市場開放を推進	97
93. 世界のアボカド市場は「拡大に備える」	98
94. 南アフリカ アジア型カンキツグリーニング病の感染はない	99
(関連記事)スペイン 南アフリカの緑化病検出で検疫を求める	100
95. ニュージーランド キウイフルーツが記録的な収穫量	101
(関連記事)ゼスプリ 昨年度の世界のキウイ販売に光と影	101
96. 世界のモモ・ネクタリン市場(抜粋)	102
97. ベトナム 数10億ドル規模の儲かる輸入果実市場	103
98. 南アフリカ 赤肉系グレープフルーツの輸出予測を再び下方修正	104
99. フィリピン 日本がバナナの病害対策を支援	104
100. ニュージーランド 初のバイオ燃料試験船が無事到着	105
101. ゼスプリ 北半球からの供給増加へ向けて生産者に協力要請	106
102. ニュージーランド リンゴとナシの輸出が予想を下回る	106
103. 米国 サクランボと柑橘類の出荷量予測	107
104. トルコの柑橘類事情(オレンジ、タンジェリン/マンダリン、オレンジ果汁)	108
105. ペルー 高品質のマンダリンで日本市場を目指す	116
106. 中国がアジア最大のアボカド輸入国に	117
107. 南半球の柑橘類の出荷シーズンに天候が大きく影響	118
108. インド 壊滅的なブドウのシーズン	119
109. メキシコ ベリー類の輸出は最大20%減少する見込み	121
(関連記事)世界のブルーベリー需要が供給を上回る	121
110. 世界の落葉果実事情と市場動向(リンゴ、ブドウ、ナシ)	122
111. EUの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁)	128
112. チリの柑橘類事情(レモン)	133
113. ブラジルの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁)	136
114. ブラジル オレンジ果汁の輸出量は依然として前年を下回る	151
115. トルコ サクランボは順調だがアジア市場では低価格が問題	152
116. 北米 生食用ブドウはメキシコ産から米国産に移行	153
(関連記事)米国 カリフォルニア州産ブドウの本格出荷の開始は平年並み	153
117. ペルーの柑橘類事情(マンダリン、タンジェリン)	154
118. 南アフリカの柑橘類事情(オレンジ、グレープフルーツ、ソフト柑橘、果汁)	161
119. 米国 ワシントン州は最盛期のサクランボを空輸	174
120. メキシコ 干ばつによりハリスコ州産アボカドの収穫開始が遅れる	174
121. 北米 業界団体が持続可能な農産物包装ガイドラインを策定へ	175

(2023年度3月分)

408. 世界のマンダリン市場(抜粋)	176
409. エジプト 次のブドウの季節に向けて新しいDNAラボを準備中	177
410. エジプト 南アフリカを抜きアフリカ最大のオレンジ輸出国に	178
411. 米国ハーバード大学 長生きするための果物・野菜の消費量	179
412. 中国 ゼスプリがキウイフルーツの偽装包装に挑む	179
413. ペルー 天候不順の中でブドウが最大の輸出果実に	180
414. EU 果実・野菜のプラスチック包装を禁止へ	181
(関連記事)EU 持続可能な包装の新しい規則に関する暫定合意	182
415. オーストラリア 記録的な量のハニーゴールドマンゴーを収穫	183
416. オーストラリア 青果物業界の代表団が日本を訪問	184

417. エジプト産柑橘類は紅海の危機で南北アメリカと欧州へ.....	185
(1) ブラジルとカナダでエジプト産柑橘類の輸入が増加.....	185
(2) ポーランドは今年スペインとエジプトから柑橘類を輸入.....	185
418. 南アフリカ ブドウはシーズン終盤に近付き輸出は好調.....	186
419. 米国 柑橘類の生産量は長期的に減少の見通し.....	187
420. 昨年末の世界のオレンジ果汁在庫量は回復するも供給量は不十分.....	187
421. ニュージーランド ルビーレッド・キウイは今シーズン100万箱を達成へ.....	188
422. トルコ 紅海危機にも拘わらずリンゴ輸出は継続 次はサクランボ.....	189
423. 中国 柑橘類産業は堅調な成長.....	189
424. ニュージーランド 今季のジャズリンゴの輸出開始は順調.....	190
425. ニュージーランド 2024年最初のゼスプリ・キウイ専用船が出航.....	191
426. 韓国 リンゴ生産の危機に直面.....	192
(関連記事)韓国 価格高騰の中、政府はリンゴ等の輸入禁止を維持.....	192
427. 南アフリカ産アボカド 欧州でチャンス、日本へは試験輸送.....	193
428. トルコ 今年のサクランボは大玉を期待.....	194
429. 米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を設定・拡大.....	195
430. 米国 リンゴの輸出量は前年同期比47%増.....	196
431. ニュージーランド キウイの収益改善を予測 日本市場に不安も.....	197
432. 南米の不振な季節を終えて、ブルーベリーは北米に移行中.....	198
433. 米国カリフォルニア州 核果類の出荷が早まる可能性.....	199
434. 南アフリカ産リンゴ タイ市場の再開に向けて査察を受け入れ.....	199
435. 米国 オレンジジュースの売上はインフレの中で引き続き堅調.....	200
436. ニュージーランド ロキット・リンゴの輸出量は2倍に.....	201
437. トルコ 気候変動がブドウ栽培に影響を与える可能性.....	201
438. 米国 研究によると「薬としての食品」戦略は有効.....	202
439. 米国フロリダ州 柑橘類の生産は引き続き減少.....	202
440. 米国産果実 生産増でリンゴ等が価格低下の見通し.....	203
441. イタリア Vogがリンゴの新しい販売方法を導入.....	204
442. エジプト 今年の柑橘類は採算が合わない.....	205
443. エジプト 来たる生食用ブドウシーズンの課題.....	206
444. 米国 2024年3月の柑橘類出荷量予測.....	207
(関連記事)米国 柑橘類出荷量予測.....	207
445. 南アフリカ産柑橘類 ベトナムをはじめアジア市場に目を向ける.....	208

(ご利用上の留意事項)

- 記事の出典はすべて各媒体の電子版です。
- 文中の「フォントの小さいカッコ書き」及び「フォントの小さいですます体」は訳者による注記です。
- 文中の固有名詞(人名、会社名、団体名、品種名等)の日本語表記は、一般的に確定しているものを除き仮訳です。
- 翻訳記事は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品等を推奨するものではありません。

PDF版について

- PDF版では、目次の見出しが各記事にリンクしています。
- PDF版では、各記事のタイトル右下の出典・日付が原文記事にリンクしています。
- PDF版から原文記事、参考資料等外部へのリンクは、原文記事掲載時点のものです。

1. 中南米のアボカド生産が増える中、引き続きメキシコが王者

[FreshFruitPortal](#) 2024年4月1日

メキシコ農業省によると、同国の2023年のアボカド生産量は190万トンで、中南米及び世界における最大のアボカド生産国となっている。一方、FAOによると、コロンビアは約98万トンで第2位のアボカド生産国であり、ペルーが77万トン以上、チリが15万トンと続いている。

国際的なアボカドコンサルタントであるマウリシオ・オーガー氏が、地域のアボカド生産の状況を分析した。

メキシコ

メキシコについて同氏は、世界の輸出をリードするための適切なツールを構築し、採用してきたと述べ、メキシコには技術的な灌漑システムがあり、在来花粉媒介昆虫が多いためそれらの昆虫を輸入に頼っていないと説明した。(以下「」は同氏の発言)

「問題は水へのアクセスであり、井戸の深さは800メートルから1.5キロメートルもある。」

同氏は、メキシコでは農業の実践方法を新しいものに更新する傾向が見られると述べた。その一環として、土壌水分計を次々と設置し、蒸発量よりも土壌水分量の測定に基づいて灌漑を行っている。

コロンビア

コロンビアでは、気候が温暖な低地で栽培される作物は、比較的良い生育条件を享受していると同氏は言う。しかし、それらの作物はペルーと収穫期が重なるという課題に直面している。

「そこでの問題は、コロンビア産アボカドの商業的価値がそれほど高くないことである。海拔2,300～2,400メートル以上の農場では、アボカドの栽培条件はより一層悪くなる。」

同氏によると、それらの生産者は11月に輸出し、生産物は1.30～1.70ドル/kgで販売されている。

同氏はまた、コロンビアにはハス種に関する知識があまりないため、ハスアボカドの国内市場がないと指摘した。果皮が緑色のアボカドはコロンビアでよりよく知られている。

農学的な観点からは、コロンビアでは土壌条件による制約があり、アボカドの栽培に必要な土壌の深さが不足する傾向があると同氏は述べた。

「彼らが抱えている課題は、果樹園の設置である。土壌は粘土の割合が高いため、畝を立てる必要がある。さらに、果樹に施された肥料が失われないように、自動灌漑を使用する必要がある。」

ペルー

ペルーについて同氏は、「土壌の保水力が弱く、有機物がまったく無いにもかかわらず、ペルーではアボカドが大変よく育つ」と述べ、気候が生産に非常に適していると説明した。しかし、開花は過度の着花により大きなストレスを受け、これは全体的な生育を妨げる。同氏は、一般的に、ペルー産のアボカドは樹上での着果が良く、果実の品質も良いと述べた。

チリ

チリの場合、主に寒さと霜などの気象条件のために、アボカドを出荷できる期間が限られていると同氏は指摘した。「チリが抱える課題は水と栄養の管理であるため、生産者はどんどん南下する傾向がある。」

今後の予測

同氏は、エクアドルのアボカド部門でも有望な進展が見られたと述べた。「エクアドルは重要な可能性を秘めていると思う。私が見てきた限りでは、グアテマラにも大きな可能性があると思う。」

主な生産国の中では、コロンビアが大きな成長の可能性を示していると同氏は述べた。「しかし、彼らは果樹園の設置の問題を解決しなければならない。」

2. 南アフリカ 2024年の柑橘類輸出量は増加の見込み

[FreshPlaza 2024年4月2日](#)

南アフリカの2024年の柑橘類輸出シーズンが今月から本格的に始まる。南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)の各品目別グループは、先週開催された柑橘類販売フォーラムで、これからのシーズンの予測輸出量を発表した。

CGAは、「全体として、輸出量の増加が見込まれる。南アフリカの柑橘類生産者達は、投入コストの急激な上昇、計画停電、公共インフラの老朽化などの困難な状況下で、より多くの柑橘類を生産している。この増加は、多くの地域で若い果樹が成木化している結果でもある」としている。(以下「」はCGAの見解)

現在の予測では、レモンは3,790万箱(15kg/箱(以下同じ))が主要市場に輸出され、これは昨年に比べて7%多い。

ネーブルオレンジの輸出量は4%増の2,560万箱と予測されている。

バレンシアオレンジの輸出は2年間抑制されていたが、2024年には生産量が改善し、長期的な傾向に戻ると見られ、2023年の輸出量に対し12%増の5,800万箱と予測されている。

しかし、オレンジの品目別グループは、国内の加工業者に供給する果実の収益性が大幅に向上すると見られるため、輸出量が最大5%減少する可能性があることを強調した。これは、5,800万箱の予測には織り込まれていない。

グレープフルーツの輸出も、14%増の1,670万箱と、長期的な平均まで増加すると予測されている。輸出量の増加は、昨年は輸出されなかった加工用(PPクラス)の果実が再び中国向けに輸出されることにも一部起因している。

ウンシュウミカン(16%増)で終了すると見られ、クレメンタインとノバはそれぞれ540万箱(8%増)及び450万箱(8%増)に達すると予想されている。晩生マンダリン全体の推計値については、今後発表される。

「2024年の果実の品質は大変良いようで、収穫の時期は典型的なものになると予想される。北部の産地で雨が少ない最近の状況は、果実のサイズが2023年よりもやや小さくなることを意味するかも知れないが、遅い時期の降雨がこれを変える可能性もある。

生産者らは2023年に、1億6,510万箱を梱包し、世界の市場に出荷した。約80万箱の増加は、長期的に予想される成長曲線を大幅に下回っている。」

「カンキツ黒星病(CBS)とフォールスコドリグモス(FCM)に関するEUの差別的で非科学的な植物検疫規制は、南アフリカが欧州市場へのアクセスを拒否されるようになるかも知れない深刻な脅威である。

CGAは、FCMの問題を裁定できる世界貿易機関(WTO)の独立パネルの設置を南アフリカ政府が早期に要求することを望んでいる。CBSに関しては、政府がWTOの協議プロセスを求めることが不可欠である。」

3. イタリア産レモンを日本で発売

[FreshPlaza](#) 2024年4月2日

ロッカ・インペリアーレ地区(イタリア・カンブリア州)のレモン生産者共同事業体は、4年前にアラブ首長国連邦、サウジアラビア及びオーストラリア向けで始めた国際化のプロセスを経て、今度は日本に製品を送っている。

40トン以上のリモーレレモンが2024年3月27日(水)にマルペンサ空港(イタリア・ミラノ)を出発し、3月28日に成田国際空港に到着した。

同事業体のピエトロ・ブオンジョルノ会長は、「我々のプロジェクトに賛同してくれた東京と横浜の最も重要なスーパーマーケットチェーンとレストランで、間もなくお目見えする」と話す。(以下「」は同会長の発言)

「20日前に行なったレモンのサンプル出荷は、果実の到着時に現地の取扱業者が実施した様々な官能検査と品質保持試験により、成功であることが証明された。日本の技術者や農学者も、棚持ちが良いこと、そして何よりも素晴らしい果汁と独特の香りに注目した。」

リモーレブランドは、イタリアの様々なスーパーマーケットだけでなく、ヨーロッパ、特にイギリス、フランス、スイス、オランダ、ドイツ、ベルギーのスーパーマーケットにもすでに登場している。

「この数か月間、日本への輸出を計画してきた。我々は、伝統的なロッカ・インペリアーレ・レモンの中でもある古い品種に焦点を当てている。種が無く、皮も食べられ、果汁の含有量は40%以上で、リモネンの含有量は75%で、強い香りが特徴である。すべての特性は産地に由来する。我々の最大の満足は、日本のバイヤーが初めて我々のレモンを味わった時に、その強烈で独特の香りを高く評価してくれたことである。2024年12月には、日本の代表団がロッカ・インペリアーレ地区を訪問し、レモンと産地の土壌・微気候的特徴を調べる。その目的は、取扱業者の信頼を深め、輸出量を増やすとともに、収穫の初めから次のシーズンの供給を計画できるようにすることである。」

4. 台湾 パイナップルの栽培面積が4%減少

[Taiwan News\(台湾英文新聞\)](#) 2024年4月2日

【台北(台湾ニュース)】台湾農業部農糧署(AFA)(農業省農業食料庁に相当)は2日(火)、2024年のパイナップルの総栽培面積が7,200ヘクタールであったと公表した。

これは昨年に比べて4%の減少となるが、AFAはパイナップルの品質が向上したとしている。今年これまでのパイナップルの輸出量は5,800トンで、年間輸出目標の2万トンを超えるペースで進んでいる。

AFAはまた消費者に向けて、品質管理対策が改善され、芯腐れの影響を受けた品質の低いパイナップルは引き抜かれたと伝えた。

AFAの蘇茂祥^{スーマオシヤン}次長は、パイナップルは収穫の最盛期を迎えるが、輸出販売が好調なため国内価格は安定していると述べた。4月2日(火)の台北農産物マーケティング社(台北農産運銷公司)のパイナップルの価格は、1kg当たり30台湾ドル(1米ドル)で、これは生産コストの約2倍であり、農家にとって妥当な利益につながっていると[udn.com](#)(聯合新聞網)は伝えている。

蘇氏は、国内のパイナップル農家にとって大きな課題は、中国が台湾からのパイナップルの輸入を3年連続で停止する決定を下したことだと述べた。このため、生産者は引き続き台湾の最も重要な市場である日本など、多様な外部市場を求めようになった。台湾は今後、ブルネイなどの新興市場の開拓を試みるだろう。

台湾産パイナップルが中国市場に戻るかどうかについて、蘇氏は、生産者は日本市場に焦点を当て、中国市場に対しては現実的な態度を維持すべきだと述べた。

執筆者: ショーン・スキャンラン(本紙記者)

5. トルコ 柑橘類の輸出は概ね安定 日本向けには紅海危機の影響

[FreshPlaza](#) 2024年4月3日

トルコの果実輸出業者アクスン社の共同経営者であるエスラ・ソイレン氏は、トルコの柑橘類シーズンは、概ね安定していると言う。(以下「」は同氏の発言)

毎年需要が減少している1つの品目を除いて、柑橘類のほとんどが好調である。「全体的に見て、ヨーロッパでは気温が非常に高く、すべての国でマンダリン、グレープフルーツ、レモンが十分にあった。売上は安定していたが、販売数量を増やすには価格圧力が大きかった。レモンの需要は安定しており、シーズン全体の計画を立てるのが容易であった。顧客がグレープフルーツよりも甘い品目を好むため、オレンジとマンダリンの需要は年々増加し続けている。これは必然的に、グレープフルーツの需要にその逆が当てはまり、季節ごとに減少していることを意味する。」

同氏は産地の競争に目を向け、エジプトがヨーロッパ市場において真剣に受け止められるプレーヤーになったと認める。

「エジプトはここ数年すでにオレンジでは強豪で、国別に見た時にそのことを強く感じている。スペイン、ギリシャ、そして今やエジプトなどの大輸出国がヨーロッパ市場にオレンジを供給しているため、この市場へのトルコ産の出荷は常にかなり遅い。しかし、これはオレンジだけではない。マンダリンについても、他国は良い品種があり、収穫量が多く、価格が安いので、プレッシャーを感じている。その上、それらの国の出荷のタイミングは我々とほぼ同じである。特にマーコットに関しては、激しい競争を目の当たりにしており、国として悪影響を受けている。」

紅海の危機は多くの輸出業者に課題をもたらしており、その結果、同社も一部の契約をキャンセルせざるを得なかった。

「様々な取引先があり、季節ごとの柑橘類の出荷計画を立てている。それらは、ヨーロッパ、極東、米国、カナダ、日本の取引先である。そのため、紅海危機は当社に非常に大きな影響を与えている。日本向けのシーズン別の契約数量があるが、紅海危機が一晩にして表面化した際には、この目的地へのすべての積み込みを停止せざるを得なかった。」

トルコの柑橘類の出荷シーズンはまだ続いており、同氏にとって、今後数週間は驚くようなこともなく、非常に単純明快に見える。

「弊社ではまだレモン、グレープフルーツ、バレンシアオレンジを扱っているが、価格は過去数週間、おそらく数か月で見ても非常に安定している。適切な品質の果実を収穫する優れたチームと、それらの果実を冷蔵室で適切な湿度と硬さで安全に貯蔵する十分な設備がある限り、弊社は取引先の要求に可能な限り長い期間対応することができる。」

「グレープフルーツは契約した出荷計画が5月末までであるので、契約数量は良い品質の果実で確実にカバーする。レモンについては、品質上の問題や棚持ち試験の成績の低下が出始めているので、4月中旬頃に出荷を終了する予定である。オレンジについては、国内の小売業者とも取引があるため、もう数か月長く、すなわちスイカ、モモ、ネクタリンなどの夏果実を梱包すると並行して柑橘類もまだ梱包することになる。」

執筆者: ニック・ピーターズ

6. ペルー 生食用ブドウの困難なシーズンを終了 日本は新市場

[The Grape Reporter 2024年4月3日](#)

ペルーは、産地全体で異常気象に見舞われた2023-24年度の生食用ブドウのシーズンを終わりつつある。ペルー生食用ブドウ生産出荷業者協会(Provid)のアレハンドロ・カブレラ事務局長は、FreshFruitPortal.com(本サイトの親サイト)に対し、荒天は1年前に始まったと語った。(以下「」は同氏の発言)

2023年3月上旬に発生したサイクロン『ヤク』は、ペルー北部に推定6億3千万ドルの被害をもたらした。この災害では、何週間にもわたって強風と雨が続き、生食用ブドウの出荷量は30%減少した。「エルニーニョ現象も発生し、気温が上昇した。そのため、非常に暖かい冬、と言うよりも、昨年ペルーには冬がなかった。」これは、1エーカー当たりの作物の収量に直接影響し、ブドウの収穫量が少なくなった。「第12週(3月22日)までの輸出量は前年比で12%減少した。昨シーズンは第12週までに7,110万箱(8.2kg/箱)を出荷していたが、今シーズンは同じ週までに6,240万箱となっている。これは、我々が昨年11月に数量の減少を予測したときに指摘したことを裏付けている。」

課題 商業的な観点から見ると、カブレラ氏の主な関心事は輸送量が減少しているパナマ運河の干ばつに関係している。「それは、船が自由に航行できなくなり、我々の主な輸出先である米国東海岸にたどり着くことができないことを意味する。そのため、明らかに懸念があった。しかし、幸いなことに、ペルーの出荷業者が利用する船会社は緊急時対応計画を持っている。運河を通過する特定の便があったので、貨物を前進させることができた。」アジア向けの出荷の大幅な遅延は、シーズン中に別の課題をもたらした。同氏は、輸送日数が通常より最大2週間長くなったという話を出荷業者から聞いたと言う。

価格 今シーズンは、例年に比べて輸出業者にとって価格が上昇している、とカブレラ氏は述べた。「我々の主な輸出先である米国では、ペルーだけでなく、カリフォルニア州でも2023年8月に襲ったハリケーンヒラリーの影響で供給量が3千万箱(8.2kg/箱)減少した。我々はこのことについて非常に率直で正直でなければならない。価格が上がったのは、何か違うことをしたからではない。これが需要と供給であり、我々は自由な市場によって支配されているため、価格が上昇した。供給が減り、需要が維持されると、品不足によって価格が上昇する。」ペルーで生食用ブドウの出荷量が最も多い地域はイカ県で総供給量の56%を占め、次いでピウラ県が出荷量の32%を占めている。そのほか、ラリベルタ県が4%、アレキパ県が3%となっている。

品種 ペルー産の生食用ブドウ品種についてカブレラ氏は、第12週現在、スイートグローブが最も多い品種となっており、同国の供給量の23%を占めていると述べた。2位はレッドグローブで17%、オータムクリスプは15%である。4位はアリソンで出荷量の8%、5位はティンプソンで出荷量の5%を占めている。「これら5つの品種で全輸出量のほぼ70%を占めている。今シーズンは、昨シーズンに比べて33%増加したオータムクリスプの増加が際立っている。680万箱から900万箱へと、これほど大きく増えた品種はこれだけである。」

市場 カブレラ氏によると、ペルー産ブドウの主な輸出先市場は依然として米国で、出荷量の46%を占め、オランダが12%で続いている。「メキシコは今シーズン8.5%のシェアで3位となり、7.7%にとどまった中国を上回った。5位は英国で出荷量の3.8%を占めた。」

米国農務省のデータによると、ペルーは米国向けブドウの2番目に大きな供給国であり、全体の32%を占めている。カブレラ氏は、供給量の減少により、すべての輸出先でペルーからの生食用ブドウの輸入が減少したと述べた。米国では12%減、オランダでは19%減、中国では18%減となった。メキシコは例外で、昨シーズンとほぼ同じ出荷量を維持している。

最新の市場: 日本 日本の市場開放について、カブレラ氏は、このニュースはペルーにとって重要なことだと述べた。「ブドウを送る機会を得た最初の1年間で、我々は30万箱を出荷し、日本はペルーからの輸出先として20位にランクインした。日本での2シーズン目には、市場が確立されると思う。」

物流 今年、ペルー南部にパラカス港が開港し、同国の物流にとって大きな成果となった。カブレラ氏によると、港は多くの出荷業者の作業場や梱包施設の近くに位置しており、ペルーの南部地域全体からの果実の輸出を支えている。「これは、将来に向けて非常に心強いニュースである。」

7. 米国 カリフォルニア州のサクランボは平年並みに

[ASIAFRUIT 2024年4月5日](#)

業界は、昨年は供給過剰が大きな損失を引き起こしたが、今年は「通常の」生産量に戻ると予想

2023年のカリフォルニア州のサクランボのシーズンは、おそらく業界がすぐに忘れてしまいたいようなシーズンであった。例年であれば、シーズン最初の果実は4月下旬に熟し、6月中旬には出荷が終了するはずで、太平洋岸北西部地域からの大量の出荷に道を譲るのに間に合う。しかし、昨年はそうではなかった。

2023年には春の最初の数週間まで冬が食い込んだため、カリフォルニア州の収穫は非常に遅いスタートとなり、収穫量は過去最高に近いものとなった。

7月3日にカリフォルニア州産の最後の果実が出荷される頃までには、太平洋岸北西部の出荷シーズンと大きく重複し、大量の供給が流通経路を圧倒し、市場の収益は前シーズンの半分以上になった。

その悲惨な状況に追い打ちをかけるように、北西部の果実の大部分は6週間の内に成熟し、収穫コストを賄えそうになかったため、多くの生産者は品質の良くない果樹園を放棄することを余儀なくされた。

プリマベラ・マーケティング社のマーク・カルダー氏は出荷シーズンの重複について、「我々にできることはあまりなかった。我々の手には記録的な量の収穫物があり、果実はすでに梱包されていて、行き場が必要であった」と述べた。

カルダー氏によると、ありがたいことに2024年のカリフォルニア州産サクランボの取引は、これとは大きく異なるものになりつつある。今年も雨の多い冬が続いているが、果実の成熟は過去の標準的な実績をたどっており、収穫量も少なくなっている。

同氏は、「今年の出荷シーズンは、より典型的なタイミングである。最も早生の品種の一部は4月25日までに収穫が始まる可能性があり、5月5日までにはサンホアキンバレー地区の南部から一定量が出荷される可能性がある。しかし、北部の地区は、その時点では出荷量が少ないと見込まれる」と述べた。

ステミルトグロウズ果樹園のデιβ・マーチン氏も、昨シーズンに比べてより順当な量になると予想しており、「今年は状況がかなり普通に見える。コーラル品種は5月10日から5月25日の間にピークを迎え、ビング品種は5月25日から6月10日の間にピークを迎えると見られる。ほとんどの業界関係者は、樹上の着果量は良好で、昨シーズンと比較して適当な量の収穫が得られるだろうと思っている」と述べた。

カリフォルニア州の品種

2023年に出荷された1,010万箱(2年前の記録にわずかに6万箱足りない)のうち、コーラル品種は456万箱で最も多い品種であり、ビング品種が230万箱でそれに続いた。

コーラル品種は、降雨後の裂果に対する優れた耐性と、安定した着果の良さにより、過去10年間で、業界を支える礎石として浮上してきた。この品種は非常に用途が広く、数百キロメートルに及ぶ同州のセントラルバレー地域の各地に植えられている。対照的に、ビング品種は引き続き、主にストックトン市とロディ市の周辺の北部の産地に限定されている。

しかし、カルダー氏は、カリフォルニア州の業界としては今でもビングを補完する品種を探していると言い、「コーラルはそれなりに良い品種であるが、ある程度の時間が経つと茎を保持するのが難しくなる。ブラックパール品種は興味深い可能性を秘めている。サイズと色が良く、業界でこの品種の実証が進むにつれて、今後数年間でさらに増えるの見込まれる」と述べた。

しかし、カルダー氏によると、ビングは依然として最も人気があり、同氏は「アジアでは今でも好まれる品種である」と言う。

執筆者: ジェフ・ロング

8. トルコ 旺盛な内需が核果類の輸出を抑制

[EUROFRUIT 2024年4月5日](#)

MDAアグロ社のムスタファ・アルスラン氏によると、トルコで生産されるモモ、ネクタリン、アンズ、スモモの品質は近年向上しているが、旺盛な国内需要が輸出を制限している

トルコの輸出業者MDAアグロ社のオーナーであるムスタファ・アルスラン氏は、今シーズンは、温暖な天候条件のため、トルコの核果類の果樹園では開花が早かったと述べている。(以下「」は同氏の発言)

「4月25日以降にフローレッド種のモモから出荷を始めたい。また、5月の第1週には、早生品種のネクタリンが良いスタートを切れることを願っている。」

開花期に悪天候に見舞われることがなかったため、同氏は今シーズンは品質が高いと予想している。

「5月中旬にはアンズのシーズンが続き、ミカド品種とモガドール品種、その後ニンファ品種とティリンティーナ品種が続く。メルスィン県とその周辺の出荷シーズンは6月末まで続く。スモモのシーズンは、6月上旬に輸出用のブラックスプレnder品種から始まり、8月中旬まで続く。」

昨年、トルコは約80万トンのアンズ、合わせて100万トン以上のモモとネクタリン、35万トンのスモモを出荷した。

「近年、弊社の契約農家は、施肥の適正化等により過剰なトン数の生産を避け、品質の向上と生産の効率化のために適切な灌漑と適切なタイミングでの薬剤散布を行うことで、より良い品質を実現し、より高い生産基準を満たしている。生産者と輸出業者は、非常に良好な協力関係の中で高品質の生産に焦点を当てることで、トルコの果実を成功裏に輸出し、近年すべての市場の消費者に高く評価されるようになった。」

しかし、ジャムや類似の製品の原料としてのアンズの人気、及びトルコの冷凍食品部門の成長に伴い、実際のところ輸出向けのアンズの供給は減少している。一方、同氏によると、夏季の国内外からの観光客の増加により、モモとネクタリンの国内消費量が増加しており、価格は良好な水準にとどまる傾向にある。

「これほど大量の生産量にもかかわらず、昨年の輸出は国内市場の需要増加と冷凍食品部門の成長の影響を受け、アンズの輸出量は約8万8千トン、モモとネクタリンは23万8千トン、スモモは3万5千トンであった。今シーズンも同量の輸出を見込んでいる。もし需要が高まり市況が好調であれば、トルコのモモとネクタリンの輸出量を30万トンに増やすことができるかも知れない。」

同社の核果類の主な市場は、ロシア、EU、英国、ウクライナのほか、近年同社の出荷が増加している東アジアである。「極東の需要は年々増加しており、同市場は弊社が狙う市場の第1位となっている。」

執筆者: トム・ジョイス

9. トルコ サクランボの輸出は大幅増加が見込まれる

[FreshPlaza 2024年4月9日](#)

トルコの青果物輸出業者ジャンラルフルーツ社の会計部長であるシェフィク・ジャン氏は、天候はサクランボの栽培に適しており、出荷シーズンは通常よりやや早く始まるとして、次のように述べた。「サクランボの木に必要な約1,200時間の低温積算時間は、ほぼすべての地域で実現した。2月の時点で、天候はこの季節の標準を上回っている。特に、北半球で最も早いサクランボが栽培されているマニサ県とイズミル県では、当面すべてが順調のようである。これらの地域では、果樹の半分か開花期を終え、着果し始めている。これは、トルコ産のサクランボが予想よりも早く顧客に届けられることを示している。悪天候がなければ、5月の第1週に収穫を開始する予定である。」(以下「」は同氏の発言)

ジャン氏は、収穫量が大幅に増加し、出荷シーズン全体が例年よりも長くなると予想されると説明する。「果実の品質、予想よりも早い収穫の開始、それに特にヨーロッパの取引先からの需要を踏まえ、我が国と弊社のサクランボの輸出量は、昨年を何倍も上回っていると見ている。昨年は、5月の最終週から8月の第1週にかけて輸出された。今年、サクランボが予想より早く収穫された場合、出荷期間は3か月近くになる可能性がある。」

物流面では、特に紅海で起こっていることを考慮すると、航空貨物の利用が望ましいだろうとジャン氏は言う。「紅海の状況は海上貨物に影響を与えているが、トルコの輸出業者は一般的に、商品の価値を踏まえて中東及びアジア諸国向けには航空貨物を好む。サクランボの場合は特にそうだ。なお、トルコ共和国農業省では、極東諸国、特に中国にサクランボを輸出するために、また課題となっている手続きを克服するために、調査が続けられている。少しでも早い進展を期待したい。」

「中部地方と、サクランボの栽培が最も盛んで晩生のサクランボが栽培されている各県の状況は、今のところ非常に良好なようだ。温暖化による問題もあるが、我が国の地政学的な構造上、サクランボの栽培は1つの県に集中しているのではなく、多くの異なる県に分散している。我が国では、海拔0mから1,800mまでの様々な地域で生産されている。この状況は、製品の供給の面で我々の強みになっている。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(関連記事)トルコ サクランボの収穫シーズンはすべて良い兆候

[FreshPlaza 2024年4月5日](#)

トルコの青果物輸出業者アスヤフレッシュ社の執行役員であるイサ・ヤナル氏は、トルコのサクランボシーズンの開始を前に、今のところすべての信号が青になっていると話す。(以下「」は同氏の発言)

「秋から冬にかけてのトルコの天候は通常の範囲であった。3月末のトルコ内陸部の降雪は、一部のサクランボ生産者を不安にさせたが、概ねうまく対応できた。現在、すべての要素が、サクランボの収穫期が良好であることを示している。」

ヤナル氏は、核果類の生産量の増加は、サクランボの生産量の増加も意味するとの期待を持っているが、今の時点で確かなことは何もない。「この時点では、サクランボの収穫量について正確なデータを得るには早すぎる。他の核果類の増加要因がサクランボにも影響を与えることを願っている。弊社では、地域の諸国の気象と推定生産予測量を注意深く監視している。弊社は、この地域の状況の変化と予想をヨーロッパの大手サービスプロバイダー会社と直ちに共有している。」

トルコのサクランボ輸出業者の間では、コストを最小限に抑えるため、競争は脇において、協力が試みられている。「弊社はヨーロッパ、極東、さらにはアフリカにも多くの優良な取引先がある。もちろん、欧州市場は依然として最強の地位にあり、これは弊社にとってそれが重要な市場であることを意味する。弊社の目標は、既存市場で市場シェアを拡大し、ブランド価値を高めることである。弊社は、トルコのグループ内の出荷業者と互いに競争するのではなく、強い関係を築き始めた。弊社は、この関係を毎年拡大していきたいと考えている。その結果、トルコの同僚達との団結力によってコストが削減されたことがわかった。」

執筆者: ニック・ピーターズ

10. メキシコ 2024年のアボカド生産量予測は277万トン

[FreshPlaza 2024年4月9日](#)

メキシコの2024年のアボカド生産量は、旺盛な輸出需要を背景に2023年比5%増の277万トンと予測される。2023年の生産量は前年比4%増の265万トン、輸出量は前年比17%増の140万トンであった。米国はメキシコのアボカド輸出の81%を占める最大の市場であり、カナダ、日本、スペインがそれに続く。

生産 メキシコ政府(GOM)の2023年のアボカド生産量に関するデータによると、メキシコは世界最大のアボカド生産国である。メキシコの2024年のアボカド生産量は、主に輸出需要に牽引され、前年比5%増の277万トンと予測される。メキシコの農業・食品・水産情報システム(SIAP)のデータによると、2023年の生産量は前年比4%増の265万トンであった。過去10年間、主に米国やその他の輸出市場からの需要の増加と国内消費の増加により、生産量は着実に増加してきた。

近い将来に生産量の増加が続くことを、好ましい栽培条件 - 温暖で湿度の高い気候と水はけの良い土壌 - と、伝統的な作物からより価値の高いアボカドへの生産のシフトが支えている。過去5年間で、生産者が作物を多様化してアボカドを取り入れたり、アボカド園を造成するためにトウモロコシ、小麦、牧草の生産を完全にやめたりしたため、ハリスコ州のバレー地域をはじめとして、アボカドの生産量が大幅に増加した。

SIAPのデータによると、2023年のアボカドの栽培面積(成園面積)は推定25万7,571ヘクタールで、2022年の25万2,133ヘクタールから2%増加した。栽培面積は2014年から2023年の間に46%増加した。

出典: [米国農務省GAINレポート](#)

11. メキシコ産ブドウ アジアとオセアニアへの輸出を拡大

[FreshPlaza 2024年4月11日](#)

オッピー社(本社カナダ)は、2024年シーズンに向けてメキシコ産ブドウの取扱量を倍増させる計画で、これは同社の「365プログラム」の拡大に向けた取り組みにおいて重要な節目となる。

強化された品種のラインナップには、オータムクリスプ®やルビー®ラッシュなど、人気のあるサンワールド社の品種が含まれている。ブドウの収穫量の早期の評価では、これからのシーズンが有望であると予想されており、業界の生産量は2,200万~2,400万箱の範囲に収まると推定されている。

品目別担当の執行役員であるピアーズ・ハンベリー氏は、「4つの主要産地から調達し、出荷量を2倍に増やすことができ嬉しく思う。オブレゴン地区から始まり、エルモシージョ、アレマン、カルボルカの各地区へと進み、最高品質のブドウをさらに幅広く取り揃えて取引先に提供できる態勢を整えている」と話す。

同社は、効率と鮮度を最適化し、走行距離を減らしてトラックを利用しやすくするため、取扱量の20%にロサンゼルスとサンフランシスコの冷蔵施設を使用するようにサプライチェーンを再設計した。同社はまた、50%の株式を保有するデリカ・ノース・アメリカ社を通じて、輸出、特にアジア市場への輸出に一層注力することとした。

デリカ社のサプライヤー担当マネージャーであるカルロス・アルカサル氏は、「メキシコのブドウシーズンに向けて、アジアとオセアニアの市場を開拓する。オッピー社とのパートナーシップにより、各市場に適切な果実を届けることができる。中でも日本が重要な輸出先になると予想している。さらに、韓国とオーストラリアでの商機にも目を向けている」と述べた。(以下省略)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

12. ニュージーランド産エンヴィ・リンゴが世界市場へ

[The Packer 2024年4月9日](#)

T&Gグローバル社のプレミアムブランドである「エンヴィ」リンゴの今シーズンの第一便が、ニュージーランドを出発し、中国に向かった。

ニュースリリースによると、2024年にニュージーランド全土で見込まれるエンヴィの収穫量はこれまでで最大で、今シーズンは60カ国の取引先に290万箱相当(TCE)、すなわち2億500万個のリンゴが輸出される見込みである。

これにより、2023-24年度シーズンに北半球と南半球の13カ国で栽培されたT&Gグローバル社のエンヴィブランドのリンゴの総量は880万TCE、すなわち7億個以上となると同社はしている。

同社の国際営業販売部長であるシェーン・キングストーン氏はリリースで、「過去15年間で、エンヴィは中国、台湾、香港、タイなど世界の主要市場で、重要なプレミアムリンゴブランドの1つに成長し、近年では米国とベトナムで2桁の成長を遂げた。今シーズンの果実は色、大きさ、糖度が素晴らしく、これまでで最高の部類になりそうだ。今後数年間でホークスベイ、ギズボーン及びネルソンの各地方の新植園地が成園化してくるため、エンヴィの出荷量は増加を続けると見られる」と述べている。

同社は、南北両半球での産地多極化戦略に多額の投資を行っており、ニュージーランド全土のリンゴの出荷シーズンは、北半球のリンゴのシーズンを補完し、高品質のエンヴィに対する消費者の需要に一年中応えている。リリースは、世界の1万2,400エーカー(約5千ヘクタール)以上でエンヴィが栽培されているとしている。

同氏はリリースで、「今年の北米産のエンヴィは特別で、国内で販売されたほか、アジアにも輸出された。米国は競争の激しい重要な市場であり、ウォルマート、コストコ、セーフウェイ、クローガー、サムズクラブなどのスーパーマーケットの約70%にエンヴィが置かれているのは素晴らしいことだ」と述べている。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

13. 台湾産パイナップルの輸入をニュージーランドが承認

[FOCUS TAIWAN 2024年4月9日](#)

台北、4月9日(CNA) 台湾とニュージーランドは火曜日(9日)に政府間協定に署名し、台湾産パイナップルのニュージーランドへの輸出が承認された。(以下は、台湾農業部(MOA: 農業省に相当)による説明)

この協定は農業部動植物防疫檢疫署、衛生福利部食品藥物管理署及びニュージーランドの第一次産業省の代表者によって署名された。

台湾産パイナップルをニュージーランドに輸出する計画は2017年に開始された。ニュージーランドは輸出を承認するため、台湾産パイナップルの栽培方法、栽培環境、パイナップルがさらされている生物的脅威の種類、及び果実の収穫後処理に関する詳細な資料と関連する統計を要求した。

この協定では、一定の管理条件下で栽培されたパイナップルのみがニュージーランドに輸出できる可能性がある。それらの果実は、成熟過程の果実の外側がまだ緑色の段階で収穫し、冠芽(クラウン)を取り除かなければならない。さらに、台湾のパイナップル生産者は毎年輸出シーズンに研修を受け、生産のすべてに関する記録を当局が確認できるように備えなければならない。

輸出衛生検査では、汚染物質や有害な生物がニュージーランドに持ち込まれないことを確認するために、600個の果実が検査対象として選ばれることとなっている。

ニュージーランドへの輸出により、カナダ、日本、韓国、オーストラリア、アラブ首長国連邦などの国々で既に国際的に販売されている台湾産パイナップルの販路がさらに拡大する。(以下省略)

執筆者: ウー・シンユン、ジャームス・ロー

14. 米国 リンゴの在庫量は5カ年平均よりまだ29%多い

[The Packer 2024年4月10日](#)

米国リンゴ協会(USApple)が発表した4月のレポートでは、在庫量は前年4月よりも36%多く、4月の5カ年平均を29%上回っている。

現在の在庫量は6,800万ブッシェルで、12月1日のレポートで報告された1億2,440万ブッシェルから減少した。(米国リンゴ協会のレポートでは 1ブッシェル=42ポンド=約19kg)

USアップルトラッカー(同協会のデータベース)の4月のレポートでは、加工用リンゴの在庫量は2,600万ブッシェルと依然として高い水準を維持しており、前年同期より25%多く、4月の5カ年平均と比べて20%多い。

12月の米国リンゴ協会のレポートでは、加工用リンゴの在庫量は4,850万ブッシェルであった。

ワシントン州は、生食用と加工用のリンゴを合わせて(以下同じ)7,617万3,333ブッシェルの在庫があり、州別で最も多い。ニューヨーク州が727万550ブッシェルでこれに続き、ミシガン州は488万ブッシェルで3番目である。

在庫の上位品種は、ハニークリスプ1,410万5,744ブッシェル(生鮮用及び加工用。以下同じ)、レッドデリシャス1,370万3,479ブッシェル、ガラ1,238万4,679ブッシェル、グラニースミス1,152万8,939ブッシェル等となっている。

執筆者: クリスティーナ・ヘリック

15. 米国農務省が母親と子供のための果実・野菜支援を改訂

[The Packer 2024年4月10日](#)

トム・ビルサック農務長官は、農務省食品栄養局(FNS)が女性・乳幼児・子供(WIC)のための支援事業の参加者に給付される食品の見直しを終え、果実と野菜の給付を恒久的に拡大したと述べた。

農務省は、この科学に基づく改訂には、全米科学・工学・医学アカデミー(NASEM)及び「米国人のための食事ガイドライン2020〜2025」の推奨事項が組み込まれているとしている。

FNSは、食品の品目内容を最新の栄養科学に整合させ、重要なライフステージにおける栄養価の高い食品への公平なアクセスを支援するため、2022年11月に制度の変更を提案した。同局によると、この変更の取り組みは、パブリックコメントを通じて受け取ったフィードバックを考慮して確定した。

同局はリリースで、「改訂された食品の品目内容は、果実や野菜に含まれる様々な主要栄養素への幅広いアクセスを提供する。最終的な変更は、より多くの果実や野菜を購入して試せるように現金価値給付(CVB)クーポンの金額を増やすことで、参加者がより多く食べることを奨励するものである。また、生鮮ハーブ類や包装サイズの大きい青果物など、参加者がCVBを通じて購入できる対象も拡大する」としている。

農務省のウェブサイトにあるWIC食品パッケージ給付金の表によると、毎月の現金価値給付の最大額は、子供は26ドル、授乳中の母親は52ドルである。

食品栄養局のシンディ・ロング氏はリリースで、「WIC事業に参加している660万人の母親と乳幼児、そしてさらに何百万人も参加資格のある人々にとって、当制度の対象となる食品の品目内容の改善は、健康と福祉に関して生涯にわたって良い影響を与える可能性がある」と述べている。

(以下、改訂を歓迎する関係団体のコメントを省略)

執筆者: トム・カースト

16. ブラジル 主要柑橘類産地の出荷量予想

FreshPlaza 2024年4月11日

柑橘類栽培防衛基金(Fundecitrus)は2024年4月10日、サンパウロ州とミナスジェライス州西南西部の柑橘類地帯の2023-24年度のオレンジ出荷量を発表した。この調査はマルケストラット社(コンサルタント会社)と、サンパウロ大学経済・経営・会計学部及びサンパウロ州立大学農獣医学部の教授陣の協力を得て実施され、総出荷量は3億722万箱(40.8kg(90ポンド)/箱)で、内訳は以下のとおりであると結論付けられた。

- 早生品種のハムリン、ウェスティン、ルビー 5,809万箱
- 早生品種のバレンシアアメリカーナ、セレタ、パイナップル及びアルボラーダ 1,851万箱
- 中生品種のペラリオ 9,762万箱。
- 晩生品種のバレンシア及びバレンシアフォリヤムルチャ 1億520万箱。
- 晩生品種のナタール 2,780万箱

このうち、約2,782万箱がトリアングロ・ミネイロ地域で生産された。今シーズンのお荷量は、2023年5月の当初予測を0.69%下回り、3億1,421万箱に達した前のシーズンと比較して2.22%少ない。当初の想定を下回った要因は、2023年の上半期は雨が多かったものの、下半期には一転して降水量不足となり、それが2024年のシーズン終了まで続いたことである。悪天候以外にも、カンキツグリーニング病の悪化や収穫ペースが早くオレンジの肥大期が短縮したことも影響している。

オレンジ出荷量予測の更新 地域別、品種グループ別 - 柑橘類地帯

月別	予測項目				2023-24 出荷量予測改定値			2023-24 出荷量予測改定値		
	2024 年 2 月及び 4 月 (見え消しの数字は 2 月の推計値で、左が 4 月の改定値)				2024 年 2 月			2024 年 4 月		
地域及び品種グループ	結果樹本数	果樹当たり 果実数	一箱当たり 推定果実数	推定落果率	果樹 当たり	面積 当たり	合計 出荷量	果樹 当たり	面積 当たり	合計 出荷量
	(1,000 本)	(個/果樹)	(個/箱)	(%)	(箱/樹)	(箱/ha)	(百万箱)	(箱/樹)	(箱/ha)	(百万箱)
柑橘類地帯(合計)										
ハムリン、ウェスティン、ルビー	25,716.04	828	293	10.8	2.26	1,047	58.09	2.26	1,047	58.09
その他の早生品種	9,866.33	597	251	12.1	1.88	987	18.51	1.88	987	18.51
ペラリオ	61,508.67	563	258	19.0	1.59	837	97.62	1.59	837	97.62
バレンシア及びフォリヤムルチャ	53,648.92	653	233	22.0	1.96	969	105.20	1.96	969	105.20
ナタール	18,551.19	573	244	28.9	1.50	738	27.80	1.50	738	27.80
合計	169,291.15	635	255	19.0	1.81	911	307.22	1.81	911	307.22
うち北部地域										
ハムリン、ウェスティン、ルビー	6,503.91	1,005	289	7.2	2.89	1,246	18.79	2.89	1,246	18.79
その他の早生品種	2,191.81	779	246	8.4	2.60	1,405	5.70	2.60	1,405	5.70
ペラリオ	13,535.28	592	254	15.6	1.76	937	23.83	1.76	937	23.83
バレンシア及びフォリヤムルチャ	12,926.93	798	218 219	19.3	2.63	1,210	33.98	2.63	1,213	34.06
ナタール	3,774.50	655	226 229	17.6	2.11	964	7.95	2.12	971	8.01
合計	38,932.43	746	246 247	14.8	2.32	1,116	90.25	2.32	1,117	90.39

(以下省略)

こうした要因が重なり、特に中生と晩生の品種では果実のサイズが予想より小さくなった。収穫ペースの加速は果実の成長の点で課題となったが、未熟果の落果に起因する損失を減らすことでプラスの効果もあった。

2023年12月の収穫量予測の更新では、これらすべての要因が考慮され、出荷量が3億722万箱に修正された。この更新により、前半の豊富な雨の恩恵を受けた早生品種のオレンジは227万箱増加したが、2023年後半の降雨量の減少と気温の上昇の影響を受けたペラリオ、バレンシア、バレンシアフォリヤムルチャ、ナタールなどは439万箱減少した。2023年6月にエルニーニョ現象が発生した直後の2023年7月からは、不規則な降雨、極端な気温、複数回の熱波、蒸発散量の増加などの悪条件が強まった。エルニーニョ現象は高い強度に達し、収穫が終わるまで活発な活動が続いた。

出典: fundecitrus.com.br

17. 米国 柑橘類の輸入業者は南半球産の季節に向けて準備中

[FreshPlaza 2024年4月11日](#)

米国国内の柑橘類の出荷シーズンはまだ最盛期であるが、ペルー、南アフリカ、チリはそれぞれの出荷シーズンに向けて準備を進めている。シエラ青果会社のマイルズ・フレイザー・ジョーンズ氏は、「それが輸入のタイミングを決めるため、誰もがカリフォルニア州で何が起こるかを予測しようとしている」と言う(以下「」は同氏の発言)。初期の兆候は、カリフォルニア州のマンダリンの出荷シーズンが5月末まで続くことを示しており、天候条件によっては6月の第1週または第2週まで続く可能性がある。「このタイミングはごく普通である。昨年は、6月になってもカリフォルニア州産のマンダリンがまだ店頭に並んでいた。」

ペルー

南半球では、ペルーが早生うんしゅうタイプのプリマソル品種の出荷を開始した。これは糖と酸のレベルは比較的低いが、種なしの品種である。「出始めの果実を市場に持ち込むことの危険性は、市場を飽和させかねないことだ。それはすべて需要の強さにかかっている。完全な品切れにはしたくないが、市場に過剰供給することも望んでいない。そのため、ペルーからのプリマソルの輸出は来週か再来週まで待つことにした。」これにより、入荷は5月中旬になる。プリマソルと他のうんしゅうタイプに続いて、クレメンタインのクレメヌール品種が続き、今後2週間以内に出荷が開始され、5月末までに果実が市場に到着する予定である。

「ペルー産の柑橘類は、出初めには食味があまり良くないかもしれないが、出荷シーズンが進むにつれて品質が大幅に向上する。ペルーからマンダリンが出てくる頃には、食味は大変良くなっている。」ペルーは、概して昨シーズンと同程度の収穫量で通常の作柄を見込んでいる。

南アフリカ

南アフリカは、北米市場へのもう一つの重要な柑橘類供給国である。同国の生育条件は良好で、果樹は十分な水を得た。その結果、昨年よりも品質が向上する見込みである。「クレメンタイン、マンダリン、オレンジを合わせて見ると通常の作柄で、出荷量は昨年と同程度かそれより多いようだ。」クレメンタインの早生品種は、6月の第1週に米国市場に到着する予定である。約1カ月後にはオレンジが入荷し、その頃までには小玉のオレンジの需要が旺盛になると予想される。「これは、今年のカリフォルニア州産は大玉が多く、袋詰めでの販売やフードサービスにあまり適していないことと関係している。」

チリ

チリの柑橘類委員会は、クレメンタインとマンダリンの出荷量が35%減少すると予想している。「同国の北部は干ばつの影響を受けたが、出荷量がそこまで下がるかどうかはまだわからない。私が聞いているところによると、マンダリンとクレメンタインの供給不足を心配する必要はない。」チリ北部の産地から出荷される早生のクレメンタインは、5月末までに米国で入手できる見込みで、オレンジは7月末頃になる見込みである。

カリフォルニア州との競合

カリフォルニア州産が市場に出回っている限り、小売業者はカリフォルニア州産の果実を売り続けることを好むだろう。「カリフォルニア州産の果実は非常に高品質で、出始めの南半球の果実には太刀打ちできない。」米国内の出荷量が減ってくると、東海岸から輸入が始まり、徐々に西海岸に移動する。米国西部の小売業者は、産地に近いことから、カリフォルニア州産の柑橘類をできる限り長く提供しようとする。

執筆者: マリーク・ヘムズ

18. 韓国 リンゴ危機が深刻化する中での長期的な対策

[The Korea Herald 2024年4月11日](#)

今年のリンゴ価格の高騰により、韓国当局は果実の生産を安定させるための長期的な戦略を模索するようになった。

直近の価格動向は、短期的な気象現象など様々な要因の影響を受けているが、当局は、(長期的な)気候変動に起因する国内の栽培面積の縮小による収穫量の減少や、農業人口の減少と高齢化など、厄介で根本的な傾向を懸念している。

韓国農村経済研究院が木曜日(11日)に発表したデータによると、リンゴの栽培面積は昨年の3万3,789ヘクタールから今年は3万3,666ヘクタールに減少した。

この減少は、韓国で広く消費されておりデータが分析された他の5つの果実(ナシ、ミカン、カキ、ブドウ、モモ)の数値と比較するとそれほど深刻ではない。

しかし、今年のリンゴの激しい価格変動と、韓国の人々の間で最も愛されている果実としての長年の地位が相まって、リンゴは最優先事項となっている。

韓国統計庁によると、3月のリンゴの小売価格は前年同月比88.2%上昇し、1980年の統計開始以来で最大の急騰となった。

専門家らは、生産が低迷して価格が前例のない水準にまで上昇したのは、春の寒さ、夏の大雨、作物の病害などの要因が続いたためだとしている。

韓国政府は、将来のリンゴの安定供給のために、リンゴの栽培面積を2030年まで約3万3千ヘクタールに維持する施策を展開している。

農林畜産食品部(農業省に相当)が主導し、契約栽培を2030年までに昨年の5万トンの3倍の15万トンに拡大することを目指している。

また、気候変動の影響に打ち勝つために、同部は北部の山岳地帯である江原道カンウォン ドをリンゴ生産の新たな拠点として振興している。現在は、リンゴ園は同国中南部の忠清道チュンチョン ドと慶尚道キョンサン ドに集中している。

リンゴ生産に占める江原道のシェアは、2005年のわずか0.5%から昨年は5%に急上昇した。

政府は、江原道の5大リンゴ産地チュンソンガン ヤン グガン ホンチョンガン ヨンウォルガン ビョンチャンガン(旌善郡、楊口郡、洪川郡、永元郡、平昌郡)の栽培面積を昨年の931ヘクタールから2030年までに2千ヘクタールに拡大する計画だ。

さらに、同部は江原道をはじめとして最先端の「スマート果樹園」を取り入れており、テクノロジーを活用し、従来の方法と比較して人件費を30%削減している。

来年には5つの新しいスマート果樹園の設置が予定されており、2030年までに1,200ヘクタールをカバーする60の果樹園の開設を目標としている。これにより、国内のリンゴ生産量を8%増やす計画である。

同部はまた、韓国が海外からのリンゴの輸入を開始することを見越して、将来に備えるためにこれらのスマート果樹園計画が策定されたとしている。

同部のパク・スジン氏は、「(輸入解禁の)交渉が終われば、輸入されたリンゴとナシが市場に流入することは避けられないが、我が国のリンゴは米国産やニュージーランド産のリンゴに比べて価格競争力があまりない。スマート果樹園技術によって生産コストを削減し、流通費用を最小限に抑えることで、価格設定における競争力を獲得することを目指している」と説明した。

執筆者: ソン・スンヒョン

19. 米国ワシントン州 ベトナムとの貿易を強化

[ASIAFRUIT 2024年4月11日](#)

ワシントン州農業局が農業開発強化と農産物貿易促進のための覚書をベトナムと締結

ワシントン州のリンゴとサクランボの業界代表者らは、貿易関係を強化するためにベトナムを訪問した代表团に参加した。4月8日に始まったベトナムへの貿易使節団の訪問の中で、ワシントン州農業局(WSDA)のデレク・サンディソン局長は、ベトナムのホアン・トゥルン農業農村開発副大臣とともに覚書(MOU)に署名した。

覚書の締結により、ベトナムと同農業局は、農業開発の強化と農産物貿易の促進に協力することで合意した。貿易使節団は、ビジネス関係の拡大、ワシントン州産の食品農産物の宣伝、及びベトナム市場でのチャンスについて詳細を学ぶことに力を入れた。

代表团には、マイケル・フォン商務局長、デレク・サンディソン農業局長、デビッド・シューマツハ財務管理局长、州上院議員のジョー・グエン氏とジューン・ロビンソン氏、州下院議員のマイリン・タイ氏とスティーブ・タリンガー氏が参加した。

ベトナムは、農産物を含めると2023年にワシントン州にとって5番目に大きな輸出市場であり、去年はワシントン州のリンゴ輸出だけで5,700万米ドルに達した。

貿易使節団の活動は、ベトナムの指導者との会談、様々な製造施設やイノベーションセンターの視察、文化・高等教育の指導者との会合、ビジネスネットワークキングや製品の販売促進イベントなどへの参加であった。日程の多くは、農業を含む先端技術部門における貿易と協力の機会を強化することに焦点を当てていた。

執筆者: ブリー・カジャティ

20. スペインであふれかえるエジプト産オレンジ

[FreshPlaza 2024年4月12日](#)

アンダルシア州の柑橘類生産者らは、エジプトからのオレンジ輸入の影響を懸念している。イスラエルとガザの紛争は事態を悪化させ、従来は中国、トルコ、アラブ諸国に向けられていたエジプトの輸出品が、今や欧州連合(EU)市場に向けられている。

セビリア市青年農業者協会(アサハ・セビリア)によると、この輸出先の変更はオレンジ市場、特に過去20日間で半値になった果汁用のオレンジの価格に悪影響を及ぼした。同協会のリカルド・セッラ会長は、エジプト産オレンジの大量流入により、価格が下落し、国内生産の崩壊をもたらしたと述べた。

ここ数カ月の抗議活動における柑橘類生産者の要求の1つは、消費者が購入時に十分な情報を得られるように、ジュースのラベルにオレンジの原産地の表示を義務付けることである。セッラ氏によると、エジプト産のオレンジは価格が安いためにヨーロッパ市場に入り込み、業界はこの果実を大量に購入するようになった。

EU諸国によるエジプト産柑橘類の輸入は、近年急激に増加している。農水産食料省のデータによると、輸入量は2014年1月～10月の12万2,547トンから、2023年の同時期には48万7,927トン(前年比+109%)に増加した。これらの輸入額も5,660万ユーロから2億8,850万ユーロ(同+114%以上)へと大幅に増加した。

今月、コルドバ市の青年農業者協会は、市内のパルマ・デル・リオ地区で生産されたことを示唆するラベルが貼られたエジプト産オレンジの販売について、農業省と食品情報管理庁(AICA)に苦情を申し立てた。同協会は、目を引くように「国産オレンジ」「原産地保証」と書かれ、果実の実際の原産地が細かな字でしか記載されていないラベルによって消費者が惑わされたと強調し、こうした不正に対する手続きの開始を要求した。

出典: laprovincia.es

21. インド 紅海危機がブドウの出荷シーズンを攪乱

ASIAFRUIT 2024年4月15日

輸出シーズンが終わりに近づく中、大手生産・出荷業者であるサヒヤドリ農場のアズハル・タンブワラ氏が、ヨーロッパへの輸送時間が長くなったことで損なわれた困難な出荷シーズンを振り返る

インドの生食用ブドウの輸出シーズンは最終段階に入っているが、今年の出荷量と品質はどうであったか。

アズハル・タンブワラ氏： 出荷量は例年とほぼ同じで、中国は昨年よりも多くなっている。今年は品質があまり良くなく、輸送時間が長いため、果実の着荷とその時の状態に問題が生じている。紅海危機のため、すべての船会社は喜望峰を回ってヨーロッパに航行している。船会社は32～33日の輸送日数を約束しているが、船は40～45日で目的地に到着し、これは果実にとって良いことではない。何も計画通りに入っていないため、輸入業者は販売計画を立てることができない。このことと、南アフリカ産果実の同じような港湾の問題が相まって、現在はちょっとした悪夢である。

ヨーロッパと英国にはどれだけの数量が出荷され、例年と比較してどうか。

タンブワラ氏： 約1万コンテナがEU、英国、ロシアに出荷され、約500コンテナが極東に出荷された。中東向けがさらに約1千コンテナあり、湾岸諸国全域に出荷されている。

取扱量は大幅に増えたり減ったりしていないが、数週間の間にEUへの到着量が増えたという問題があり、これは船舶のスケジュールが不規則なため予想外であった。これにより、市場の見方が大きく変化した。輸出業者は、通常の3週間の航海日数に対して5週間の航海日数を見込み、計画目標を達成するために早めに積み込みを行っていたが、現在、果実が到着するまでに6～7週間かかっている。

ヨーロッパと英国での市場の需要はどうか。残りの出荷シーズンはどのように展開していくと思うか。

タンブワラ氏： 市場の需要は安定しており、実際、取引先との契約は増加する一方である。しかし、先ほど触れた出荷の混乱により、すべての小売業者は、余剰の果実の多くを動かし、市場を安定させるために販促活動を行うことを余儀なくされている。

全般的な需要は良好で、英国では高品質の果実の価格が良い。しかし、ここでは着荷時の品質がより大きな問題であり、平均以下の果実の行先を見つけようとすると全体的に悲惨な状況になっている。

紅海危機の結果として、より多くの果実をヨーロッパの代わりにアジアや他の輸出市場に出す動きはあったか。インド国内で販売される果実は増えているか。

タンブワラ氏： もちろんだ。EUとロシアの状況により、他のより近い市場との協力を重点が置かれている。しかし、他の市場はすべてそれほど大きくないため、EUへの依存を払拭することは決してできない。インドの国内市場は常に存在し、輸出市場よりもはるかに大きい。生産者が輸出市場から受け取るプレミアム価格を支払うことはない。今年、新品種のより高品質なブドウを国内市場に販売した経験から、従来品種の国内市場が低迷している場合でも、プレミアム商品に最高額を支払うことをいとわない目の肥えたインド人の顧客が一定程度いることがわかった。

執筆者： ジョン・ヘイ

22. 南アフリカ 生食用ブドウの輸出は2023/24年度に17%増加

[FreshPlaza 2024年4月15日](#)

南アフリカの2023/24年度シーズンの生食用ブドウの出荷量は改訂予測とほぼ一致し、シーズン末までの検査数量は合計7,570万箱、輸出数量は合計7,350万箱であった(4.5kg/箱換算)。

今般SATI(南アフリカ生食用ブドウ産業協会)のCEOを退任するA. J. グルーゼル氏は、「一般的な受け止めとしては、今シーズンは物流上の問題のために機会を逃したということであるが、同時に、ほとんどの生産者は全般的に許容できるシーズンだったと感じている」と述べた。同氏は、2023/24年度シーズンは物流上の課題が浮上し、船会社、物流関係者及び出荷業者が協力して代替策を見つける必要があったと言う。

今シーズンの当初の予想出荷量は7,300万箱であった。その後、オレンジ川流域で予想よりも収穫量が多く、合計2,420万箱を梱包したため、この予測は2024年1月に更新された。

過去10年間で、南アフリカの生食用ブドウ産業は、検査数量で年2.7%(複利計算)の成長を記録した。

2023/24年度シーズンは、その中盤から後半にかけてのヘックス川流域での天候パターンの変化と降雨により、昨シーズンよりも2〜3週間早く終了した。

SATIのジャック・フェレイラ商務部長は次のように述べている。

「2023/24年度の生食用ブドウ輸出シーズンに最悪だったのは、おそらくコンテナ船MSCマッティーナ号とサンタクララ号の遅延であろう。カナダ/アメリカ向けに約50万箱を輸送したMSCマッティーナ号は、昨年の第52週(年末)にケープタウン港多目的ターミナル(CTMPT)でのクレーンの故障により大幅に遅延した。400万箱以上を輸送したサンタクララ号は今年の第2週に生じた遅延により、果実を積んだ600以上の冷蔵コンテナを置き去りにせざるを得ないところであった。」

「ケープタウン港の負担を緩和するために複数の代替の港が利用された。生食用ブドウの輸出货量全体の10.6%に相当する合計780万箱がポートエリザベス港から輸出され、また9.6%に相当する合計710万箱が非コンテナ船で輸出された。」

「全体として、生食用ブドウの輸出货量は昨シーズンと比較して17%増加した(前シーズンの6,390万箱に対し、2023/24年度は7,350万箱)。一方、ケープタウン港のコンテナターミナル(CTCT)と多目的ターミナル(MPT)を合わせた輸出货量は、前シーズンの5,690万箱から2023/24年には5,390万箱へと5%以上(40フィートコンテナで833本相当)減少した。このシーズン中の昨年の第48週(11月末)から今年の第13週(3月末)までに、合計14隻の非コンテナ船で生食用ブドウが輸出された。」

南アフリカからの輸出品種のうち、最も増加したのは、スイートグローブ(+28%)、オータムクリスパ(+20%)、アーリースイート(+24%)及びアイボリー(+128%)であった。

グルーゼル氏は、「SATIは業界団体として、将来の物流シナリオの改善に役立つ代替手段を模索してきた。それは予測モデルの形であり、トランスノーヴァ・アフリカ社(物流コンサルタント会社)が今回導入しようとするものだ」と述べた。

23. イスラエル 今シーズンの柑橘類の輸出量は約35%減少

[FreshPlaza 2024年4月15日](#)

イスラエルの柑橘類輸出業者プラネットイスラエル社の輸出部長であるベツァレル・オハナ氏は、イスラエルの柑橘類の輸出量は今シーズンかなり減少したと話す。(以下「」は同氏の発言)

「ガザ地区での戦争を背景に、またその戦争の労働者不足への影響もあり、困難な柑橘類シーズンであった。そのため、2023/24年度シーズンの輸出量は約35%減の合計約7万8千トンと大幅に減少した。昨年の同時期には、第14週(4月上旬)までの柑橘類をすべて合わせた輸出量は12万トンであった。オットリマンダリンについては減少率がさらに高く、2024年の第14週までに輸出されたオットリは、昨年と比較して約38%減少した。第2位の輸出品であるサンライズ(スタールビー)レッドグレープフルーツは約21%減少した。労働者の不足はまた、毎週の出荷量を減少させ、出荷が長引くことにもつながった。」

これらの出荷量の減少による当然の副作用として引き合いが増加し、その結果、価格が上昇したとオハナ氏は説明する。「こうした数量の減少は、一玉一玉の強い需要とそれに見合った良い価格につながった。さらに、戦争の影響と地域の緊張の現れの一つとしてイスラエルの通貨が弱く、1米ドル当たりの国内通貨(NIS)での表示額が大きくなったため、国内通貨で示した輸出額も増えた。したがって、厳しい状況にもかかわらず、出荷シーズンは好ましい結末に近づいている。」

エジプト産の柑橘類が市場の状況を少しおかしくしているが、オハナ氏はイスラエル産が実際にエジプト産と直接競合しないことを確信している。

「エジプト産柑橘類の価格水準はイスラエル産の価格よりもはるかに低い。我々が市場から理解するところでは、エジプト産果実はイスラエル産とは異なる市場、すなわち特により安価な商品を求める客層に販売されている。イスラエルの柑橘類は品質の面で優位性があり、より良い品質のためにより多くのお金を払うことができるハイクラスの顧客に対応できると考えている。したがって、イスラエル産品とエジプト産品の間の競合はそれほど直接的ではない。」

紅海を取り巻く物流上の問題により、アジア市場へのグレープフルーツの出荷は特に困難になった。

「サンライズ(スタールビー)レッドグレープフルーツやスウィーティーグリーングレープフルーツなどの主な輸出先は日本、中国、韓国、香港、シンガポールなどの極東であり、紅海の危機は主に弊社のグレープフルーツの輸出に影響を与えた。イスラエルからヨーロッパ及びイスラエルから北米への輸送ではスエズ運河と紅海を通る必要がないため、物流に影響を受けなかった。ZIM、Cosco、MSC、Maerskなど、主要船会社はすべて予定どおりに稼働していた。まもなくオットリマンダリンを主体とする柑橘類の出荷シーズンが終了するが、大きな変化がなければ、結果は変わらないものと予想される。」

執筆者: ニック・ピーターズ

24. 米国北西部 最長のサクランボ出荷シーズンを予想

[The Packer 2024年4月16日](#)

ワシントン州ヤキマ市に本拠を置くスーパーフレッシュグローワーズ社は、同社の北西部のサクランボの出荷は5月下旬から8月まで続くと予想している。

同社のサクランボ販売リーダーであるデスティニー・ナッシュ氏はニュースリリースで、「弊社は、北西部で最も長く、最も多くのサクランボを出荷したという地位を、過去2シーズン維持できたことを誇りに思っている。次の収穫の成功に向けて準備を進めており、過去2年と同等以上の成果を期待している」と述べている。

ナッシュ氏によると、昨年、同社の3番目の梱包ラインを追加したことで、果樹園での収穫から取引先小売業者向けの出荷までに要する時間が最適化された。

同氏は、「出荷能力の30%という大幅な向上により、当社は継続的な成長と成功に向けて準備万端である」と述べている。

同社は北西部のサクランボに関しリリースで、カナダ国境からオレゴン州フッドリバー地域まで果樹園を所有しているため地理的な多様性があり、これにより、サクランボ栽培に理想的な環境が整うとともに、特定の地域での予期せぬ天候から同社を守るのに役立っているとしている。

同社によると、果樹園は様々な微気候や土壌条件の恩恵を受けており、各サクランボ品種の特性を引き出している。

リリースによると、同社の3つの先進的な梱包施設すべてに、梱包プロセスからトラックへの積載まで、サクランボが慎重に取り扱われることを確保する技術が実装されている。

リリースはまた、「スーパーチェリー」としてブランド化されている同社のジャンボサイズのラインナップは、樹上で最大の果実を誇っており、スーパーチェリーの商品は、重量選別していない袋詰めとグラムシェルの両方で提供されるとしている。

25. トルコ サクランボの収量が多く輸出業者は品質を重視

[EUROFRUIT 2024年4月16日](#)

ここ数シーズンはトルコのサクランボにとって厳しい状況が続いていたが、今年好条件に恵まれたことは質と量の両面で朗報だと、アリヤフルーツ社のジェイフン・ギュンドゥズ氏は言う

輸出業者アリヤフルーツ社の執行役員であるジェイフン・ギュンドゥズ氏によると、厳しい気象条件の影響を受けた過去3年とは対照的に、今年のトルコのサクランボ出荷シーズンは好調なようだ。(以下「」は同氏の発言)

「出荷シーズンは、2016年と同様に15日早くなると思う。今年の開花と受粉は、例年よりもずっと良好だ。」

「数量の面で需要を満たすことができるシーズンになると予想している。今シーズンは、すべての条件が我々に味方してくれると思う。供給が需要に追いつくことは可能だと思う。」

「もちろん、出荷量が多いことで、同社の取引先にとって最高の品質の果実を見つけやすくなる。」

「質の面でハイレベルなシーズンになることを願っている。我々は、品質を厳選できるはずである。収穫量が十分にある場合は、適切な品質を選択することがはるかに容易である。弊社は適切な品質の果実を適切な価格で提供することで最もよく知られており、今年はそのようになるだろうと予測している。」

執筆者: トム・ジョイス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

26. 南アフリカの柑橘類の未来

[EUROFRUIT 2024年4月16日](#)

CGAのミッチェル・ブルック氏は、南アフリカの柑橘類出荷量が大幅に増加するとの見通しは非常に現実的だと言う

南アフリカの柑橘類産業における「ビジョン260*」に向けた増産は非常に現実的であり、2024年の輸出予測によって裏付けられている。したがって、業界は、近い将来、より多くの柑橘類を輸出する必要があるという事実に対して尻込みするべきではない。（*：2032年までに柑橘類輸出量を2億6千万箱に増やすという業界の目標）

これは、柑橘類生産者協会(CGA)の上級役員であり、業界の物流計画を主導しているミッチェル・ブルック氏の見解である。（以下「」は同氏の発言）

「果樹センサスのデータと収穫量長期予測モデルは、我々が自分の目で確かめたことと同じく、過去数年間の新植面積を強調している。」

同氏はまた、短期的に見て1億8,500万箱(15kg/箱)を輸出するのに十分な成園面積があると述べて、特定の年の輸出量についてはプラスとマイナスの両方の要因があると指摘した。2024年の総出荷量の予測は、1億8千万箱をやや上回る水準に引き上げられており、これは前年比で10%の増加となる。「この予測出荷量は、シーズンが進むにつれて、収穫状況と市場の動向の影響を受けることになる。」

地域的に見ると、南アフリカの北部地域の予測出荷量は9,100万箱で、ベースラインの8,200万箱よりも多い。東ケープ州の予測出荷量は4,750万箱から5,250万箱に増加した。北ケープ州と西ケープ州の予測出荷量は3,600万箱から6%増加して3,800万箱となった。

「物流と輸送に関しては、統合、協働、情報及びコミュニケーションに関するCGAのイニシアチブが極めて重要であることを指摘したい。」

業界が直面しているインフラ、処理能力、設備の需要を踏まえ、合わせて港湾のコンテナターミナルの生産性や運用上の問題も考えると、業界関係者と物流事業者は、そのイニシアチブを強力に支持する必要がある。

これは、業界の内部関係(ビジネスエコシステム)における重要分野(ホットスポット)の特定を可能にする情報共有環境の醸成を目的としている。それにより、特定された制約要因を克服するための対応計画と問題解決のメカニズムが導入される。

業界を前進させるために物流と輸送の能力を確実に有効化させるメカニズムとして、より緊密な連携が必要だと考えられている。それが成功すれば、国としての南アフリカも含め、皆が勝ち組になる可能性がある。

「また、2つの重要な短期戦略プロジェクトについても、一層の協働が求められている。第一に、内陸部や港湾地帯から鉄道で柑橘類を輸送することが根本的に重要であるという事実から逃れることはできない。変化する鉄道の状況を踏まえて柑橘類業界を先導し、鉄道関連プロジェクトを徐々に進めるため、トランスネット社(運輸公社)の貨物鉄道部門の元幹部であるヤン・レイス・スプールストラ氏が任命された。

CGAとFPEF(青果物輸出業者協会)は、モザンビークのマプト港からの柑橘類の輸出量を増やすための作業部会の調整を行うことにも合意した。

「2023年には、マプト港から中東やバングラデシュに輸送される柑橘類のコンテナが大幅に増加した。短期的には、これを拡大し、事前承認や低温処理を必要としない極東、東南アジア諸国など、より広い範囲のアジアを輸出先とすることができる。」

ブルック氏は、マプト港からの輸出の将来的な拡大は、追加措置を必要とする市場 - 特に中国だが中国だけに限らない - への輸出を可能にするインフラと処理能力の開発にかかっていると付け加えた。

執筆者：フレッド・メインチェス

27. チリ 2024年の生食用ブドウの収穫が終わりに近づく

[FreshPlaza 2024年4月16日](#)

チリの2024年の生食用ブドウの出荷シーズンが今後2週間で終了するが、中国向けの輸出は50%減少し、米国向けは価格高騰により赤ブドウも白(緑)ブドウも多くなった。ジョイ・ウイン・マウ社(鑫荣懋 中国深圳の企業)チリ事務所のマリア・ホセ・ガルシア氏は、今シーズンは低調だったとしつつ、「あと1~2週間でレッドグローブと晩生のオータムクリスパが収穫されたら、このシーズンは終わる」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

チリでは出荷シーズンのスタートが遅れた。中国市場は、価格と需要の低迷により、輸出が大幅に減少した。「今シーズンの中国のブドウ市場はあまり好調でなかった。中国市場は、シーズンの始めに米国市場以上に価格が低かった。白ブドウは中国市場で概ね問題なく、今の時点では持ち直して価格も良好である。赤ブドウ品種も悪くないが、チリがセーブルシードレスを中心に黒ブドウ品種をほぼ2倍出荷したため、黒ブドウの価格は非常に低くなっている。」

チリの多くの出荷業者や輸出業者によると、ペルーの出荷量が少なく出荷シーズンが早く終了したため、チリ産のブドウは米国市場で活発に取引されている。また、チリ産の出荷シーズン開始時の米国の在庫量は、例年ほど多くなかった。「米国市場は非常に活発で、白ブドウと赤ブドウはほとんど全部が米国に輸出された。」

ガルシア氏は、チリでは最後の少量が収穫されていると言う。「ブドウはまだ収穫されているが、その量はごくわずかである。総じて、今シーズンはかなり遅れている。」

執筆者: クレイトン・スワート

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

28. 中国のSNS上でブドウ品種にかかる権利侵害を阻止

[The Packer 2024年4月17日](#)

サンワールド・インターナショナル社は、中国におけるソーシャルメディアプラットフォームTikTok上での不正行為を阻止したとしている。

ニュースリリースによると、サンワールド社は最近、複数の無許可の個人がTikTok上で不正に同社に成りすまそうとしていることに気付いた。同社によると、無許可の個人は、同社との虚偽の関連性を主張し、同社が開発・所有する生食用種無し緑色ブドウ品種であるオータムクリスパの技術サポートの提供を装った詐欺的なサービスを宣伝した。

リリースによると、同社の法務チームが不正なコンテンツに対処するようTikTokに苦情を申し立てたのを受けて、TikTokは誤解を招く広告を削除した。

サンワールド社によると、ルビーラッシュ、オータムクリスパ、ミッドナイトビューティー、セーブルシードレス、アドラシードレス、スカーロットシードレスなどの消費者向けブランドで販売されている同社の生食用ブドウ品種の栽培を希望する者は、同社から有効なライセンスを取得する必要がある。同社は、自らの知的財産権を守り、品種とブランドの整合性を維持することに取り組んでいるとしている。

同社の法律顧問兼知的財産担当副社長であるマイケル・スティムソン氏はリリースで、「サンワールドは権利の侵害に対して一切妥協しない方針(ゼロトレランスポリシー)を維持している。我々は、弊社の知的財産を違法に悪用しようとするいかなる行為者に対しても、積極的に法的措置をとる」と述べている。

リリースによると、同社のこの勝利は、知的財産権の侵害と戦うための業界内のより広範な取り組みの中でもたらされた。この業界の他の企業も、独自の品種や商標を保護するために法的措置を取っている。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

29. 欧州で果実・野菜の消費量が減少

[EUROFRUIT 2024年4月17日](#)

フレッシュフェルの消費モニターの最新版によると、ヨーロッパでは生鮮果実・野菜の消費量が1人1日当たり400gという最低推奨値を大きく下回っている

フレッシュフェル・ヨーロッパ(欧州青果物協会)は、欧州青果物消費モニターの最新版を発表し、青果物の消費量の減少を明らかにした。このレポートは、欧州統計局(ユーロスタット)の公式統計と国連食糧農業機関(FAO)の統計に基づいて、EU27カ国全体と各加盟国の消費動向を比較している。

今年の版では、2022年のEUの果実と野菜の平均消費量は2021年に比べて5%少なく、過去5年間の平均をほぼ3%下回る1日当たり350gに減少した。これは、世界保健機関(WHO)が推奨する1人1日当たり最低400gを12%以上下回っている。

縮小する市場 消費モニターによると、EUの中で1人1日当たり最低400gの生鮮果実・野菜を摂取するという推奨目標を達成したのは6カ国のみで、「消費を刺激するための改善の余地が大きい」ことが示された。

フレッシュフェルは、2022年のEU27カ国の青果物の市場規模は7,135万トンに縮小したと概説している。この減少は、2020年に新型コロナウイルスのパンデミックで始まった前向きな傾向 - 同協会は、パンデミックは、環境的要因や気候変動に対するヨーロッパ人の態度を改善することに加えて、ライフスタイルをより健康的なアプローチに変えたとしている - に終止符を打った。

2022年の時点で、経済危機、価格の上昇及び常態化したインフレが消費者の購買力に影響を与え、消費量を制限し、価格的に最も優しい選択肢が求められているため、EU全体で果実と野菜の消費が再び圧迫されている。

フレッシュフェル・ヨーロッパの総代表であるフィリップ・ビナール氏は、「経済が不安定な時代には、消費者は不健康な食生活に向かう傾向がある。それは、果実や野菜よりも安価で、エネルギーが充足できると考えられている食品の選択肢である。2022年のモニター調査の結果に加えて、2023/24年度の暫定データは継続的な減少傾向を裏付けており、多くの場合減少率は10%以上に達する。これは、パンデミック後の消費の伸びが今や完全に失われたことを意味する」と述べている。

トレンドを牽引 フレッシュフェル・ヨーロッパは、メンバーとの交流から、最新の消費トレンドを牽引するいくつかの共通の要因を特定した。それは、家計による購入の減少、低所得世帯への影響の大きさ、有機産品やプレミアム産品への圧力、購入頻度の増加と購入数量の減少、販売量の減少とそれが価格上昇によって部分的に相殺されたことなどである。

フレッシュフェル・ヨーロッパのサルヴォ・ラウダーニ会長は「当協会は、このセクターが最新のトレンドを常に把握し、市場情報への最良のアクセスを通じて市場のダイナミクスを理解するとともに、競争の激しい食品市場における青果物の地位を強化し、消費者が持つ青果物のイメージを一新するための取り組みを調整するための理想的なプラットフォームである。我々は一丸となって、誤解を解き、消費の障害となるものに対処し、パンデミック中に青果物に与えられた『ヒーロー』の地位を取り戻す必要がある」と述べている。

政策立案者が逃したチャンス 同協会は、EUの現在の立法期間が終わりに近づく中、植物主体の食事への移行に向けて推奨された取組みについては、その成功に疑問が呈される可能性があるとし、欧州グリーンディール、「農場から食卓まで」戦略、循環型経済行動計画、さらに欧州がん克服計画など、複数の政策の不整合性と一貫した対策の欠如により、より健康的で環境に優しい食生活への移行に失敗したとしている。

フレッシュフェルは、青果物に積極的な差別を設けるチャンスは失敗し、食品群の中で果実と野菜の地位を大幅に強化する勢いは「多くの政策立案者によって見落とされた」としている。

ビナール氏は、「諸国の栄養ガイドライン、北欧評議会の勧告、及びEGEA(詳細不明)の科学者らは、野心

を持って消費目標を1人1日当たり800gに向けて引き上げる必要があることに同意している」と説明した。

同氏は続けて、「認知はされているものの、あまりにも多くの障害が未だ消費量の増加を妨げている。果実と野菜の利点は、消費拡大方針の中だけでなく、今後の分類学的な議論でも一層認識されるべきである。さらに、消費者が十分な情報を得た上で選択できるようにするため、価格や安全性に関する誤解に対処する必要がある」と述べた。

業界の取り組みは継続すべき

ビナール氏は、それらと並行して、このセクターは、利便性の向上、味と食感の向上に向けた努力と革新を継続し、最も若い年齢層をプロモーション活動のターゲットとし、青果物が最も恵まれない低所得世帯に手頃な価格で十分に提供されるように支援を求める必要があると指摘した。

フレッシュフェルは、果実・野菜セクターと公的機関が力を合わせ、生鮮果実・野菜が地球と気候と消費者自身の健康にもたらす利点に基づいて持続可能な消費態度を構築するよう促し、「特に最も若い世代における消費課題に対処するために必要な行動の緊急性に関して妥協は許されない」と結論付けている。

執筆者：カール・コレン

30. 南アフリカ 嵐の後の寒さでリンゴの着色が良好

[EUROFRUIT 2024年4月17日](#)

南アフリカのリンゴとナシの供給者らは、最近の悪天候にもかかわらず、前向きなシーズンに向けて順調に進んでいると言う

南アフリカの西ケープ州では、最近数回発生した風と嵐の後に短期間だけ低温が続いたことで、赤・ピンク系のリンゴの着色が驚異的に進み、素晴らしいシーズンへの期待が高まっている。

リンゴとナシの大手輸出業者であるトゥルーケープマーケティング社は、風の被害が多少あったものの、その後の寒い天候が素晴らしい着色につながったとしている。

同社のロルフ・ピーナー常務は、「定量化は難しいが、4月6日と7日の強風で傷ついたり、吹き飛ばされたりしたのは、弊社の未収穫のリンゴのおよそ3〜4%に過ぎないと推定される。被害は特定の地域や農場に限られており、幸いなことに、セリーズ地域とEGVV地域(エルジン、グラボウ、ヴィリアスドープ、パイブームの各地域を合わせた名称)の全体像から見れば、軽微である」と述べた。

ピンクレディー、ロージグロー、グラニースミス、サンダウナー等のリンゴの品種は現在収穫中か、まだ収穫が始まっていない。

同社のカラ・デュトワ調達部長は、「通常より寒い天候は、着色に大きな違いをもたらした」として、「風の被害が最も大きかった果樹園ではリンゴの約4%を失ったが、風で失ったものよりも、色が良くなったことの方がはるかに価値がある。果実は現在、きれいな色をしている」と述べた。

セリーズ地域に拠点を置くデュトワ・グループのエニー・デュトワCEOは、同社は今シーズンこれまでのところ満足していると語り、「我々としての課題はあるが、それでも良いシーズンだ」と断言した。

果樹生産者協会(Hortgro)の最新の予測では、南アフリカは今シーズン、約4,650万箱のリンゴを輸出する見込みである。これは、昨年の4,440万箱よりも7%多い。

ナシの出荷量は1,910万箱で、昨年の輸出量を3%上回る見込みである。

執筆者：フレッド・メインチェス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

31. エクアドル フザリウム菌に耐性のあるバナナ新品種が到着

[FreshPlaza](#) 2024年4月17日

エクアドルは、4月18日(木)にフザリウム菌熱帯レース4(FOC TR4: *Fusarium oxysporum* f. sp. cubense tropical race 4 以下「TR4」)に抵抗性のある2つめのバナナ品種を受け取る。GALとして知られるこのバナナ品種は、イスラエルのラハンメシステム社によって配布されている。この輸入は、農牧省、農産品質保証庁(Agrocalidad)、国立農牧研究所(INIAP)及びラハンメシステム社の努力の賜物であり、エクアドル・バナナ・プランティン・クラスター(バナナの生産者と輸出業者の団体)によって発表された。エクアドルは、確立されたバイオセーフティプロトコルに従って試験を開始する。

この取組みは、TR4から全国バナナ生産の持続可能性を守るという関係当局と民間部門の約束に対応するものである。この品種は、この真菌がもたらすリスクを避けるために栽培の選択肢を多様化するこの部門の取り組みの一環として、同国が輸入する2つめのTR4抵抗性品種である。1つめの品種は、2022年4月に輸入されたフォルモサナ218である。フザリウム菌レース1によるゴルスミシエル品種の消滅後、エクアドルの主な輸出品種はキャンディッシュ(TR4に抵抗性がない)であり、同国はコロンビア、ペルー、ベネズエラなどの近隣諸国で既に検出されているTR4の脅威に直面している。

フォルモサナ品種の試験は継続されており、最終結果は2025年までに発表される予定である。エクアドル・バナナ輸出業者協会(AEBE)の執行役員であるホセ・アントニオ・イダルゴ氏は、試験はすでに商業段階にあり、管理の下で配布するための暫定的な許可が下りていると述べた。GAL品種を用いたプロセスには、最大24カ月の試験が必要になる可能性がある。さらに、TR4抵抗性品種と遺伝子工学の利用に関する分析について議論するためのバーチャル会議が開始された。

出典: eluniverso.com

(関連記事)課題に立ち向かうバナナ産業の未来

[FreshPlaza](#) 2024年4月17日

カリウムの重要な供給源であるバナナは、自身の生分解性パッケージ(バナナの皮)に包まれているため便利で、米国で広く消費されている果実である。それはアメリカの食生活において重要な役割を果たしており、その消費量は生鮮果実の総摂取量の20%を超え、1人当たり年間消費量は過去50年間で92ポンド(約42kg)から136ポンド(約62kg)に拡大した。このような多様性と消費量の増加にもかかわらず、バナナは人気のある選択肢としての地位を維持している。

しかし、120億ドルの価値があり、100カ国以上にデザートバナナを供給し、発展途上国にとって重要な調理用バナナやプランティンも供給している世界のバナナ産業は、フザリウム菌熱帯レース4(TR4)の重大な脅威に直面している。畑でバナナを栽培できなくなってしまうこの土壌伝染性の真菌株は、封じ込めの努力にもかかわらず徐々に世界中に広がっている。この課題には前例があり、20世紀初頭にはパナマ病による同様の脅威に遭遇し、バナナは壊滅的な打撃を受けた。

バナナの将来については、科学の進歩と合理的なアプローチが消費者教育とマーケティング戦略に浸透する可能性を踏まえ、楽観主義的なシナリオが示されている。バナナ産業が地域的にも世界的にも直面している現在の脅威は、同セクターの大幅な強化を促し、セクター内の多様性を増進する可能性がある。パナマ病やブラックシガトカ病などに抵抗性のあるバナナ品種の開発は、生産者にとって優先課題である。さらに、褐変しない性質を導入することで、流通過程及び家庭での食品廃棄物を最小限に抑えることができる。

出典: forbes.com

32. 台湾 マンゴのシーズンが始まる 主な輸出市場は日本と韓国

中国時報 2024年4月17日

台湾産の屏東^{ピンントウセン}マンゴは5月下旬に出荷のピークを迎える。4月16日に、枋寮村^{フアンリョウサウ}(郷)にある朋泉^{ベンチェン}生産協同組合(生産合作社)の新しいコールドチェーン集荷・梱包施設で、香港に輸出するマンゴがコンテナに積み込まれた。

農業食品庁(農糧署)の蘇茂祥^{ス、マオシヤン}長官代行(代理署長)は、台湾の果実の競争力を高め、輸送ロスを最大20%削減する上でのコールドチェーン技術の役割を強調した。主な輸出市場は日本、韓国等である。

同協同組合の盧旺昇^{ル、ワンシヤン}理事長は、愛文^{アイウェン}マンゴは同協同組合の主要農産物であり、約150ヘクタールの契約栽培面積があり年間生産量は平均約1,500トンであると述べた。

繁忙期の出荷が過度に集中する問題に対処するため、同協同組合は、農業食品庁のコールドチェーン物流計画ガイダンスに従い、コールドチェーン集荷・梱包施設、低温梱包作業エリア、サプライチェーン自動化システム、及び輸出用予冷施設を設置した。

コールドチェーン施設内の温度は20～25度に制御され、果実は最適な状態に保たれる。選別格付けと包装の後、マンゴは冷蔵倉庫で5～7度で保管され、保管と輸送の時間が延長される。それによって、国内産マンゴの輸出競争力が高まり、その結果として農家の収益機会が増える

徐富榮^{ジョ、フ、キ}立法委員は、世界市場における台湾産果実の競争力を高めるために、農業省(農業部)がコールドチェーン施設の設立を促進することを提唱すると約束した。

蘇茂翔氏は、屏東愛文マンゴの今年の出荷のピークは5月中旬から下旬と予想されると指摘した。地元の実を振興するため、朋泉生産協同組合は最初の高品質マンゴを4月16日に市場に投入した

マンゴはコールドチェーン物流専用車両を利用して空港に輸送され、香港に空輸された。最初の出荷の重量は約1トンで、その後は毎週約5トン出荷され、屏東マンゴシーズンの正式な開始が宣言される。

蘇茂翔氏はさらに、香港の他、今年の出荷対象地域は日本、韓国、シンガポール、マレーシア、オーストラリア、ニュージーランドであると述べた。マンゴのシーズンが始まろうとしており、毎週の航空貨物輸送で海外市場に供給を続け、5月になって出荷量が増えれば日本と韓国が主要な輸出先となる。

執筆者: 羅琦文

訳注: 翻訳に当たっては[FreshPlazaの英文記事\(2024年4月22日\)](#)も参考にしていますが、一部英文と異なる箇所があります。

33. 南アフリカ 2024年の柑橘類シーズンが異例のスタート

[FreshPlaza 2024年4月19日](#)

南アフリカの柑橘類生産者らがサイズの面で生産量を把握するのに苦労する中、2024年の出荷シーズンが少し変わった形でゆっくりと始まっている。これは、昨年末の生育期に非常に暑かったためである。しかし、柑橘類生産者協会(CGA)のジャスティン・チャドウィックCEOは、今後雨が降るとサイズの状況は大きく変わる可能性があるとして、「早春には雨が降り、11月から12月にかけての生育期には非常に暑かったため、多くの不確実性がある。今シーズンは異例で、生産者らはサイズの面で出荷量を把握するのに苦労している。少し雨が降れば、状況が変わる可能性がある。果実のサイズが1段階下がると、果実の重量は10%失われ、出荷量に大きな影響を与える可能性がある」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

同氏は、CGAは今シーズンの最初の出荷見通しを発表したが、同協会の見通しはこれまで正確であったと言う。

「多くの不確実性がある。果実を梱包する中で4月の終わりに向けてより確かな見通しが得られ、5月の終わりにはさらに確かな見通しが得られるだろう。今年は非常に早く、イースターの後には本格的な梱包が始まった。出荷シーズンの始めにはレモンからスタートし、すでに300万箱以上を梱包した。その次はグレープフルーツで、現在動き始めている。その後、うんしゅうみかん、クレメンタインが続き、そしてすぐにネーブルオレンジが始まり、さらにバレンシアオレンジに移行する。」

港湾と物流の課題は残る

南アフリカの港湾と物流の課題は残っている。トランスネット(運輸公社)の新しいCEOであるミシェル・フィリップス氏とそのチームには、かすかな希望を持っている。政府を支援するために民間セクターが港湾運営に参加しているが、(調達に係る)裁判で行き詰まるだろう。「我々はフィリップス氏と同氏が率いるチームに全幅の信頼を寄せている。適切な支援と資金があれば、港湾の改善が見られるはずである。CGAのミッチェル・ブルック物流担当上級役員はトランスネットと毎日電話で話しており、これを続けることが非常に重要である。」

新規市場と拡大する市場アクセス

ベトナム市場は、南アフリカの2024年の出荷シーズンに間に合うように解放されたばかりである。チャドウィック氏は、当初の輸出量はそれほど多くないだろうが、この新しい市場で成長するだろうと述べている。「我々はベトナム市場を手に入れたばかりである。当初の輸出量は大きくないが、輸出業者が取引経路を開拓してネットワークが改善すれば、数量が増加し始めるだろう。」

「我々はインドも重視している。輸送中の低温処理は許可されていないが、我が国の農業省及び青果物輸出認証機構(PPECB)と協力して行った取組みの成果により、この点については大きな可能性がある。」

「米国向けの柑橘類では、西ケープ州と北ケープ州しかアクセスがない。南アフリカの他の産地も、様々な品目についてアクセスを獲得できることを願っている。」

「日本はクレメンタインの輸入は認めているが、生産量が非常に増えている晩生のマンダリンの輸入を許可していない。我々の目標は、日本における既存の市場アクセスを最適化することである。」

南部アフリカの生産者と輸出業者を代表してCGAが伝えるメッセージの要点は、すべての市場に供給するだけの豊富な果実があるということである。

「我々の果実を必要とするすべての市場に供給するだけの十分な量がある。今年は品質が良さそうである。時期が進むにつれてサイズを確認する必要があるが、改善してくるはずである。我々は物流業者と緊密に連携し、市場へのタイムリーな配送を確実に行なう。我々は、植物検疫の規制に不満があっても、その規制を確実に遵守する。我々の「ビジョン360*」で期待されている成長が実現することを楽しみにしている。」

(訳注*: 2032年までに柑橘類輸出量を2億6千万箱に増やすという業界の目標「ビジョン260」の誤りと思われます。)

執筆者: クレイトン・スワート

(関連記事) 南アフリカ産柑橘類 アジア市場の見通しはまちまち

[ASIAFRUIT 2024年4月19日](#)

アジア市場ではレモンとグレープフルーツは厳しいがオレンジの見通しは明るいと大手流通業者

南アフリカ産柑橘類のシーズンがアジアで始まり、主要な流通販売業者であるJWMアジア社によると、果実業界は主要品目について課題とチャンスの両方に直面している。

JWMアジア社の最高執行責任者(COO)であるフェリックス・ラム氏は、南アフリカ産レモンの出荷シーズンは困難なスタートを切ったと述べた。

同氏は本誌(Asiafruit Magazine)に対し、「現在、アジア市場は依然として中国産レモンで占められており、それらは非常に競争力のある価格で出回っている。しかし、中国産レモンの出荷量は5月までに減少すると見込まれるため、南アフリカ産レモンの需要が高まると予想している」と語った。(以下「」は同氏の発言)

香港は同社の主要なレモン市場の1つであり、同社は昨年、香港のレモンビジネスの豊かな歴史に触発されて、トゥエンテパートナーズ社とともに「レモンボーイ」ブランドを立ち上げた。

「香港政府観光局のデータによると、香港を訪れる観光客の数は徐々に回復しており、夏の訪れと相まって消費は着実に増加すると予想している。」

グレープフルーツに目を向けると、中国、日本、韓国がアジアの「伝統的3大市場」であるが、ラム氏によると、この数シーズンにわたって取引は困難が多い。

中国では主に加工向けに使用されるため、需要はクラス1から等級の低い果実にシフトしていると同氏は指摘し、日本では需要が軟化した。韓国ではこれからのグレープフルーツのシーズンについて慎重ながらも楽観的な見方があると付け加えた。

「韓国市場ではイスラエルと米国からの供給が減少したため、市場はすぐにでも南アフリカ産の取り扱いを始めることを歓迎している。」

「これに加えて、韓国政府の最近の関税免除政策(国内産果実の不足と価格高騰への対応策)により、南アフリカ産グレープフルーツについては6月30日まで輸入関税が課されず、これに対し市場は好意的な反応を示している。」

「そうは言っても、収穫物は小玉が多いと予想され、さらにコナカイガラムシの付着による輸入不許可の可能性も懸念されている。」

アジアでの南アフリカ産オレンジの見通しはこれ(グレープフルーツの状況)よりも明るく、今シーズンは好調なスタートを切ると予想される。「米国の出荷シーズンが早期に終了し、紅海の問題によりエジプト産オレンジとの競合が減ったことで、恩恵を受けるはずである。」

同社は、ベトナム市場が最近開かれたことから、同市場での南アフリカ産オレンジの可能性にも注目している。「ベトナムは、弊社が幅広い流通チャネルを確立し、最も急速に成長している市場の1つである。そのため弊社は、南アフリカ産オレンジのベトナム市場開拓の最前線に立つことを熱望している。」

執筆者: ジョン・ヘイ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

34. トルコ 今の天候はサクランボの栽培に最適

[FreshPlaza 2024年4月19日](#)

トルコの青果物輸出業者アナフルーツ社の営業担当者であるメルト・エズジェリク氏は、トルコの天候はサクランボの栽培に最適だとして、「天候は通常の予想の範囲内であり、現在の天候は実際サクランボの栽培に最適である。サクランボは、開花から収穫時期まで摂氏15～25度の気温が必要である。今のところ天候はこの範囲内にあるので、非常に満足している」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

近年、サクランボの輸出業者は、サクランボの出荷シーズンが始まる前から対処しなければならない問題が増えていると、同氏は説明する。「今年のシーズン前にはこれまで大きな問題がなかった。現状ではすべてが大変ポジティブに見える。ここ数年、サクランボのシーズンが始まる前から、収穫前の大雨など、大きな課題に対処しなければならなかった。収穫前の雨はサクランボに亀裂を生じさせ、品質にかなりの悪影響を及ぼすため、良好な年に比べて輸出量が大幅に減少する」。

同氏は、同社がサクランボの輸送に紅海ルートを利用していないため、今シーズン、アジア市場にサクランボを輸出する場合であっても問題はないと強調する。「弊社の主要な輸出先はヨーロッパ市場であり、陸上輸送するため紅海の状況は影響しない。また、アジア、東南アジア、アフリカ、中東諸国向けでは、サクランボを航空貨物で送ることが多い。このように、弊社は紅海ルートを使用していないので、紅海の状況はサクランボの出荷シーズンに影響しないと見ている。」

エズジェリク氏によると、同社による生産者への指導が功を奏し、サクランボの農薬残留レベルが大幅に改善された。「2月中旬から、弊社の農産部門はトルコ全土のサクランボ生産者との会合を行っている。彼らは、サクランボをより効率的かつより良い品質になるように栽培し、農薬の残留をヨーロッパで要求される基準値以下に保つ方法について生産者に周知している。」

今後について、同氏は今シーズン、アジアとアフリカの市場での拡大を望んでいる。「今のところ需要が少ないアフリカとアジアの一部の市場への輸出量を増やしたいと考えている。これらの地域でビジネスを拡大することは我々にとって素晴らしいことであり、新しいシーズンがその機会を提供してくれることを願っている。また、今シーズンが昨年よりも良いものになることを願っており、今のところの兆候は有望である。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

35. 南半球の2024年の柑橘類輸出量は7.45%増の予測

[FreshPlaza 2024年4月19日](#)

世界柑橘類機関(WCO)の年次総会で、アルゼンチン、オーストラリア、ボリビア、ブラジル、チリ、ペルー、南アフリカ、ウルグアイの柑橘類部門の代表者に対し、これから始まる南半球の柑橘類シーズンの暫定予測が提示された。柑橘類の総生産量は前年比0.77%減の2,433万8,123トンと予想されている。一方、輸出量は引き続き増加し、2023年と比較して7.45%増の415万6,879トンと予測されている。

WCO加盟国は、2024年4月18日の第5回年次総会(AGM)に集まった。同年次総会でWCOは、南半球の2024年柑橘類シーズンの生産量と輸出量の予測に関する集計データを発表した。

暫定予測は、アルゼンチン、オーストラリア、ボリビア、ブラジル、チリ、ペルー、南アフリカ及びウルグアイのWCOメンバー(生産・輸出業者の団体等)の協力により収集された。さらに、今後2年間の活動を主導する新しい運営委員会を選出し、初のリーダーシップの交代を行った。

オレンジの生産量は、2023年と比較して5.66%減となる合計1,547万8,167トンと予測されている。ソフト柑橘類の生産量は大幅に増加する(+11.58%、合計332万5,829トン)ものと予想される。レモンは5.69%増(合計324万4,857トン)と予測されるが、グレープフルーツは3.89%の減少(合計53万2,539トン)が見込まれている。ライムは、2023年の数値を10.57%上回る175万6,731トンと予測されている。(以下省略)

36. 世界のオレンジ市場(抜粋・要約)

FreshPlaza 2024年4月19日

北半球の冬の寒さが和らぐと、恒例の南半球のオレンジ産地への切り替えの時期でもある。

柑橘類の主要生産国であるスペインでは良いシーズンであったと言われているが、終盤にかけて価格が下がり、一方昨年よりも出荷が少し長引くだろう。スペインの関係者らは「ヨーロッパ市場はスペインのオレンジを高く評価しているが、その対価を払いたがらない」という現実をまたしても嘆いている。彼らはまた、エジプト産の低価格で品質の低いオレンジが、自国を含むヨーロッパ市場にあふれていることに不満を漏らしている。

世界第2位の生産国である南アフリカは、主要市場であるヨーロッパがエジプト産とモロッコ産のオレンジでいまだに一杯になっていることを注視している。この2カ国の果実は紅海での武力攻撃の影響でアジア市場への輸出が困難になったため、多くがヨーロッパに行先変更された。

米国のカリフォルニア州産ネーブルオレンジは、出荷シーズンの終わりまで大玉が出回る。雨は、残りのネーブルのサイズを大きくするのに役立った。メキシコ産のバレンシアオレンジは、カリフォルニア州産のネーブルオレンジよりも平均約20%安く売られている。

南米に目を向けると、ウルグアイのある輸出業者は、供給したいと願っているオレンジが世界的に不足していることに着目している。アルゼンチンの北東部では、2024年シーズンは生産量の増加と品質の向上により、昨年に比べて出荷量の増加が見込まれる。ペルーは主に国内市場向けにオレンジを生産しており、輸出はほとんど期待されていない。

中国国内のオレンジ生産量は、天候に恵まれた四川省に牽引され、ほぼ倍増した。輸入業者らは、主に紅海での武力攻撃によって引き起こされた輸送の遅延の結果として、エジプト産オレンジの品質を懸念している。アメリカ産オレンジの入荷は、この期間の予想を下回り、販売価格は昨年より10～15%高くなっている。

ドイツ市場では、スペイン産を筆頭に、数カ国からの供給が見られる。ギリシャ産の柑橘類の輸入は近年重要性を増しており、かなりの競争が繰り広げられている。ギリシャは、欧州市場での熾烈な競争に対処しなければならない一方、国内生産は減少している。

トルコ産の需要は増加しているが、紅海危機の影響でアジアへの供給が妨げられている。一部の輸出業者は契約をキャンセルし、アジア市場への積み込みを完全に停止せざるを得なかった。

イタリアでは、果実のサイズが小さく、生産量が増加したため、シーズン中のほとんどの期間で価格が低かった。4月には価格が上昇したが、今度は国内需要の減少と販売の鈍化につながっている。オランダでは、オレンジの市場の動きが鈍い。

エジプトは、バレンシアオレンジの出荷シーズンの初めに始まった紅海危機により、アジアにほとんど輸出できなかった。この結果、欧州等への供給が増加した。外貨準備の減少に伴う通貨危機は、エジプト通貨の切り下げにつながった。これは輸出業者の損失を軽減するのに役立つが、コストは逆に増加する。

モロッコでは、干ばつのため生産量が少なく通常どおり小玉が多い。オレンジの輸出は始まったが、ヨーロッパ市場ではエジプト産、トルコ産、スペイン産があふれ、競争が激しい。中東地域への輸出は、地政学的な状況により輸送の困難と遅延に直面している。輸出業者らは、品質は良く生食用にも果汁用にも向くと言う。

オーストラリアのこれまでの生育状況は、ほとんどの産地で近年と比較して良好である。2022年と2023年のシーズンは寒くて雨の多い天候の影響を受けたが、今シーズンはほとんどの産地で暖かい天候が長く続いている。ただし、一部では地域的な洪水、干ばつ等の影響が見られた。

37. 米国 果実業界が有機について楽観的である理由

The Packer 2024年4月22日

有機農産物の生産・出荷業者は、インフレ圧力、供給不足、人件費の高騰などの課題にもかかわらず、繁栄しているとは言わないまでも生き残っているようである。

ワシントン州ヤキマ市にあるドメックス・スーパーフレッシュグローワーズ社のキャサリン・ギップスチュアート販売部長は、「2023年度は、供給不足になるような極端な出来事がなく、ごく普通であった」と述べている。

同社が販売する主な有機栽培品は、リンゴ、ナシ、サクランボ、ブルーベリーである。同社は、有機リンゴは横ばい、サクランボは横ばいまたは微増、ナシは18%増、ブルーベリーは栽培面積の拡大に伴って継続的な生産量の増加を見込んでいた。

「有機サクランボは、リトルチェリーウイルスの蔓延によりその存在がますます希少になりつつあり、弊社でも有機サクランボの栽培面積は年々減少している」と同氏は述べた。

しかし、同氏によると、同社の有機農産物全体の推定出荷量は、45%の増加を示唆している。

北部の標高の高い園地ではサクランボの低温被害が報告されたが、同社の自社農場は影響を受けなかったと言う。

「晩生の園地では、低温被害があったとしても最小限に抑えられており、8月まで積極的に販売促進できるだけのサクランボの収穫量を予想している」と同氏は述べている。

同氏は4月上旬の段階で、ブルーベリーに関しても素晴らしい春の幕開けだったと述べた。

同社の契約生産者の1人であるエリー・ノリス氏は、オレゴン州ローズバーグにある同氏の農場では、雨の日と晴れの日のバランスが取れていたと言う。

ノリス氏は、「我々は今、受粉を心待ちにしており、現在の予想では有望である」と述べた。

ワシントン州ウェナチー市のステミルトグローワーズ社では、リンゴは春に出荷される主な有機栽培作物であり、販売部長のブリアナ・シェールズ氏は、ガラ、ハニークリスプ、ふじ、ピンクレディー、グラニースミスが主な品種であると述べた。

同氏は、「ニールセン社の小売スキャンデータによると、有機栽培のハニークリスプは今シーズン、販売数量で25%、販売額で13%増加した。これは、昨年に比べて今年是有機の出荷量が多く、強力な販促活動を行った結果であると思われる」と話す。

有機栽培のガラ、ふじ、ピンクレディーは昨年より出荷量を増やしたが、販売額は落ちたと言う。

同氏は、「昨年の夏と秋は、リンゴにとって素晴らしい生育期であった。有機栽培品の保管方法は長い道のりを歩んできた。その結果、年間52週間を通して、鮮度と食味に優れた有機栽培品を供給できるようになった」と言う。

同社では、年内のこの後の季節には有機栽培のナシ、サクランボ、核果類も提供する。同社が生産する果実の約30%は有機栽培である。

セージフルーツ社のケーシー・コムスタディウス販売担当副社長は、同社の主な有機栽培品は、リンゴ、ナシ、サクランボであると話す。

同氏は、「小売業者が一番欲しがる弊社の有機栽培品はハニークリスプ品種の有機リンゴだが、有機のガラとふじもそれほど引けを取らない」と述べた。

有機のハニークリスプはハイエンドの消費者に好まれ、高い単価でよく売れる一方、有機栽培のガラとふじ

はより価格に優しいため、日常使いの有機栽培品消費者にとって良い選択肢であると言う。

同氏は、「今シーズンは、すべての有機リンゴ品種に素晴らしいプロモーションのチャンスがある」と述べた。

同社では、過去にはリンゴやナシほど強くなかった有機サクランボの需要が現在増加していると言う。

同氏は、「有機サクランボは栽培により多くの人手が要するため、小売価格が高くなる。価格が高いことは、健康志向が高くない最終消費者にとっては魅力的なことではないが、引き続き消費者の健康志向が高まれば有機サクランボの購入を検討する可能性が高くなる」と語った。

ウェナチー市に本拠を置くCMI果樹園の販売担当副社長であるロッシェル・ボーム氏は、アンブロシアゴールド、コズミッククリスピー、エンヴィ、エバークリスピー、ジャズ、カンジ、キク、スミッテン、シュガービーなどの主要な品種/ブランドのリンゴを提供していると話す。

同氏はまた、「まもなくサクランボの季節がやって来るが、今シーズンは有機の赤色品種、レーニア、それにスカイラーレイ品種を出荷する」と述べた。

ボーム氏によると、有機のブランドリンゴは販売額で49.7%、販売数量で39.4%増加し、慣行栽培の主要品種やブランドリンゴの伸びを大きく上回った。

同氏は、「ブランドリンゴの提供は、カテゴリー全体の売り上げを伸ばす優れた手法だ。消費者が好むブランドリンゴの有機栽培品を確実に提供している小売業者は、農産物部門全体で売上が増加する」と言う。

同社の今シーズンの収穫は素晴らしく、同氏は「果実の食味と状態が大変良く、強力な販促を行えるだけの量がある」と言う。

同社のリンゴ、ナシ、サクランボの約20%～25%は有機栽培されている。

今後の展望

業界関係者の間では概ね楽観的な見方が広がっているが、有機農産物の方向性の詳細については意見が分かれている。

スーパーフレッシュグローブズのギブスチュアート氏は、「個人的見解だが、有機食品に対する消費者の需要は横ばいになっているので、消費に深刻な変化をもたらす世界的な出来事が再び起こるまでは、慣行栽培品の販売量に対して有機栽培品が10%～12%を維持するのがこれからも普通だろうと思う」と述べた。

ステミルトグローブズのシェールズ氏は、「すべての食料品を襲ったインフレが有機栽培品の売上にも確実に影響を与えているため」有機栽培品の未来を予測することは難しいと述べている。

一方、セージフルーツ社のコムスタディウス氏は、有機栽培品の需要は引き続き高いと予想し、「有機栽培品の消費者の約52%がミレニアル世代で、彼らは米国の人口の23%を占めている。さらに、Z世代は人口の約21%を占めており、彼らは今後も有機栽培品購入の道を歩み続けると予想している」と述べた。

CMI果樹園のボーム氏は、有機栽培品の伸びが販売額と数量の両方で慣行栽培品を上回っていることを示すデータに基づいて、有機栽培品は拡大し続けると予想していると述べ、「消費者は、自分が何にお金を使うかについて、ますます見極めが厳しく、より思慮深くなっており、また自分が食べる物について良い気分でありたいようにしたいと思っている。多くの消費者にとって、これは信頼できる有機食品を購入することを意味する」と語った。

執筆者：トム・バーフィールド

(訳注：マッシュルームに関する記述は省略しました。翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

38. 米国北西部 サクランボの収穫予想

[FreshPlaza 2024年4月23日](#)

太平洋岸北西部のサクランボの収穫についてすべてを評価するのはまだ早いものの、その開始は昨年よりはわずかに早い6月1日頃と予想されている。シェラーンフレッシュ社のマック・リガン氏は、昨年この地域から出荷されたサクランボは1,800万箱強であったと指摘しつつ、「昨年よりも着果量が少ないと思う」と話す。

しかし、ブリティッシュコロンビア州(カナダ)では、今年初めの寒波のため、今シーズンのサクランボの収穫はあったとしても最小限に留まるという複数の報告があることから、米国太平洋岸北西部からのサクランボの出荷シーズンには高い需要があるものと見られる。

同氏は、「今年は出荷の開始が遅くなるが、ワシントン州でもウェナチー地区の晩生のサクランボの一部が寒波の影響を受けたので、出荷期間も短くなるかも知れない」と言う。すなわち、太平洋岸北西部からのサクランボの出荷は8月15日頃に終了する可能性があり、これは通常レイバーデー(労働者の日 9月の第1月曜日)まで出荷を行ってきた過去のシーズンに比べて非常に早い。なお、カリフォルニア州でも出荷が遅くなるかも知れず、その場合は同州産のサクランボと6月下旬に重複する可能性がある。

リガン氏は、「ワシントン州から良いサイズの生食用に適した果実が十分に出荷できることを強く期待している。生産者はシェラーン品種の木を昨年に比べて非常に強く剪定したので、今年は大玉で質の高い生食向きのサクランボが多く見られると思う。全体的な作柄も良いと思う。ポップコーンのような(散発的な)開花ではなく、樹上で非常に均等であるため、サクランボの成熟も均一になるだろう」と述べた。(以下、展示会について省略)

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

39. ニュージーランド キウイフルーツは天候に恵まれ豊作

[Farmers Weekly 2024年4月23日](#)

キウイフルーツ部門は、順調な天候、良好な労働力供給、及び高品質な果実のおかげで、ここ数年で最高の部類の収穫期を享受している。ニュージーランド・キウイフルーツ生産者協会(NZKGI)のコリン・ボンドCEOは、ベイ・オブ・プレントイ地方は乾燥した天候に恵まれ、果樹園から梱包施設への果実の流れは途切れることなく円滑であると述べた。(以下「」は同氏の発言)

この状況は、このセクターの4年間の様々な混乱の後にやって来た。2年前には、記録的な生産量と深刻な労働力不足が重なった結果、十分な収穫作業ができないために収穫量を大きく損ない、その後の出荷に影響が出た。その前の2年間はコロナ禍のため人員の確保と配置が制約されて混乱が生じ、ロックダウンと重なった2020年の収穫期には経営上の頭痛の種が一つ増えた。

「良いシーズンが期待されていた。バックパッカーが増え、認定季節雇用主制度による作業員の数が増加し、収穫後処理の業者が梱包施設の一層の自動化を進めたおかげで、労働力の状況は良好である。」

しかし、生産者の間では、ゼスプリの最新の収穫予測が、1億9,500万箱から、記録的なサンゴールド品種の1億2,500箱を含めても1億8千万箱に下方修正されたことに関し、一定の懸念がある。

この下方修正は、重大な気象現象の影響もあって1億9千万箱から1億3,500万箱に修正された昨年に比べれば何でもない。しかしボンド氏は、「我々は、業界とゼスプリが出荷量のより正確な推計に努めていることを承知している」としつつ、「これは重要なことである。なぜなら、ゼスプリはもっと良い当初価格を提示できたことを意味するからだ。今年1億8千万箱になるとわかっていれば、昨年の出荷量からの増加が言われたほど大きくないことから、当初の生産者価格を押し上げるのに役立ったかもしれない」と述べた。

収益の面では、生産者はより良い年を期待しており、グリーンキウイの生産者は2022-23年度3月の1ヘクタール当たり5万7千ドルに対し、6万~6万4千ドルを期待できると推定している。サンゴールド品種の生産者は、昨年の1ヘクタール当たり平均13万7千ドル対して、13万8千~14万3千ドルを見込んでいる。

執筆者: リチャード・レニー

40. 中国 シャインマスカットが大量出荷で半値に

FreshPlaza 2024年4月23日

3月以来、雲南省産のシャインマスカットが市場にあふれ、ブドウのシーズンの始まりを告げている。中国におけるシャインマスカットの主要産地である同省産の今年の価格は、前年比で著しく急落している。業界アナリストらは、さらなる値崩れが起こり、出荷の最盛期の前にシャインマスカットが「売れなく」なる可能性があるとして予想している。

雲南省のシャインマスカット生産者らは、価格が前年と比較して著しく異なると報告している。昨年は110元/kgだった高級品が、現在は大幅な値下がりを経て50元/kg前後で販売されている。今年の卸売価格は品質規格の違いにより大きな差が見られる。品質の高いブドウは60～70元/kgだが、質の悪いブドウは20元/kgを下回っている。(1元=約21円)

e コマースのプラットフォーム上では、シャインマスカットの価格は果実のサイズと品質によって異なる。1果粒12～15gの高品質なシャインマスカットは1,500gの1束が228元(約152元/kg)で販売されている。一方、果粒重8～10gのものは1,500gの1束が116元(約76元/kg)である。実際の販売価格は、品質や販売業者によって若干異なる場合がある。

日本から導入され、一度は「ブドウのエルメス」と称されたシャインマスカットは、中国の国内産で200元/kgを超える値段がついた。しかし、栽培が拡大し、保存技術によって周年供給が促進されたにもかかわらず、価格は前例のない安値に急落した。

報道によると、2023年の卸売価格は20元/kgを下回り、7月と8月の最盛期には14～16元/kgまで下がった。生産量の増加も価格の低下をもたらすが、品質の低下は大きな課題となる。甘さの低下やフルーティーな風味の欠如に関する消費者からの苦情は、品質の問題を示唆している。アナリストらは、これらの問題は、一部の生産者による基準から逸脱した栽培方法と成熟前の収穫に起因すると考えている。

市場動向を見ると、シャインマスカットは様々な地域から順次出荷されている。雲南省の早いものは4月に店頭に並び、6月下旬から7月上旬にかけて広西チワン族自治区と広東省がこれに続く。8月以降は、湖南省、四川省、重慶市、江蘇省、浙江省、上海市のシャインマスカットが出回る。収穫は河南省と河北省まで北上し、11月初旬まで続く。雲南省と広西チワン族自治区では2期作を採用し、2作目は元旦と旧正月の間に成熟する。

出典: 中国果実流通協会

41. メキシコ ハリスコ州産アボカドの輸出市場拡大を模索

[FreshPlaza 2024年4月23日](#)

メキシコ・ハリスコ州のアボカド産地は、現在の世界30カ国から更に周年輸出市場を拡大しようとしている。ハリスコ州のアボカド業界団体(APEAJAL)のエレアザル・オセゲラ・アグアヨ会長は、今年(2024年)の輸出を5%増やす計画だとして、「この増加は、新しい果樹園の成園化による部分もあるが、この1年間、我々は米国農務省と協力して、米国向けに輸出する果樹園を増やしてきた」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

ハリスコ州の主な輸出市場は、日本、カナダ、EU、米国であるが、インド、韓国、中国、マレーシア、チリへの輸出を伸ばしたいと考えている。「今年については、国内市場への出荷を増やし、認知度を高め、より良い選択肢を提供したいと考えている。」

米国におけるアボカドの2大販売時期は、スーパーボウル(2月の第2日曜日)とシンコデマヨの祭(5月5日)である。「スーパーボウルのためには1万5,227.84トンを送ったが、現在(シンコデマヨの前)は米国農務省が承認した果樹園から出荷できる果実が少なく、週に500トンしかない。来年は、新しい生産者が米国向け輸出プログラムに参加することで、シンコデマヨに向けてより多くの果実を出荷できるようになるだろう。」

APEAJALは、ハリスコ州の3,200のアボカド生産者と、この地域で活動する23の梱包業者及び輸出業者を代表している。「我々の目標の1つは、アボカド産業が持続可能になるのを支援することである。そのため、森林再生キャンペーンを実施し、独自の森林消防隊を持ち、水効率と農薬管理に関する継続的な研修を推進するとともに、国内外の機関と協力して新しい市場の開拓を促進し、最も厳しい市場が要求する品質と安全性の認証スキームを維持している。」

アフリカではケニアのアボカド生産が増加しており、ハリスコ州にとっては供給の増加と競争の激化が課題となっている。「競争があるのは良いことであり、ハリスコ州のアボカド産業は厳しい市場に慣れている。また、どこにでも出荷できるべき時に流通経路が貧弱だ。アボカドを輸入していない国や季節限定の国があるため、より多くの市場を開く必要がある。ケニアのような国が、他国の人々にアボカドの食べ方を教え、我々の果実を輸出する機会を開拓してくれていることに感謝している。」(以下、展覧会について省略)

執筆者: クレイトン・スワート

42. イタリアの共同事業体 レモンの日本向け供給を倍増

[FreshPlaza 2024年4月25日](#)

3月末にリモーレモンの最初の15パレットを出荷した後、日本の流通業者はロッカ・インペリアーレ地区(カンブリア州)のレモン生産者共同事業体に対し、今後数週間で数量を2倍に増やすよう要請してきた。

この共同事業体は「海外で成果を上げ続けていることに驚いている。今後数日のうちに、さらに30パレットが東京に送られ、5月末まで毎週荷降ろしされて、高級なショップやレストランのチェーンに送られる。取引先は、種子がないこと、皮が食べられること、40%以上の果汁含有量、75%のリモネン含有量、強烈な香りなど、果実の官能的な品質を高く評価している」と説明する。

同共同事業体のピエトロ・ブオンジョルノ会長は、英国とドイツも毎週20パレット以上が輸出されている最も収益性の高い市場であると指摘しつつ、「日本では(ユーロ換算で)約7.50ユーロ/kgで販売されており、ロンドンでは平均2.90ユーロ/kg、ドイツでは約2ユーロ/kgである。オーストリア、フランス、ベルギー、スイス、アラブ首長国連邦など他の国にも販売しているが、供給量はより限られている。1月と2月は商業的には通常の間であったが、過去5週間で需要が倍増した」と述べた。

2023/24年度のリモーレモンの出荷シーズンはあと1カ月余りとなった。同会長は「今年は暖冬で雨が降らず、天候の面で異常であった。ここ数日、気温が急激に下がり、頻繁に雨が降るなど、状況が変わった。現在の市場の動向を踏まえ、最終的な追い込みも同様に満足のいくものになることを願っている。今必要なのは、あと数週間だけ収穫を続けられるよう、天候が過度に暑くならないことである」と語った。

43. EU 包装資材に関する新規則

[FreshPlaza 2024年4月25日](#)

水曜日(24日)、欧州議会は、EUにおける包装をより持続可能なものにし、包装廃棄物を削減するための新しい措置を採択した。増え続ける廃棄物に対処し、域内の市場ルールを調和させ、循環型経済を促進することを目的としたこの規制は、賛成476票、反対129票、棄権24票で承認された。

包装資材を減らし、特定の種類を制限

これらの規則は、欧州議会がEU理事会と暫定的に合意したもので、包装の削減目標(2030年までに5%、2035年までに10%、2040年までに15%)が含まれており、EU諸国には特にプラスチック包装廃棄物の量を減らすことが求められている。不要な包装を減らすために、複数の商品の一括包装、輸送用及び電子商取引用の梱包では空きスペースの率が最大50%に設定されている。また、製造業者と輸入業者は、包装の重量と体積を最小限に抑える必要がある。

2030年1月1日から、特定の使い捨てプラスチック包装が禁止される。これらには、未加工の生鮮果実・野菜の包装、カフェやレストランで充填及び消費される食品や飲料の包装、1回分の個別包装(調味料、ソース、クリーマー、砂糖等)、宿泊施設の洗面用具等の小包装、及び非常に薄いビニール袋(15ミクロン未満)が含まれる。

健康への悪影響を防ぐために、この条文には、食品に接触する包装におけるいわゆる「永遠の化学物質」(パーフルオロアルキル物質及びポリフルオロアルキル物質、略称PFAS)の特定の閾値を超える使用の禁止が含まれている。

再利用と詰め替えの選択肢を消費者向けに奨励

アルコール飲料及びノンアルコール飲料(牛乳、ワイン、芳香族ワイン、スピリッツ等を除く)の包装、輸送用及び販売用の包装、並びに複数商品の一括包装については、2030年の具体的な再利用目標の設定が予定されている。加盟国は、一定の条件下で、これらの要件から5年間の免除を認めることができる。

飲料や持ち帰り用食品の最終的な提供業者は、消費者が自分の容器を持参するという選択肢を用意することが必要になる。また、2030年までに商品の10%を再利用可能な包装形態で提供するように努めるよう求められる。

リサイクル可能なパッケージ、より良い廃棄物収集とリサイクル

新しい規則では、すべての包装資材(軽量木材、コルク、繊維、ゴム、陶器、磁器、蠟を除く)は、厳しい基準を満たしてリサイクル可能である必要がある。

対策には、プラスチック包装における再生原料の最少含有量目標と包装廃棄物の最少リサイクル目標(重量ベース)も含まれる。2029年までに、使い捨てのプラスチック製及び金属製の飲料容器(3リットル以下)の90%を分別回収する必要がある(預り金方式または回収目標を確実に達成するその他の方法による)。

ラポルトウール(公式な報告者)であるフレデリック・リース議員(欧州刷新会派所属、ベルギー選出)は、「EUは環境法で初めて、使用する材料に関係なく包装を削減する目標を設定しようとしている。新しい規則は技術の進歩を促進し、零細企業に対する免除を盛り込んでいる。食品包装における『永遠の化学物質』の禁止は、ヨーロッパの消費者の健康にとって大きな勝利である。我々は今、すべての産業部門、EU諸国、及び消費者に対し、過剰包装との闘いにおいてそれぞれの役割を果たすよう呼びかける」と述べた。

次のステップ

協定が発効するためには、(欧州議会のほか)EU理事会も協定を正式に承認する必要がある。

(関連記事) 業界団体が包装規制を批判

[EUROFRUIT 2024年4月25日](#)

業界団体は、規則が食品の安全性、食品ロス、廃棄物防止への焦点を欠き、貿易上の懸念を招くと批判

米国に本拠を置く「持続的な食品包装のための連盟」(ASPF: Alliance for Sustainable Packaging for Foods)は、欧州議会で採択された新しい包装規則は「貿易と食品安全に深刻な懸念を引き起こす」としている。

同団体は声明で、この規則が今年中にEU理事会で承認されれば、「3,700万人以上のヨーロッパ人が質の高い食事を2日に1度口にする余裕がない時」に、世界のサプライチェーンと食料安全保障にほぼ確実に悪影響を与えるだろうとしており、また、新しい規則には、消費者が利用できる健康的な食品の選択肢が減るなどの二次的な影響があると指摘している。(以下、特記した場合を除き「」は同団体の声明)

「包装及び包装廃棄物規制(PPWR)は、生鮮食品の品質、安全性、鮮度を維持するために科学的に設計された使い捨て包装の選択肢さえ禁止している。」

「これ(このような包装が使用されること)は、生の食品やすぐに食べられる食品は適切に包装されていないと、腐敗したり、損傷したり、汚染されたりするリスクがあるためである。それは食品廃棄物の増加につながり、他の複数の地域で実施された調査によると、より耐久性のある種類のプラスチックの使用が増える可能性がある。」

PPWRは堆肥化よりもリサイクル性を優先しており、このため生鮮食品メーカーの選択肢は限られていると警告している。

「禁止の例外は個々のEU加盟国に委ねられており、多くの生鮮食品の安全性と許容される包装の種類に関して、各国の規制のパッチワーク(継ぎはぎ)になる。」

「これは、調和のとれたルールを作る代わりに、EU域内及び(他国による)EUとの貿易に障害を生み出し、EU単一市場を弱体化させるだろう。」

ASPFは、EUの規制当局や加盟国政府に対し、こうした深刻な食品安全と貿易上の懸念に対処するよう、引き続き働きかけていくとしている。

「生鮮食品セクターには大きな課題が待ち受けている。食品サプライチェーンの持続可能性を高めるには、使い捨ての包装廃棄物を最小限に抑えながら、食品の安全性、品質、入手のし易さ及び公衆衛生に妥協しない、証拠に基づくアプローチを採用することが不可欠である。」

このニュースを受けて、国際青果物協会(IFPA)の最高科学責任者でもあるASPFのマックス・テプリツキー会長は、廃棄物を最小限に抑え、使い捨てのプラスチック包装に代わるものを見つけることは「我々全員が支持できる目標だ」と述べた。

同会長の話「実行可能な代替品がなければ、プラスチックや堆肥化可能な包装の禁止は、食品の安全性を脅かし、食品の品質を損ない、食品廃棄物を増加させる。これらはすべて、消費者と環境にとって等しく重要な要素である。

欧州議会で採択された新しい包装規制が、消費者の安全と栄養価の高い食品へのアクセスを優先しておらず、貿易と持続可能性への具体的な影響を考慮していないことに失望している。

この結果を受けて、IFPAは、使い捨て包装に代わる安全で持続可能な代替品を見つけるために必要なイノベーションへの投資と賢明な包装規制を引き続き提唱していく。」

執筆者: カール・コレン

44. 英国の研究 若者の果実・野菜摂取量の増加にソーシャルメディアが有効

[FreshPlaza](#) 2024年4月25日

アストン大学の研究者らは、ソーシャルメディア上で健康的な食事のアカウントをわずか2週間フォローした人々は、果実や野菜を多く食べ、ジャンクフードをあまり食べなかったことを発見した。

これまでの研究では、果実や野菜に関する肯定的な社会規範が個人の消費を増加させることが示されている。研究チームは、ソーシャルメディア上でより健康的な食品を肯定的に表現することで、同じ効果が得られるかどうかを調べようとした。この研究は、リリー・ホーキンス博士が博士課程の研究として主導し、心理学部のジェイソン・トーマス博士とクレア・ファロー教授が監督した。

研究者らは、平均年齢22歳の52人のボランティア(全員がソーシャルメディアの使用者)を募集し、2つのグループに分けた。介入対象となる最初のグループのボランティアは、彼らが通常フォローするアカウントに加えて、Instagram上で健康的な食事のアカウントをフォローするよう求められた。対照群である2番目のグループのボランティアは、インテリアデザインのアカウントをフォローするよう求められた。実験は2週間続き、ボランティアはその間に何を食べ、何を飲んだかを記録した。

全体として、健康的な食事のアカウントをフォローした参加者は、果実と野菜の摂取量が1日当たり1.4単位多く、高カロリーのスナック菓子や砂糖入り飲料などエネルギー密度の高い食品の摂取が0.8単位少なかった。これは、食生活の改善を試みた以前のソーシャルメディアを用いた教育的な介入と比較して、大幅な改善である。

トーマス博士と研究チームは、仲間意識が食行動の変化の重要な要素であると考えている。例えば、この効果は、他のInstagram利用者とのつながりを感じている参加者の間でより顕著であった。

国民医療サービスによる2018年の栄養調査によると、推奨される1日に5単位の果実と野菜を摂取していたのは、英国の人口のわずか28%であった。このような食品の摂取が少ないことは、心臓病、がん、脳卒中に関連するため、摂取量を増やす方法を特定することは重要である。人々に肯定的な社会規範を示したり、食堂に野菜の消費を奨励するポスターを掲げたり、バーで危険なレベルの飲酒を思いとどまらせたりすることは、効果的であることが示されている。ソーシャルメディアは今や非常に普及しており、研究者らは、特に若い人々の間で、果実や野菜の消費拡大に関する肯定的な社会規範を広めるための理想的な方法であると考えている。

トーマス博士は、「これは現時点ではパイロット的な介入研究にすぎないが、ソーシャルメディアのアカウントを微調整するだけで、コストをかけずに食事の大幅な改善につながる可能性があることを示唆しているため、一連の調査結果は非常に興味深い。今後の研究では、そのような介入が他者が消費しているものに対する我々の認識を実際に変えるかどうか、また、これらの介入が長期にわたって持続する効果を生み出すかどうかを調べる」と語った。

現在はエクセター大学に在籍するホーキンス博士は、「我々のこれまでの研究で、ソーシャルメディア上の社会規範が食品消費を後押しする可能性があることが実証されているが、今回のパイロット研究は、これが現実の世界にも当てはまることを示している。我々としてはもちろん、これをより大きなコミュニティ規模のサンプルで再現できるかどうかを確かめたいと考えている」と述べた。

出典: aston.ac.uk

45. ペルー産ブドウ 香港向けが最も価格が高い

[Agraria.pe](#) 2024年4月26日

(Agraria.pe) 2023-24年度の出荷シーズン中のペルー産食用ブドウの価格は、輸出先国と出荷された品種によって異なった。農業技術関連企業であるセンソノミック社の最高科学責任者であるアダム・フォルミカ氏によると、6つの主要な新しい品種のうち、オータムクリスプ®、ティンブソン、スイートグローブが最も価格が高かった。4大市場では、香港が最も価格が高く、米国、メキシコ、オランダがそれに続いた。

同氏は、「香港市場では、オータムクリスプ®とスイートセレブレーションが、スイートグローブやアイボリーと比べて、1キロ当たりそれぞれほぼ0.50ドル及び0.30ドル高かった。他の市場の価格は、すべての品種でほぼ同じであった。ただし、メキシコ市場のアリソンとアイボリーは例外で、価格が低かった」と述べた。

このアナリストは、香港は輸送時間が長い(リマから36日)ために多くの料金を支払っている可能性が高いと指摘した。しかし、米国はオランダよりも輸送時間が短い(米国のフィラデルフィア港まで18日、オランダのロッテルダム港まで25日)にもかかわらず、価格が高い。

同氏は、「米国東海岸もヨーロッパも、最近のパナマ運河の渋滞の影響を受けていたはずだ。違いは、より多くの季節のブドウを有する南アフリカとインドへのアクセスの点で、オランダの方が近いことかもしれない」と結論付けた。

46. 中国が台湾産柑橘類等の禁輸措置解除に言及

[FOCUS TAIWAN](#) 2024年4月28日

台北、4月28日(CNA) ^{ツァン・グン・リアン}中国税関総署の趙善連副部長は、科学的評価に基づき、中国は台湾からのいくつかの農水産物の輸入禁止を解除すると述べた。具体的には、中国は検疫要件を満たす台湾産の柑橘類と2種類の魚の輸入を再開すると趙氏は述べたが、解禁の日付や詳細は明らかにしていない。

趙氏はこの決定を、兩岸関係の改善を目的とした国民党(KMT)代表団の3日間の訪中の中で、税関を訪問した同党の ^{フー・クン・チー}傅崐萁立法委員と他の16人の国民党議員をもてなした際に発表した。

同副部長は、中国政府は、1992年の合意を支持し台湾独立に反対するという共通の政治的基盤に基づき、台湾の農水産物の輸入再開について、国民党及び関係当局とさらに意思疎通を図る用意があると述べた。

中国による台湾からの輸入禁止措置は、ナンシー・ペロシ米下院議長が短期間の訪問のために台北に立ち寄ったわずか数時間後の2022年8月3日に発動された。

輸入禁止リストには柑橘類も含まれており、中国はコナカイガラムシが付着し、過剰な残留農薬で汚染されているとしていた。他の禁止品は冷蔵のタチウオと冷凍のアジであり、中国は当時、魚のパッケージからCOVID-19ウイルスが繰り返し検出されたことを理由に挙げている。

台湾の ^{チェン・グン・ジ}陳駿季農業部長(農業大臣)代行は中央通訊社(CNA)に対し日曜日(28日)に、同省は中国から解禁決定の公式通知をまだ受け取っていないと述べた。陳部長は、この問題に関するいかなる連絡も、これまで行われてきたように、兩岸の検疫関係の場を通じて行われるべきだと述べた。

政府の統計によると、台湾の2021年のザボンの輸出量は合計7,062トンで、そのうち4,821トンが中国に出荷された。しかし、中国が台湾産の柑橘類の輸入を禁止した後、データによると台湾のザボンの総輸出量は2022年に2,909トンに減少し、そのうち香港が2,623トンを輸入した。台湾の昨年のザボン輸出量は約2,709トンで、ここでも香港が1,823トンで最大の輸出先であった。

執筆者: チャン・シュンフエン、ルー・チャジャン、リー・シンイン

47. トルコ サクランボ輸出目標を3億ドルに上方修正

[RAILLY NEWS 2024年4月29日](#)

サクランボの生産量で世界一を誇るトルコは、最初の収穫から2週間の間にサクランボの収量と品質が好調に推移したことを受けて、輸出額の目標を2億5千万ドルから3億ドルに引き上げた。

エーゲ海地方青果物輸出協会会長でエーゲ海地方輸出協会副コーディネーターでもあるハイレッティン・ウチャク氏は、2024年に12万トンのサクランボを輸出し、3億ドルの外貨を獲得することを目指していると述べた。(以下「」は同氏の発言)

北半球で最も早いサクランボを栽培するマニサ県シェザデレル(シェハザデラー)地区のサクランボ園を訪れたウチャク氏は、サクランボの出荷シーズンに入ったとして、収量と品質が非常に良いと指摘した。

ウチャク氏は、トルコの2,200万本の果樹から72万5千トンの収穫を見込んでいることを強調した。

「今年は約12万トンのサクランボの輸出を目指しており、その目標を達成できることを願っている。市場で生産者と輸出業者にとって理想的な価格が形成されれば、3億ドルの輸出を実現できると思う。」

サクランボを6カ月以上世界に供給できる

ウチャク氏は、トルコでサクランボが最も早く生育する地域はマニサ県シェザデレル地区とイズミル県ケマルパシャ地区であるという情報を提供し、次のように続けた。

「イズミル県とマニサ県は、トルコにおけるサクランボの果樹の26%を占めており、この2県で14万7千トンのサクランボを生産している。

早生産地から始まった輸出は、他のサクランボ産地からの出荷を得て約6カ月続く。この地理的な優位性を活かして、2023年には、2億1,579万6千ドル相当、8万3千トンのサクランボを55カ国に輸出した。

輸出先ではドイツが9,550万ドルで第1位であった。これにロシアが4,380万ドル、オーストリアが1,420万ドルが続いた。

ジラート0900品種は、その鮮やかな赤色、果粒の大きさ、独特の香り、貯蔵可能期間の長さのために好まれており、地域の生産者にとって主な収入源となっている。」

航空貨物で輸出をさらに増やすことができる

ウチャク氏は、サクランボの輸出で世界をリードしているチリは、トルコよりはるかに生産量が少ないにもかかわらず、輸出では先行していると言う。

「チリは中国、極東、米国、ヨーロッパに航空貨物で非常に迅速に輸出している。トルコは、まずは極東諸国、特に中国と植物検疫協定を締結し、航空貨物を強力に利用することで、チリの輸出レベルに達することができる。」

同氏は最後に、生産者と輸出業者にとって実り多いシーズンになることを願っていると述べた。

48. 南アフリカ ソフト柑橘類の輸出が大幅に増加

[EUROFRUIT 2024年4月29日](#)

南アフリカのソフト柑橘類の輸出予測の詳細が初めて明らかになり、今年の総輸出量は約3,800万箱になることが示された。

この数字は、マンダリンの収穫量の大幅な増加を反映している。

品種別ではナドルコット/タンゴで成長が見込まれており、16%の増加によって、合計2,410万箱に達することが見込まれている。

中生～晩生の品種であるリーンリは約250万箱、さらにオッリ200万箱が見込まれる。他のマンダリンは270万箱が見込まれる。

南アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は、数週間前(4月2日)に最初の予測を発表した際、ウンシュウミカン(170万箱)、クレメンタイン(540万箱)、ノバ(450万箱)等、他のソフト柑橘類も増加する(晩生品種については追って発表する)としていた。

レモンは昨年より7%増の3,790万箱、オレンジは4%増の2,560万箱と予測されている。

柑橘類生産者協会のジャスティン・チャドウィックCEOは以前、「バレンシアオレンジの輸出が2年間抑制されていたが、2024年には生産量が改善し、長期的な傾向線に戻る可能性が高い。これにより、出荷量は12%増の5,800万箱になる」と述べていた。

バレンシアオレンジの最終的な輸出量は、加工部門からの需要の影響を受ける可能性がある。

グレープフルーツの輸出シーズンも始まっており、ここでも輸出が増加し、長期的な平均に戻る見込みである。14%の増加予測により、この品目の出荷量は1,670万箱と見込まれる。

執筆者: フレッド・メインチェス

49. インド カシミール地方の冷蔵業者に問題

[FreshPlaza 2024年4月29日](#)

カシミール渓谷の生産者組織は、冷蔵倉庫・CA貯蔵庫の所有者を抑えたいと考えている

カシミール渓谷果樹生産販売組合は、園芸部門に影響を与えるいくつかの問題について懸念を表明している。バシール・アフマド・バシェール組合長と複数の果樹生産者組織の代表者らとの会合では、副知事による行政介入の必要性が強調された。

主な問題は、冷蔵倉庫やCA貯蔵庫の所有者らによる搾取の疑い等で、彼らは標準以下の包装資材に高い料金を課し、生産者に最低5カ月の貯蔵期間を順守させ、リンゴの販売に対する生産者の支配を制限したとして非難されている。組合は、こうした慣行に対処しなければ、抗議行動を起こす可能性があると警告した。

組合はさらに、最近の悪天候による南カシミール地域の果樹園への被害を強調し、作物保険制度の発動を求めた。また、偽造農薬の販売についても懸念が提起され、規制の強化と違反者に対する懲罰的措置が求められた。

輸入りんごの流入は地場産業を弱体化させると受け止められており、これがもう一つの懸念事項であった。組合は、国内市場を保護するため、外国産リンゴに制限や高い輸入関税を課すよう政府の介入を求めている。組合は、これらの問題を解決し、カシミール渓谷地域の園芸産業を支援するために、副知事による早急な行動を求めている。

出典: greaterkashmir.com

50. 中国 雲南省産ブルーベリーを初めて日本に出荷

[FreshPlaza 2024年5月1日](#)

4月14日、雲南省にある^{ベンジエン}鵬升社の栽培基地から新鮮な^{ジ・グアン}「枝冠」ブルーベリーを積んだ冷蔵トラックが発し、空港に向かった。福州で積み替えられた後、ブルーベリーは東京に到着した。この出来事は、雲南省の枝冠ブルーベリーが日本市場に初めて参入したものであり、雲南省産の生鮮ブルーベリーが日本に上陸した最初の例でもある。20時間の旅を終えたこの貨物は、農林水産省の植物防疫検査と、厚生労働省の残留農薬検査に合格した。その後、東京の大田市場で販売されたブルーベリーは、直ちに売り切れた。

鵬升社は、海外市場へのアクセスを容易にするためにグローバルGAPとISO22000(食品安全管理システム)の認証を取得し、輸出パートナーである漳州^{ジャンジョウデーシン}徳興社と協力して日本の消費者の嗜好に応えるよう努めている。香港とタイでの市場参入の成功に続き、鵬升社は日本と東南アジアでの事業拡大を目指しており、今後1～2年以内に約50トンの輸出量を目標としている。

現在は航空貨物が主な輸送手段だが、週1回の定期配送による大規模輸送への移行が計画されている。枝冠ブルーベリーは、雲南省、遼寧省、山東省、四川省などの約6千^ム畝(約400ヘクタール)で栽培されており、国外のパートナーを含めた栽培面積は約2万^ム畝(約1,350ヘクタール)である。協調した栽培により、新鮮で高品質なブルーベリーを中国国内外の消費者に年間を通じて安定的に供給することができる。

出典: blueberriesconsulting.com (翻訳当たっては[FreshPlaza](#)のほか、[国際果蔬報道](#)を参考にしました。)

51. イタリア リンゴをCAコンテナでインドに試験出荷

[FreshPlaza 2024年5月2日](#)

輸送時間が長くても高品質を保証

CAコンテナで果実を出荷することは、熱帯果実のほか、チリ産のサクランボや南アフリカ産の生食用ブドウでも普通のことである。ノルドオヴェスト社のマッシモ・デルポッゾ営業部長は、「最近、CAコンテナでリンゴをインドに出荷したが、イタリア産リンゴではあまり一般的ではない」と説明する。(以下「」は同氏の発言)

この試験輸送は、スエズ運河の問題により輸送時間が15～20日長くなったため、最も遠い市場に到達する際のリスクを減らすために不可欠になったものである。「弊社の取引先は、特に次の販売シーズンを心配している。物流の問題で顧客を失うのは馬鹿げているように思えたので、輸送が長期化しても品質を高く保つにはどうすれば良いかを考え始めた。」

イタリアの港でこのタイプの出荷に適したコンテナを見つけるのは容易ではない。最近行った出荷は、状況が変わらなければ、より広く使用することを視野に入れた試験である。「我々は2つのコンテナを出荷した。1つはCAコンテナで、もう1つは従来型の冷蔵コンテナなので、到着時に2つの貨物の違いを確認できる。」

「試験をできるだけ科学的にするために、同じ収穫物から得られた同じ品種のリンゴを同じ方法で貯蔵したものを出荷し、変数を最小限に抑えた。」

「これは、現在の状況にかかわらず、品質を保証し、苦情のリスクを軽減することで、将来的に遠く離れた市場に参入する絶好の機会に繋がると考えている。」

52. ペルー 新しいソフト柑橘類品種が輸出を促進

[FreshPlaza 2024年5月7日](#)

ペルー産マンダリンの海外市場向け出荷量は2005年の2万トンから2013年には4万トンに倍増したが、その後の8年間で本格的に増加し、2020年までに20万トンに達した。ペルー柑橘類生産者協会(Procitrus)の会員であり、果実生産者共同事業体(CPF: Fruit Producers Consortium S.A.)の副会長であるアルフォンソ・リゾパトロン氏は、「この目覚ましい成長の理由は、新しいソフト柑橘類品種、特にナドルコットとタンゴの導入であった」と述べている。(以下「」は同氏の発言)

同氏が思い起こすように、ペルーの柑橘類の輸出の始まりは90年代にさかのぼる。「ワシントン品種のネーブルオレンジを中心に限られた数量のテーブルオレンジの輸出を始めた。品質は素晴らしかったが、カンキツリステザウイルス(CTV: Citrus Tristeza Virus)が侵入し、ほとんどすべてが一掃された。その後、ヨーロッパ市場がペルー産の柑橘類に開放されると、ペルーはウンシュウミカンを中心に輸出を始めた。」

「政府は当時、国際市場のためだけでなく、ペルーの国内市場への果実や野菜の供給を促進するために果実・野菜セクターを振興しており、これにより柑橘類セクターも含めて多くの投資家が引き付けられた。実際、2000年代初頭には、柑橘類の栽培面積が非常に大きく増加した。私がこの業界に加わった2009年当時、非常に高品質のウンシュウミカンが英国やオランダに輸出されていたことを覚えているが、生産者らがダブルマーコット品種の栽培を始めてからすべてが変わった。わずか10年余りで、約6千ヘクタールにダブルマーコットとタンゴが植えられた。一方、ウンシュウミカンの多くの園地は、ナドルコットとタンゴに取って代わられた。現在残っているウンシュウミカンは、主に国内市場、英国、カナダ向けに生産されている。」

同氏によると、ペルーでは現在、約8万ヘクタールで柑橘類が栽培されており、内訳はマンダリン(約1万7千ヘクタール)、オレンジ(主に果汁用。約3万ヘクタール)、ライムとレモン(約2万5千ヘクタール)、グレープフルーツ等である。同協会には148の会員がおり、ペルーの総栽培面積の約60%にあたる約9千ヘクタールのマンダリンを栽培している。また、これらの生産者は、同国のマンダリン輸出の85%を占めている。

「会員は主にペルーの中部と南部にいますが、国内市場向け主体のジャングル地帯での栽培もある。同協会は、輸出の拡大や新市場の開拓だけでなく、会員への資材の供給や助言の提供を通じて技術と生産性の向上を促進し、それによって技術や知識の導入を支援することにも注力している。」

同協会は、EU、中国、米国から肥料や農薬を有利な価格で輸入している。「協会は、モロッコ、スペイン、南アフリカ、米国等のマンダリン生産国への視察旅行も開催する。また、関連する輸出業者が特定の外国市場へのアクセスに関心を示す場合は、それらの市場との交渉を開始するため、協会は管轄する政府部門及び農業検疫局(SENASA: National Agricultural Health Service)と連絡を取る。実際、米国、中国、そして最近では日本の市場をペルーの柑橘類に開放することを主張したのは協会であった。」

「そして、意外に思えるかも知れないが、日本は同国発祥であるウンシュウミカンに市場を開いた。交渉は必ずしも作物(柑橘類等)ごとに行われる必要はなく、関税品目ごとに行われる。柑橘類にはいくつかの関税品目がある。我々は近い将来、ナドルコットとタンゴを日本市場に出荷できるよう交渉を始めたいと考えている。」

同協会は、マーケティングの観点以外にも、会員にサービスを提供している。例えば、出荷先の各市場の需要に基づいて、サイズ、果皮の色、または糖度が適切な果実を供給するように研修を行う。

「ナドルコットマンダリンの輸出を始めた頃は、ペルーの気温が全般的に高かったこともあって、ブリックス値は9〜9.5の範囲であった。今日では、他の生産国で得られた知識が我が国の生産者に伝わったおかげで、ブリックス値10.5〜12の果実を供給することができる。これは、国際市場で成功したいのであれば、不可欠な要件である。ペルーでは、果皮の着色が適切なマンダリンを入手することは難しいかも知れないが、協会を通じて得られた助言と技術のおかげで、外観に関して非常に高い基準を達成することができた。」

出荷期間は、北半球でのマンダリンの出荷が終了した後の6月〜9月で、これにより、同協会はナドルコット

とタンゴについてアメリカ市場とヨーロッパ市場での地位を固めることができた。

「8年前、EUにおける柑橘類の売上のうち、我々の出荷期間内に発生したのはわずか10%であった。現在、その割合は30～35%に上昇している。また、かつて米国での柑橘類の売上は、冬は夏の5倍であったが、現在は1.5倍に低下している。この消費行動の変化が新しいソフト柑橘類品種の販売を促進していることは間違いないが、これらの品種の並外れた品質がすでにこの状況の変化を大きく動機付けていることも疑いの余地が無い。」

「現在、北半球のスーパーマーケットでは、12月から6月までは国内産のナドルコットとタンゴ品種のマンダリンで棚を埋め、6月から11月までは南半球産のマンダリンで棚を埋めることができる。ペルーは6月からナドルコットを市場に投入する。その次に到着するのは最大の競争相手である南アフリカとチリで、それぞれ7月と8月に果実の出荷を開始する。」

高品質なソフト柑橘類の販売の見通しは良好であるが、ペルーでは現在、マンダリンの栽培面積を拡大するための主だったプロジェクトがない。

「最も大規模な投資は、北部のアボカドとブルーベリーのプランテーションの開発に向けられている。しかし、ペルー南部のアレキパ地域では現在、山を貫通するトンネルの建設計画があり、雨の多い東斜面にある貯水池から、反対側よりもはるかに乾燥しているものの気候が果実の生産に最適である西側に水を運ぶことができるようになる。海拔1,500メートルの約4万ヘクタールの土地を果樹栽培に充てる計画があり、大部分がアボカドとブルーベリーの生産を目的としているが、気象条件はマンダリンの栽培にも非常に適している。」

同氏によると、ペルーで栽培されている他の柑橘類の果実については、オレンジのほとんどは搾汁用であり、グレープフルーツの生産量はそれほど多くなく主に国内市場向けである。「またライムもあり、ペルー料理で広く使われている。」

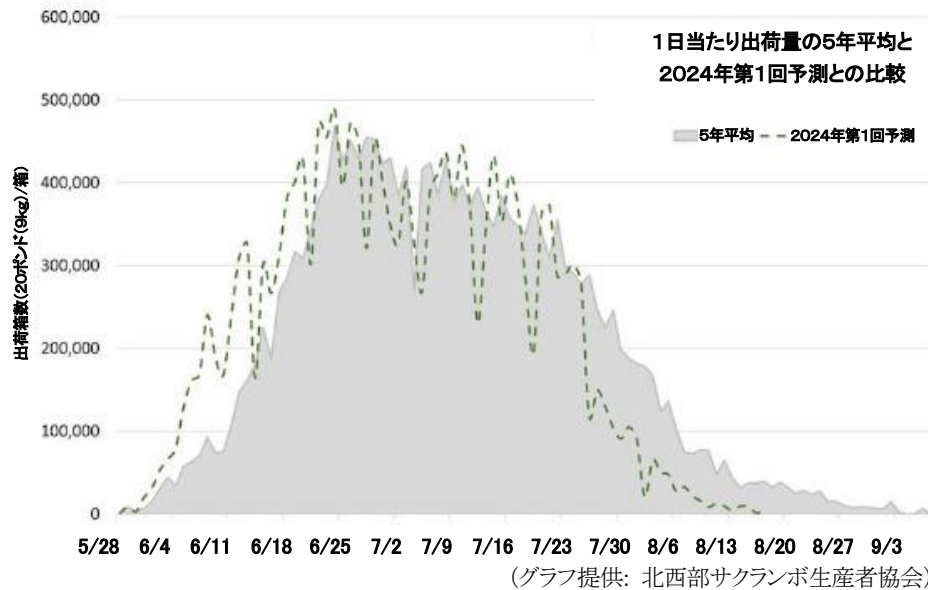
ライムの栽培は主に国の北部で行われており、最大1千ヘクタールまたは1,500ヘクタールの農場を持つ生産者もいる。他の柑橘類で最も重要な輸出品はタヒチライムで、その栽培面積は近年大幅に増加している。

ヨーロッパは、海上輸送時間が15～22日で特に物流を管理しやすく、引き続きペルーにとって非常に魅力的な市場である。一方、チャンカイ港から上海の新しい港への航路が稼働すると、海上輸送の所要時間が35～40日から23～25日に短縮されるため、中国市場は大きな可能性のある新たな輸出先であると考えられている。

「これまで、極東は輸送時間が長いため、我々にとってあまり魅力的な選択肢とは思えなかった。アジアの一部の国への出荷のように、低温処理が必要な場合は特にそうである。果実は、0℃で35日間貯蔵すると深刻な影響を受ける可能性がある。しかし、ウンシュウミカンの日本への輸出については、日本の当局と協議の上、温度をわずかに高く設定することができるようにしたため、低温処理から生じるかも知れない問題はいくらか少なくなった。このやり方では低温処理を7日間長くする必要があるが、日本への輸送時間(23日間)と完全に一致する。また、そう遠くない将来、我が国の政府がナドルコットとタンゴの輸出について日本との合意に達することを望んでいる。」

53. 米国北西部のサクランボは十分な出荷量が見込まれる

The Packer 2024年5月8日



米国北西部のサクランボ業界は、2024年の収穫量は前年比12%増で2,090万箱の豊作と予想している。

北西部サクランボ生産者協会のニュースリリースによると、2024年の北西部のサクランボの収穫は2023年に比べ10～12日早く開始される。しかし業界のリーダーらは、シーズンの終わりの8月には2023年に比べて出荷量が少なくなると予想している。

北西部のサクランボ業界では、6月1日頃から90日近くにわたって果実を出荷すると見込んでいる。リリースは、今シーズンのカリフォルニア州産と北西部産のサクランボの切り替わり時期には、小売業者は品不足に耐える必要はないだろうとして、「今年、北西部から早い時期に出荷される果実は、サクランボを重視している小売業者がカリフォルニア産から移行するのに十分役立つはずである。カリフォルニア州産のサクランボから、6月初旬に出荷が始まる北西部のサクランボに移行する間、小売業者は6月と7月のすべての週を通してサクランボを調達する十分な機会があるはずだ」としている。(以下は北西部サクランボ生産者協会のリリースから)

寒波の一撃

冬の間、標高の高い果樹園(標高1,900フィート(約580メートル)以上)は氷点下の気温に見舞われたため、シーズン終盤に成熟する果実が少なくなる。全体として、北西部の早生と中生の園地では着果量が平年並みと見られるが、晩生(7月下旬と8月全体)の収穫量(トン数)は約50%減少する。

主に、ワシントン州ウェナチー市から北はカナダ領内までの晩生の果樹園が冬の低温の影響を受けた。一方、ワシントン州ヤキマ市、オレゴン州ダレス市及び同フードリバー市周辺の標高の高い果樹園は、北部の果樹園よりもうまくいっているようだ。

サクランボの喜び

カリフォルニア州のサクランボ(甘果オウトウ)業界は、2024年に1,020万箱(18ポンド(約8.2kg)/箱換算)近くの収穫を予測している。収穫は4月19日に始まり、5月7日頃までに40万箱強が出荷された。

今シーズンの太平洋岸地域の「豊富な」サクランボの収穫は、消費者と小売業者の両方に、サクランボが提供する季節の風味、健康上の利点、及び販売上の利益を享受する十分なチャンスがあることを意味する。

「あなたが小売業者なら、青果物売り場で売り場面積当たり売上高第1位になる品目の販促チャンスをお見逃しなく」

執筆者: トム・カースト

54. 米国カリフォルニア州 核果類シーズンの幕開け

[FreshPlaza](#) 2024年5月8日

カリフォルニア州の核果類出荷シーズンが始まり、2022年と同様に積極的に販売促進できるだけ収穫量が見込まれている。ジュマラ社でカリフォルニア州産核果類と熱帯果実の販売部長を務めるミゲル・ベルトラン氏は「優れた品質を期待している」と述べている。

同社は、アンズ、黄肉のモモとネクタリン、白肉のモモとネクタリン、赤と黒のスモモ、プルオット(スモモとアンズの交配種)など、核果類の品揃えが充実している。現在、アンズ、黄肉のネクタリン及び白肉のモモを出荷している。

同社はまた、独自のカリフォルニア州産ネクタリンブランドであるドルセヴィーダ(DulceVida™)も有している。これには、ミッドナイトエディション(果皮が暗色で斑点があり、果肉が黄色いネクタリン。出荷時期は7月～8月中旬)、トワイライトエディション(果皮が鮮やかな赤紫色で霜降りがあり、果肉が白いネクタリン。同6月～8月中旬)、及びサンライズエディション(果皮が濃い赤から濃い赤紫色で、果肉が黄色いネクタリン。同7月～8月中旬)がある。

今年の夏も、同社は小売業者向けに、カリフォルニア州リードリー地域でドルセヴィーダ育成プログラムの見学会を提供する。見学会は要請に応じて開催され、ドルセヴィーダを栽培しているティム・ティーセン氏が試験栽培園と商業的果樹園の両方への訪問を受け入れる。

ベルトラン氏は、「個別に準備された見学会は、この特別な育種事業について小売業者を教育する方法として効果的であることがわかった。我々の業界では、園地で生産者との時間を過ごすことは大変貴重である。特に、樹上で完熟した果実を果樹園で試食できる場合はなおさらである」と言う。

夏果実の需要

需要に関しては、消費者が春の終わりに夏にかけて核果類を食べることを楽しみにしており、このカテゴリが同社の夏の重要商品であることを考えると、好調であることが期待される。

また、今年は販促できるだけ十分な量の収穫物の動きを促進するために、小売パートナー向けにカスタマイズされた販売支援も提供しており、その一部は、食品がどこから来ているのかを知りたいという消費者のトレンドを取り入れている。小売商品化担当副社長のケリー・ハリス氏は、「店内の販促資料には、生産者のティム・ティーセン氏とその一家が登場する。また、小売パートナーをさらに支援するため、盛り付けのレシピ、ドルセヴィーダ製品の試食、その他のデジタル及び店頭での販促活動も提供する」と話す。

パートナー企業ごとに合わせた同社のアプローチにより、各小売業者はその消費者層の属性に最大限にターゲットを絞った核果類販売の支援を受けることができる。ドルセヴィーダブランドのネクタリンのような特別なアイテムの場合は特にそうである。ハリス氏は、消費者教育が購入を促進するための鍵であり、それを念頭に置いて、同社はレシピと品種に関する情報を掲載した消費者向けウェブサイトを作成した。

同氏は、「食欲をそそる写真や、レシピにリンクしたQRコード付きの看板を添えたシンプルなディスプレイを十分に用意することは、関心を喚起するのに役立つ。また、試食は売上を伸ばすための効果的なツールであることもわかっている」と言う。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

55. 米国 2023年産果実(非柑橘類)の出荷量

米国農務省農業統計局 2024年5月8日

オレゴン州とワシントン州のリンゴの出荷量は2022年から25%増加

オレゴン州とワシントン州のサクランボ(甘果アウトウ)の出荷量は2022年から45%増加

訳注: 以下の文中及び表で、1ポンド=約0.453592kg(1億ポンド=約4万5千トン)、

「トン」は米トン(ショートトン)で、1米トン=2,000ポンド=約907.184kg、

1エーカー=約0.404686ヘクタール

リンゴ オレゴン州では、2023年のリンゴの出荷量は前年比21%増の1億5,700万ポンドであった。出荷額は4,730万ドルで、2022年から21%増加した。ワシントン州では、2023年のリンゴの出荷量は73億8千万ポンドで、前年比25%増加した。出荷額は19億9千万ドルで、2022年から4%減少した。

サクランボ オレゴン州では、2023年の甘果アウトウの出荷量は合計3万8,450トンで、前年比35%増加した。出荷額は6,360万ドルで、2022年から2%増加した。ワシントン州では、2023年の甘果アウトウの出荷量は20万5,730トンで、前年比47%増加した。出荷額は2億9千万ドルで、2022年から27%減少した。

ブドウ ワシントン州では、2023年のブドウの出荷量は合計33万9,350トンで、前年比18%減少した。出荷額は3億900万ドルで、2022年から22%減少した。2023年の醸造用ブドウの出荷量は15万9,350トンで、2022年から34%減少した。一方、果汁用のブドウ出荷量は5%増の18万トンであった。醸造用ブドウの出荷額は前年比26%減の2億4,500万ドル、果汁用ブドウの出荷額は6,390万ドルで、2022年から2%減少した。

ナシ オレゴン州では、2023年のナシの出荷量は23万5,080トンで、前年比14%増加した。出荷額は1億1,700万ドルで、2022年から24%増加した。ワシントン州では、2023年のナシの出荷量は合計26万6,710トンで、2022年から8%減少した。出荷額は1億3,100万ドルで、2022年から19%減少した。

ブルーベリー オレゴン州では、2023年のブルーベリーの出荷量は前年比23%減の1億2,900万ポンドであった。出荷額は1億4,600万ドルで、2022年から24%減少した。ワシントン州では、2023年のブルーベリーの出荷量は1億3,700万ポンドで、2022年から22%減少した。出荷額は7,840万ドルで、2022年から57%減少した。

報告書全文: nass.usda.gov

品目別図表(抜粋)

リンゴ 商業的結果面積、収量、生産量及び価格 オレゴン州、ワシントン州及び米国計 2021-2023

州	結果面積 (エーカー)	収量/エーカー (ポンド)	総生産量 (百万ポンド)	出荷量 (百万ポンド)	価格/ポンド (ドル)	出荷額 (千ドル)
オレゴン州						
2021	5,000	30,600	153.0	152.2	0.321	48,804
2022	4,800	27,200	130.5	130.2	0.300	39,091
2023	4,800	33,000	158.5	157.4	0.300	47,261
ワシントン州						
2021	172,000	39,800	6,845.0	6,571.2	0.306	2,007,502
2022	173,000	35,500	6,140.0	5,894.4	0.351	2,067,829
2023	173,000	44,000	7,610.0	7,381.7	0.270	1,991,918
米国計						
2021	299,500	33,600	10,072.5	9,783.9	0.296	2,895,751
2022	302,300	33,000	9,975.0	9,687.6	0.321	3,107,472
2023	297,100	38,200	11,357.5	11,089.4	0.274	3,043,890

甘果オウトウ 結果面積、収量、生産量及び価格 オレゴン州、ワシントン州及び米国計 2021-2023

州	結果面積 (エーカー)	収量/エーカー (米トン)	総生産量 (米トン)	出荷量 (米トン)	価格/米トン (ドル)	出荷額 (千ドル)
オレゴン州						
2021	11,500	3.59	41,300	41,010	1,470.00	60,323
2022	11,500	2.50	28,800	28,570	2,180.00	62,206
2023	11,000	3.53	38,800	38,450	1,650.00	63,594
ワシントン州						
2021	39,000	5.71	223,000	221,670	2,020.00	448,498
2022	38,000	3.74	142,000	140,160	2,850.00	399,445
2023	39,000	5.33	208,000	205,730	1,410.00	289,983
米国計						
2021	87,500	4.20	367,300	361,970	2,350.00	850,170
2022	86,500	2.58	223,300	219,870	3,140.00	690,152
2023	87,000	4.07	354,300	342,870	1,860.00	636,319

ブドウ 結果面積、収量、生産量及び価格 ワシントン州及び米国計 2021-2023

州	結果面積 (エーカー)	収量/エーカー (米トン)	総生産量 (米トン)	出荷量 (米トン)	価格/米トン (ドル)	出荷額 (千ドル)
ワシントン州						
2021	74,000	3.97	294,000	294,000	1,020.00	300,420
2022	71,000	5.81	412,500	411,900	959.00	394,865
2023	71,000	4.78	339,500	339,350	911.00	309,299
うち果汁用						
2021	17,000	6.70	114,000	114,000	330.00	37,620
2022	17,000	10.10	171,500	171,150	380.00	65,037
2023	17,000	10.60	180,000	180,000	355.00	63,900
うち醸造用						
2021	57,000	3.16	180,000	180,000	1,460.00	262,800
2022	54,000	4.46	241,000	240,750	1,370.00	329,828
2023	54,000	2.95	159,500	159,350	1,540.00	245,399
米国計						
2021	903,000	6.68	6,034,000	6,034,000	913.00	5,509,775
2022	899,000	6.63	5,962,500	5,961,900	1,010.00	5,996,102
2023	891,000	6.63	5,909,500	5,909,300	1,160.00	6,833,773

ナシ 結果面積、収量、生産量及び価格 オレゴン州、ワシントン州及び米国計 2021-2023

州	結果面積 (エーカー)	収量/エーカー (米トン)	総生産量 (米トン)	出荷量 (米トン)	価格/米トン (ドル)	出荷額 (千ドル)
オレゴン州						
2021	14,500	15.20	220,000	219,120	506.00	110,937
2022	14,300	14.50	207,000	206,800	458.00	94,652
2023	13,900	17.00	236,000	235,080	498.00	117,026
ワシントン州						
2021	18,300	16.20	296,000	295,090	535.00	157,953
2022	17,500	16.50	289,000	288,400	563.00	162,301
2023	16,400	16.30	267,000	266,710	490.00	130,805
米国計						
2021	42,400	15.70	666,000	662,410	532.00	352,566
2022	40,700	15.90	648,000	646,890	547.00	353,983
2023	38,800	17.20	665,500	664,120	550.00	365,037

ベリー類 結果面積、収量、生産量及び出荷量 オレゴン州、ワシントン州及び米国計 2021-2023

品目及び州	結果面積	収量/エーカー	生産量		出荷量	
			総生産量	出荷量	生鮮消費用	加工用
	(エーカー)	(ポンド)	(千ポンド)	(千ポンド)	(千ポンド)	(千ポンド)
ブルーベリー						
オレゴン州						
2021	14,800	10,400	154,000	152,920	68,220	84,700
2022	13,900	12,100	168,000	166,320	66,860	99,460
2023	13,700	9,400	129,000	128,870	65,920	62,950
ワシントン州						
2021	18,300	8,840	162,000	161,840	63,180	98,660
2022	18,000	9,790	176,000	175,830	53,680	122,150
2023	17,700	7,770	137,500	137,370	42,080	95,290
米国計						
2021	111,100	6,380	708,700	698,170	385,940	312,230
2022	104,900	6,480	680,000	671,470	366,840	304,630
2023	103,000	6,290	648,000	642,210	394,340	247,870
ラズベリー						
ワシントン州						
2021	9,500	5,600	53,200	53,040	(D)	(D)
2022	9,700	6,400	62,100	62,100	(D)	(D)
2023	9,500	7,060	67,100	67,100	(D)	(D)
米国計						
2021	15,400	10,600	163,700	163,430	100,320	63,110
2022	15,700	10,300	161,100	160,510	86,150	74,360
2023	14,800	9,330	138,100	137,890	65,950	71,940

(D) 個別の経営に関するデータの開示を避けるため保留

その他の果実 結果面積、収量、生産量及び出荷量 ワシントン州及び米国計 2021-2023

品目及び州	結果面積	収量/エーカー	生産量		出荷量	
			総生産量	出荷量	生鮮消費用	加工用
	(エーカー)	(米トン)	(米トン)	(米トン)	(米トン)	(米トン)
アズ						
ワシントン州						
2021	910	3.80	3,460	3,460	(D)	(D)
2022	890	3.55	3,160	3,160	(D)	(D)
2023	640	5.50	3,520	3,510	(D)	(D)
米国計						
2021	7,310	5.47	39,960	39,710	21,650	18,060
2022	6,290	4.62	29,060	28,850	16,090	12,760
2023	5,940	6.03	35,820	35,770	19,750	16,020
モモ						
ワシントン州						
2021	1,300	5.89	7,660	7,630	(D)	(D)
2022	1,300	5.60	7,280	7,240	(D)	(D)
2023	1,200	5.22	6,260	6,220	(D)	(D)
米国計						
2021	74,800	9.38	701,710	674,060	347,610	326,450
2022	76,100	8.52	648,030	632,650	346,840	285,810
2023	73,600	8.00	588,540	577,690	282,290	295,400

(D) 個別の経営に関するデータの開示を避けるため保留

56. 南アフリカのアボカド産業 インド、日本、中国へ初出荷の準備中

[FreshPlaza 2024年5月9日](#)

南アフリカ産アボカドはわずか8カ月の間に、合計25億人以上に手が届く可能性があるインド、中国、日本の市場への参入を果たした。これらの大きな主要市場が突然開かれたように見えるかも知れないが、南アフリカが日本市場へのアクセスを得るまでに約15年、インドでは何年も、中国でも数年かかった。つまり、例えば今年の6月中旬に行われる中国当局者による最後の現地査察までの数カ月の待ち時間はわずかに過ぎないということだ。その後まもなく、正式な出荷が開始される。

南アフリカ亜熱帯果実生産者協会(Subtrop)のデレク・ドンキンCEOは、果実を送れるようになるまで現地で最後の詳細を詰めるのに忙しいと述べ、「昨年8月に議定書が調印され、中国への新たな市場参入が認められた。今のところ、6月中旬に予定されている中国による最終の査察を待っているところである。その後、アボカドの最初の出荷を予定している」と語った。(以下「」は同氏の発言)

中国へのアボカドの実際の輸出は南アフリカ産の出荷シーズンの終わり頃になるであろうが、ドンキン氏は、すべての新しい市場と同様に、中国市場は徐々に伸びていくと考えている。「どれだけの量を中国市場に送るかはまだ分からない。中国は成長している市場だ。現在はアボカドの主要市場ではないため、当初は南アフリカ産のアボカドが中国で大量に売れるとは予想していない。しかし、その潜在的な可能性は計り知れず、南アフリカのアボカド産業は中国での将来の成長を取り込むだろう。」

ドンキン氏によると、業界は、これらすべての新しい市場に短い間に次々と参入できることを喜んでいる。「12月に日本市場への新規参入が認められ*、4月にはインドへの参入が認められた。これは、8カ月の間に3つの新しい市場を獲得したことを意味する。これらの市場に最初の出荷を届けることを楽しみにしている。」

2024年シーズンは好調なスタート

南アフリカの2024年産アボカドの出荷量は、昨シーズンの1,860万箱(4kg/箱)から約7.5%増となる2千万箱と予想されている。南アフリカの港湾の効率性は依然として問題が多く、業界はこれを解決するため政府と協力している。新植された園地は生産量の増加に貢献している。

「現在までに700万箱を出荷した。輸送と港湾の状況は依然として困難であるが、物流チェーンに関わるすべての人が、果実が予定どおりに出荷されるように懸命に働いている。新植された園地が成園化してきており、毎年少なくとも800ヘクタールが加わっている。現在、約2万ヘクタールの園地から出荷している。今後5〜7年は新植した園地が成園化してくるため、成長が続くはずである。」

ドンキン氏は、今シーズンの残りの期間、南アフリカのアボカド産業の見通しは有望なようだと言っている。「報告によると、エルニーニョの影響でペルーからの供給量が減少するため、ヨーロッパ市場は前シーズンよりも満杯感が緩和するだろう。最近のペルー産は小玉が多いため、現在、小玉の価格は上値が重い。より大きい入数12〜18の果実については、価格は良好で安定している。」

ペルーはヨーロッパで南アフリカと数量競争を繰り広げているが、アボカド産業が拡大しているケニアとも競争が激しくなっている。

「ケニアは南アフリカよりも総輸出量が多く、我々と幾分か競合している。しかし、収穫物の大部分は、市場に近いという点で有利性がある中東に輸出されている。我々にとって、ヨーロッパ市場での量的な面での主要な競争相手はペルーである。」

執筆者: クレイトン・スワート

* 訳注: 南アフリカ産アボカドの日本への輸入は、令和5年11月末に条件付きで解禁されました。参考 [農林水産省告示](#)

57. 南アフリカ グレープフルーツの輸出は100万箱減少の予測

FreshPlaza 2024年5月9日

南アフリカのグレープフルーツ業界は、昨年始めた輸出の調整を引き続き厳密に行っている。フッドスプロイト地域(リンポポ州)のランドマングループの会長で、この取り組みを率いるトミー・ランドマン氏は、過剰な供給が需要をはるかに上回り、法外に高騰した輸送コストと相まって悲惨な状況となった2021年と2022年のグレープフルーツ出荷シーズンの後、グレープフルーツの出荷を共同で計画するよう生産者を説得することは難しくなかったと述べている。(以下「」は同氏の発言)

グレープフルーツの推定出荷量は100万箱(17kg/箱。以下同じ)減り、約1,385万箱となったが、スタールビーグレープフルーツを40年間栽培してきた同氏の直感では、一旦下方修正が始まると、シーズンを通してそれが続くことが多いと感じている。現段階での推定値は、昨年の輸出量よりまだ4%多い。

南アフリカのグレープフルーツの出荷の最盛期は第16週(4月半ば)～第22週(5月末)であるが、やりたいことは出荷シーズンを引き延ばすことである。2023年には、自発的な調整努力と、スタールビーの果実が従来の想定よりも日持ちするという認識の結果として、グレープフルーツを26週間にわたって販売することができた。各週の各市場の上限値(問題なく販売できる数量水準)が推計され、輸出量はこの水準を下回るように維持される。(ホワイト・マーシュ・グレープフルーツのうち、輸出業者が思いどおりに販売することができるのは、今年は51万700箱と推定される。)

着果量が多く小玉に「グレープフルーツは、世界的に消費量が増加していないため、供給過剰に非常に敏感である。最盛期の困難な時期には、クラス2の果実を取り除き、入数55以下の小玉を制限することを検討する。今年グレープフルーツの収穫が始まるとすぐに、入数55の小玉が多いことに気づいたので、注意深く観察し、小玉は毎週の輸出量の5%から10%の間に抑えている。」

幸いなことに、国内のグレープフルーツ果汁の価格がかなり高く、これは加工用品質の果実を輸出用の果実の流れから締め出すのに役立ち、おそらく国内向けの生鮮供給量も減少させている。

ランドマン氏が柑橘類を扱ってきた40年の間に、グレープフルーツ市場は、南アフリカと米国フロリダ州が一緒になって日本向けにグレープフルーツを周年供給していた時代から大きく変化した。その間に、カンキツグリーニング病(HLB)がフロリダ州の柑橘類産業を台無しにした。

「日本には巨大な市場があったが、フロリダ州産の不在は我々にとって非常に悪い影響を与えた。売り場の棚におけるグレープフルーツの連続性が消えてしまった。」現在、日本は南アフリカ産グレープフルーツの第3位の市場である。

今シーズンこれまでのところ、グレープフルーツの約40%がロッテルダム(オランダ)に送られており、残りはイタリア(台湾とともに、小玉にとって貴重な市場である)とドイツがグレープフルーツ輸入国の10位にランクインしている。

他とは異なる中国の消費形態「現在、我々は多くのスタールビーを中国に送っており、今年これまでに100万箱弱となる。それでも、ヨーロッパ向けの輸出量には遠く及ばない。」中国は興味深い市場であり、世界の他の地域とは反対に、グレープフルーツは生鮮消費ではなく、主に喫茶店で使われている。

「2022年は、出荷業者間の調整不足により、中国市場は完全に供給過剰に陥った。その結果、2023年の販売を開始した時点で前年の加工品が大量に残っていたため、昨年は中国へのグレープフルーツの供給を一切行わないことに決めた」これを繰り返さないために、南アフリカの代表2人が中国を訪問し、現在南アフリカ産グレープフルーツ第2の輸入国であるこの市場へのサービスの仕方について直接学んだ。

南アフリカのグレープフルーツにとって最も収益性の高い市場である韓国 - 届きさえすればだが、検疫検査が過度に厳格で不許可が尋常でない - に、今シーズンは19万6千箱強が届いた。(他の品目の記述は省略)

執筆者: キャロライズ・ヤンセン

58. 南アフリカ産生食用ブドウがベトナムで存在感を高める

[PRODUCE REPORT 2024年5月9日](#)

アジア市場の重要性が引き続き高まる中、南アフリカ産生食用ブドウ産業は、この市場へのさらなる浸透に向けた取り組みを強化している。その一環として、南アフリカ生食用ブドウ生産者協会 (SATI) は先日、中国以外のアジア諸国で初めての販売促進活動を開始した。3月下旬から4月中旬にかけて、この業界団体はジョイ・ウィング・マウ・アジア社及びフレッシュ・フルーツ-X社と協力して、ベトナム全土の複数のスーパーマーケットチェーンでの無料試食会など、様々な販促イベントを通じて同国の消費者に南アフリカ産生食用ブドウを紹介した。この取り組みの目的は、ベトナム市場における南アフリカ産生食用ブドウの認知度と人気を高めることであった。

3月25日から31日にかけて、SATIはジョイ・ウィング・マウ・アジア社及びウィンマート社と提携し、ハノイ市とホーチミン市のウィンマート15店舗で南アフリカ産生食用ブドウの販促週間を開催した。この販促活動は、黒と緑の生食用種無しブドウに焦点を当てた。セーブル、スイートジョイ、スイートグローブ、オータムクリスプなどの品種を試食してもらい、南アフリカ産ブドウの特徴について教育することで、より多くの消費者が南アフリカ産生食用ブドウの歯触りの良さ、甘さ、新鮮さ、手頃な価格を明確に理解することができた。イベント開催店での南アフリカ産生食用ブドウの売上は、18～22%増加したと報告されている。

一方、SATIとフレッシュ・フルーツ-X社が開始した販促活動は、4月1日から4月14日まで実施され、スーパーマーケットチェーン「バック・ホア・サン」の25店舗を網羅し、1日平均1万人の消費者に訴えた。この販促活動で力を入れた主な品種は、スイートグローブとオータムクリスプであった。商品の展示や無料の試食会などの販促活動を通じて、南アフリカ産生食用ブドウと消費者の関りが強化され、消費者の需要が高まった。

この販促活動のデータによると、南アフリカ産生食用ブドウの1店舗1日当たりの販売量は、前年同期比で150%増と、大幅に増加した。参加店舗の総販売量は5.32トンに達した。全体として、全参加店舗の小売販売額は前年比25%増となった。

店頭で消費者を対象に実施された調査によると、輸入生食用ブドウの購入を検討する際、ベトナムの消費者の半数以上が、手頃な価格、優れた品質及びベトナムの旧正月の時期(1月下旬～2月中旬頃)の入手し易さから南アフリカ産のブドウを好み、また、このことが南アフリカ産ブドウを家族への理想的な贈り物にしている。

南アフリカは世界第4位の生食用ブドウ輸出国であり、南半球の生産国ではチリとペルーに次いでいる。南アフリカは125年にわたるブドウの輸出の歴史を誇り、2022/23年度シーズンの総輸出量は31万7,382トンであった。同国では多様な気候や地理的条件により北から南まで全国でブドウ栽培がしやすく、栽培面積は約2万ヘクタールに及び、その地理的広がりにより、11月～5月の長い期間の供給が可能になっている。

アジア市場は近年最もダイナミックな市場の一つとして浮上しており、世界中の輸出業者にとっての魅力が着実に高まっている。南アフリカ産ブドウの出荷シーズンはアジア諸国とは逆で、アフリカとアジアを結ぶ輸送ルートの増加により、アジアでより大きな市場シェアを獲得することがSATIの戦略的焦点となっている。

長年にわたる中国でのマーケティング活動は成果を上げており、ベトナムでの販促活動も小規模ではあるものの、市場から好評を得ている。今後、南アフリカ産生食用ブドウ部門は、より多くのアジアの消費者に同国の味の良いブドウを好んでもらうことを目標に、アジア市場への継続的な拡大を目指している。

執筆者: ジン・ザン

この記事(英文)は[中国語の記事](#)から翻訳されたものです。

59. カナダ ブリティッシュコロンビア州のリンゴは増収の可能性

FreshPlaza 2024年5月10日

早期の報告では、ブリティッシュコロンビア州は今シーズン、リンゴが増収の可能性

ブリティッシュコロンビア州では、昨冬の寒波が州のサクランボと核果類の生産に影響を与えているが、リンゴは今秋の2024年の収穫に向けて無事なようだ。スター青果物会社の梱包出荷部門であるコンソリデイテッド・フルーツ・パッカー（CFP）社の営業担当シニアディレクターであるゴード・モリソン氏は、「南部では開花が少し早かった。ブリティッシュコロンビア州の一部の地域では、春の霜害を受けた地域もあった。しかし、この被害は特定の地域に限定されており、我々は今後のリンゴの作柄について非常に楽観的である」と言い、特定の地域では20～30%の霜害が見られたと指摘しつつ、「しかし、オカナガンバレー地域全体ではそうではない」と述べた。（以下「」は同氏の発言）

リンゴの花芽が春に成長すると低温への耐性を失うが、オカナガン地域南部では開花の最中に夜間の降霜に遭遇した。一方、北部には1つか2つの局地的に寒くなる地区があるが、花芽はそれほど成長していなかった。「オカナガン地域のリンゴの大部分が栽培されている北部では、大きな被害はまったく見られない。」全体として、まだシーズンの序盤であるが、一部のハニークリスピの園地では着果が少なく見えるため、CFP社の取扱量は昨シーズンに比べてわずかに減少する可能性がある。

振り返ってみると、昨年オカナガン地域では早い時期に暖かい気候が続き、一斉開花となってリンゴの開花時期が短くなった。「今年は気温がずっと好ましいので、花の状態がかなり良い。開花期間が長くなると、受粉も良くなる。昨年は、すべてが一気に進み、受粉の期間が短かった。」

細胞分裂の状況

開花と着果に続いて今起こっていることは細胞分裂への移行で、この段階で天候が良いと果実の細胞も増える。「これは果実の大きさと相関関係にあるので、今起きていることからすると、今年は果実の大きさが良くなると考えている。」

一方、CFP社は、ブリティッシュコロンビア州におけるリンゴの全体的な品質と生産量を改善するというマクロな目標を維持しており、これには高品質な果実を栽培するための新しい農法と技術の採用が含まれる。また、果樹栽培者の取り組みをサポートする現場指導の専門家もおり、モリソン氏は、生産者の収益の改善が重要であると述べている。同氏は、「果樹園や技術、農法に投資するには、前向きな姿勢をとる必要がある」と言い、それらの投資は、より少ない労働力でより大きな収量を生み出す新品種などに対して行われると指摘する。一方、カナダの小売業者にも、業界を支援し、地元のリンゴ品種が入手可能であればそれを消費者に提供することに注力する姿勢が感じられる。

この投資の対象には、ブリティッシュコロンビア州が近年特に取り組んでいるヒートドーム現象と急激な気温変化など、生産者が進行中の気候変動に対処するのに役立つ技術も含まれる。「我々は、気候変動によって引き起こされる将来の環境ストレスに適応し、生産者が栽培方法を変更するのを支援する必要がある。」モリソン氏は、これには気候変動に強い台木を植えることが含まれるかも知れないと指摘している。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

60. ニュージーランド産リンゴは特に大玉の需要が高い

[FreshPlaza 2024年5月13日](#)

ニュージーランドのリンゴの収穫は、開始は遅かったものの、3月からは上向き、その後本格化した。サイズ分布が小玉に寄っているため、ほとんどの品種で推定出荷量がわずかに減少しているようである。

ファーンリッジ青果会社のカート・リビングストン氏は、「ホークスベイ地方とネルソン地方の両方で収穫期全体を通して例外的に良い天候が続いている。記録的に雨の多いシーズンが2年続いた後、収穫期が暑くて乾燥しているのは素晴らしいことであった。ただし、果樹はこの時期に水を必要としているので、今、多少の雨が降るのも良いことだ」と述べている。(以下「」は同氏の発言)

「弊社が提携している生産者達は今シーズンの収穫を終了した。これは重要な節目である。最後に収穫された品種はピンクレディーで、現在、輸出用に梱包されている。今年のピンクレディーの色と糖度は見事である。生育期が暑くて乾燥していたため、ほとんどの品種で果実のサイズが小さくなっているが、糖度と全体的な食味は素晴らしい。」

同氏によると、今年のアジア市場は興味深いものであった。「ベトナムは、昨年のリンゴの供給過剰による持ち越し在庫のため、ゆっくりとスタートを切ったようであった。その後、ハノイでは高級品種、特に大玉のリンゴで持ち直した。一方、台湾では米国産リンゴの供給が過剰なため、ニュージーランド産の販売は厳しいスタートとなった。ふじ品種には価格押し下げ圧力があり、荷動きは通常よりも鈍い。」

「中国市場では、これまでニュージーランド産リンゴの価格が乱高下している。早い時期のロイヤルガラには価格押し下げ圧力がああったが、現在は市場が持ち直し、荷動きは堅調である。ニュージーランド産ガラの中国向け総出荷量はまだ少ないため、引き合いは維持され、出荷シーズンの残りの期間にはむしろ増える予想している。価値の高い品種では、特に中玉で、荷動きと在庫の回転が鈍いようである。

ニュージーランド産のほとんどの品種でサイズ分布が小玉に寄っているということは、より大きい玉は不足しているということであり、これらは荷動きが早く、良い値が付いている。今年の中国で最も重要なことは、市場が引き続き自信を持って我々のブランドと品種を買い付けるように、品質の良いものを提供することである。」

「米国産の在庫の持ち越しは、特に台湾で我々のリンゴの需要に影響を与えている。また、南アフリカ産のリンゴはほとんどの市場で人気のある選択肢であり、アジアで市場シェアを伸ばしているようだ。

弊社は今年、コル(KORU®)リンゴのブランド戦略を見直し、最近最初のコンテナがベトナムに到着するとすぐに売り切れた。「特に大きなサイズは需要が高く、人気がある。今年はKORU®の色と食味が素晴らしいので、新しいブランド戦略を立ち上げるのには良い年である。」

執筆者: ニコラ・マクレガー

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

61. チリの落葉果実事情(ブドウ、リンゴ)

米国農務省GAINレポート 2024年5月13日

これは米国農務省海外農業局サンチャゴ事務所(チリ)が作成した「落葉果実半期報告書」の要旨及びブドウとリンゴの項(ナシは生産需給統計表のみ)を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

2023/24販売年度(以下「年度」)には、冬の早い時期に平年よりも気温が高く、低温時間の積算がゆっくりと進んだため、大部分の落葉果実の収穫が遅れ、その結果として輸出向けの出荷も遅れた。しかし、出荷シーズンが進めば、出荷量と輸出量は回復すると見られる。当事務所は、2023/24年度のブドウの生産量と輸出量は、栽培面積の減少によりいずれも3.3%減のそれぞれ63万トン及び48万トンと予測する。同じ年度のリンゴの生産量は2022/23年度比1.1%減の86万トン、輸出量は1.3%減の46万3千トンと予測する。ナシの栽培面積は4.8%減少し、出荷量は20万トンと見込まれる。その結果、ナシの輸出量は4.7%減の10万トンと推定する。

<生食用ブドウ>

表1 チリの生食用ブドウの生産需給統計

生食用ブドウ(生鮮) 販売年度の始まり チリ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	43,104	43,104	43,025	43,025	42,500	39,931
収穫面積(ヘクタール)	43,000	43,000	42,000	42,000	41,500	39,500
商業的生産量(トン)	788,110	788,110	651,500	651,500	740,000	630,000
非商業的生産量(トン)	5,000	5,000	4,800	4,800	4,800	5,000
生産量合計(トン)	793,110	793,110	656,300	656,300	744,800	635,000
輸入量(トン)	800	900	700	700	900	1,000
総供給量(トン)	793,910	794,010	657,000	657,000	745,700	636,000
生鮮国内消費量(トン)	185,710	185,816	160,000	160,679	180,700	156,000
輸出量(トン)	608,200	608,194	497,000	496,321	565,000	480,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	793,910	794,010	657,000	657,000	745,700	636,000

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から検索できる。

出典: 当事務所推計

生産

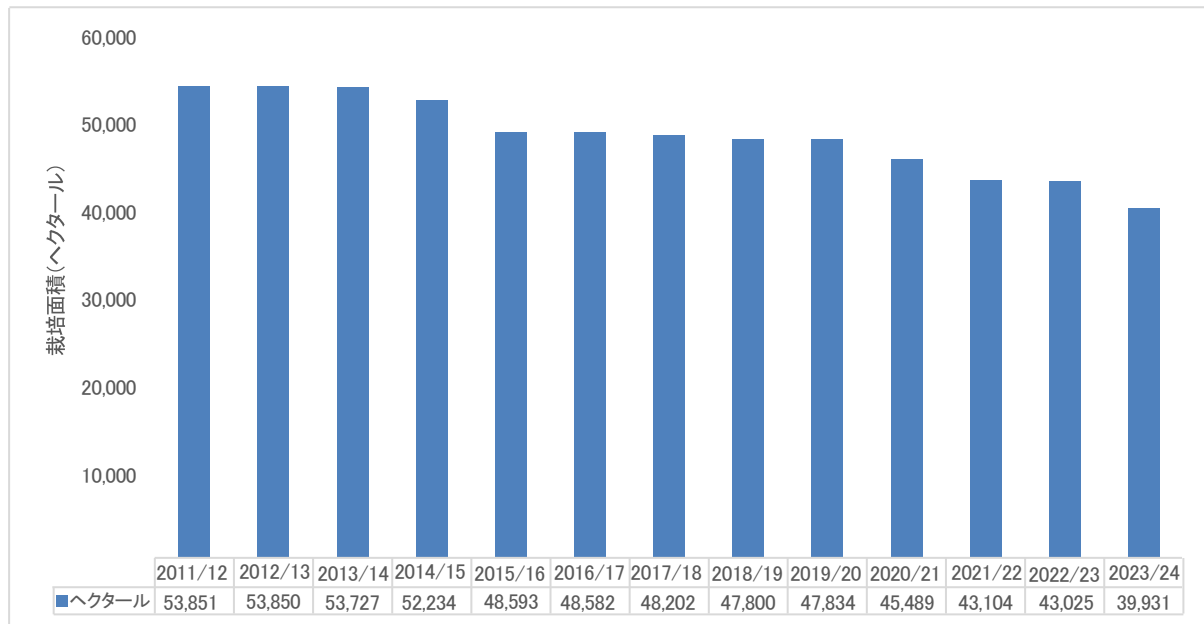
当事務所は、2023/24年度の生食用ブドウの生産量は、栽培面積の減少により3.3%減の63万トンと予測する(表1)。2023/24年度の冬には平年よりも気温が高く、低温時間の積算がゆっくりと進んだため、収穫が遅れ、その結果、輸出向けの出荷が遅れた。しかし、出荷シーズンが進めば、出荷量と輸出量は通常の水準に達すると見られる。

生食用ブドウの栽培面積は、収益性の低さから10年以上にわたって減少している。他の輸出国との競争や、クリムゾン、フレイム、レッドグローブ等の従来からの品種の価格の低迷により、小規模な生食用ブドウの輸出業者らは市場からの撤退を余儀なくされている。栽培面積は、2011/12年度の5万3,851ヘクタールから2023/24年度には3万9,931ヘクタールに減少した(図1)。

チリ農業省研究政策局(ODEPA)のデータによると、チリ全土のすべての生食用ブドウ産地で栽培面積が減少した(表2)。アタカマ州北部地域では、価格の低さと生産コスト(人件費、輸送費、肥料農薬費)の高騰により、栽培面積の減少が特に顕著である。アタカマ州産のブドウは、米国市場でペルー産のブドウと激しい競争に直面しており、価格には下押し圧力がかかっている。全国的に見ると、ブドウ園の更新には生産者によるまとまった投資が必要であるため、新品種への需要は利益率をさらに厳しくしている。

メロポリターナ州(首都州)の生食用ブドウの栽培面積は、過去3年間で22.5%減少した。この地域では、生食用ブドウの栽培面積は、クルミ、サクランボ、柑橘類等のより収益性の高い作物に置き換えられるか、都市の拡大に飲み込まれた。

図1 生食用ブドウの栽培面積(ヘクタール)



出典: ODEPA, 2024

表2 生食用ブドウの州別栽培面積 2023/24 年度 単位: ヘクタール

地 域	栽培面積(ha)	増減率*	シェア
アタカマ州	5,987	-12.4%	15.0%
コキンボ州	7,321	-10.3%	18.3%
バルパライソ州	8,413	-15.6%	21.1%
首都州	5,310	-22.5%	13.3%
オイギンス州	12,736	-5.2%	31.9%
マウレ州	163	-32.3%	0.4%
その他	1		
合 計	39,931	-12.2%	100.0%

*増減率は、3年ごとに計測される。上記のデータは入手可能な直近のものである。

出典：農業省農業研究政策局(ODEPA)の2024年のデータに基づく

政策

チリは、3つの産地(アタカマ州、コキンボ州、バルパライソ州)から米国市場へのアクセスを改善するため、システムアプローチの採用を求めている。システムアプローチは、ヨーロッパブドウ蛾(仮称、ハマキガ科の *Lobesia botrana*)に対する臭化メチル燻蒸の使用を回避することにより、これら3つの地域に利益をもたらす。米国農務省は、2022年10月17日にブドウのシステムアプローチを許可する規則案を公表した。コメント期間は2023年1月17日に終了し、最終規則の公表は現在保留中である。

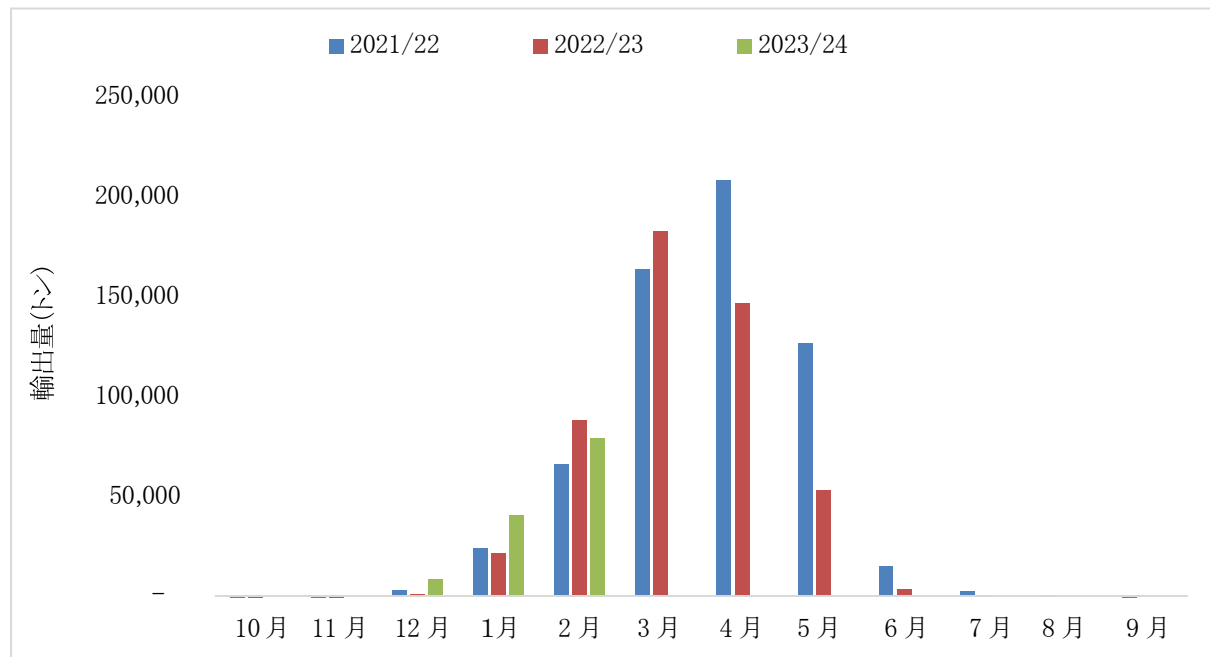
消費

生食用ブドウの生産量の減少を受けて、当事務所は2023/24年度の生食用ブドウの生鮮国内消費量を2.9%減の15万6千トンと推定する。この消費量は商業的生産量の24.8%に相当し、その大部分が硬さやサイズなどの点で輸出向けの品質条件を満たしていない生食用ブドウである。

貿易

当事務所は2023/24年度の輸出量を、生食用ブドウ生産量の減少により3.3%減の合計48万トンと推定する。2023/24年度の3月までの生食用ブドウの輸出量は、生産量の減少と輸出の遅れにより、前年度に比べて12.4%減少した(図2)。

図2 月別生食用ブドウ輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

チリ産生食用ブドウ輸出の主要市場は、米国、中国、オランダ、英国である。2022/23年度の米国向けの生食用ブドウ輸出量は24万9,782トンで、チリの生食用ブドウ輸出の53.2%を占めた(表3)。チリの生食用ブドウ輸出業者らは米国市場で、生食用ブドウの新しい品種の需要の拡大とペルー産生食用ブドウとの競争の激化により課題に直面している。

中国はチリ産生食用ブドウの2番目に大きな市場であり、2022/23年度の輸出量は5万6,928トンで、チリのブドウ輸出量全体の11.5%を占めた。2023/24年度(3月までのデータ)には、生産量の減少と輸出の遅れにより、チリの対中輸出は40.2%減少した。

表3 チリの生食用ブドウ輸出量(トン)

チリから世界への輸出量						
品目: 080610 ブドウ(生鮮)						
輸出先国	販売年度			年度初めから3月まで		
	2021/22	2022/23	変動率	2022年10月 ～2023年3月	2023年10月 ～2024年3月	変動率
世界合計	608,194	496,321	-18.4%	292,905	256,547	-12.4%
米国	310,058	249,782	-19.4%	193,409	184,747	-4.5%
中国	77,627	56,928	-26.7%	23,582	14,109	-40.2%
オランダ	45,196	31,076	-31.2%	8,806	4,883	-44.5%
英国	23,789	21,676	-8.9%	5,848	4,616	-21.1%
韓国	17,952	16,491	-8.1%	11,037	5,076	-54.0%
日本	14,118	13,457	-4.7%	10,730	7,771	-27.6%
スペイン	10,536	12,282	16.6%	4,458	2,744	-38.4%
メキシコ	11,239	11,344	0.9%	6,543	8,340	27.5%
カナダ	9,600	10,089	5.1%	5,001	5,718	14.3%
エクアドル	9,654	8,537	-11.6%	3,014	3,776	25.3%
ロシア	4,274	6,638	55.3%	2,411	1,603	-33.5%
ブラジル	6,551	6,031	-7.9%	2,499	1,619	-35.2%
ドイツ	5,641	4,608	-18.3%	1,482	624	-57.9%
ポルトガル	4,694	3,358	-28.5%	946	777	-17.9%
コロンビア	4,426	3,352	-24.3%	1,224	1,234	0.8%
その他	52,839	40,672	-23.0%	11,915	8,910	-25.2%

出典: Trade Data Monitor, LLC

<リンゴ>

表4 チリのリンゴの生産需給統計

リンゴ(生鮮) 販売年度の始まり チリ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022 年 1 月		2023 年 1 月		2024 年 1 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	30,967	30,967	29,035	29,035	28,000	29,006
収穫面積(ヘクタール)	30,000	30,000	28,500	28,500	27,500	28,500
結果樹本数(千本)	33,000	33,000	32,500	32,500	30,000	32,500
未結果樹本数(千本)	2,300	2,300	2,250	2,250	2,000	2,000
果樹本数合計(千本)	35,300	35,300	34,750	34,750	32,000	34,500
商業的生産量(トン)	1,030,000	1,030,000	910,000	870,000	897,000	860,000
非商業的生産量(トン)	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
生産量合計(トン)	1,040,000	1,040,000	920,000	880,000	907,000	870,000
輸入量(トン)	3,600	3,600	3,000	3,000	3,000	3,000
総供給量(トン)	1,043,600	1,043,600	923,000	883,000	910,000	873,000
国内消費量(トン)	441,000	441,000	433,000	413,696	430,000	410,000
輸出量(トン)	602,600	602,600	490,000	469,304	480,000	463,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	1,043,600	1,043,600	923,000	883,000	910,000	873,000

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から検索できる。

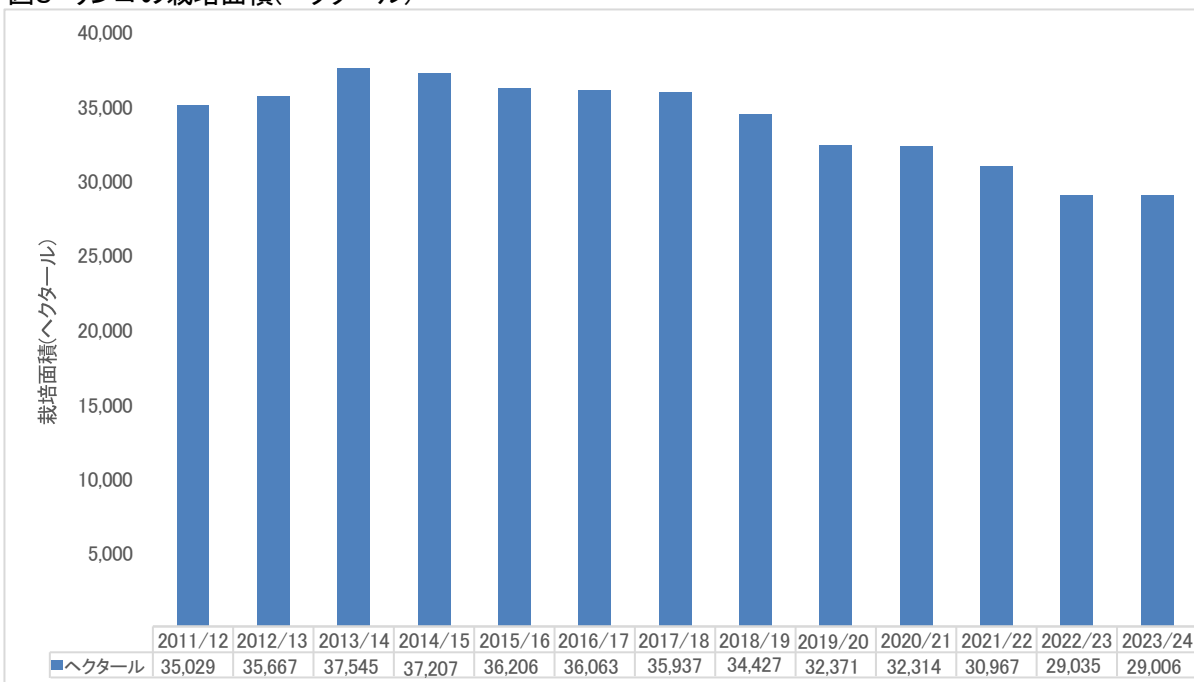
出典: 当事務所推計

生産

当事務所は、2023/24年度のリンゴ生産量を、2022/23年度から1.1%減となる86万トンと推定する(表4)。2023/24年度は、冬の低温積算時間が少なかったため、リンゴの収穫が約15日遅れた。生産量の減少は、平年並みの収量と、過去10年間の減少傾向を踏襲して栽培面積が2万9,006ヘクタールに減少することを前提としている(図3)。

ODEPAの最新データによると、チリのリンゴ産地全体で栽培面積が減少している(表5)。国の中南部のマウレ州とオイギンス州は、それぞれ全国の栽培面積の62.4%及び22.0%、合わせて84.4%を占めている。しかし、新しい品種やサクランボ、クルミ等の他の作物と比較して収益性が低い古い品種の果樹園を持つ生産者が多いため、両州とも栽培面積が減少している。

図3 リンゴの栽培面積(ヘクタール)



出典: ODEPA, 2024

表5 リンゴの州別栽培面積 2023/24 年度 単位: ヘクタール

地 域	栽培面積(ha)	増減率*	シェア
バルパライソ州	140	-2.7%	0.5%
首都州	58	-30.1%	0.3%
オイギンス州	6,388	-17.4%	22.0%
マウレ州	18,110	-4.2%	62.4%
ニュブレ州	860	-14.3%	3.0%
ビオビオ州	584	-6.3%	2.0%
ラ・アラウカニア州	2,834	-7.4%	9.8%
その他	32		0.1%
合 計	29,006	10.2%	100.0%

*増減率は、3年ごとに計測される。上記のデータは入手可能な直近のものである。

出典：農業省農業研究政策局(ODEPA)の2024年のデータに基づく

政策

新たな政策の進展は報告されていない。

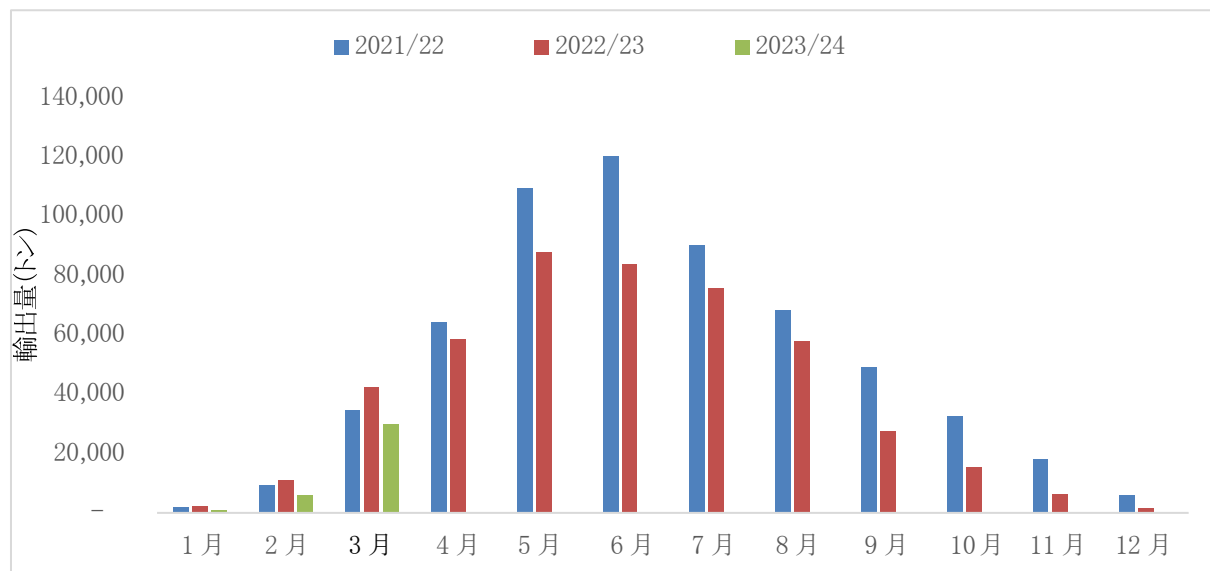
消費

当事務所は、2023/24年度のリンゴの国内消費量(生鮮及び加工用)を、国内生産量の減少に伴い2.6%減の合計41万トンと推定する。この消費量は、商業的なリンゴ生産量の47.7%に相当する。

貿易

当事務所は、2023/24年度のチリのリンゴ輸出量を、生産量の減少に伴い2022/23年度比1.3%減の46万3千トンと推定する。チリの2023/24年度3月までのリンゴ輸出量は、2022/23年度に比べて34.3%減の3万6,545トンであった。しかし、当事務所は、遅れている収穫が進むにつれて、輸出水準はシーズン後半に正常化すると推測する(図4)。

図4 月別リンゴ輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

コロンビアはチリ産リンゴの最大の市場である。チリは2022/23年度に6万4,847トンのリンゴをコロンビアに輸出し、これはチリのリンゴ輸出量の13.8%を占めた(表6)。ブラジル及び米国はチリ産リンゴの第2位及び第3位の輸出先で、チリのリンゴ輸出に占める割合はそれぞれ11.2%及び9.9%であった。

表6 チリのリンゴ輸出量(トン)

チリから世界への輸出量						
品目:080810, リンゴ(生鮮)						
輸出先国	販売年度			1月から3月まで		
	2021/22	2022/23	変動率	2023 年	2024 年	変動率
世界	602,581	469,304	-22.1%	55,590	36,545	-34.3%
コロンビア	85,899	64,847	-24.5%	16,671	12,545	-24.7%
ブラジル	65,193	52,724	-19.1%	3,758	2,760	-26.6%
米国	52,669	46,360	-12.0%	1,415	171	-87.9%
エクアドル	47,169	38,357	-18.7%	8,267	6,671	-19.3%
ペルー	39,013	37,207	-4.6%	4,162	2,896	-30.4%
台湾	29,432	23,567	-19.9%	0	0	
サウジアラビア	23,848	21,256	-10.9%	4,053	3237	-20.1%
オランダ	33,819	19,171	-43.3%	1778	870	-51.1%
インド	35,003	16,483	-52.9%	520	703	35.2%
ドイツ	19,903	14,197	-28.7%	635	59	-90.7%
ボリビア	15,992	12,366	-22.7%	2,305	1,492	-35.3%
フランス	12,693	11,970	-5.7%	48	0	-100.0%
カナダ	10,015	10,906	8.9%	581	34	-94.1%
グアテマラ	16,427	10,727	-34.7%	1,637	1071	-34.6%
英国	18,770	9,580	-49.0%	242	105	-56.6%
その他	96,736	79,586	-17.7%	9,518	3,931	-58.7%

出典: Trade Data Monitor, LLC

<ナシ>

表7 チリのナシの生産需給統計

ナシ(生鮮) 販売年度の始まり チリ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022 年 1 月		2023 年 1 月		2024 年 1 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	6,165	6,165	5,878	5,878	5,750	5,791
収穫面積(ヘクタール)	6,000	6,000	5,800	5,800	5,700	5,700
結果樹本数(千本)	6,200	6,200	5,950	5,950	5,800	5,800
未結果樹本数(千本)	900	900	1,000	1,000	1,000	1,000
果樹本数合計(千本)	7,100	7,100	6,950	6,950	6,800	6,800
商業的生産量(トン)	220,659	220,659	210,000	210,000	200,000	200,000
非商業的生産量(トン)	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
生産量合計(トン)	222,659	222,659	212,000	212,000	202,000	202,000
輸入量(トン)	900	900	800	700	700	700
総供給量(トン)	223,559	223,559	212,800	212,700	202,700	202,700
国内消費量(トン)	107,859	107,859	102,800	107,787	97,700	102,700
輸出量(トン)	115,700	115,700	110,000	104,913	105,000	100,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	223,559	223,559	212,800	212,700	202,700	202,700

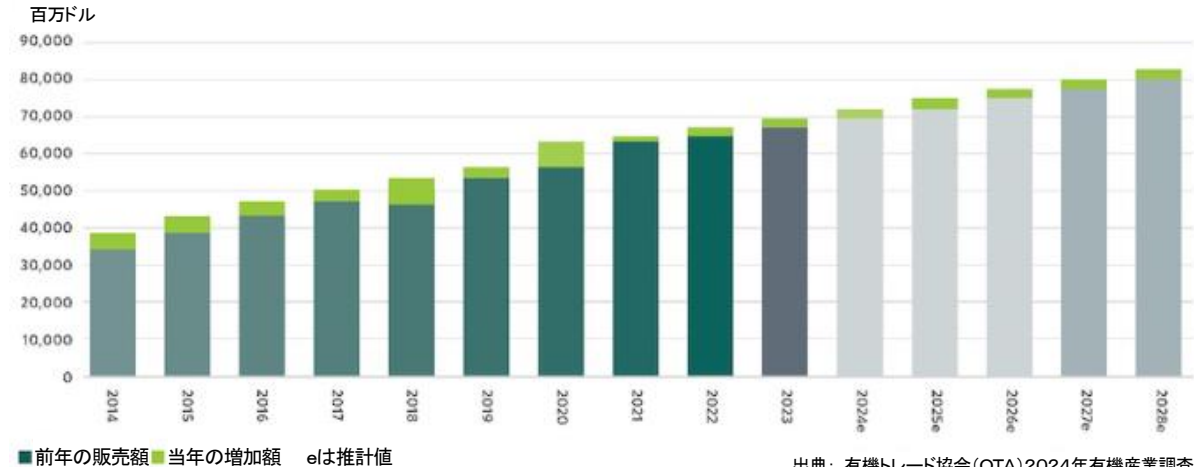
公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から検索できる。

出典: 当事務所推計

62. 米国の有機セクター 2023年に記録的な販売額を計上

Produce Market Guide 2024年5月14日

米国の有機販売額及びその成長 2014～2028e



出典：有機トレード協会(OTA)2024年有機産業調査

有機トレード協会(OTA)の新しい調査によると、2023年の有機認証製品の販売額は再び記録を更新した(図提供：OTA)

有機トレード協会(OTA)の新しい調査によると、2023年の米国の有機認証製品の販売額は700億ドルに近づき、この分野の新記録となった。

OTAの2024年有機産業調査によると、米国の2023年の有機市場の販売額は697億ドルに達し、2022年と比較して3.4%増加した。2023年の有機食品の販売額は638億ドル、食品以外の有機製品の販売額は59億ドルであった。

OTAの調査は、2023年の有機生鮮果実・野菜の販売額が2.6%増加し205億ドルに達したとしている。同調査によると、有機食品の販売額の最大の構成要素である有機青果物は、現在、米国の果実・野菜の販売額の15%以上を占めている。

ニュースリリースによると、有機農産物部門で最も売れたのはアボカド、ベリー類、リンゴ、ニンジン、パック入りサラダで、有機バナナの2023年の伸び率は非有機のバナナよりも大きかった。

OTAの共同CEOであるトム・チャップマン氏はリリースで、「有機農産物が市場全体と基本的に同じ速度で成長しているのを見るのは勇気づけられることである。インフレに直面し、有機がすでに高級品の部類であると見なされていることを考えると、現在の成長は、消費者が経済的困難と価格上昇の中で有機製品を選択し続けていることを示している。有機は現在、市場で成熟しつつある分野だが、まだ成長の余地は十分にある」と述べている。

同じくOTAの共同CEOであるマシュー・ディロン氏は、有機製品の販売額の継続的な成長は、消費者教育にかかっている部分もあると言う。

同氏はリリースで、「健康的な食品へのアクセス、サプライチェーンの透明性の向上、気候変動の緩和、農村経済の回復力への支援、天然資源の保護、その他多くの利益を実現し、これらの約束を効果的に伝え、実現するかどうか、我々の食卓における有機製品のシェアを拡大するための鍵である」と述べている。

リリースによると、2023年の有機市場における販売額の増加は、販売数量の増加よりも価格の上昇によるものである。今年の調査で追跡した商品の最大40%で、販売数量の増加が報告された。

また、この調査では、多くの非有機製品の価格が有機製品よりも速いペースで上昇していることも示された。

慣行栽培の食品と有機食品の差は縮まりつつあり、OTAはこのことが2024年の有機食品の成長を促進するはずだとしている。

OTAによると、2023年も相変わらず小売店の通路の能書きや表示の数は増えたが、有機認証シールは消費者にとって際立った存在であった。

個人や家族の健康、持続可能性、及び添加物(抗生物質、ホルモン剤、防腐剤、着色料)を含まないクリーンな商品への消費者の関心の高まりにより、消費者は有機産品に目を向けるようになった。

リリースによると、有機食品に関連する潜在的な健康上の利点を認識する消費者が増えており、多くの消費者、特にZ世代は、食品の選択における倫理的な関わりをますます意識し、動物福祉、フェアトレード、有機生産者への支援など、自らの価値観に沿った商品を探している。

OTAによると、ミレニアル世代とZ世代の有機への関心が一貫して高まっていることを調査結果は示している。

OTAはリリースで「これらの世代は有機や持続可能性の概念とともに育ち、これらの消費者にとって、人々の健康と地球の健康は最優先事項である」としている。

リリースによると、業界の専門家らは、有機産品の分野は現在及び将来の世代の消費者が求める商品の属性と価値を満たすのに適した立場にあるとして、これをチャンスと捉えている。2030年までに、米国の人口はミレニアル世代、Z世代、及びそれより若い世代によって牽引される層が過半数を占めるようになる。

しかし、有機は課題に直面している、とリリースは記している。

OTAは「市場に混乱をもたらしている最新の用語は『リジェネラティブ』(regenerative 再生的)である。このラベルはまだ、消費者にとって必ずしも最優先事項ではないが、それが表すと主張している事柄には、土壌の健康、動物と人間の福祉、生物多様性などの属性が含まれ、それらは米国農務省の有機シールによってすでに具現化されている。環境再生型農業に関する新しい認証が発達するにつれて、消費者の混乱が懸念され、有機教育を向上させることがますます重要になっている」としている。

執筆者：トム・カースト

63. ブラジル 病気と気候変動によりオレンジ生産量が激減

[EUROFRUIT 2024年5月15日](#)

ブラジルのオレンジ生産者らは、気候変動の影響とカンキツグリーニング病に取り組む中、2024/25年度の収穫量がこの36年間で最低になりそうなことに備えている。

研究センターのFundecitrus(柑橘類栽培防衛基金)及びオレンジ果汁輸出業者協会CitrusBRによると、2つの主要なオレンジ産地であるサンパウロ州とミナスジェライス州では今年、前シーズンに比べて24.36%減となる2億3,238万箱(40.8kg/箱)を収穫する見込みだ。これは、生産量が2億1,400万箱であった1988/89年度以来の低水準となる。

ブラジルは世界最大のオレンジ果汁の生産・輸出国であり、世界の全輸出額の4分の3を占めている。4年連続の不作の後、世界の在庫量は歴史的な低水準となり、昨年は過去最高の価格を記録した。

Fundecitrusの代表者であるジュリアノ・アイレス氏のコメント: 数字に驚いている。気候変動は、業界に大きな影響を与えている。また、柑橘類の生産が競争力を維持するためには、カンキツグリーニング病に打ち勝たなければならない、我々はそれをやり遂げる。

執筆者: マウラ・マクスウェル

64. イタリア リンゴをCAコンテナでインドに試験出荷(2)

[FreshPlaza 2024年5月15日](#)

レッドデリシャス品種のリンゴをCAコンテナでインドに出荷

物流イノベーションに関するメリンダ協同組合連合会の取り組みは止まらない。今回は、スエズ運河の問題で海上輸送が長引いても品質保持期間を保証できる輸送システムに着目している。

今回の輸送を担当した物流会社のタルマコ社の要請に応じて海運会社のハパックロイド社が提供したCA(Controlled Atmosphere)システム搭載のリーファーコンテナは、デンノ社の倉庫(テンノ村(南チロル地方))からレッドデリシャス品種のリンゴ22トンを出荷するために使用された。

ジェノヴァから出発したコンテナは喜望峰に向かった。6月20日頃にナバシェバ港(インド)に到着することとなっている。

温度を適正に管理するのを助けるために使用されるCAは、輸送中に多くの生鮮食品の高い品質と良好な状態を維持し、品質保持期間を延ばすのに大きく貢献することができる。

CAは、相対湿度と温度を調節し、酸素(O₂)の減少と二酸化炭素(CO₂)の増加によって果実の周囲の大気組成を通常の空気とは異なるものにすることを意味する。

メリンダの技術者らは、インドに到着した果実の品質を、従来型のリーファーコンテナを使用して輸送された別の荷の品質と比較する。品質がより良いことが確認されれば、紅海の危機が続き、船舶が中東や極東に到達するためにより長い距離の航海を強いられる場合、次のシーズンにこの技術が大規模に使用される可能性がある。

65. 北米のブルーベリー 品質が高く需給は旺盛

FreshPlaza 2024年5月15日

「ブルーベリーの高い需要は、旺盛な供給と優れた品質によって推進されている」

南米産からの円滑な移行により、ブルーベリーの中心は北米産に切り替わった。グルメ商会(カナダの食品輸入商社)のルチアーノ・フィスマン氏は「産地間の移行時に供給の切れ目はなく、メキシコとフロリダ州の戦略的パートナーのおかげで、業務上及び商業上の問題なく移行することができた。既存の顧客との関係を維持・継続し、シーズン序盤の力強さにより一層強化することができた」と述べている。

今のところ、限られた量の有機栽培と慣行栽培の果実がメキシコから持ち込まれているが、米国市場で出回っているブルーベリーの大部分は国内産である。同氏は「東部では、フロリダ州の出荷シーズンが終わり、今はジョージア州で最盛期が続く中、今週はノースカロライナ州でも収穫が始まった」と言う。

西部では、グルメ社のカリフォルニア農場で10日前に収穫が始まり、来週末までに収穫量が増加する見込みである。同社のカリフォルニア州のブルーベリー農場は、サンホアキンバレーのデラノ市にある。この地域は夏の暑さで知られており、6月の気温にもよるが、ブルーベリーの収穫はあと5週間続くと思われる。出荷量のピークは5月の後半になる見込みである。

受粉は良好 デラノ市にある同社の農場で生産部門の責任者を務めるミシェル・カーペンター氏は、今シーズンの果実の品質に大変喜んでおり、「果実のサイズは大きく、実が締まっており、極めて味が良い」と述べた。これはカリフォルニア州だけでなく、ジョージア州にも当てはまる。今シーズンは、西部と東部の両方の生産物が高い品質を示している。これは、すべての産地で経験した暖冬の結果かも知れない。同氏は、「ちょうど足りるだけの低温時間があつたが、生産を危険にさらすような遅い時期の低温はなかった。にわか雨が降ったが受粉は大変うまくいき、授粉者/媒介昆虫の働きにより着果が良好で、大玉の果実が得られた」と述べた。開花中も開花後も天候は最適であった。

魅力的な価格 品質が高いため、需要も旺盛である。同社のアドリアーナ・フォーチュン営業部長は、「良い果実があることは、需要を増やすのに確かに役立つ」と述べている。業界の中には一部の地域の出荷量の見通しに神経質な見方もあつたが、需要は旺盛で、出荷量との絶妙なバランスを保っている。旺盛な需要とすべての産地からの十分な供給により、魅力的な価格設定を実現している。同氏は、「ブルーベリーを買う消費者は良い買い物をしており、繰り返しの購入に繋がっている」と言う。

この好循環により、出荷量が多いにもかかわらず滞貨がないため、冷蔵倉庫は良い状態に保たれている。しかし、その反面、価格は生産者が望むような水準ではない。それは、出荷シーズンのこの時期としてはほぼ平均的であり、出荷の最盛期を前倒しするのに十分合理的な水準である。

フォーチュン氏は、ジョージア州など他の地域の出荷が減速し始めれば、数週間で価格が少し回復すると予想しており、「(少し前には)価格が高かったため、荷動きが鈍くなって問題になる可能性もあつた。しかし、価格は適切なタイミングで調整され、優れた品質と相まって、生鮮ブルーベリーに対する高い需要が維持されている」と語った。出荷量が多い場合の課題の1つは、梱包施設の処理能力である。同氏は、「農場が収穫できるだけの量を吸収し、果実を処理して市場に出すのに十分な梱包施設がない」と述べた。

同氏は「要するに、優れた品質こそが市場を維持する鍵であり、今年はそれが実現している」と述べた。出荷量は多いが、消費者は購入した果実の品質に満足し、繰り返し購入するために再び売り場を訪れている。

執筆者: マリーケ・ヘムズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

66. 米国 ベトナムとタイにおける農産物輸出機会(抜粋)

[米国農務省国際農産物貿易レポート 2024年5月15日](#)

要約

ベトナムは、コロナ禍からの回復と高いインフレ率への対処という課題にもかかわらず、消費者向け商品を輸出する豊富な機会を提供している。ベトナム経済は、今後数十年で大幅な拡大が見込まれている。人口の急増と中間層の増加により、ベトナムの消費者は食品の原産地と原材料についてより敏感になっている。安全で高品質な農産物の提供者として、米国の農産物輸出業者はベトナム市場での販売を強化するのに有利な立場にある。また、ベトナムには、小売業、観光業、食品加工業など、価値の高い米国産品を吸収できる成長分野があり、消費者は健康とウェルネスへの関心を高めている。同様の理由から、特に成長する中間層と強力な国内産業により、タイにも米国産消費者向け農産物のチャンスがある。

ベトナムのマクロ経済の展望

1億500万人の人口を抱えるベトナムは、世界で最も急速に経済成長している国の一つである。ベトナムの国内総生産(GDP)の実質成長率は、2022年に8.1%に達した後、2024年には6.0%で安定すると予想されている^{*1}。この成長は、サービス業及び工業部門の大幅な拡大と、コロナ禍後の観光業の継続的な回復によって支えられている。2023年の一人当たりGDPは4,284ドルで、2022年に比べて160ドル増加した。世界銀行によると、ベトナムの金利は国内の金融政策措置により安定している。ベトナムは地理的に東南アジアの戦略的位置にあり、影響力のある良好な地域関係を維持している。全体として、ベトナムは、中間層と若年人口が急速に増加し、消費者のグローバルな行動パターン、一人当たり所得の増加、及び主要セクター(小売、観光、食品加工等)の経済的拡大の影響を受けている活発な市場である。(*1: S&P世界市場情報)

ベトナムの農産物貿易の概要

ベトナムは2023年に、世界から320億ドル相当の農産物を輸入した。ベトナムがコロナ禍関連の貿易や旅行の停止から回復したため、輸入は過去3年間で増加した。2023年のベトナムへの農産物の上位供給国は中国、ブラジル、米国で、オーストラリア、インド、カンボジアがそれに続いた。過去30年間に、ベトナムは主要な貿易相手国との地域的及び二国間の自由貿易協定(FTA)をいくつか批准した。貿易相手国がFTAを締結していない場合、最恵国待遇が適用される。

米国のベトナムへの輸出機会

市場の全体的な成長予測と、高品質で安全な米国産品に対する強い嗜好により、米国の農産物には手堅いチャンスが存在する。米国は2023年に31億ドルの農産物をベトナムに輸出し、中国とブラジルに次ぐ3番目の農産物輸出国であった。上位の輸出品目は、飼料と製造業に関連するバルク商品であった。これらの産品は米国の輸出市場で大きなシェアを占めているが、多くの消費者向け商品も上位の輸出品の一つであり、エキサイティングな成長機会を示している。中間層が急速に増加し、米国の高品質産品が好まれているものの、ベトナムは価格に敏感な市場である。

価値の高い消費者向け産品の需要

ベトナムの消費者は、高品質で安全な産品を求めている。人口と中間層がともに増加を続ける中、米国の消費者向け産品の輸出業者はこの需要を満たす態勢がよく整っている。米国産品は、小売、ホテル、食品加工など、様々なレベルで販売されており、これらはすべてベトナムの成長産業である。2022年にベトナムの小売販売額は13%、ホテル・レストラン・施設内給食(HRI)市場は51%、食品加工・製造部門は9%成長した。ユーロモニター・インターナショナル社のデータによると、ベトナムのHRI部門は、レストラン、ベーカリー、カフェ及びバー、露店、ホテル、施設内給食等、33万以上の店舗で構成されている。消費者向けの米国産品は、ベトナムの食品加工部門でも原料としても使用されている。食品加工原料は、乳製品、その他の食用の牛製品、加工果実、ナッツ類、ピーナッツ及びジャガイモ等である。

生鮮果実(果実以外の個別の品目についての記述は省略)

ベトナム市場は、米国産生鮮果実の輸出拡大の大きな潜在的可能性を有している。2023年の米国のベトナム向け生鮮果実輸出額は1億500万ドルに達し(国内のインフレもあって2022年から13%減少)、主な品

目はリンゴ、サクランボ、ブドウであった。農務省は2023年2月に、他の米国政府機関と協力し、米国産グレープフルーツの市場参入を獲得するための取組みを行った。ベトナムは、リンゴ、サクランボ、ブドウ、ナシ、ブルーベリー、オレンジ、グレープフルーツの合計7品目の米国産生鮮果実の輸入を許可している。経済成長によってベトナムの消費者の購入可能価格が上昇し、彼らがより健康的な食生活を取り入れるにつれて、輸入果実はますます人気が高まると見られる。

タイにおける消費者向け米国産品の輸出機会

東南アジア諸国連合(ASEAN)でシンガポール、ブルネイ、マレーシアに次ぐ4番目に高い一人当たり所得を誇るタイにも、米国の消費者向け産品の輸出機会が多く存在する。人口は7千万人で、2022年には2.5%であった実質GDP成長率は2024年には3.0%と予測されており、中間層の拡大に伴い個人消費は増加すると予想されている。GDP成長率は2027年までに3.5%に達すると予測されている^{*2}。タイ経済が観光業に大きく依存しているため、コロナ禍後の回復は継続的な経済成長にとって極めて重要である。2022年の消費者物価上昇率の高い時期を経て、物価は安定しており、インフレ率は短期的には2%を下回る水準にとどまると予想されている。世界銀行によると、2022年の一人当たりGDPは6,910ドルで、2021年に比べて150ドル減少した。タイの強力な財政・金融政策により、同国への投資が増加している。その結果、タイの経済成長の見通しは有望である。(*2: S&P世界市場情報)

タイの農産物貿易の概要

タイは2023年に170億ドルの農産物を輸入し、その上位供給国はブラジル、中国、欧州連合であった。米国の輸出額は12億ドルで、タイへの農産物の供給国として第5位であった。タイへの米国の農産物輸出のトップは、飼料と製造業に関連するバルク商品であったが、消費者向けの米国産品にも大きな輸出機会がある。ベトナムと同様に、タイにも米国の農産物に依存する大規模な小売業、観光業、食品加工業がある。農務省海外農業局の「タイ輸出ガイド」([TH2022-0083](#))によると、タイの消費者の間では、利便性の高い加工食品や調理済み食品、健康食品、及びフードデリバリーの需要が高まっている。植物由来の産品や何かを含まない産品も人気が高まっている。過去20年間に、タイは主要な貿易相手国との地域的及び二国間のFTAをいくつか批准した。貿易相手国がFTAを締結していない場合、最恵国待遇が適用される。

成長の可能性のある品目 (果実以外の個別の品目についての記述は省略)

生鮮果実 米国は、タイへの生鮮果実の供給国として常にトップ5にランクされている。上位の輸出品目は生鮮リンゴとサクランボで、2023年にはどちらも増加した(金額ベースで35%及び83%)。生鮮果実の輸入はタイ通貨(バーツ)の変動に悩まされているが、輸入生鮮果実の需要は依然として堅調である。

結論

人口と経済の成長が見込まれるベトナムは、引き続き米国の農産物輸出にとって高い成長の可能性を有する市場であると見られる。ベトナムの消費者は高品質で安全で栄養価の高い産品を求める傾向が次第に強まっているため、消費者向けの産品には特に良い輸出機会がある。乳製品(チーズ、脱脂粉乳)、生鮮果実(リンゴ、サクランボ)、肉製品(牛肉、鶏肉)、加工品(調味料、ペットフード)、ナッツ類(ピスタチオ、アーモンド)はすべて、米国の輸出にとってエキサイティングな成長分野である。

また、タイは、人口と中間層の増加、健康的で栄養価の高い食品への嗜好の高まり、価値の高い米国産品を吸収できる強力なセクター等、多くのベトナムと同じ理由から、消費者向けのプレミアムな産品の輸出機会を提供している。

両国では、米国製ブランド商品に対する消費者の嗜好が強く、これはさらに高まっており、米国の農産物輸出業者らは、これらの市場でエキサイティングな展望を見出すことは確実である。

67. 米国 ワシントン州のサクランボは6月1日頃に収穫開始

[FreshPlaza 2024年5月16日](#)

今年の北米のサクランボの出荷は、ワシントン州が最後になる可能性が高い

ワシントン州のサクランボの生育は順調に進んでおり、収穫は6月1日頃に予定どおり始まると予想されている。非常に厳しい2023年のシーズンを経験した生産者と出荷業者は、今年の市況がかなり改善することを望んでいる。ワシントンフルーツグロワーズ社のダン・デイビス氏は、「サクランボは大変活気のある魅力的な商品であり、我々にとって希望の象徴なので、新しい季節に大変期待している」と話す。(以下「」は同氏の発言)

果粒のサイズは良い

今のところ、状況は前向きなようだ。生育条件は良好であった。ただし、ワシントン州北部の産地では早い時期の寒波の影響を受けた。その結果、州の北部では、隣接するブリティッシュコロンビア州(カナダ)と同様に、収穫量の減少が予想される。「弊社の契約生産者達は大体において降霜をかなりうまく乗り切った。総収穫量に関しては、一部の早生の品種についていくらかの懸念がある。とはいえ、今シーズンは、まだかなり良い収穫を見込んでいる。」シーズン初めの収穫量は少ないかも知れないが、今年の果粒のサイズは、州内のすべての品種と産地で良好であると予想される。

昨年は、カリフォルニア州の産地とワシントン州の産地の出荷が大幅に重なり、価格が下落し、ワシントン州の生産者にとって困難なシーズンとなった。「今年も重複があると聞いている」としつつ、生産者と出荷業者は、重複期間が短いことを望んでいる。今年の違いはまた、カリフォルニア州の晩生の産地のサクランボのサイズが小さくなると予想されていることである。「もしそうなら、(その時点で)ワシントン州には小売業者を満足させるのに十分な量と適当なサイズのサクランボがあると見込まれるので、ワシントン州産への移行をより整然と進めるのに役立つだろう。」

ブリティッシュコロンビア州からの出荷は非常に限られる

ワシントン州のサクランボは、6月の第2週から7月の第3週まで、約4～6週間が最盛期となる。「我々は小売業者に協力して、サクランボの最盛期の販売を促進するよう働きかけている。特に7月4日(独立記念日)前後の2週間が山場だ。」ワシントン州のサクランボの出荷が終了する頃までには、北米でのサクランボの出回り量は非常に限られると予想される。通常は、ブリティッシュコロンビア州がワシントン州に続き、8月下旬から9月上旬まで出荷が続く。しかし、ブリティッシュコロンビア州は1月に壊滅的な寒波に見舞われ、4月には再び低温に見舞われた。ブリティッシュコロンビア州サクランボ協会はこれを、この業界がこれまでに経験したどの気象現象よりも作物に影響を与えた異常気象だとしている。

ワシントンフルーツグロワーズ社のサクランボは、州の北部の産地とオレゴン州に近い南部の産地の2つの施設で梱包されている。「この2つの施設は、最盛期の出荷量にも対応できる設備が整っている。」同社のサクランボの約70～75%は国内市場にとどまり、残りの25～30%は世界中の様々な市場に輸出されている。米国以外ではアジアが中心的な市場であるが、ワシントン州産のサクランボはオーストラリアや中南米にも出荷されている。

執筆者: マリーケ・ヘムズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

68. トルコ サクランボのシーズンは過去2年よりもかなり良い予想

[FreshPlaza 2024年5月16日](#)

トルコの果実輸出業者デミルフレッシュフルーツ社のオーナーであるアルペル・ケリム氏は、トルコのサクランボのシーズンは、雨の日が少ないため、過去2年間よりもかなりうまくいっているようだと、「弊社では契約生産者達と話し合っており、この時期には特に連絡を密にしている。今の時期は、これからのサクランボの出荷シーズンについてしっかりと予測できる時である。今のところ、シーズンは順調に推移している。過去2シーズンは、天候の問題のために良くなかった。収穫期に雨降りの日が多過ぎ、サクランボの品質に影響が出た。今年は、サクランボのためには天候がはるかに良いと予想している」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

同社の主な取引先はアジアにいますが、拡大という点で、この輸出業者はヨーロッパに目を向けている。「サクランボはトルコで一番の産品であり、常に世界中で我々のサクランボの需要がある。今年は、一部の国でサクランボが不足しているため、例年に比べてトルコ産の需要が高くなると予想している。弊社としては、今年はヨーロッパ市場に力を入れる。ヨーロッパのスーパーマーケットの1つとすでにいくつかの契約を結んでいる。ヨーロッパへは大量に出荷することができ、輸送時間はサクランボに非常に適している。アジア諸国はもちろん依然として最大の買い手であり、インド、シンガポール、マレーシア、香港に大変信頼できる取引先があるので、これらの地域にもサクランボを出荷する。」

これまでのところ、トルコの天気は良好である。しかし、同氏は、まだ雨が降ってサクランボのシーズンを台無しにする可能性があるため、安心できないことを知っている。「現在のところすべてが順調のようだが、天候条件が依然として主要な課題である。サクランボは非常にデリケートであり、すべての条件が整う必要がある。つまり、サクランボを収穫する時期に雨が少ないことを願っているということだ。」

「今年はサクランボの梱包機に大規模な投資を行い、サクランボのシーズンに向けて準備が整った。最も人気が高く有名でトルコ産サクランボ品種である「ナポレオン」で最新の梱包施設の使用を開始する。光学スキャン梱包機は問題のある果粒を選別することができ、これは国内のライバルを追い越すのに役立つ。我々の目的は、世界最高のサクランボを弊社の『BonBon』ブランドの下で出荷することである。」(以下省略)

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

69. ニュージーランド産キウイ 輸送中のネズミ被害で100万箱以上廃棄

[FreshPlaza 2024年5月16日](#)

輸送中の船内でネズミの問題があったことが判明し、100万箱以上のニュージーランド産キウイフルーツが廃棄されることとなった。この問題は、ゼスプリがヨーロッパ向けに今シーズン最初の荷を送った際に検知された。果実を救う努力が行われ、パレットの54%が検査された。

ゼスプリは、ベルギーへの人員の派遣や外部の食品安全専門家への相談等の対応を行った。しかし、食品安全と風評被害にかかる潜在的なリスクのため、果実を一切販売しないとの決定に至った。ネズミに関連するリスクを完全に排除できないことに加えて、検査した果実を再度梱包することの難しさとそのための人手や経費の必要性も重要な要因であった。取引先の懸念が、この決定にさらに影響を与えた。

その結果、影響を受けた果実はバイオ燃料に転換されることとなり、廃棄費用と関連コストは3,400万ニュージーランドドル(約32億円)と見積もられている。ゼスプリは、保険会社及び輸送会社と引き続き連携していることを報告しており、補償額については請求手続き中である。

ニュージーランド・キウイフルーツ生産者協会の代表者は、生産者の失望を表明しつつも、この決定に同意し、発生頻度の低さと、本件に関するゼスプリの処理に対する業界の支持を強調した。生産者にとっての経済的影響は認識されており、保険や海運会社との交渉を通じてそれを緩和する努力が注目されている。

出典: [rnz.co.nz](https://www.rnz.co.nz)

70. 南アフリカの落葉果実事情(リンゴ、生食用ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2024年5月16日

これは米国農務省海外農業局プレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」のリンゴ及び生食用ブドウの項(一部省略)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

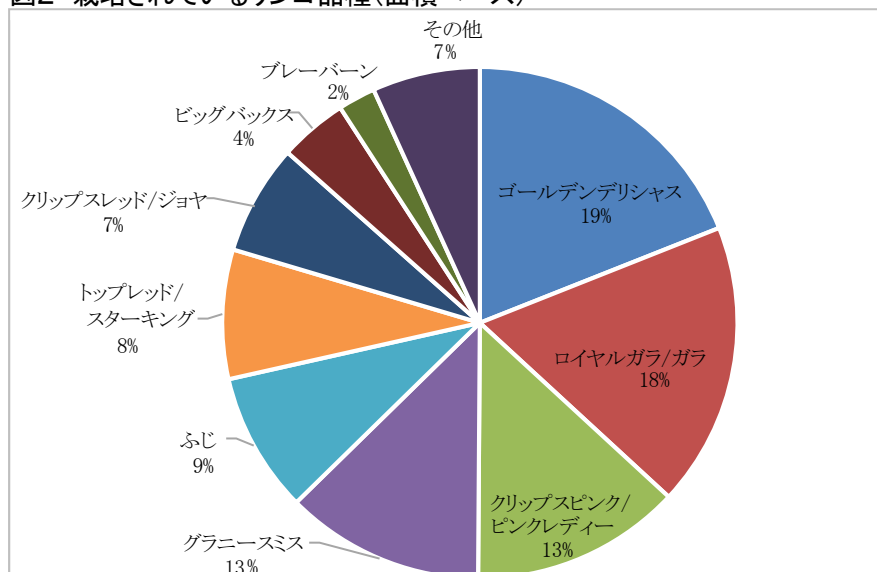
<リンゴ(生鮮)>

西ケープ州は南アフリカ最大のリンゴ産地であり、東ケープ州と合わせてリンゴ生産量の95%以上を占めている(図1)。より北方にはフリーステート州、ムプマランガ州及びリンポポ州を中心に、小さいながらも成長している産地が形成されている。南アフリカ産リンゴの収穫は通常1月から5月までで、2月から4月までの間に収穫のピークがある。CA貯蔵により、国内市場と国際市場の両方に一年を通じて出荷することができる。主に輸出市場で販売されるクラス1の果実は、通常約9カ月間CA貯蔵され、その後、それより短い期間(3カ月)普通の大気(RA)の貯蔵庫で保管される。

図1 南アフリカの落葉果樹産地



図2 栽培されているリンゴ品種(面積ベース)



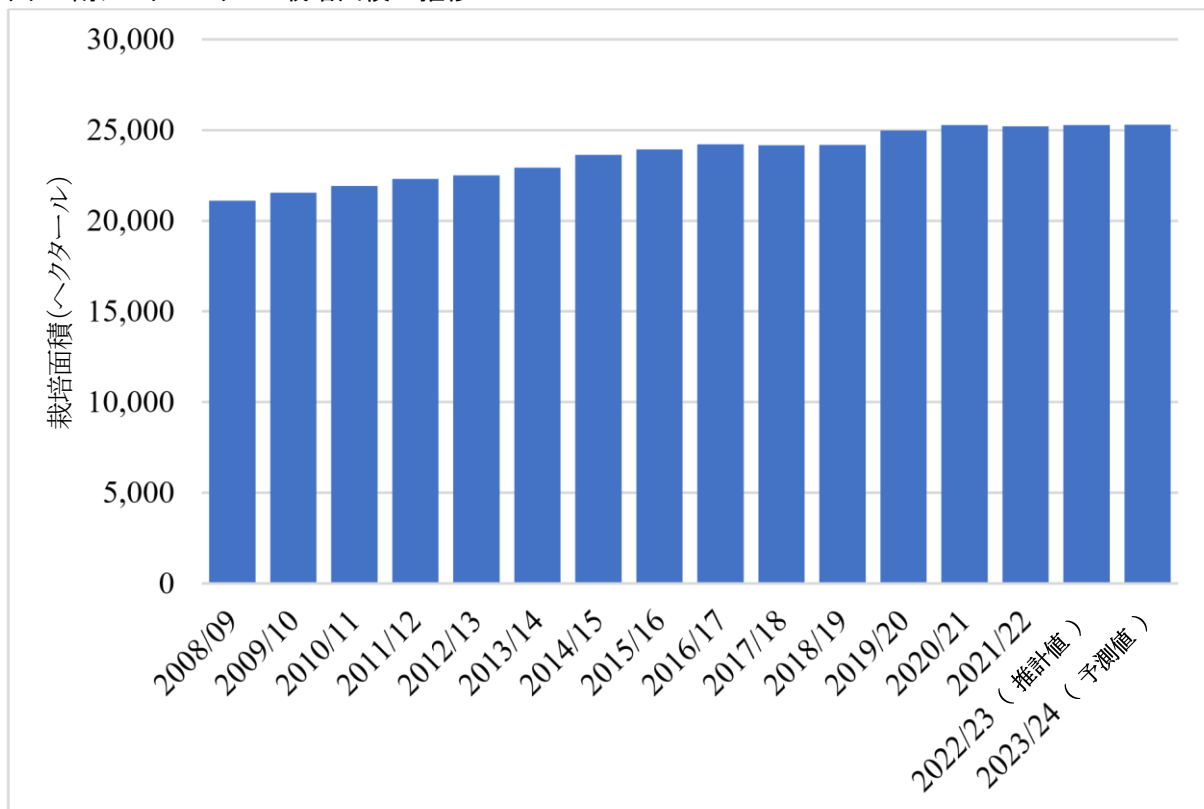
出典: Hortgro 果樹センサス2022年

南アフリカでは6つの品種がリンゴ生産を支配し、栽培面積の約80%を占めている。選択される品種は、主に南アフリカの輸出市場における消費者の需要によって決定される(図2)。しかし、過去5年間の植栽は、収量を増やしたいという生産者の願望によって推進されてきた。

栽培面積

近年、南アフリカのリンゴ栽培面積は、ケープタウン港の物流上の問題、鉄道の不調、変動する天候パターン、国内市場の低迷、限られた加工処理能力と冷蔵施設、投入コストの上昇、及び不安定な電力供給によって悪影響を受けている。これらの問題により、栽培面積の伸びが停滞し、多収品種への新植及び改植が制約されたため、2023/24年度の生産量は2万5,300トンの横ばいと予想される(図3)。生産者らは、防電ネット、信頼性の高い電源及び水源、並びに高い投入コストを相殺するための事業の垂直統合に投資を集中させているようである。当事務所の情報提供者の報告によると、苗木の発注が最小限にとどまっており、これも業界が集約されていることを反映している。好天に恵まれた2023/24年度は、降雹被害を受けた2022/23年度に比べて収穫面積が回復する見込みである。

図3 南アフリカのリンゴ栽培面積の推移



出典: Hortgro 及び当事務所推計値

生産

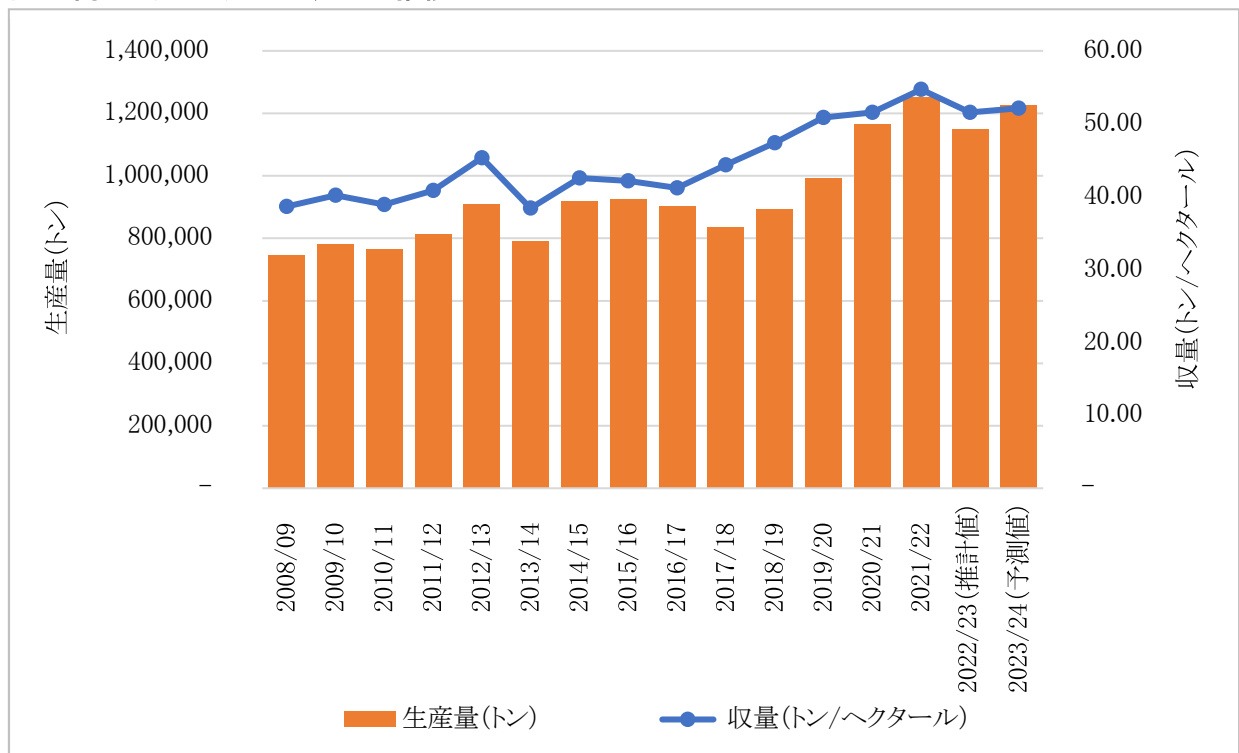
当事務所は、2023/24年度の南アフリカのリンゴ生産量が、良好な天候と収穫面積の改善により、2022/23年度に比べて7%増加すると予測する。2023年の冬は寒く雨が多かったため、十分な低温時間があった。また、この天候により灌漑用水が十分に確保されて果実の肥大が順調に進んだため、2023/24年度の総生産量が増加した。

西ケープ州の一部の産地、すなわちエルジン、グラボウ、ヴィーブーム及びヴィリアーズドープの各地域は、2023年10月の洪水の影響を受け、薬剤散布計画が阻害され、受粉率がわずかに低下した。西ケープ州も2024年4月に嵐と強風に見舞われたが、業界関係者によると、未収穫の果実のうち風で損傷したり吹き飛ばされたりしたのは極一部であった。風がもたらした寒さは、晩生の赤・ピンク系リンゴ品種の着色を助長した。

2022/23年度の生産量は、西ケープ州のリンゴ産地、特にセレス地域とラングクローフ地域が降雹の影響を受けたため8%減少した。降雹は果実に物理的なダメージを与え、リンゴの出荷量が減少した。当事務所の情報提供者らによると、この地域の一部の生産者は、降雹による被害と加工処理能力の制約により、果実の一部を収穫せずに樹上に放置した。

2021/22年度の南アフリカはシーズンを通して天候に恵まれ、作柄と品質が良くなったため、過去最高の125万トンのリンゴを出荷した。

図4 南アフリカのリンゴ生産量の推移



出典: Hortgro 及び当事務所の推計

輸出

当事務所は、2023/24年度は輸出可能な品質の供給量が増えるため、リンゴの輸出量は7%回復するものと予測する。当事務所の情報提供者らは、輸出はガラ、クリップスレッド、ビッグボックス等の2色のリンゴ品種とピンクレディー品種の増加によって牽引されるであろうと報告している。

機器の故障や風による遅延に起因する港湾の非効率性は、依然として輸出が遅延するリスクを高めている。ケープタウン港の管理会社と果実業界の関係者は、輸出果実の積み残しに対処するために定期的に連絡を取り合っている。リンゴは従来ケープタウン港から出荷されてきたが、同港の問題が原因で、一部の輸出業者はリンゴをポートエリザベス港に陸送し、そこから出荷することを選んだ。

アフリカ諸国への輸出は、需要の高まり(特にピンクレディー、ガラ、ゴールドデリシャス)、これらの市場での競争の少なさ、及び最適とは言えない取り扱いに耐えるリンゴの特性によって大きく推進されている。しかし、アフリカ諸国への輸出は、貿易コストの高さと物流上の課題によって制限されている。南アフリカは欧州連合(EU)と英国の両方と自由貿易協定を結んでおり、これらの市場への免税輸出の恩恵を受けている。

アフリカと欧州の市場は従来から堅調であるが、輸出の成長は主にアジアへの輸出の増加が牽引すると予想されている。南アフリカのインド向けリンゴ輸出は、インド政府が南アフリカ産のリンゴとナシの輸出における輸送中の冷蔵処理を承認したことにより、2022/23年度に約30%増加した。

表1 南アフリカの生鮮リンゴ輸出

輸出先国	2021/22 年度	2022/23 年度	増減率	1月～3月		
				2022/23 年度	2023/24 年度	増減率
英国	77,948	69,201	-11%	1,105	1,917	73%
ナイジェリア	56,937	44,628	-22%	10,191	7,193	-29%
バングラデシュ	38,008	42,427	12%	18,978	17,942	-5%
マレーシア	37,413	38,969	4%	6,458	4,802	-26%
アラブ首長国連邦	34,791	37,283	7%	12,980	15,955	23%
ロシア	26,463	11,976	-55%	863	906	5%
ベトナム	23,783	24,409	3%	3,174	3,726	17%
セネガル	22,772	20,576	-10%	3,756	4,631	23%
オランダ	21,786	23,391	7%	341	868	155%
ケニア	17,558	18,393	5%	3,008	2,105	-30%
インド	17,470	22,712	30%	6,754	17,377	157%
ジンバブエ	16,095	14,823	-8%	2,440	3,600	48%
ザンビア	15,508	14,667	-5%	2,730	2,222	-19%
ボツワナ	14,172	13,171	-7%	3,624	3,694	2%
中国	13,223	16,290	23%	3,959	2,529	-36%
ガーナ	12,667	11,954	-6%	3,021	2,333	-23%
ドイツ	11,987	6,394	-47%	123	314	155%
カメルーン	10,784	10,808	0%	2,186	2,470	13%
ナミビア	10,678	11,697	10%	2,618	2,638	1%
その他	145,060	153,487	6%	28,346	35,095	24%
合計	625,103	607,256	-3%	116,655	132,317	13%

出典: Trade Data Monitor, LLC.

表3 生鮮リンゴの生産需給統計

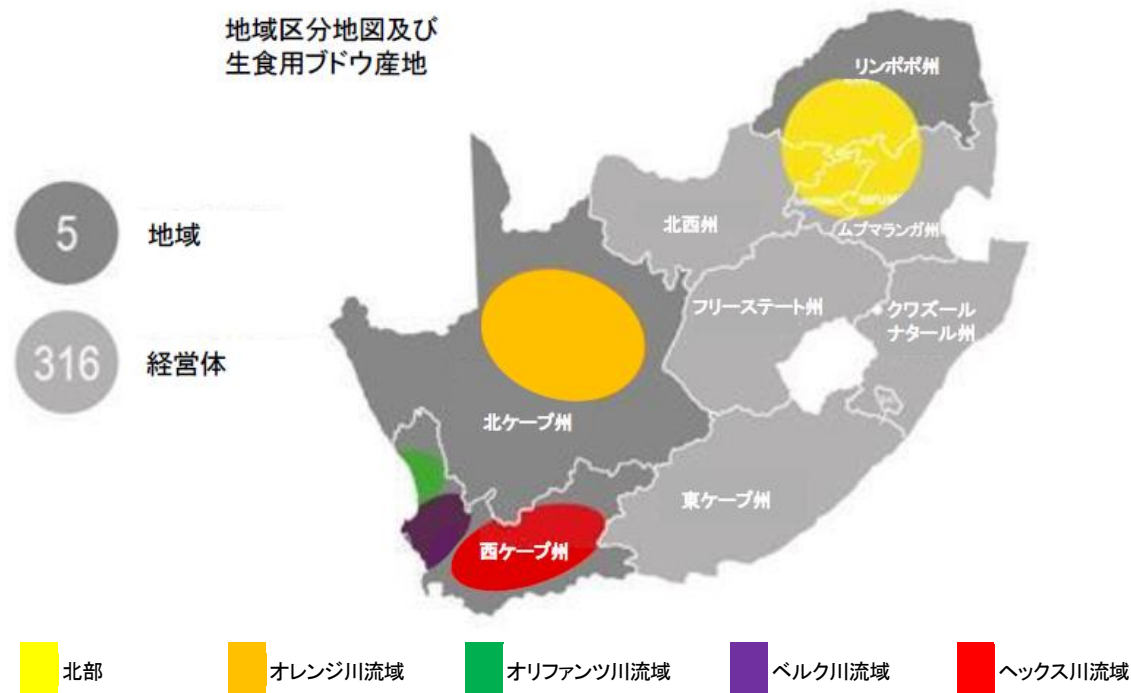
リンゴ(生鮮)	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022 年 1 月		2023 年 1 月		2024 年 1 月	
市場年度の始まり	2022 年 1 月		2023 年 1 月		2024 年 1 月	
南アフリカ	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	25,209	25,209	25,400	25,277	25,500	25,300
収穫面積	22,850	22,850	22,300	21,500	23,500	23,500
結果樹本数	33,637	33,637	33,700	33,700	33,800	33,800
未結果樹本数	3,100	3,100	3,000	3,000	3,000	2,000
果樹総本数	36,737	36,737	36,700	36,700	36,800	35,800
商業的生産量	1,250,000	1,250,000	1,150,000	1,150,000	1,230,000	1,225,000
非商業的生産量	0	0	0	0	0	0
生産量合計	1,250,000	1,250,000	1,150,000	1,150,000	1,230,000	1,225,000
輸入量	25	25	25	47	25	30
総供給量	1,250,025	1,250,025	1,150,025	1,150,047	1,230,025	1,225,030
国内消費量	624,925	624,922	555,025	542,791	580,025	575,030
輸出量	625,100	625,103	595,000	607,256	650,000	650,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	1,250,025	1,250,025	1,150,025	1,150,047	1,230,025	1,225,030

単位: ヘクタール、千本、トン

＜生食用ブドウ(生鮮)＞

南アフリカの生食用ブドウの主な産地は、西ケープ州のヘックス川流域(32%)、ベルク川流域(23%)、オリファンツ川流域(6%)、北ケープ州のオレンジ川流域(29%)、北東部のリンボポ州(10%)等である(図8)。

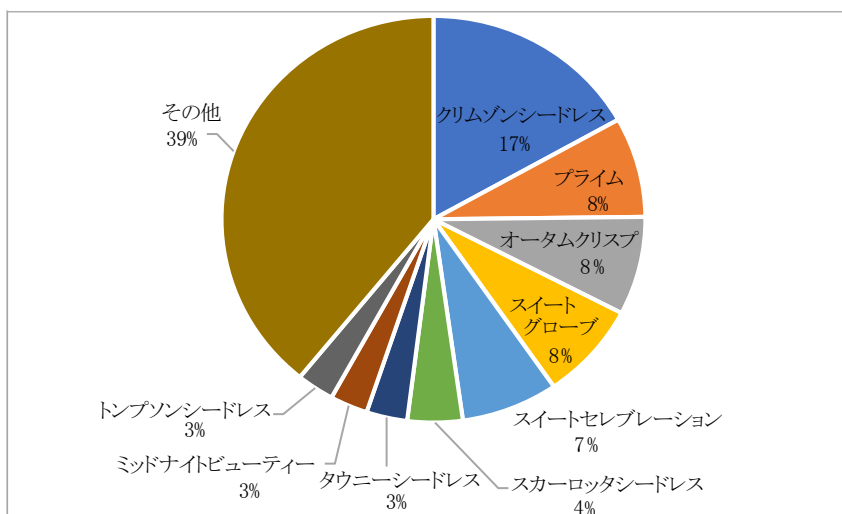
図8 南アフリカの生食用ブドウ産地



出典: SATI

南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)の果樹センサス(2023年)によると、生食用ブドウの栽培面積の大部分が樹齢3～9年(53%)で、次いで樹齢10～15年(20%)、2年未満の若い園地(15%)となっている。南アフリカの生食用ブドウの品種構成は、過去10年で大きく変化した。消費者が種無しブドウを好むことから、種無しの生食用ブドウ品種の生産が伸び、種の有る品種は減少している。現在、まだ種有りの生食用ブドウを栽培しているのは、ブドウ園の8%未満である。新植に当たっては、オータムクリスパ、スイートセレブレーション、スイートグローブの3つの品種が非常に好まれている。

図9 栽培されている生食用ブドウ品種



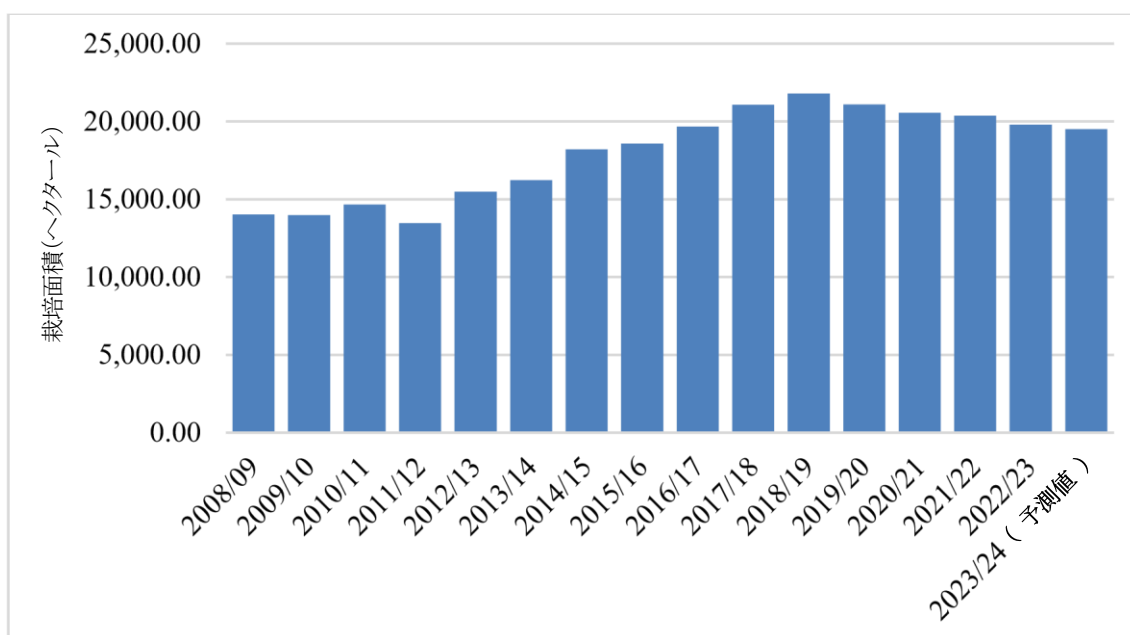
出典: 2023年 SATI果樹センサス

栽培面積

当事務所は、2023/24年度の生食用ブドウ栽培面積を微減の約1万9,500ヘクタールと予測する。栽培面積の停滞は、2012年から2019年までの主に輸出収入の増加に牽引された生食用ブドウ栽培面積の急増(図10)に続くものである。非効率な港湾運営、老朽化した道路網及び頻繁な停電により、南アフリカの生食用ブドウ生産者の収益が低下し、業界への新規投資が抑制されている。

生産者らは、2023/24年度に投入コスト、特に燃料、電気、人件費の増加に直面した。肥料や農薬のコストは緩和されたものの、依然としてロシア・ウクライナ紛争前の価格水準を上回っている。同業界団体によると、生産者にとって最大の直接費は人件費であり、直接費全体の約55%を占めている。南アフリカ雇用労働省は、2024年3月1日付けで時給27.58ランド(1.48ドル)の新しい全国最低賃金を公表し、これは2023年の25.42ランド(1.36ドル)に比べて8%の上昇となった。一方、当事務所の情報提供者は、総コストに占める人件費の割合は年々下がっていると断言している。

図10 南アフリカの生食用ブドウ栽培面積



出典: 南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)及び当事務所推計

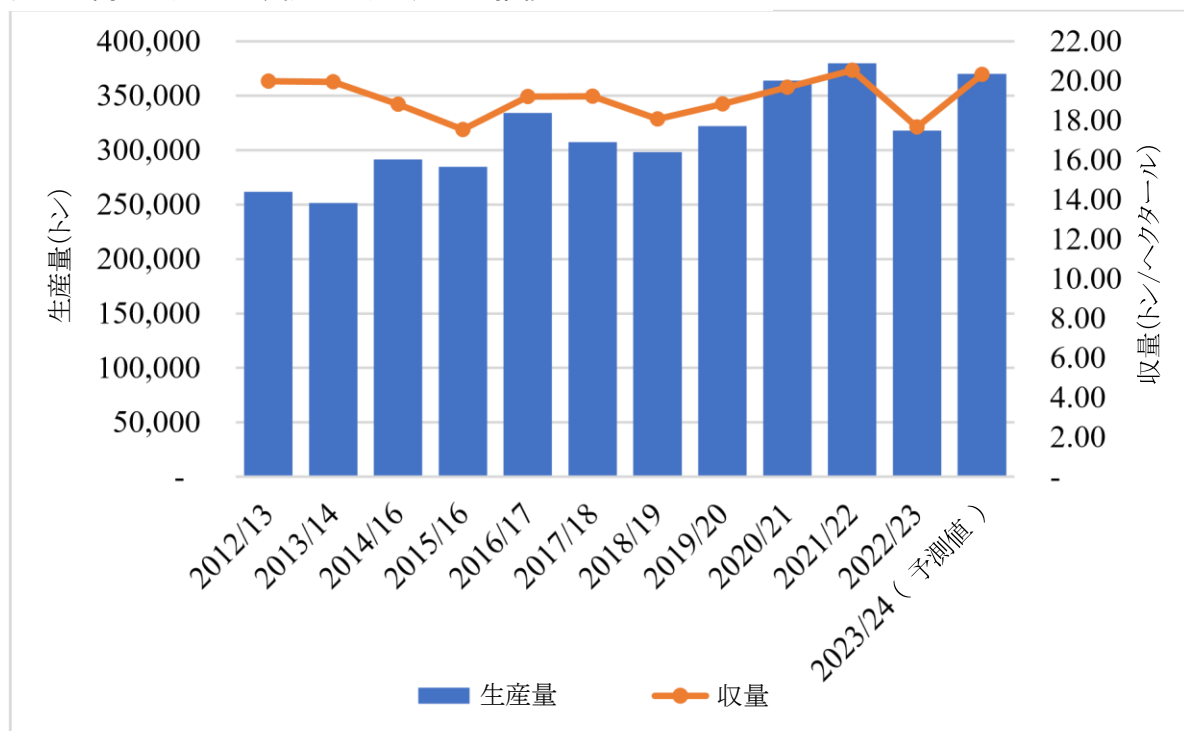
2022/23年度の栽培面積は3%減少して1万9,788ヘクタールとなった。北ケープ州は、気象条件の変化と生産コストの上昇により、栽培面積の減少幅が最も大きかった。

生産

当事務所は、2023/24年度の南アフリカの生食用ブドウ生産量を、悪天候により収量が低かった2022/23年度に比べて16%の増加となる37万トンに上方修正する。生食用ブドウ産地の2023年(2023/24年度産)の冬は休眠に理想的な低温を特徴とし、果粒のサイズ、色付き及び品質の改善に役立った。これらの条件は、病害虫の圧力も低下させた。ヘックス川流域の産地で局地的な降雹が報告されたが、全国の生食用ブドウ生産量には大きな影響を与えなかった。さらに、生産量は、新しい品種の成木化によっても支えられた。2023/24年度の出荷シーズンは、ヘックス川流域における中生から晩生の時期の天候パターンの変化と降雨により、例年より約2週間早く終了した。このため、晩生品種の生産量が通常よりも少なくなった。

2021/22年度に38万トンという過去最高の収穫量を記録した後、2022/23年度の生食用ブドウの生産量は16%減の31万8千トンとなった(図11)。これは、栽培面積の微減と、特にオレンジ川流域での悪天候によるものである。2021/22年度の記録的な収穫量は、生食用ブドウの栽培面積が減少したものの、多収性新品种の本格的な生産が始まったことと、シーズン中の天候に恵まれたことで達成された。

図11 南アフリカの生食用ブドウ生産量の推移



出典: 米国農務省、SATI及び当事務所推計

輸出

当事務所は、輸出品質の生産量の20%の増加を反映し、2023/24年度の生食用ブドウの輸出量を34万トンに上方修正する。輸出はまた、2022/23年度と比較して米ドルに対する為替レートと輸送コストがともに低下したことにも支えられている。

従来、南アフリカの生食用ブドウの輸出の約90%はケープタウン港を経由し、6%がダーバン港を経由していた。ケープタウン港では風と霧による遅延が発生し、そのうち2023/24年度の輸出シーズン中の2回の大幅な遅延では、2万トン以上が影響を受けた。極めて日持ちの悪い生食用ブドウの輸出において大幅な遅延が報告されたことから、港湾の非効率性は重大な脅威となっている。これらの遅延は、2023/24年度の輸出量には大きな影響を与えなかったが、品質上のクレーム、シーズン序盤のプレミアム価格を逃したこと、タイムリーな納品に関する契約の不履行などにより、利益率に影響を与えた。

港湾危機を是正する手段として、港湾管理者、政府及び果実業界関係者は、輸出シーズン中の準備体制と港湾の生産性を定期的に確認し、必要に応じて是正措置を講じている。2023/24年度には、一部の船会社が船舶の入港先をケープタウン港からポートエリザベス港に変更し、圧力を幾分か軽減した。当事務所の情報提供者は、生食用ブドウ輸出の約10.6%がポートエリザベス港経由であったと報告している。

複数の船会社は、ケープタウン港への圧力を和らげる追加の措置として、特にEUと英国の市場に向けて、非コンテナ船を毎週運航していると報告している。また、従来ケープタウン港を通じて輸出していたナミビアの輸出業者らは、生食用ブドウの輸出の約21%をウォルビスベイ港(ナミビア)経由で出荷した。

2023/24年度に輸出された品種は、クリムゾンシードレス、スイートグローブ、スイートセレブレーション、プライム及びオータムクリスプで、全体的な生産量を反映している。

2022/23年度の生食用ブドウの輸出量は28万3,255トンとわずかに下方修正され、2021/22年度と比較して16%の減となった。輸出量の減少は、生産量の減少と港湾の問題によるものである。ケープタウン港の非効率性とリーファーコンテナ運賃の高騰が、業界に大きな圧力をかけた。生食用ブドウの輸出シーズンのピーク時である2023年2月には、ケープタウン港が強風のために約240時間閉鎖され、この非常に傷みや

すい果実の取扱いに大きな支障をきたした。

ヨーロッパは南アフリカ産生食用ブドウの主要な輸出市場であり、2022/23年度の生食用ブドウ総輸出量の約75%を占めている。ヨーロッパ市場への入り口であるオランダは、南アフリカ産生食用ブドウの最大の輸出先であり、総輸出量の40%以上を占めている。南アフリカは、他の南半球の競合国よりもヨーロッパへの輸送距離が短く、EU及び英国との優遇的な貿易協定の恩恵を受けている。

アジア、中東、アフリカへの輸出にも大きな成長の可能性が有り、南アフリカの生食用ブドウ産業の関心の中核をなすものである。米国への輸出量は過去5年間で大幅に増加したが、その量は依然として6千トン未満であり、生食用ブドウの総輸出量の2%未満を占めるに過ぎない。米国に輸出される主な品種は、オータムクリスプ、レッドシードレス、アドラシードレス等である。

表8 南アフリカの生食用ブドウ輸出量(トン)

輸出先	2021/22	2022/23	2023/24*
欧州連合	179,554	154,406	189,929
英国	75,027	57,557	65,170
中東諸国	17,945	20,320	11,117
カナダ	20,152	14,441	20,430
東南アジア諸国	15,839	14,169	10,537
中国及び香港	11,290	8,153	6,162
アフリカ諸国	5,957	4,171	3,892
ロシア	3,452	3,728	6,683
米国	3,719	3,460	5,997
インド洋の島国	1,690	1,407	2,022
その他	1,126	1,445	7,272
不明	—	—	2,017
合 計	335,750	283,255	331,230

出典: SATI

*: 2024年第15週までの輸出量。輸出は通常第20週までに終了する。

表11 南アフリカの生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ(生食用、生鮮) 販売年度の始まり	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021 年 10 月		2022 年 10 月		2023 年 10 月	
南アフリカ	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	20,379	20,379	19,788	19,788	19,500	19,500
収穫面積	18,500	18,500	18,000	18,000	18,000	18,200
商業的生産量	380,000	380,000	318,000	318,000	342,000	370,000
非商業的生産量	0	0	0	0	0	0
生産量合計	380,000	380,000	318,000	318,000	342,000	370,000
輸入量	9,700	9,700	10,900	10,907	10,000	9,000
総供給量	389,700	389,700	328,900	328,907	352,000	379,000
生鮮国内消費量	53,900	53,900	43,900	45,652	42,000	39,000
輸出量	335,800	335,800	285,000	283,255	310,000	340,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	389,700	389,700	328,900	328,907	352,000	379,000

単位: ヘクタール、トン

71. ニュージーランドの落葉果実事情(リンゴ)

米国農務省GAINレポート 2024年5月17日

これは米国農務省海外農業局ウェリントン事務所(ニュージーランド)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」の要約、背景及びリンゴの項(一部省略)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

2023/24販売年度(以下「年度」)のニュージーランドのリンゴ栽培面積は、2022/23年度開始時点の1万1千ヘクタールから大幅な減少となる9,200ヘクタールと予測される。これは、ホークスベイ、ギズボーン両地方の主要リンゴ産地に、大量の水、土砂、瓦礫及び風と地表の冠水をもたらしたサイクロン「ガブリエル」による被害の結果である。この地域の果樹園は、果樹が完全に破壊されたり、今後の生産に耐えられなくなったりするほどの深刻な被害を受けた。

当事務所は、2023/24年度のリンゴの生産量を48万トンと予測する。これは、エルニーニョ現象の気象パターン、季節労働力の確保の可能性、及び農業システムの革新によって予想される回復を反映している。さらに、前シーズンに悪天候のために減収した園地でも生産が回復している。

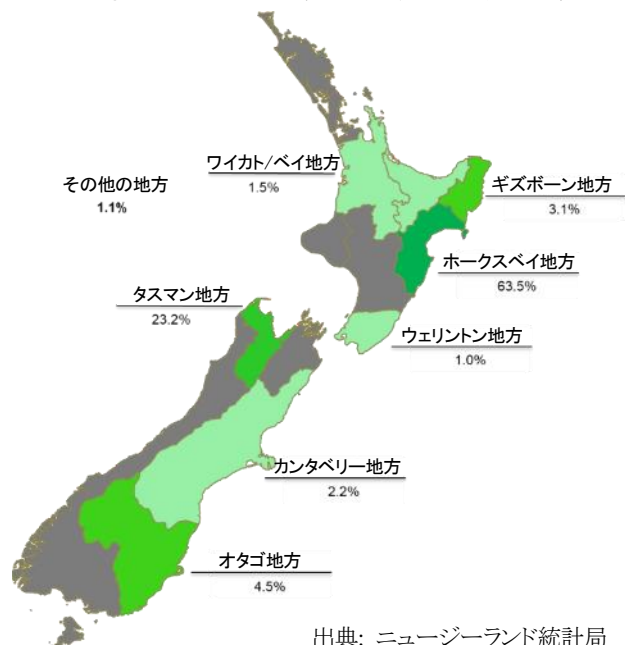
当事務所は、2023/24年度の生鮮リンゴの輸出量は、従来の量には及ばないものの、被害を被った昨年の水準(30万9,084トン)から回復すると予測する。ニュージーランドは、他の国と季節が逆の生産を行うことで優位性がある。その結果、市場の需要は引き続き堅調に推移すると見られる。輸出の優先度は、引き続きベトナム、台湾、中国等のアジア市場及び米国、英国が高くなるものと予想される。現在、被害を受けた果樹園の植え替えと融資金利の上昇に伴い、農場渡し生産者価格の収益性が将来の品種を選択する上で大きな要因となると見られる。そのため、業界では、ロッキット等の新しい品種が好まれ、ブレーバーン等の古い品種の栽培面積が減少すると予想される。

注：本レポートでは分割年を採用する。例：2022/23販売年度(年度)は、2023年1月から始まる暦年
本レポートで、ニュージーランド(NZ)ドルと米ドルの為替レートは1.00NZドル=0.60米ドルである。

背景

ニュージーランドは、世界のリンゴ輸出上位10カ国の一つである。その気候と土壌はリンゴとナシの栽培に適している。ホークスベイ地方、ネルソン地方、オタゴ地方中部などの主要産地では、十分な冬の低温、暖かい春、夏の長い日照時間、雨が少ないことなど、リンゴの栽培に必要な条件が整っている。これらの地域には果樹園を灌漑するための信頼できる水源もあり、その結果、ほとんどすべての商業的果樹園は灌漑に依存している。ニュージーランドでは、よく整備された港がリンゴとナシの産地の近くにある。リンゴの収穫期は1月に始まって6月に終わり、収穫の最盛期は3月から5月である。リンゴとナシの産地の分布を図1に示す。産地の大部分(全国の果樹本数のほぼ3分の2)がホークスベイ地方にある。

図1 ニュージーランドのリンゴとナシの産地



出典：ニュージーランド統計局

サイクロン「ガブリエル」

ニュージーランドの主要な園芸地帯は、2023年のはじめに悪天候に見舞われた。その中でも最悪だったのがサイクロン「ガブリエル」である。政府は、サイクロン「ガブリエル」を、1968年以降に同国を襲った最悪の気象現象の1つと呼んだ。強烈な風雨により、大規模な土砂崩れや洪水が発生し、特にリンゴ産業では、果樹園やインフラが広範囲に破壊され、広大な地域に大量の土砂が堆積した。サイクロン「ガブリエル」は、ホ

ークスベイ、ギズボーン両地方の果樹園の面積の約半分と、この地域に物資を供給していたネーピア港に被害を与えた。この出来事は1年前に起こったにもかかわらず、その影響は国の産業に大きな衝撃を与えている。被害の査定では、ホークスベイ、ギズボーン両地方の生産者の最大50%が影響を受けたとされている。当事務所は、全国の生産量が前シーズンより14%少ないものと推定する。

<リンゴ>

表1 ニュージーランドの生鮮リンゴの生産需供統計

リンゴ(生鮮) 販売年度の始まり ニュージーランド	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022年1月		2023年1月		2024年1月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	11,000	11,000	11,000	11,000	9,200	9,200
収穫面積	10,300	10,300	8,900	8,900	9,000	9,000
商業的生産量	510,000	510,000	440,000	440,000	460,000	480,000
非商業的生産量	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
生産量合計	513,000	513,000	443,000	443,000	463,000	483,000
輸入量	100	25	100	154	100	300
総供給量	513,100	513,025	443,100	443,154	463,100	483,300
国内消費量	172,300	172,263	133,100	134,070	143,100	153,300
輸出量	340,800	340,762	310,000	309,084	320,000	330,000
総仕向量	513,100	513,025	443,100	443,154	463,100	483,300
単位: ヘクタール、トン						

栽培・収穫面積

2023/24年度

当事務所は、ニュージーランドの第一次産業省(MPI)の推計に従い、2023/24年度のリンゴの栽培面積を9,200ヘクタール、収穫面積を9千ヘクタールとする米国農務省の公式予測を維持する。これは、ホークスベイ、ギズボーン両地方の主要なリンゴ産地に、大量の水、土砂、瓦礫及び風と地表の冠水をもたらしたサイクロン「ガブリエル」による被害の結果である。この地域の果樹園は、果樹が完全に破壊されたり、今後の生産に耐えられなくなったりするほどの深刻な被害を受けた。

- サイクロン「ガブリエル」からの復旧

ホークスベイ、ギズボーン両地方の生産者は、損傷した果樹園を復旧または修復するかどうかを決定する段階にある。リンゴやナシの果樹園を復旧するための推定コストは、苗木と植栽費用、樹体を支える構造物、灌漑システム、及び園地の整地のために、1ヘクタール当たり18万～25万NZドル(10万8千～15万米ドル)と莫大である。リンゴの苗木を得るために2～3年かかり、果樹が成木化するまでにさらに時間がかかる。将来的に回復しない可能性があるヘクタール数については不確実性が残っている。

- 債務と金利の上昇

果樹園やその他の農業関連事業の再開に伴い、多くの生産者は銀行融資を必要とすると見られる。現在、ニュージーランドの農業部門が直面している大きな課題は、債務の返済である。これは、銀行に対する融資機関の金利の上昇によるもので、こうした状況は、ニュージーランド準備銀行(RBNZ)が公定歩合(OCR 米国の連邦資金利率に相当)をどのように設定するかにかかっている。RBNZは、国内のOCRを5.50%に固定しており、これはRBNZが世界金融危機を受けてOCRを改定した2008年11月以来の高い水準である。

RBNZによると、2024年2月時点での園芸事業に対する国内の銀行融資総額は79億NZドル(47億米ドル)である。2017年以降、園芸生産者への融資総額は年率(複利計算)11.5%で増加しており、一方、酪農、畜産、穀物農家向け融資を合わせた額は年率-0.6%で減少している。農業部門への融資のうち、84%は変動金利であり、OCRの上昇に伴い、営農コストが増加している。これが販売年度の残りの期間に及ぼす影響は、ビジネスでは債務の返済を優先するため、農場経営が新規の購入や営農の改善・革新に使用できる資本が少なくなるということである。

2022/23年度

当事務所は、2022/23年度の栽培面積を1万1千ヘクタール、収穫面積を8,900ヘクタールとする農務省の公式予測を維持する。サイクロン「ガブリエル」の襲来は、生産者が収穫前の果実を回収することがほとんど不可能なタイミングであった。生産者らは事後に、影響を受けていない果樹園や立ち入ることができる果樹園、果実が回収できる果樹の収穫を行うことに注意を払った。当事務所は、業界関係者からの情報に基づき、園地の約20%が破壊されたか、または土砂に埋まって近づけないために収穫されなかったと推定する。

タスマン、カンタベリー、オタゴなど、ニュージーランドの他のリンゴ産地は、ホークスベイやギズボーンほどには影響を受けなかった。産地では、完全に復活した認定季節雇用主(RSE)制度を活用して収穫が行われた。

生産

2023/24年度

当事務所は、2023/24年度の生産量予測を、農務省の公式数値よりも2万トン多い48万トンに引き上げる。これは、エルニーニョ現象の気象パターン、季節労働力の確保の可能性、及び農業システムの革新によって予想される回復を反映している。さらに、前シーズンに悪天候のために減収した園地でも、生産が回復している。業界関係者の報告によると、2023/24年度産の受粉と着果の時期である2023年春(9~11月頃)の気象条件は概ね良好であった。昨年の気象現象の影響を受けた果樹の回復が収穫にどのように影響するかについては、依然として慎重な見方がある。同報告によれば、収量は過去2年よりも高いということである。しかし、収穫間際の非常に乾燥した状態により、果実の大きさが課題となっている。

－ 季節労働力の利用可能性

過去のシーズンにはコロナ禍に伴う政府の国境管理によって外国人労働者が制限されたため、果実を収穫する労働力の確保が国内の園芸作物の収量に大きな影響を与えた。今シーズンは、梱包施設での自動化が進んで必要な労働力が削減されていることもあり、梱包施設には十分な人員が配置されているとの報告がある。ニュージーランドの園芸部門は、通常、国内の季節労働者、ワーキングホリデー旅行者(バックパッカー)、及び認定季節雇用主(RSE)制度の3つの分野から労働力を調達している。

RSE制度は、園芸・ブドウ栽培業界で国内の労働者が足りない場合に、季節労働のために海外から労働者を募集することを認める政府の政策である。これらの労働者は通常、太平洋の国々から来ており、リンゴの収穫労働に従事している。2022年9月に2022/23年度シーズンの上限が1万6千人から1万9千人に引き上げられた。ニュージーランドでは2023年10月の総選挙により政権交代が起これ、次期政権は選挙に先立ち、5年間でさらに上限を引き上げ、年間3万8千人とする方針を発表した。

－ エルニーニョ現象

国立水・大気研究所(NIWA)の科学者達は、過去3年間のラニーニャ現象の後にエルニーニョ現象が発生すると予測している。エルニーニョ現象の間、ニュージーランドでは夏に西風が強くなったり、頻繁に吹いたりする傾向があり、東部では乾燥し、西部では雨が多くなる可能性がある。図4(省略)は、2024年4月時点の過去の平均に対する全国の土壌水分の変動を示している。商業的果樹園の大半が灌漑を利用しているため、水の供給が制限されない限り、少雨の影響は懸念されない。しかし、乾燥した風の強い条件では蒸発散が増加し、果実の肥大のための水分を維持することが困難になる。

－ イノベーションとバイオテクノロジー

近年、多くの果樹園や梱包施設は技術的に進歩し、労働力をより効果的に管理するための自動化に多額の投資を行っている。その他のイノベーションは、意思決定と果実の品質管理を改善することを目的としている。梱包施設は、選別用のカメラ技術と、梱包・積み上げ・パレット積み用のロボット工学に投資している。生産者は近年、果樹園での単調な重労働を緩和し、より効率的にするためのプラットフォーム技術に投資している。

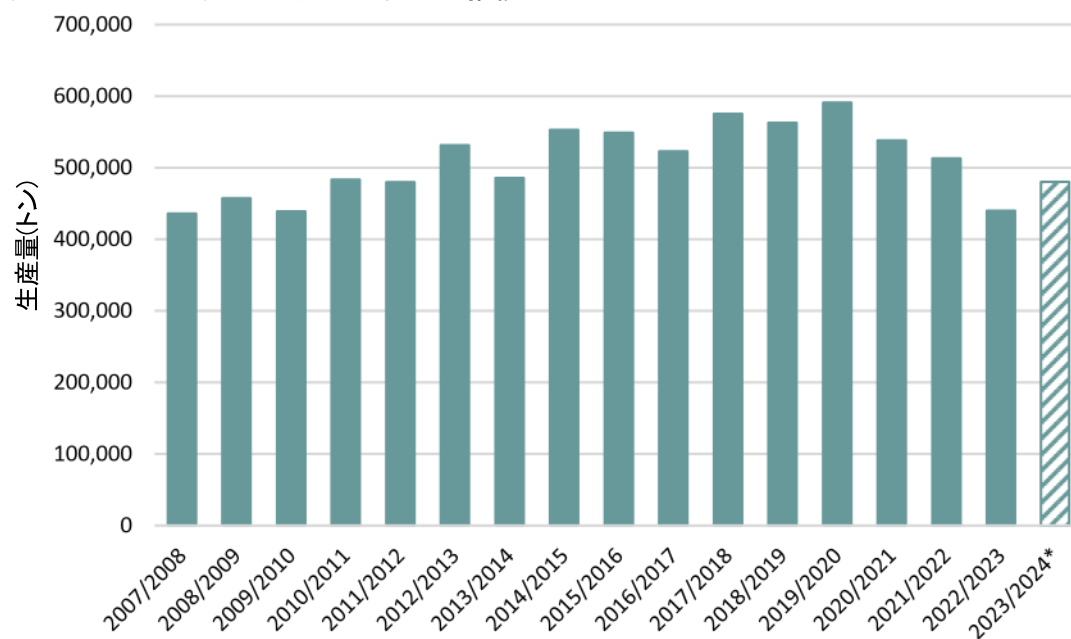
新政権は選挙に先立ち、最近までニュージーランドでバイオテクノロジーを禁止していた法律を改正する

意向を表明した。政策文書「[バイオテクノロジーの活用](#)」では、リンゴ産業の回復のための潜在的な利益を強調する具体的な引用がされている。この文書はまた、果樹が完全な商業生産に到達するまでの期間を数年間短縮する進行中の研究も強調している。新政権がバイオテクノロジーの規制を緩和する意欲を維持しているという報告はあるが、これまでのところ法令に変更は加えられていない。

2022/23年度

当事務所は、2022/23年度の推定生産量を、農務省の公式推定値である44万トンに沿ったものと結論付ける。これは、前述のサイクロン「ガブリエル」の影響によるものである。対照的に、南島のほとんどの地域では良好な生育条件が見られ、ネルソン・タスマン地方（リンゴとナシの栽培面積の23%を占める）では、2022/23年度の生育条件が良好で、高品質な果実の収量が増加した。全国の合計生産量は、残念ながら2007/08年度以来となる15年ぶりの低水準となった(図5)。

図5 ニュージーランドのリンゴ生産量の推移



出典：農務省公式推計、*は当事務所の予測

貿易(輸出)

2023/24年度

当事務所は、2023/24年度の輸出量を33万トンと予測する。従来 of 輸出量には遠く及ばないものの、被害からの回復を示している。2023/24年度の最初の3カ月間のリンゴ輸出量は、前年同期比で37%増加した(表2)。これは、生産とインフラの回復を示しており、ネーピア港からの輸出量は前年比31%増加した。

表2 ニュージーランドのリンゴ輸出統計

輸出先国	輸出量(トン) 暦年					1月～3月		増減率
	2019	2020	2021	2022	2023	2023	2024	
世界合計	390,942	400,397	355,799	340,762	309,044	38,688	53,100	37.25%
ベトナム	25,874	32,157	33,677	47,223	44,743	5,195	5,763	10.93%
中国	45,015	38,098	35,423	53,304	41,954	9,629	11,954	24.15%
台湾	20,858	26,596	29,135	31,183	28,984	3,010	2,731	-9.27%
米国	33,883	28,379	24,433	23,949	26,239	815	828	1.60%
タイ	32,890	23,501	20,940	22,486	22,926	3,011	4,618	53.37%
英国	43,299	39,569	32,549	21,892	22,241	970	1,842	89.90%
インド	17,068	22,163	28,148	18,074	19,314	1,870	10,377	454.92%
EU	51,846	53,183	43,007	35,042	30,789	1,876	2,839	51.33%
その他	120,209	136,751	108,487	87,609	71,854	12,312	12,148	-1.33%

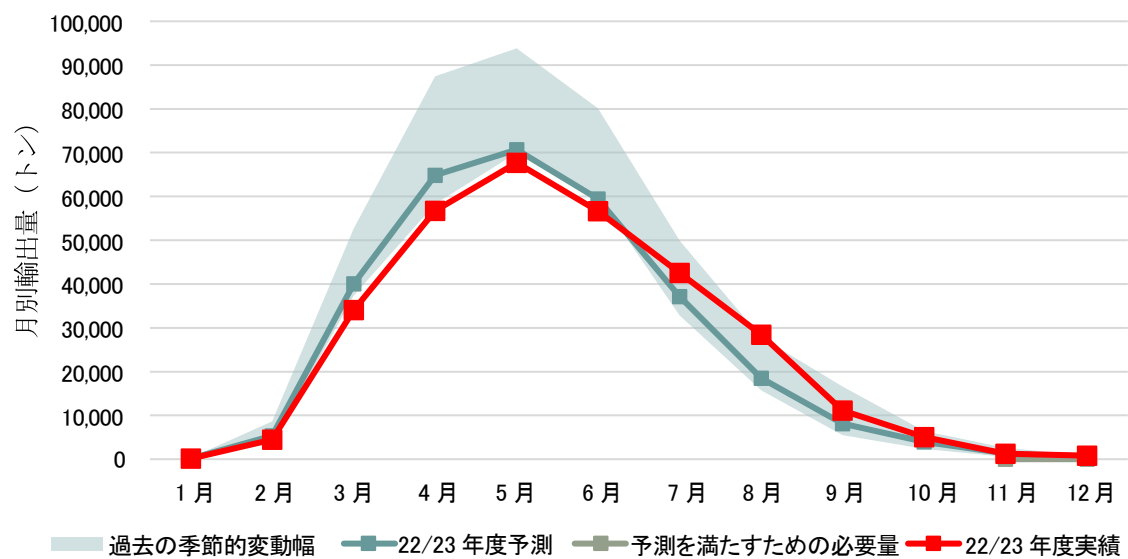
出典：Trade Data Monitor LLC

ニュージーランドの他国とは季節が逆の果実生産の結果、市場の需要は堅調に推移すると予想されており、輸出の優先度はベトナム、タイ、中国などのアジア市場が顕著に高くなっている。今年の第1四半期には、インドがニュージーランドにとって2番目に大きな輸出先となり、重要な成長市場となった。

2022/23年度

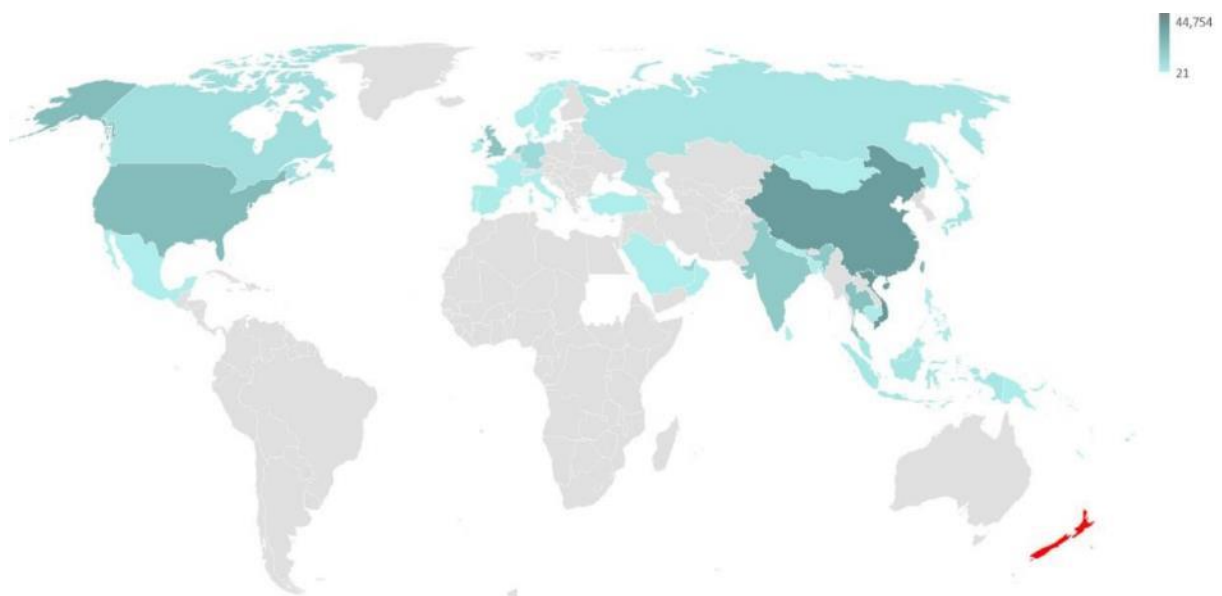
2022/23年度の輸出量は、農務省の公式予測31万トンに対して30万9,084トンで終了した(図8)。ニュージーランド産リンゴ及びナシの輸出可能量の減少の影響を受け、アジア市場、特にベトナム(14.5%)、中国(13.6%)、台湾(9.4%)で強い需要があったと業界筋はコメントしている。しかし、サイクロン「ガブリエル」が悪影響を及ぼし、輸出は2012/13年度以来の低水準となった。ニュージーランド統計局は、リンゴの商業的栽培面積が1千ヘクタール減少したと伝えている。

図8 ニュージーランドの2023年の月別リンゴ輸出量



出典: Trade Data Monitor LLC

図9 ニュージーランド産リンゴの輸出先国(2023年の数量)



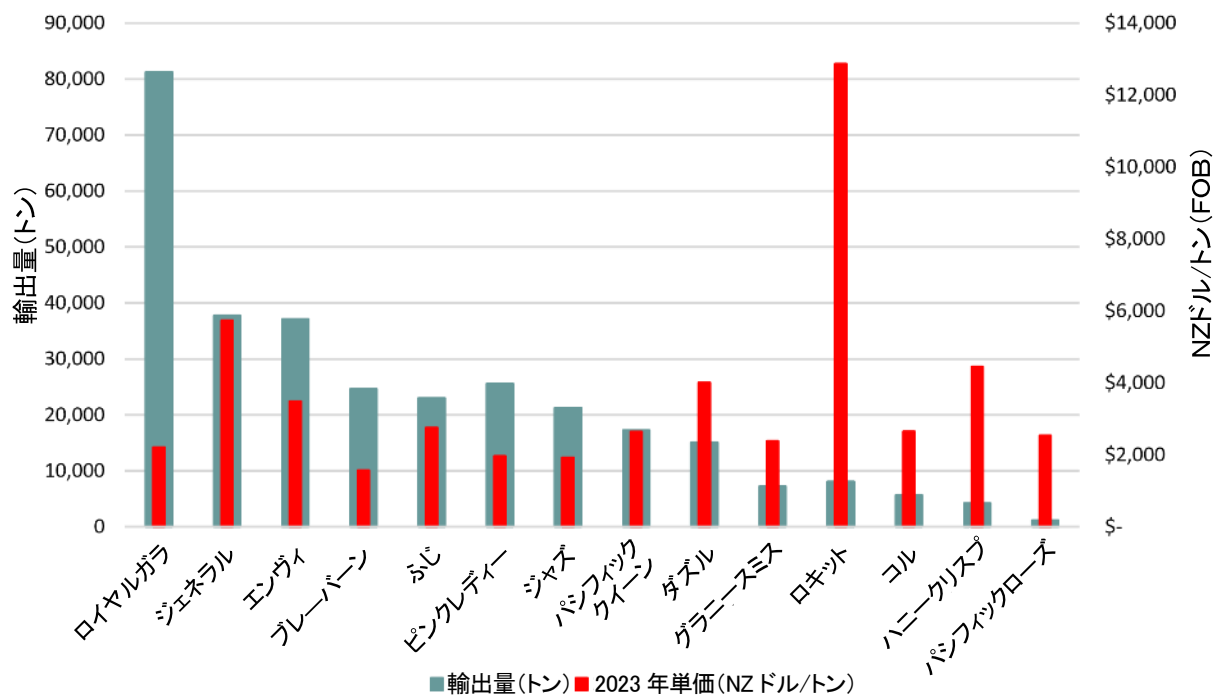
出典: Trade Data Monitor LLC

輸出量は前年比で約10%減少したものの、1トン当たりの平均単価は7%以上上昇し、1トン当たり2,805 NZドル(1,683米ドル)となった。単価の上昇は、輸出量の減少の影響を和らげた。しかし、第一次産業省(MPI)が報告したとおり、世界的な投入資材のインフレの影響も受けた生産コストの上昇により、リンゴ輸出の利益率は縮小した。

過去5年間、ネーピア港は世界市場へのリンゴ輸出の61%を占める主要港であった。2022/23年度には輸出港に大きな変化があり、ネルソン港とタウランガ港の両方でリンゴの輸出量が前年比で35%増加し、ネーピア港からの輸出量は前年比で28%減少した。

品種別では、ロイヤルガラが2022/23年度の輸出で最多の品種であった。しかし、ハニークリスピー、ダズル、特にロッキットなどの品種の輸出需要の増加により、トン当たりの単価が上昇した(図10)。生産者からのコメントによると、現在進められている損傷した果樹園の改植と金利の上昇により、農場渡し価格の収益性が将来の品種の選択における重要な要素になると見られる。その結果、業界ではすでにブレイバーン等の品種の栽培面積が減少しており、2011/12年度には国内栽培面積の22%を占めていた同品種は、2021/22年にはわずか8%となった。

図10 ニュージーランドのリンゴ輸出 品種及び単価



出典: Trade Data Monitor LLC

72. 米国産リンゴ 2023-24年度シーズンの振り返り

[FreshPlaza 2024年5月17日](#)

米国リンゴ協会は今週、2023/24年度の総括会議を開催し、推定収穫量や輸出等に関する検討を行った。ここでは、米国リンゴ協会の業界分析担当ディレクターであるクリストファー・ガーラック氏が座長を務めたセッションの要旨を紹介する。(1エーカー＝約0.4ヘクタール。米国リンゴ協会のレポートでは 1ブッシェル＝約19kg)

最新の生産状況

農務省の作物生産レポートは毎年8月に公表され、米国内のリンゴ産地上位7州の推定値が含まれている。前回の推定値は合計2億3,600万ブッシェルで、その後、米国リンゴ協会の会員による年次見通し会議で2億4,200万ブッシェルに修正された。

今月、農務省の非柑橘類果実とナッツ類の報告書が公表され、米国の合計生産量は2億7千万ブッシェルと推定されることが示された。いくつかの州の改訂推定値が示され、ワシントン州が1億8,100万ブッシェル、ミシガン州(2016年以来初めてニューヨーク州を上回った)3,200万ブッシェル、ニューヨーク州3千万ブッシェル、ペンシルベニア州1,300万ブッシェル、カリフォルニア州600万ブッシェル、バージニア州500万ブッシェル、オレゴン州400万ブッシェルであった。

しかし、2022年の農業センサスの栽培面積の合計に基づくと、農務省が2007年から追跡を中止した「その他の州」の2,100万ブッシェルがあることになる。これは、ウェストバージニア州、オハイオ州、ノースカロライナ州等の「その他の州」の生産量に光を当てるものである。

センサスによると、主要な州であるニューヨーク州とワシントン州がそれぞれ1万2千エーカー及び9千エーカー以上追加されるほか、ウィスコンシン州とノースカロライナ州もかなりの追加面積がある。米国全体では約3万3千エーカーのリンゴ栽培面積が追加され、2022年センサスでは2017年に比べて10%増加した。一方、カリフォルニア州とウェストバージニア州では、それぞれ2万5千エーカー及び1千エーカー減少した。

米国ではリンゴの生産量の規模に敏感な見方もあるが、ガーラック氏は全体像が重要だとして、「数えないからと言ってそれらのリンゴが無くなるわけではない。これらのますます増加する追跡されない州の動向を理解しておくことは、長期的な計画立案のための情報に基づいた業界の意思決定を助ける上で非常に重要である」と語った。

農務省の報告書によると、米国のリンゴ生産量は2014年の2億8,200万ブッシェルがピークで、今年の推定値は2億7千万ブッシェルである。しかし、2017年の生産量には2023年よりも多くの州が含まれているため、公平でない。同氏は、それらの州を加えると、今年が米国の生産量が最大の年であると指摘する。

農場の規模

センサスでは、農場の規模の拡大も指摘されている。同氏は「1～49エーカーの小規模農場は、過去20年間で減少した。50～179エーカーの中規模農場も同様に、この期間に33%減少した。大規模農場が少しずつ増えている」言い、小規模農場が大規模農場に統合されているものと推測されると付け加えた。同氏はさらに、「特大の農場も減少しているが、特大農場のうち2千エーカーを超えるものは着実に増加しており、20年間で42%増加した」と述べた。

生産費

センサスはまた生産費について、過去10年間で農業全体では費用が29%増加したのに対し、果樹・ナッツ類栽培では49%増加し、主に人件費と肥料コストの増加に牽引されたと報告している。ガーラック氏は、「2022年の全費用に占める人件費の割合は全農場では12%であったのに対し、果樹・ナッツ類農場では40%を占めた。そのため、コンバインで収穫される他の商品作物よりも間違いなく労働集約的である」と言う。

一方、報告書は、果樹・ナッツ類農場の純利益が2017年から2022年の間に64億ドルから58億ドルに9%減少したことを示している。逆に、全農場の純利益は、この10年間で64%増加した。

リンゴの出荷動向

今月の報告書によると、生鮮消費用と加工用の動きに一部変化がある。ペンシルベニア州では生鮮リンゴの販売が増えており、ニューヨーク州も同様である。特にバージニア州では生鮮リンゴの販売が前年比10%増加した。オレゴン州でもまた、生鮮用の出荷が約10%増加した。

品種別出荷量では、これまでにハニークリスポは83%増の1,100万ブッシェル、レッドデリシャスは1,200万ブッシェル(前年比約30%増)で、コズミッククリスポは61%増加した。5月時点の合計在庫量は、昨年の同時期に比べて33%多い。

生鮮リンゴは大部分が10月から5月にかけて出荷されるが、好調な荷動きの鍵は8月と9月にある。ガーラック氏は「8月、9月とシーズン序盤はかなり良かったが、まだ足りない。過去最高を記録した2014年のシーズンに比べて、シーズン序盤の出荷が400万ブッシェル足りなかった。これまでのところ、業界の出荷量は約1,400万ブッシェル遅れている」と述べつつ、4月までの時点で昨年に比べれば19%多いと付け加えた。

動きが鈍化しているのは、加工用のリンゴ部門である。同氏は、「それは、昨年から非常に好調な年だったことと大いに関係がある。加工業者達は貯蔵庫を満杯にしており、今シーズンの初めには加工用の売り先が本当になかった」と言う。

大所のワシントン州を含む複数の地域が豊作であることは別として、リンゴの在庫がまだこれほど多い理由は他にもある。同氏は、「特にハニークリスポやコズミッククリスポなどの多収性品種で、新植した園地からの出荷が始まっている。そのため、現在ある園地の生産性が向上している。また、果実の品質と保存方法も向上しているため、出荷可能量も増えている」と言う。

輸出入

一方、輸出については、米ドル高により、輸出はより高価になり、輸入は相対的に安価になっている。ガーラック氏は、「2014年から2015年にかけての豊作以来、輸入品を国産リンゴに置き換えるという大仕事を行ってきた。その豊作シーズンの後、輸入業者らは輸入を断つことができた。輸入を巡る状況は今や大いに難しい状況になっているため、それ(輸入を断つこと)はもう起こらない。」と言う。例えば、2014-15年度の国内の大豊作の前、2014年の生鮮リンゴの輸入量は990万ブッシェルであった。2023-24年度の生鮮リンゴの輸入量は520万ブッシェルで、この10年間で48%減少した。

また、内需の減少も対処すべき問題であり、業界は引き続き調査を続ける。

輸出については、今年のリンゴの輸出量は昨年を大幅に上回り、これまでに1,100万ブッシェル増加した。ガーラック氏は「輸出は10年前ほど多くない」と言い、貿易政策、ドル高、輸送コストの上昇等がすべて要因になっていると指摘しつつ、「理由が何であれ、以前ほど多くのリンゴを海外に出荷していない」と述べた。

同氏は、市場の違いについて、メキシコへの出荷が年初来48%増加したのに対し、カナダは減少していると指摘し、「インドはシーズンの初めに報復関税が撤廃されて以来、ものすごい勢いで戻ってきている。昨年のこの時点の3万1千ブッシェルに対し、今年はすでに170万ブッシェルに達している」と述べた。

価格とコストの動向

残念ながら、リンゴの価格はデフレ状態にある。「今シーズンに向けてリンゴの生産コストは34%上昇したが、価格は収穫以降に11%下落し、多くの生産者が赤字で販売している。こうした傾向は持続可能ではなく、特に労働面で何か手を打たなければ、こうした多世代にわたって経営されてきた農場の多くが手を引くことになるだろう」とガーラック氏は言う。

今後の展望

2024-25年度の収穫を見据えると、霜に関して大きな問題はなく、力強い開花が報告されている。ガーラック氏は、「改植は続いているが、生産が始まる新植園地はそれほど多くない。市場の状況を考えると、2年後の引き渡しに向けた今年の苗木の注文は多少減少する可能性がある」と言う。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

73. ブラジル 洪水はリンゴの生産と輸出に影響しない

FreshPlaza 2024年5月17日

ブラジルのリオグランデドスル州では、4月以降の豪雨により過去2週間にわたって洪水が発生し、同州の産業連盟(Fiergs)によると、497の町のうち450町が被災し、大部分の産業が影響を受けた。残念ながら死者数は151人に上っている。洪水面積は2005年にニューオーリンズ市を襲ったハリケーン・カトリーナの被災面積を上回り、経済的被害は最近のパンデミックよりも大きくなると予想されている。

ブラジルの青果物輸出会社Tフルーツ社の営業・事業スペシャリストであるカロリネ・ヴィエシリ氏は州都ポルトアレグレからコメントし、同社では直接的な雨の影響は受けていないとしつつ、「この状況では、復旧は困難でゆっくりとしたものとなり、現代的な生活と気候変動に適応するため市街地とインフラについて賢明な再計画が必要である。度重なる厳しい気象現象は、これらの問題に取り組むことの緊急性と、危機の中でも新たなチャンスがある可能性を浮き彫りにしている」と述べた。

同氏は、農業関係では、リオグランデドスル州の果実生産は、リンゴ以外は主に地場市場向けであり、ブラジル全体の生産量と輸出量に大きな影響を与えることはないと言う。しかし、同州は穀物と家畜の生産、特に米の生産において重要な役割を果たしており、国内の生産量の約70%を占めている。政府は国内の価格上昇を抑えるため、コメの輸入を検討している。

同氏はさらに、「Tフルーツ社は、雨の影響を受けていない隣接のサンタカタリーナ州にある日系のサンジョ協同組合と提携したリンゴの輸出事業を継続する。物流上の課題、特にリオグランデ港を輸送に使用していたにもかかわらず、弊社は輸出をうまくやり続けた。弊社は、上半期にハスアボカドの輸出に注力した後、サンジョとの提携事業であるリンゴの輸入とブラジル全土での流通を強化し、別の長年の提携企業であるインターフルーツ社とのショウガの輸出を再開する計画である」と説明した。

洪水被災者を支援するための国際的な呼びかけ

ブラジル南部のリオグランデドスル州で発生した最悪な洪水の状況を毎日追跡している州の民間防衛局の最新の報告では、この洪水により151人の死亡が確認され、104人が未だ行方不明になっている。被災した自治体は合計461で、州内の数百の市町村が完全に浸水し、被害を受けている。避難所にいる人は合計7万7,199人、家を迫られた人(避難民)は現在54万192人で、州全体で228万1,830人が影響を受けている。ブラジル当局は、初期の推定では多額の被害が出ているが、まだ救助活動が続いているとしている。被害を受けた町の中には、再建が必要なものもあれば、将来の洪水や自然災害を嫌って町の一部の移転を示唆しているものもある。

雨は止むことなく、州都ポルトアレグレの洪水を引き起こしたグアイバ湖の洪水水位は連日の豪雨で上昇している。専門家らは、降雨量にもよるが、水位が下がるのに数週間から1カ月かかる可能性があると言う。

国際赤十字は、被災地への人道支援を拡大するため、800万スイスフラン(884万ドル)の国際ドナー基金を募っている。リオグランデドスル州政府は、洪水被災者を支援する資金を調達するためのウェブサイトを運営している。

ヴィエシリ氏は、「弊社は、被災していないという立場を活かして、直接被災した人々や弊社の近隣の人々の復旧活動を支援することを目指している。弊社は、ガウーショの精神である困難からの回復力、勤勉さ、そして土地と祖先との深いつながりを重視し、物流上の問題にもかかわらず、我々が愛するポルトアレグレの街にとどまることを約束する。弊社は、危機を克服するために不可欠なガウーショと民間セクターの連帯と集団的努力を具体化する。また、このような時に受けた全国的な支援に感謝している」と述べて締めくくった。

執筆者: クレイトン・スワート

訳注 ガウーショ(ガウチョ)は、スペイン人と先住民やその他の混血の人々

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

74. ペルー産 生食用ブドウは新品種が従来品種を大きく上回る

[FreshPlaza](#) 2024年5月17日

ライセンス品種の栽培面積が伝統的なブドウ品種の栽培面積を大きく上回る

ペルー輸出業者協会(ADEX)は2022-23年度出荷シーズンの終わり(2023年7月)に、テレビペルーのニュースサイト [TVPerú Noticias](#) で、ペルーが再び生食用ブドウの世界有数の輸出国になったと発表した。国連食糧農業機関(FAO)のデータ(2022年)によると、出荷量は52万6,857トンに達した。

ペルーのブドウ部門の過去20年間の成長は目覚ましく、2001年設立の非営利団体プロビッド(Provid: ペルー生食用ブドウ生産者協会)の成長と密接に関連しており、同団体は現在、ペルーの生食用ブドウ輸出量の70%以上を占めている。

ペルー農業防疫局(SENASA)のデータによると、2023-24年度シーズンの生食用ブドウの栽培面積は2万2,343ヘクタールで、イカ県(南部)が49%、ピウラ県(北部)が37%を占めている。

プロビッドのマヌエル・イザガ会長は「生食用ブドウの輸出シーズンは順調に進んだ。政治的に安定していたおかげで道路封鎖もなく毎週順調に輸出できたほか、北米や南米の他の地域での悪天候により市場への供給量が少なかった。実際、ペルーの輸出シーズンが始まった第38週頃(9月後半)の市場はほぼ空っぽであった」と話す。(以下「」は同氏の発言)

30年前にペルーで植えられていた主な品種は、クリムゾン、トンプソン、フレイム、スグラオーネであり、その後、アジア市場が開かれた後にレッドグローブも植えられた。「しかし、2015年以降、レッドグローブは供給過剰により市場価値を失い始め、多くの生産者が伐根するようになった。レッドグローブの価格は2020年に再び上昇し始めたが、中国市場の経済的困難により、直近年には再び価格が下落した。」

2023-24年度シーズンに最も栽培された品種は、スイートグローブ(22%)、レッドグローブ(16%)、オータムクリスプ(14%)、シーゼン20(商標名アリソン 7%)、スイートセレブレーション(5%)で、オータムクリスプは前年比で目立って増加し(+47%)、レッドグローブは減少傾向にある(-13%)。

昨シーズンの栽培面積は、種無し白ブドウが54%を占め、種無し赤ブドウが25%、レッドグローブが16%、種無し黒ブドウが5%であった。白ブドウ品種では増加傾向が見られ、赤ブドウ品種は減少した。

栽培面積の75%はライセンス制のブドウ品種で、25%が従来からの品種であったが、わずか4年前までは従来品種がライセンス制の品種を上回っていた。「クリムゾンやトンプソンなどの従来品種は、輸出に適した品質の箱数が十分に揃わないため足場を失った。」

ライセンス制の品種に関しては、インターナショナル・フルーツ・ジェネティクス(IFG)社とSNFLグループ(これら2社は、現在はブルーム・フレッシュ社として統合)とサンワールド社の3社が主要な育種企業であり、それぞれがライセンス供与総面積の50%、25%及び22%を占めている。

輸出に関しては、2022-23年度シーズンに7,140万箱(8.2kg/箱)が海外市場に出荷され、記録を更新した。出荷の約90%は第40週(10月上旬)から第3週(1月半ば)の間に行われ、出荷のピークは第47週と第48週(11月下旬~12月上旬)であった。「しかし、昨シーズンはエルニーニョの影響で輸出が12%減少した。ペルー北部では、湿度が高いため作物が影響を受けた。ピウラ県とランバイエケ県からの出荷は、それぞれ30%及び40%減少した。」

「次の出荷シーズンに何が起きるかはまだわからない。しかし、ラニーニャ現象の影響で気温が下がるので、供給量が増える可能性があると思う。」

2023-24年度シーズンには、ブドウ出荷量の59%が北米向け、21%がヨーロッパ向け、13%がアジア向けであった。米国(46%)が最大の輸出先で、オランダ(12%)、メキシコ(9%)、中国(8%)がそれに続いた。

同会長によると、ペルーの生食用ブドウ部門の発展は、栽培とそのリスクに関する生産者の知識の程度に依存する。「我々は『短期主義』に流されてはいけない。果実の品質とコストの管理に重点を置く必要がある。そして、コスト削減について話す時、私は労働費について言及していない。なぜなら、労働者は公正な賃金に値するからだ。実際、ペルーの生食用ブドウ部門の労働者に支払われる給与は、政府が定めた最低賃金を超えている。これは、この国の労働市場が需要と供給の原則によって支配されているためである。」

ペルーの生食用ブドウ企業上位10社は、その真剣な取り組みと専門的な仕事ぶりが認められている。「ペルーの農業部門全般にとってのもう一つの大きな利点は、国の通貨の安定性である。ペルー中央銀行はいかなる政治権力にも依存しないため、インフレ率を低く抑え、為替レートの変動を防ぐことができる。」

75. 南アフリカ 品目の多様化でアボカドの生産が増加

EUROFRUIT 2024年5月22日

生産者らが新たに開拓する生鮮果実を探しているためアボカドはケープ地域の新しい話題となっている

南アフリカのケープ地方の南部と西部でアボカドの生産量が増加しており、果樹生産者が農業ビジネスを多様化していると言われている。ケープ地方では、すでに1千ヘクタールのアボカドの栽培が報告されており、これは現在、国内のアボカド栽培面積の約5%を占めている。

南アフリカの様々な地域の生産者が異なる気候区分で新しい品目を模索しているため、現代的な果樹農業に不可能なことは何もないように思われる。これには、これまで新しい品目が真剣に検討されてこなかった場合もあれば気候変動が原因の場合もある。

その一例が、低温要求の少ないリンゴ品種の開発であり、国の北部やナミビアでさえもリンゴを植えることを可能にしている。また、これらは従来の品種よりも早く熟するため、通常よりも早く販売することができる。

また、ケープ州はこれまで常にブルーベリーの主産地であり、当面はそれが続く可能性がある。しかし、近年、国の北部でブルーベリー栽培が急速に拡大し、より長期間にわたって輸出市場に供給できるようになった。南アフリカがインドや中国などの東方の主要な消費市場にアクセスできるようになると、北部地域は国の東部の港からこれらの市場に供給するのに理想的な位置にあるため、同地域での拡大が続くと予想される。

もう一つの例は、アボカドの生産がケープ地方の南部と西部に広がっていることである。これらの地域の収穫は10月から12月の間、さらには1月までで、生産者は過去よりもはるかに遅くまで果実を出荷することができる。伝統的な品目の生産規模が非常に大きいため、こうした新しい動きは取るに足らないことのように見えるかも知れないが、それでも重要である。これらの地域での生産量の増加は、従来オフシーズンであった時期の供給を増やすだけでなく、以前は不可能だった年末に向けた輸出も可能にする。また、南アフリカは国内市場向けのアボカドを自給自足できるようになった。

亜熱帯果樹生産者協会(Subtrop)のデレック・ドンキン氏によると、ケープ地方の南部と西部の地域は、霜が降りない場所を選べばアボカドの生産に非常に適している。同氏は、「世界中の国々の地中海性気候の土地はすべてアボカド産地であり、これらの地域で生産者がアボカドを植えるのは当然である」と説明した。

最新の情報によると、アボカド果樹園は現在、西ケープ州のソマセットウェスト地区近くのヘルダーバーク盆地と、ベルク川近くのリービークカスティール地区にも設置されている。ソマセットウェスト近くのローレンスフォード果樹園(詳細省略)は現在、カーステン・グループによって管理されており、生産責任者のピエ・デュ・プレシス氏は同果樹園にはすでに15ヘクタールのアボカドがあると言い、「まだ始まったばかりだが、事業の進み方に非常に満足している」と述べた。

西ケープ州の他の地域では、リービークカスティール地区の果樹園はまだ非常に若い。当面は、ジョージ地区からハイデルバーク地区までの地域が主な産地であり、これらの晩生の地域はすでに全国の収穫量の5%を占めている。

執筆者: フレッド・メインチェス

76. トルコ サクランボの出荷が本格化へ

[EUROFRUIT 2024年5月22日](#)

トルコの早生のサクランボ産地で気温が高かったために比較的遅いスタートを切った後、大量のジラート0900品種が入荷するにつれて出荷シーズンが本格化へ

パルラフルーツ社ケリム・タネル会長によると、トルコのサクランボは今シーズンの収穫が早く始まったにもかかわらず、国内市場への出荷は遅いスタートとなった。(以下「」は同会長の発言)

「弊社は今週、早生のサクランボ品種で国内市場向けにゆっくりとスタートした。収穫は少し早めに始まったが、トルコの早生地域では高い気温と暖かい風のために花が影響を受けて着果が少なくなっているため、収量が非常に限られている。」

同会長によると、出荷量はまもなく上向くが、総出荷量は平均を下回ると予想される。

「たとえ全体の収穫量が通常より少ないと推定されとしても、今後数日から数週間はジラート0900品種の収量が増える予想している。この期間は暑くて晴れるとの天気予報が出ている。我々は、樹上の果実を利用する機会を得られるよう、収穫期間中の雨が少ない事を願っている。」

トルコのニュースサイト「レイリーニュース」によると、ドイツは2023年に9,550万米ドル相当のトルコ産サクランボを輸入した最大の輸入国であり、ロシアとオーストリアがそれに続いた。

エーゲ海地方生鮮果実・野菜輸出業者協会のハイレッティン・ウチャク会長は、「我が国は72万5千トンの収穫量を誇る、突出して世界一のサクランボ生産国であり、輸出量でも世界の上位4カ国に入っている。輸出で上位3カ国に入ることを目指している」と述べている。

ウチャク氏は次のステップは東アジアの国々、特に中国との植物検疫証明の合意について確認することであり、チリに倣って航空貨物の利用を拡大することだと述べた。同氏はマニサ県シェザデル地区のサクランボ園を訪問した際、今シーズンの目標は、12万トン、3億米ドル相当のサクランボを輸出することだと語った。

執筆者: トム・ジョイス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

77. 欧州 オレンジ果汁価格が主産地の生産減少で大幅に上昇

[FreshPlaza 2024年5月24日](#)

オレンジ果汁の価格は、主要産地での生産量の減少により77%と大幅に上昇している。影響を受けている主な地域は米国フロリダ州とブラジルのサンパウロ州等で、これらを合わせると世界市場の85%を占めている。ブラジルはオレンジ果汁製造量の99%を輸出しており、米国と並んでオレンジ果汁の国際価格を設定する上で極めて重要な役割を果たしている。

この状況は、ヨーロッパでの価格の高騰と入手のしにくさにつながり、消費者に影響を与えている。冷凍濃縮オレンジ果汁の先物契約は、より広範な生産、輸出、包装のコスト上昇の傾向を反映して、ロッテルダムに到着した時点でトン当たり6,500ドルに高騰している。しかし、これらは価格高騰の主な要因ではない。

ブラジルの柑橘類栽培防衛基金(Fundecitrus)と米国農務省(USDA)の最近のレポートは、業界が直面している課題を浮き彫りにしている。前者は、ブラジルの収穫量が24%減少して36年ぶりの低水準を記録する見込みだと指摘し、後者は米国の生産量はわずかに増加するが2年前よりも大幅に少ないと予測している。

干ばつとカンキツグリーニング病(黄龍病)は、フロリダ州とブラジルの両方の作柄に深刻な影響を与え、生産量の減少を悪化させている。さらに、メキシコやスペインなどの他の主要生産国は、干ばつ状態のために生産量が30%減少したと報告している。

出典: euronews.com

78. ペルー 2024年のマンダリンの出荷は良い見通しで始まる

[FreshPlaza 2024年5月27日](#)

輸出業者ペルーMcフルーツ社のCEO兼オーナーであるマニエル・カナレス氏は、「ペルーの2024年のマンダリン出荷シーズンは、良い見通しで始まっている。例年の販促キャンペーンの開始日にはまだ達していないが、ほとんどの産地で、果実は着色、そして何よりも大きさの点で順調に成長していることがすでにわかっている」と述べている。(以下「」は同氏の発言)

同氏は、ペルー全土の産地の多くの柑橘類農場を訪れ、マンダリンやその他の果実がどのような状態かを直接見てきた。「弊社が生産及び集荷している品種は、マーコットとマルバジオである。これらは果皮が厚く、種有りと種無しがあり、品質的には様々な市場向けにプレミアムなカテゴリー1とカテゴリー2がある。この出荷シーズンには果実のサイズが大変好ましく、サイズ1X〜3X(大玉)に集中しており、サイズ2と3は少ない。」

同氏は、柑橘類の主な市場は中国と米国だと言う。「今シーズン、輸出業者として開拓する予定の新市場は、ヨーロッパと南米である。通常、中国市場では着色がT3〜T1で、サイズが2X〜3Xのものが求められるが、米国市場では色がT1〜フルカラーで、3X以上のものが好まれる。この多様な需要は、当社のすべての規格を販売する良い商機を意味する。これらの市場での当初の価格は、1箱当たり12.5ドル以上である。」

カナレス氏は、エルニーニョ現象の好ましくない天候パターンは過去のもののようだと言う。「現在、10ヘクタールの自社農場に加えて、10人の契約生産者がいる。柑橘類の出荷シーズンは5月20日から10月の第2週までと予想されている。エルニーニョ現象は、今年のペルーの柑橘類生産に悪影響を及ぼしていないようだ。それどころか、4月の第2週以降の天候は非常に良好で、果実の着色と肥大に恩恵をもたらし、生産者と取引先にとって有益である。この出荷シーズンには、エルニーニョの影響はもはやないと推測できる。冬は例年ほど寒くはなかったが、柑橘類の出荷シーズンの良いスタートを切るには十分であった。マンダリンの収穫の後、主に米国、カナダ、中国向けのブルーベリーの収穫と輸出が続く。」

アボカドの市場価格は不安定

「アボカドに関しては、市場は価格の変動が多く、大玉の需要が高いため今年の収穫物では十分に満足できない。かなりの数の中玉と小玉があり、小玉が最も多い。」

執筆者: クレイトン・スワート

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

79. オーストラリア 3つのマンゴー新品種を導入

[FreshPlaza 2024年5月28日](#)

オーストラリアのマンゴー生産者であるマンブルー社は、国のマンゴー育種事業によって25年以上かけて開発された「Yess!」「AhHa!」及び「Now!」の3つのマンゴー品種の商業的流通を進めている。

同社は、キャサリン市(北部準州)近郊のバロンギリー農場に約4千本のこれらの品種を植栽した。さらに、クイーンズランド州では、同社の商業的戦略の一環として、26の生産者が2万本を植栽した。同社の執行役員であるマリー・ピッコーネ氏は、新規植栽の大部分はクイーンズランド州で行われており、ニューサウスウェールズ州、西オーストラリア州、及び北部準州に拡張する計画があると強調した。同社は、収益性の高い取引先の需要に合わせて出荷量を調整することを目指しており、当初は国内市場に焦点を当て、収益性と国内の需要によっては将来の輸出の可能性もあるとしている。同氏は、これらの品種の食味の特性から、世界市場での可能性を強調した。

出典: abc.net.au

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

80. フィリピン 日本のアボカド市場に目を向ける

FreshPlaza 2024年5月28日

フィリピン農業省(DA)は、約1億5千万ドルの市場への参入を目指し、ハスアボカドの輸出を開始するために日本と協議している。フランシスコ・ティウ・ラウレル・ジュニア農業大臣は遠藤和也日本大使との会談で、年内の市場アクセスの確保に楽観的な見方を示した。協議は、フィリピン産アボカドを日本に輸入するための植物検疫要件に関する作業計画が概ね合意された段階にまで進んでいる。この進展は、韓国へのアボカド輸出交渉の成功に続き、高価値作物の輸出の可能性を高めるという同省のより広範な戦略の一環である。

ニュースサイト philstar.com によると、日本のアボカド輸入額は2023年に約1億6千万ドルに達し、現在8つの国際市場にアボカドを輸出しているフィリピンにとって大きなチャンスとなっている。しかし、同国の2023年のアボカド輸出は減少し、前年比30%減の104万トンとなった。

ティウ・ラウレル大臣は、アボカドに加え、主要輸出品であるフィリピン産バナナの競争力強化と日本での市場シェア拡大のため、関税の引き下げを訴えた。また、家禽加工品の輸出を促進するため、日本がフィリピンの鳥インフルエンザの状況を評価する際に地域別の評価を検討する可能性についても議論された。

農業部門は輸出拡大のために日本の支援を求めている

同大臣は日本大使との会談で、フィリピンの農産物の日本向け輸出の強化を提唱した。農業省は、フィリピン産バナナの関税引き下げ、生鮮アボカドの市場アクセス、マンゴー輸出の復活、日本への家禽加工品の輸出における地域別評価の可能性を特に取り上げた。

バナナはフィリピンの日本向け主要輸出農産物であり、2020年から2023年までの4年間の合計輸出量は340万トンに達した。農業省は、関税の引き下げにより、日本における定番であるフィリピン産バナナの競争力を高めることができると強調した。2024年1月から4月15日までの日本向けバナナ輸出量は24万1,282トンで、キャベンディッシュ種のバナナが日本市場の大部分を占めている。

出典: manilastandard.net

81. 海上コンテナ運賃 主要航路のスポットレートが急騰

FreshPlaza 2024年5月28日

アジア - ヨーロッパ及びアジア - 米国の主要航路で急騰

ドリュエリー・ SHIPPING コンサルタンツ社の総合指数は、過去1週間で16%上昇し、前年同期比142%増の4,072米ドル(40フィートコンテナ当たり。以下同じ)に達した。需要の急増は、アジアの悪天候等の物流上の課題や船の欠航と相まって、運賃の高騰を後押ししている。同社のサイモン・ヒーニー氏は、急激な上昇の意外性を強調し、関係する要因が複雑なため、正確な原因を特定することは難しいと述べた。

上海から様々な目的地への運賃は大幅に上昇した。上海 - ロッテルダム間は20%上昇して4,999米ドル、ロサンゼルス行きは18%上昇して5,277米ドルとなった。さらに、ジェノヴァ行きは15%上昇して5,494米ドル、ニューヨーク行きは13%上昇して6,463米ドルとなった。これに対し、ロッテルダムからニューヨーク、ロッテルダムから上海など、一部の路線の料金はわずかな変化に留まった。

ドリュエリー社は、今年は輸送能力が既に100万コンテナ分(20フィートコンテナ換算)追加され、さらに月平均25万コンテナ分(同)増加することから、現在の運賃の急上昇は一時的な状況であると予想している*。また、在庫の補充や繁忙期の前倒しが需要に与える潜在的な影響についても指摘している。アジアの港湾における操業上の問題は、船舶の不足とそれに伴う欠航によって悪化し、状況をさらに難しくしている。ヒーニー氏は、一部の輸入業者は、潜在的なサプライチェーンの混乱の影響を軽減するために、在庫に余裕を持たせている可能性があるとし唆している。(*: 出典元の記事を参考に一部修正しました。)

出典: container-news.com

82. 米国 サクランボはワシントン州産に移行

[The Packer 2024年5月29日](#)

ステミルト社がカリフォルニア州産からワシントン州産へのサクランボの移行を詳述

ステミルトグロウワーズ社のブリアナ・シェールズ販売課長は、6月にカリフォルニア州からワシントン州にサクランボの出荷シーズンのバトンを渡すと言う。(以下「」は同氏の発言)

同氏によると、ワシントン州ウェナチー市に本拠を置くこの業者は、国内最大の甘果オウトウのサプライヤーの1つであり、ワシントン州産サクランボのリーダーである。同社は、慣行栽培と有機栽培のサクランボを生産し、主要なタイプはダークスイート、レーニア及び自社ブランドのスカイラーレイの3つである。同社は有機サクランボのリーダーでもある。

「ダークスイートに分類される商品には、収穫時期の異なる複数の品種がある。弊社は、果肉がしっかりとて、甘みがあり、深みのある色のサクランボを生み出す新しい遺伝子に投資している。ワシントン州にはスキーナ品種が大量にあるほか、6月に出荷できる複数の新品種もあり、喜ばれること間違いなしである。」

「弊社が力を入れているコールドチェーンを通じて、サクランボの出荷シーズンの始めから終わりまで新鮮なサクランボを小売業者に供給する能力は、弊社を他社と真に差別化するものである。」

長い出荷シーズン

シェールズ氏によると、ステミルト社は出荷期間が業界で最も長く、4月下旬のカリフォルニア州産のサクランボから始まり、8月のワシントン州の標高の高い地域のサクランボまで、毎日途切れることなく供給している。

カリフォルニア州の収穫はすでに始まっており、4月下旬から6月中旬まで行われ、ワシントン州では6月上旬に始まる予定で、6月と7月には十分な供給が見込まれている。シェールズ氏は、ワシントン州のサクランボのシーズン後半の収穫量が少ないため、8月の出荷量が大幅に減少するだろうと述べた。

「小売業者は、今年は終盤のサクランボの収穫量が少ないため、6月と7月にサクランボの売り上げを稼ぐ必要がある。弊社は、小売業者がシーズン中のチャンスを最大限に活用できるよう支援し、優れた品質と鮮度を提供することに注力していく。」

昨年のサクランボ作は、カリフォルニア州とワシントン州の収穫が重なり、ワシントン州の収穫時期が短縮されたため困難であったが、シェールズ氏は、2024年の収穫がそれと異なるのは朗報だと述べた。

カリフォルニア州は昨年豊作だったが今年も同様で、出荷量は現在、1,020万箱(18ポンド(約8.2kg)/箱)と推定されるという。一方、北西部の第1回業界予測は、2,090万箱(20ポンド(約9kg)/箱)で、昨年よりも多い。昨年との主な違いは、2つの州の重複が少なく、小売業者はシーズン中に販売できる週が増えることである。

「カリフォルニア州では、4月下旬に収穫が始まっており、タイミングがはるかに良い。我々は今、販売促進を盛大に行う時期に入っており、メモリアルデー(戦没将兵追悼記念日の祝日。毎年5月の最終月曜日)に向けた販促を実施することができ、販促可能な量を6月上旬まで維持することができる。ワシントン州は6月上旬に出荷を開始する準備ができており、6月の大規模な店頭での展開と、重要な7月4日(独立記念日)に向けた販促の絶好の機会があると考えている。」

シェールズ氏は、7月のサクランボの供給は良好だが、8月には出荷量が急速に減少するだろうと言う。「これは、高地の果樹園が1月に低温に見舞われて被害が発生し、収量が大幅に減少したためである。サクランボの出荷は昨年よりも早く終了するが、販促の機会はまだ十分にある。素晴らしい品質とサイズを見込んでおり、鮮度を第一に考えて努力する。」(以下省略)

執筆者: トム・カースト

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

83. 南アフリカ 東欧がアボカド需要を喚起

FreshPlaza 2024年5月29日

南アフリカの北東部とモザンビークの南部で亜熱帯作物を栽培するサンリーブド社のヨアキム・プリンスルーCEOは、「弊社のピンカートン種のアボカドは、天候によるダメージがほとんどなく、外観が非常に良くて上出来だ。アボカドの収穫は半ばであり、今はハス種で忙しい。ハス種もきれいな外観である。サイズは、入数18と20が最も多く、平均的な大きさである」と述べている。(以下「」は同CEOの発言)

ピンカートン種は、ノルウェー、東ヨーロッパ諸国、ロシアなど、アボカドを食べ始めたばかりで、バイヤーが西ヨーロッパ諸国ほど品種や大きさにこだわらない国における入門的なアボカド品種である。

プリンスルー氏は、同社のアボカド(バナナ、ショウガ、マカダミアナッツ等同社の総販売額のわずか5%に過ぎない)は、非常にうまく扱われていると言う。「弊社のアボカドはフルーツファームグループによって販売されている。アボカドに関しては、これ以上の業者はいないと思う。私の見たところ、彼らはアボカドの商売でかなり先行しており、それは価格水準だけでなく、社内の活気と南アフリカの素晴らしいアボカドチームについても言えることである。同チーム(個人名省略)は、常に生産者と連絡を取り合い、輸出業者とも連絡を切らさず、輸出業者が満足していることを確認している。」

アボカドの継続的な供給により価格が下がる

同氏は、南アフリカのアボカド生産者協会がアボカドの消費を刺激するために長期にわたって実施しているキャンペーンにもかかわらず、国内ではアボカドの消費量が昨年から拡大していないと述べている。

「輸出に関しては年々機会が増えているが、それは必ずしも他国との新たな貿易協定によるものではなく、より多くの国の消費者がアボカドを食べることに慣れてきたからだ。それは、特にヨーロッパの東側諸国である。」

しかし、国内市場の重要性が低下することはない。「弊社は国内市場を同等に重要視しているので、多くのクラス1の果実を国内で販売している。我々には、プレミアムな果実が南アフリカの国内市場にも確実に投入されるようにする責任がある。」

国内の多様な微気候の土地に果樹園がモザイク状に並んでいるため、最近の南アフリカ国内ではアボカドがほぼ周年供給されている。このアボカドの豊富さが価格も押し下げ、アボカド栽培は利益が出にくくなってきていると同氏は言う。

「ヨーロッパからは、諸経費を差し引いた金額で4kg箱当たり60ランド(3ユーロ)が入ってくる。例えば4年前に受け取った金額が経費を差し引いて1箱当たり100ランドであったことを考えると、価格は圧迫されている。これは間違いなく何ヘクタールものアボカドが植えられた結果である。」

(以下、マカダミアナッツについて省略)

執筆者: キャロライズ・ヤンセン

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

84. 南アフリカ ネーブルオレンジの輸出予測を14.5%下方修正

[FreshPlaza 2024年5月30日](#)

南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は今週のオレンジ品目別グループの会議の後、オレンジの輸出予測を下方修正した。現在、ネーブルオレンジの輸出量は2,200万箱(15kg/箱)と予測されている。これは、シーズン開始時の推定値である2,560万箱から14.5%の大幅な下方修正となる。新しい予測値はまた、南アフリカが海外市場に合計2,480万箱のネーブルを出荷した昨年に対して11%の減少となる。

CGAのジャスティン・チャドウィックCEOは声明で、今シーズンの予測値の調整を余儀なくされた要因はいくつかあると次のように指摘している。「現在、国内の搾汁用柑橘類の価格が高く、多くの生産者がこのチャンスを活用している。国の大部分で見られた暖かく雨の少ない天候のために、果実のサイズもやや小さくなっている。これは、昨年に比べて、15kg箱に詰め込む果実の個数が増えたことを意味する。また、西ケープ州では強風による落果が見られ、リンポポ州の一部(グロブラスダール地域及びマーブルホール地域)では雹の被害が発生した。」

ヨーロッパ市場でのエジプト産オレンジの増加も影響している。エジプトは南アフリカと季節が逆であるが、ヨーロッパ市場でのエジプト産オレンジの(現在のような)増加は、南アフリカ産の出荷シーズン初期の需要に影響を与える。

ネーブルオレンジは、南アフリカ産柑橘類の総輸出量の約17%を占めている。

バレンシアオレンジも4%の下方修正

バレンシアオレンジの輸出予測も5,600万箱強(15kg/箱)と、シーズン当初の予測から4%減少した。ただし、今はバレンシアの出荷シーズンの序盤であり、さらに減る可能性がある。昨年、南アフリカは5,200万箱のバレンシアを海外市場に出荷した。バレンシアは、柑橘類の総輸出量の約31%を占めている。

南アフリカのオレンジ生産量の全般的な増加は、今後10年間、緩やかな成長路線をたどる見込みであることに留意することが重要である。ただし、2024年の収穫量が増えたからといって、必ずしも輸出市場に過剰な量のオレンジが出荷されるわけではなく、それにより供給過剰のリスクは低くなる。

(関連記事)南アフリカ オレンジ果汁の価格高騰は輸出業者のチャンス

[FreshPlaza 2024年5月30日](#)

ブラジルの作柄の問題でオレンジ果汁価格が高騰

オレンジ果汁の先物は、ニューヨークのインターコンチネンタル取引所で大幅に上昇し、価格は過去1年間でほぼ2倍になった。この急騰は、ブラジルのオレンジの作柄に対する気象パターンの変化と病気による悪影響に起因している。ブラジルは米国カリフォルニア州と並んでオレンジ果汁の主要輸出国であり、一方、南アフリカは世界第2位の柑橘類果実の輸出国である。

世界的なオレンジ果汁不足に照らして、柑橘類生産者協会のジャスティン・チャドウィックCEOは、南アフリカを生産者にとっての潜在的な利点について論じた。同氏は、国内の加工オレンジ果汁の価格が、1トン当たり約1千ランドから3千ランド以上に劇的に上昇したことを指摘した。この価格上昇は、生産者が限界的な(低品質の)果実の一部を果汁生産に転用する機会を提供し、業界を後押しする可能性がある。

2023年に運輸公社の港湾運営の失敗がもたらした課題にもかかわらず、柑橘類輸出部門は季節的なタイミングのおかげでほとんど影響を受けなかった。しかし、チャドウィック氏は、新しい港湾設備への投資不足やインフラの老朽化が今年の輸出にリスクをもたらす可能性があるとして、次のシーズンへの懸念を表明した。

出典: ewn.co.za

85. ニュージーランド キウイフルーツの出荷開始に多くの期待

FreshPlaza 2024年5月30日

「生産者の間で前例のない楽観主義」

キウイフルーツの出荷シーズンの開始に当たり、ニュージーランドのキウイフルーツ生産者グループは、生産者の間でかつてないほど楽観的な見方があると報告している。執行責任者のコリン・ボンド氏は、一部の園地はサイクロン・ガブリエルの影響を受けたが、大半の果樹園は今年の収穫で収益を上げる軌道に乗っていると指摘した。ゼスプリによる1ヘクタール当たりの収益予測は昨年の数値を大幅に上回り、特にグリーンキウイ生産者の予想収益は昨年の6万4,930NZドルから7万5千～9万1千NZドルに増加した。ゴールドキウイ生産者は、前シーズンの14万3,537NZドルをわずかに上回る14万5千～16万6千ドルの収入を得ると予測されている。(1NZドル=約96円)

同氏は、まだシーズン序盤であると断りつつも、収量と市場価格の高さが大きな収益をもたらす可能性を強調した。ゴールドキウイフルーツのアジア向けの初出荷は、好調なシーズンの始まりを告げるものである。バックパッカーが大量に流入し、労働力の問題は解消した。ゼスプリのダン・マシソンCEOは、ニュージーランド産キウイフルーツへの旺盛な需要を強調し、同社は今シーズン、約1億9千万箱の輸出を見込んでいる。しかし、同氏は、特定のカテゴリーのキウイフルーツについては、市場の課題や為替レート、特に日本の円安の悪影響等のリスクについても指摘した。

出典: sunlive.co.nz

86. トルコ サクランボの出荷量は少ないが粒は大きい

FreshPlaza 2024年5月31日

トルコの青果物輸出業者の販売コーディネーターであるイギット・ギョキギット氏は、トルコ産サクランボの出荷シーズンがようやく始まり、さらに3つの地域で間もなく収穫が始まるとして、「弊アラナール社はまだ自社農場の収穫を開始していないが、契約生産者のサクランボの出荷を今週開始した。来週には自社の果樹園でサクランボを収穫する予定である。弊社の果樹園はトルコのマニサ、チャナッカレ、アフィヨンの3つの異なる県にある。アフィオン県では、6月末頃に収穫が始まる予定である」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

アラナール社2018年に国内最大のコングロマリットの1つであるタクフェン・ホールディングスに買収された。買収後、グループは主にサクランボ、イチジク、アンズ、スモモ、ブルーベリーの果樹園に巨額の投資を行った。ギョキギット氏によると、この投資により、アラナール社が収穫するサクランボの量が何年にもわたって毎シーズン着実に増加する。「まだ比較的若い果樹があるので、収穫量は年々増加する。約5年後には、自社の果樹園から年間2千トン以上のサクランボが収穫される見込みである。天候の影響で、今年はかなりの量の収穫が失われた。シーズン前には自社農場から600トンの収穫を予想していたが、最大400トンのサクランボが収穫できる見込みである。」

生産量が少ないことは、今シーズンが成功でないということではなく、同氏は昨年よりも品質が良く、粒も大きくなっていると指摘する。「今年はかなりの量のサクランボを失ったが、例年に比べて品質が良く、粒も大きくなると予想している。今年は、既存の取引先だけでなく、新しい市場からも大きな引き合いがある。例年どおり、今年もドイツが主要市場になると予想している。また、中欧と北欧での売上拡大も見込んでいる。今シーズンは、中東や太平洋アジア地域の新たな取引先とも協力していく。」

「トルコでは多くの地域でサクランボの生産量が大幅に減少した。そのため、今年は出荷量が例年の半分以下になると予想している。この販売量の減少により、厳しいシーズンになるだろう。トルコ産サクランボの需要は高まると思うが、出荷できる量が不足しているため、需要を完全に満たすことはできないかもしれない。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

87. 米国 ワシントン州のサクランボの出荷最盛期は6月中旬から

[FreshPlaza](#) 2024年6月3日

7月4日(独立記念日)の週末に向けてワシントン州のサクランボが供給のピークへ

ワシントン州では、サクランボの収穫開始が当初の予想からわずかに遅れている。CMI果樹園のジョエル・ヒューイト氏は、「今年の春は本当に穏やかだったので、サクランボの生育はここ数年ほど速く進んでいない。それは良いことだ。なぜなら、カリフォルニア州産がまだいくらか出回っており、重複が少ないほど皆にとって都合が良いからだ」と言う。(以下「」は同氏の発言)

同州の出荷は来週から始まり、6月10日の週に供給のピークに達し、そのピークは約4週間続くと予想されている。「このピークは通常、シーズン後半の収穫が好調ならば5〜6週間続くものだ。今年は1月の気温が低かったため、標高の高い果樹園の一部が被害を受けた。それらの果樹園では通常は7月下旬まで、または8月中旬ないしは下旬まで出荷が続くが、今年は夏の後半に市場に出回るサクランボが少なくなると予想している。我々から小売業者に推奨できることは、力強いスタートを切り、サクランボを宣伝し、目立つように配置して注目を引き、衝動買いを可能な限り取り込めるように、シーズン中ずっと力強く取り組むことだ。」

作柄に関しては、良いサイズの果実が果樹の間に非常に均等に実っている。均一な着果は、まだ樹上にあるサクランボにより多くのエネルギーと栄養素が供給されることで、高品質で大粒のサクランボができる可能性が高いことを意味する。「樹上のサクランボが多すぎると粒が小さくなってしまうので、摘花等の技術によって果樹当たりのサクランボの着果量を適切に保ち、このバランスをうまく管理することが健全なサイズのサクランボを育てる上で重要である。」

また、供給が順調なため、今シーズンは小売業者が同社のスカイレーチェリーやストロベリーチェリーなど、様々な種類のサクランボを検討するチャンスになるかもしれないと同氏は考えている。「レーニア種の生産量は昨年と同程度で、国内外で大きな需要があるようだ。今年は高品質のレーニア種と赤系のサクランボが十分に供給されている。」

祝日のタイミング

一方、今年は、収穫のスタートが遅くても、タイミングはワシントン州に味方しそうである。「今年のカリフォルニア州産は、メモリアルデー(戦没将兵追悼記念日。毎年5月の最終月曜日)に向けた宣伝を実にうまく行えたようだ。北西部(ワシントン州等)では出荷の最盛期が7月4日(独立記念日)に向けた宣伝のタイミングに当たり、これは素晴らしいことだ。」同氏はまた、ワシントン州の出荷シーズンを通して、メモリアルデーの週末の勢いを強いまま維持するべきだと指摘する。

ブリティッシュコロンビア州(カナダ。通常ワシントン州の次に出荷する)では、天候の問題により今シーズンのサクランボの収穫量が非常に少ないため、ワシントン州産の収穫期の終盤には需要圧力が高まるだろう。

小売価格は昨年よりも少し強気である。「カリフォルニア州からワシントン州に移行する米国産サクランボの全体的な供給トン数を見るとある程度安定しているため、小売価格も安定することを期待している。それによって、収穫期間を通じて価格を維持しながら、販売を進めるチャンスが得られる。」

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

88. オーストラリア 柑橘類産業へのブラジル産オレンジ危機の影響

FreshPlaza 2024年6月4日

オーストラリアの柑橘類産業は、国内の品不足を埋め、輸出を増やすことができるかも知れない

世界で年間約5千万トン生産されるオレンジのうちブラジルはその34%を占め、同国はオレンジ果汁の主要輸出国でもあって世界の供給量の約70%を占めている。しかし、ブラジルの2024-25年度シーズンのオレンジ生産量は、深刻な干ばつ、熱ストレス、及びカンキツグリーンング病の蔓延により24%以上減少すると予想されており、この収穫量は1980年代後半以降としては最小となる。この減少は、米国フロリダ州、イスラエル、スペイン、アルゼンチン等の主要産地でより広範に見られる減少傾向の一部であり、冷凍濃縮オレンジ果汁の記録的な先物価格を招いている。

濃縮オレンジ果汁の7大生産地 2023/24年度

65ブリックス換算濃縮オレンジ果汁製造トン数

15,000 110 万



Map: The Conversation • Source: United States Department of Agriculture

オーストラリアはオレンジの生産量が多いが、冷凍濃縮オレンジ果汁の輸入、特にブラジルからの輸入への依存度が高い。この依存は、オレンジ果汁や関連製品の供給不足と価格上昇につながる可能性がある。オーストラリアの柑橘類産業は、国内の品不足を埋め、輸出を増やす機会を得る可能性があるものの、高い生産コスト、労働力不足、大手スーパーマーケットチェーンが支配する市場力学のために課題は続いている。

オーストラリアの柑橘類生産者はどうすれば回復力を高めることができるのか？

オレンジ果汁の供給不足が続く中、オーストラリアの柑橘類産業の回復力を高めるかも知れない方策がいくつかある。大きな要因の1つは、総生産費の中で大きな部分を占める人件費の高さである。自動化を進めることで手作業への依存を減らし、生産コストを削減できる可能性がある。しかし、中小の事業者にとってはこうした技術の導入は難しい可能性があり、補助金による政府の支援が必要となっている。

さらに、販売チャネルの多様化は、生産者に力を与え、大型スーパーマーケットへの依存を減らす可能性がある。戦略としては、消費者への直接販売、ファーマーズマーケットへの参加の拡大、共同販売への取り組み等がある。また、果実加工施設の増設や国際市場へのアクセス強化を優先的にすることも推奨される取り組みである。

さらに、気候変動が農業・食品部門、特にオレンジ生産に与える脅威は重大である。気候変動に強い品種に関する研究を強化し、再生可能エネルギーに投資し、これらのリスクを軽減するために生産者に教育プログラムを提供することが推奨される。

出典: theconversation.com

89. ペルー 早生マンダリンの輸出は減少、晩生は平年並み

[FreshPlaza 2024年6月4日](#)

ペルーの果実・野菜セクターは、重要な輸出の使命を担っている。輸出は、果実や野菜を確実にかつ安定的に調製・梱包できる出荷業者、輸出業者、梱包保管業者に依存している。ワラル市に拠点を置く果実の処理・梱包企業として、生鮮果実の輸出業者に30年間サービスを提供してきたアグリユザック社はその1つだ。

同社幹部のバリサリオ A チアン・バスケス氏は、「季節ごとの取扱量の推計60%をマンダリンが、同じく35%をアボカドが占め、残りはマンゴー、ザクロ、ブルーベリー、ドラゴンフルーツである。弊社は、輸出業者から届いた果実を扱っている。出荷のピークは7月から8月である。現在、ウンシュウミカンなどの早生品種を扱っているが、エルニーニョ現象の影響で気温が高かったため開花と着果に問題があり、今年は収穫量が約40%減少した。一方、晩生のマンダリン品種は通常の量がありそうだ。これほど顕著な出荷量の減少は数十年ぶりであり、今後はこのような熱波にもっと頻繁に対処しなければならないかも知れない」と述べた。

同氏はさらに、「しかし、過度の暑さがウンシュウミカンの色や大きさに影響していないことは強調しておきたい。タンゴマンダリンは、ソフト柑橘類の出荷業者の間で人気が高まっているようだが、シーズンの終わりにはマルヴァジーアマンダリンなどの種有り品種も扱い、これは一般的にロシア市場向けである。梱包施設に入ってくる果実の約40%は国際市場の品質要件を満たさないマンダリンで、国内市場で販売される」と語った。

同社は、20トンコンテナ2,800個分に相当する量の果実を処理する。できるだけ多くの労働者を通年雇用するために、同社は取扱品目の多様化に取り組んでいる。業務のピーク時には、約600人の従業員を雇用する。同氏は、「しかし、最盛期には多くの出荷業者が労働者の雇用で互いに競合することから、最大の課題は十分な労働力を見つけることである。そのため、処理の自動化にも引き続き取り組んでいる」と述べた。

90. 韓国 果実・食品の関税低減を延長

[聯合ニュース 2024年6月4日](#)

^{チェンミン}崔相穆企画財政部長官は火曜日、インフレ抑制のため、果実の輸入関税引き下げを延長し、食料品の低減関税制度を導入すると発表した。

政府は、バナナ、パイナップル、マンゴー、サクランボなど28種類の果実に輸入関税割当による減税を適用しており、6月末までに終了する予定であった。

崔長官は、ソウルで開かれた物価関連閣僚会議の議長を務めた際に、この措置を2024年末まで延長することを決定したと述べた。

また、砂糖やコーヒー豆など12品目の関税引き下げを延長し、バターや全粉乳など7品目についても関税割当による調整制度を導入する。

同長官は、「インフレは徐々に落ち着いているものの、物価の水準が全体的に上昇して国民に負担をかけている。政府は物価のさらなる安定に努める」と述べ、企業に協力を呼びかけた。

韓国統計庁のデータによると、主要なインフレ指標である消費者物価は、5月には前年同月比2.7%上昇した。4月は同2.9%の上昇であった。2カ月連続で物価の上昇が鈍化し、3%を下回る水準にとどまった。

崔長官は、「追加的なショックがなければ、消費者物価(の上昇率)は下半期には2%台半ばかそれ以下で安定すると予想される」と付け加えた。

企画財政部は、今年の物価は2.6%上昇すると予想している。(聯合ニュース)

91. 台湾 日本が赤肉系ドラゴンフルーツの輸入を承認

[Taiwan News \(台湾英文新聞\) 2024年6月5日](#)

台湾にミバエが生息するため交渉に8年を要した

台北(台湾ニュース) - 農業部(MOA)は水曜日(6月5日)、8年間の交渉の末、日本が台湾からの赤肉系ドラゴンフルーツの輸入を承認した*と発表した。

[CNA](#)(中央通訊社)によると、生食用の果肉が白いドラゴンフルーツは2010年から輸出されていたが、果肉が赤または紫がかかった赤のものは、ミカンコミバエ及びウリミバエの影響を受けやすい。台湾にこれらの昆虫が生息していることが、日本が申請の審査にこれほど長い時間を要した理由である。

MOAによると、日本への輸出の基本的な前提条件は、果実の中心部を46.5℃とし30分間蒸熱処理を行うことである。動植物衛生検査検疫局(BAPHIQ)は5月に、夏季の果実の輸出に関する検査と認証の問題を扱うため、日本から2人の検査官を招聘した。

台湾は2023年に11品目1万8千トンの生鮮果実を日本に輸出し、輸出額は推定3千万米ドル(9億7千万台湾ドル)に上った。2016年に台湾が赤肉系ドラゴンフルーツの輸出を申請して以来、生鮮果実の合計輸出量は4倍に拡大し、日本は最大の市場となった。

MOAは、12カ国が台湾から赤肉系ドラゴンフルーツを輸入していると付け加えた。

執筆者: マシュー・ストロング記者

*参考: [一般社団法人全国植物検疫協会ウェブサイト](#)

92. チリ 果実輸出のアジア市場開放を推進

[FreshPlaza 2024年6月6日](#)

チリの農業畜産局(SAG)は、チリ果実輸出業者協会(「フルタス・デ・チリ」ブランド)とともに、2024-25年度の果実輸出シーズンに備え、チリ産果実の新しい市場への参入を促進するため、先週、日本、韓国、中国の植物検疫当局を訪問し会合を持った。SAGの代表交渉者であるホセ・グアハルド氏が率いる代表団は、SAGの専門家と民間部門の代表者で構成されており、リンゴなどのチリ産品をこれらのアジア市場に輸出するための植物検疫要件と交渉の進捗について議論することに集中した。

日本では、チリ産リンゴの市場参入に向けた進捗や、日本市場への参入が許可され規制区域内で生産されたすべての果実について、輸送中の低温処理を実施する可能性など、ミバエ対策について代表団の意見を述べた。また、日本による電子植物検疫証明書(e-Phytos)の導入についても議論した。

韓国では、病虫害対策について合意するための韓国動植物検疫庁(APQA)の専門家によるチリ訪問等、この市場を新しい果実に開放する段階に進めることに焦点が当てられた。会議では、チリと韓国の間で電子植物検疫証明書のパイロットプログラムが実施され、満足のいく成果を上げていることが強調された。

代表団は、駐日チリ大使及び駐韓大使と会談し、2025年大阪万博におけるチリ産食品の存在感の重要性や、韓国とのFTA更新に向けた協議の進展についてそれぞれ議論した。

チリは、2023-24年度シーズン中に3万2千トン以上の生鮮果実を日本に輸出した。主な輸出品はレモン、生食用ブドウ及びキウイフルーツであった。韓国には3万3千トン以上が出荷され、生食用ブドウとサクランボが輸出を牽引した。これらの協議は、アジア市場におけるチリ産果実の存在感を高め、2024-25年度輸出シーズンの条件を改善するために重要である。

出典: [simfruit.cl](#)

93. 世界のアボカド市場は「拡大に備える」

[EUROFRUIT 2024年6月5日](#)

ラボバンクの新しいレポートは、生産と貿易の増加による市場の変化を予測

世界のアボカド関連ビジネスを調査したラボバンク(オランダの金融機関)の最近のレポートは、生産と貿易の両方の増加を予測し、市場の変化を予想している。

ラボバンクの「食品及びアグリビジネスに関する調査報告書」によると、中南米地域が最大のアボカド輸出者としての地位を維持し、米国が引き続き主要な輸入国であり、業界はさらなる成長に向かって動いている。

同報告書は、「一部の地域では業界が細分化されているにもかかわらず、市場は統合に向かっており、特に南米では競争と利益率の圧迫が激化している」と概要を述べている。

生産と輸出

報告書によると、世界のアボカド輸出は2025年までに300万トンの大台を超えると予想されている。

中南米地域が引き続き最前線に立つ一方で、輸出の状況は多様化しており、予測によるとメキシコ、ペルー、コロンビアが最大のアボカド輸出国となる。報告書はまた、ブラジル、エクアドル及びその他の国々が輸出国として台頭してきているとしている。

欧州のアボカド市場の急成長は、スペインをはじめとするEUでの生産量の増加に拍車をかけている、と報告書は続ける。しかし、水の利用可能性がアボカド生産の大規模な拡大を制限する「重要な要因」であり、欧州での生産のさらなる面積拡大は期待されない。

アフリカは着実な成長を遂げており、ケニアは上昇軌道を維持し、モロッコの輸出は果樹の成木化に伴い「急増」している。

ラボバンクは業界関係者に対し、引き続き一歩先を行くために、「競争が激しく厳しい供給環境」の中でイノベーションを起こすよう促している。

米国が輸入記録を樹立

報告書によると米国のアボカド需要は高まり続けており、2023年の輸入量は前年比11%増の126万トン記録した。メキシコは引き続き米国への主要供給国であり、輸入の90%という「驚異的な」シェアを占める。

欧州では消費パターンが変化し、安定した供給条件を前提に2024/25年度のアボカドの購入量は増加すると予想されるが、「自給率の低さ」から輸入への依存度は高まると見られる。

ラボバンクの青果物担当シニアアナリストであるデビッド・マガーニャ氏は、「アジアと中南米諸国では未開拓の市場が成長の態勢を整えつつあり、チャンスは豊富にある」と説明する。(以下「」は同氏の説明)

「特に南米諸国は、販売促進やマーケティングの取り組みがあれば消費を増やせる機が熟している。アジアの輸入は2023年に前年比29%急増し、中国がその先頭に立っている。」

「ハスアボカドが引き続き大勢を占めると見られるが、ハスに似た品種、特に高い収量を期待できる品種が次第に普及していくであろう。」

「世界的な生産量の増加に伴い、業界は価格の圧迫に直面しており、米国及び欧州の市場では品質とサイズが極めて重要である。」

報告書によると、南米のアボカド産業は統合が進んでおり、大企業がますます業界を支配するようになっている。市場が、競争、利益率の圧迫及び通年供給の需要に対応するのに伴い、この傾向は続く予想される。

執筆者: カール・コレン

94. 南アフリカ アジア型カンキツグリーニング病の感染はない

FreshPlaza 2024年6月5日

南アフリカの柑橘類業界がアジア型のカンキツグリーニング病は発生していないと明言

南アフリカには、一般にアジア型のカンキツグリーニング病として知られているHLBがない。最近、アフリカ型の緑化病と呼ばれるHLBより害の少ない別の株が東ケープ州の都市部の庭木で検出され、メディアで誤ってHLBと報告された。南部アフリカ柑橘類生産者協会のジャスティン・チャドウィックCEOは、「最近、南アフリカでHLBが確認されたという誤った情報があり、混乱が見られたが、それは事実ではない」と述べた。

南アフリカからのこの断定的な声明は、広範に広まった「誤ったメディア報道」に対するものであり、CGAはそれがスペイン柑橘類管理委員会(CGC)による誤った非難につながったとしている。CGCは、アジア型、アフリカ型、アメリカ型の3つの異なる形態の柑橘類緑化病をHLBと見なしている。

チャドウィック氏によると、アフリカ型の緑化病とHLB(黄龍病、すなわちアジア型のカンキツグリーニング病。俗にイエロードラゴンと呼ばれることもある)の間には明確な科学的差異があり、後者は米国のフロリダ州やブラジルの一部などの柑橘類産地の荒廃を引き起こしている柑橘類の病害である。南アフリカ柑橘類生産者協会は南アフリカにはHLBは存在しないと断言し、このことを指摘して、業界に損害を与えている誤解を招くような発言を一掃することが重要であるとした。

HLBとアフリカ型の柑橘類緑化病は異なる

ポートエリザベス市(現地語名ゲベハ市)の庭木でアフリカ型の緑化病が検出されたのを受けて、南アフリカの農業省(DALRRD)と柑橘類研究インターナショナル(CRI 非営利の研究機関)が行動を起こした。この活動の一環として、同市とその周辺地域で意識を高めることが決定された。チャドウィック氏によると、南アフリカの東ケープ州の地元紙は、アフリカ型の柑橘類緑化病がポートエリザベス市の近郊で検出されたと2024年5月20日に正しく報じた。チャドウィック氏は、「しかし、他のメディアは誤って、アフリカ型の柑橘類緑化病ではなくHLBがポートエリザベス市の近郊で確認されたというニュースを広めた。これは正しくない。アフリカ型の柑橘類緑化病は、まったく異なる種類のバクテリアによって引き起こされる柑橘類の病害であり、HLBほどの被害を引き起こさない」と述べた。

同氏は、人騒がせな反応や事実を歪曲した表現は、誤った情報を含むニュースの断片から始まったと言う。スペインの団体は、この誤った報告を引用して声明を発表した。

チャドウィック氏は、「HLBは南アフリカでは発生していない。一方、アフリカ型の柑橘類緑化病は、1932年から南アフリカで報告されている。この緑化病は、南アフリカでは、発生地域から未発生地域への繁殖材料の移動を防ぐ公的な管理の下にある。この緑化病は果実や種子では広がらず、柑橘類の果実の移動に制限はなく、この取り扱いには世界中で適用されている。これまでのところ、東ケープ州は緑化病の未発生地域であるが、ポートエリザベス市での最近の発見により、商業的柑橘類産地への蔓延を成功裏に防ぐためには、区域の特定のための調査とさらなると防除対策(媒介昆虫と感染した植物体の管理)が必要になるだろう」と説明する。

CGAは、様々な国際的業界メディアに対し、記事を撤回し、正しい情報を公開するよう対応した。南アフリカ側はまた、スペインのCGCに対し、「ウェブサイトから3つの記事を削除するとともに、虚偽の非難を行い、無責任な行動によって南アフリカの柑橘類産業に損害を与え、政府の評判に悪い影響を与えたことについて謝罪するよう要求」と通知した。

南アフリカの業界筋は、「これは、都合の良い話を真実によって邪魔させないというスペインのCGCの立場を表している。組織内の統制がなく、多くの場合にフェイクニュースを発表してきた。彼らは南アフリカをEU市場から締め出すことに固執しており、その目的のためには無責任に行動するだろう」としている。

執筆者: クレイトン・スワート

(関連記事)スペイン 南アフリカの緑化病検出で検疫を求める

[FreshPlaza 2024年6月3日](#)

スペインの柑橘類管理委員会(CGC)は、南アフリカの東ケープ州全体 - 約2万5千ヘクタールで柑橘類が栽培され、同国の柑橘類生産の26%を占めている - を検疫区域とするようEU当局に求めている。これは、南アフリカの主要研究機関である柑橘類研究インターナショナル(CRI)が先週の火曜日に、ポートエリザベス市(ゲベハ市、国の南東部)から半径15km以内の私有地で庭木のオレンジとレモンからアフリカ型の柑橘類緑化病が見つかったと確認したのを受けたものである。しかし、CGCと南アフリカの柑橘類業界では、何がHLB(カンキツグリーニング病)であるかについて見解が異なっている。

HLB(黄龍病、すなわちアジア型のカンキツグリーニング病。俗にイエロードラゴンと呼ばれることもある)は、米国のフロリダ州やブラジルの一部など柑橘類産地を荒廃させている柑橘類の病害であり、南アフリカには存在しない。アフリカ型の柑橘類緑化病と呼ばれる害の少ない別の種類の病害は南アフリカに存在するが、これまで管理下に置かれている。

しかし、スペインのCGCの声明によるとこの病気、具体的にはCandidatus liberibacter africanusとして知られる治療法のないアフリカ型の変異株は、すでに2022年に300km以上離れたイーストロンドン市(東ケープ州)で確認された。当時、それは非常に危険な病原体であるにもかかわらず、公式の通知は行われなかった。2023年に、CRI自身の説明によるとこの細菌がポートエリザベス市で再び確認された。状況が悪化し、また最大の産地の1つであるサンデーズリバー地域に近いことや、さらに最も重要なこととして、全国に苗木を配布する種苗業者に無菌化した苗を供給する柑橘類財団の施設に近いことを考慮して、CRIは生産者に警告を発することを決定した。

スペイン柑橘類管理委員会(CGC)のインマクラダ・サンフェリウ委員長は、「南アフリカはEUにとって信頼できる柑橘類供給国ではなく、その当局は植物の衛生に関して信頼できないと何年も警告してきた」と指摘し、欧州委員会(EC)に対し「南アフリカ当局に対して行動を起こす」よう求めている。

2件の病気が発生した東ケープ州は、南アフリカで2番目に重要な柑橘類産地であり、スペインのCGCは「同州全体を直ちに検疫対象とし、EU向けの輸出プログラムから除外する」よう求めている。南アフリカはEU域外からEUへの最大の柑橘類供給国であり、果実は最も可能性の高い感染源ではないものの、生鮮オレンジと生鮮マンダリンの果実上で細菌が生存可能であり、検出されうることを証明する科学文献がある。同委員長は、「ただし、密かに持ち込まれる植物材料を介して侵入する可能性の方が高い」と述べている。

CGCは、CRIの担当者は現在、事態の深刻さを警告しているとしている。CRIのバイオセキュリティ部長であるポール・フーリー博士は、最近のアフリカ型柑橘類緑化病に関するプレスリリースで、「サンデーズリバー地域の生産者らは緑化病が彼らの地域に広がるのではないかと、それはおそらくポートエリザベス市の感染した庭木の苗を介してではないかと懸念しており、我々はその認識と警告を人々に広める必要がある」と認めている。

95. ニュージーランド キウイフルーツが記録的な収穫量

[FreshPlaza 2024年6月6日](#)

2024年のキウイフルーツの収穫は大成功で、ニュージーランド史上最大となった。これまでに史上最高の1億9,300万箱が出荷され、今後果樹園から収穫される量はごくわずかである。平均して、各箱には約30個のキウイフルーツが入っている。

このキウイフルーツの記録は、多くの果樹園で収穫前と収穫中の理想的な天候が功を奏したことが一つの要因である。それに十分な労働力が加わったことで、キウイフルーツは過去3カ月間、整然と収穫された。2024年の収穫は、平均以下で生産者を失望させた2023年の乏しい収穫量とは対照的である。昨年は、受粉不良、風害、洪水、降雹及びサイクロンにより収穫量が減少し、輸出量はわずか1億3,300万箱であった。

生産者は、今後数カ月にわたって海外市場に向かう今年の大量の果実の品質が維持され、良い価格が達成されるよう、注意深く見守ることとなる。

ニュージーランド・キウイフルーツ生産者協会(NZKGI)のコリン・ボンドCEOは、収穫期の成功は、味の良いキウイフルーツを消費者に届けるサプライチェーン全体の優れたチームワークの結果であるとして、「何千人もの収穫労働者や梱包作業員、そしてこの一年、我々の業界のために袖をまくり上げて懸命に働いてくれた数え切れないほどの労働者に感謝したい。彼らの労働の成果は、我々の成功から利益を得るより広い関係業界にも波及効果をもたらす」と述べた。

生産者らは今、(販売事業者である)ゼスプリが海外市場で獲得する果実の価格に注目している。過去2年間は1箱当たりの収益は好調であったが、収量の低さが生産者を経済的に苦しめた。果樹園の収量の低さとコストの上昇が相まって、多くの生産者が事業を継続するのに苦労している。

海外市場に向かうキウイフルーツの品質は、NZKGIが追跡する。業界は果実の品質問題を解決するために協力してきたが、かなり解決されたはずだという期待は今年の末には目に見える形になるであろう。

2024年の1億9,300万箱以上の記録的な出荷量に次ぐのは、2021年の1億8,400万箱と2022年の1億7,500万箱である。ニュージーランドの供給量は、2028年までに2億800万箱に増加すると予測されている。

(関連記事)ゼスプリ 昨年度の世界のキウイ販売に光と影

[RURAL NEWS 2024年6月4日](#)

光と影があるが状況はそれほど悪くない。これは、ゼスプリの2023-24年度の最終結果に対する1つの説明の仕方である。

ゼスプリの世界でのキウイフルーツ年間販売額(北半球産を含む)は、天候等の課題にもかかわらず、シーズンを通して品質が向上し堅調な価格を確保したことを反映して、前年比2%増の39億9千万NZドルとなった。キウイフルーツの実際の販売箱数が、前シーズンの1億8,350万箱から10.5%減の1億6,420万箱となったことを考えると、この結果は良好である。ゼスプリの税引き後純利益は1億7,330万NZドルで、2022/23年度の2億3,870万NZドルから減少したが、これは主にライセンス収入の減少によるという。(1NZドル=約96円)

生産者の収益では、ゼスプリグリーン、ゼスプリグリーン14、サンゴールドが最も好調で、1ヘクタール当たりの収益は前シーズンを上回った。他方、有機グリーンと有機サンゴールドでは下落した。ゼスプリルビーレッドは、前シーズンとほぼ同じであった。

ゼスプリのダン・マシソンCEOは、この結果は、ゼスプリ・キウイフルーツに対する消費者の強い需要とともに、果実の品質を向上させるための業界の取り組みを反映しており、これは心強いことだと述べている。

執筆者 ピーター・バーク

96. 世界のモモ・ネクタリン市場(抜粋)

[FreshPlaza](#) 2024年6月7日

北半球の一部の国では、核果類の出荷シーズンが最大10日早くなるが有望なようだ。これは、春の気候が暖かく、ネクタリン、モモ及びパラグアヨ(蟠桃)の肥大が早まったためである。

スペインはヨーロッパの主要な核果類生産・輸出国であり、2024年の出荷シーズンは10日早くなり、見通しは大変よく、昨年よりも良くなりそうである。

イタリアではモモの栽培面積が4%減少したが、同国北部では2023年と比較してモモの出荷量の最大35%の増加が見込まれている。

ドイツでは、スペイン産ネクタリンを中心に供給が順調であるが、需要不足のため、小売業者は価格引き下げを余儀なくされている。イタリア産、トルコ産、ギリシャ産は、ドイツ市場で補完的な供給を担っている。

フランスでは、モモとネクタリンの収穫が始まったばかりである。重大な気象災害は報告されていないため、フランスの潜在的生産能力は約23万トンとなり、2023年の水準を5%上回ると推定される。

セルビアではモモとネクタリンの栽培面積が増加しているが、そのほとんどが国内市場向けである。

ベルギーではスペイン産核果類の需要が高く、特にパラグアヨ、ネクタリン、モモの価格が良いと報告されている。

オランダでは、スペイン産核果類の市場は比較的落ち着いている。核果類は通常、天候が暖かくなるにつれてベルギーとオランダで売り上げが良くなるが、暖かい日があるヨーロッパの他の地域とは異なりほとんど日が差さないため、これらの国ではまだ需要がない。

イスラエルでは、春の寒さのため4月の核果類シーズンのスタートが遅くなったが、その後突然46度の熱波に切り替わり、核果類の成熟が早まっている。

北米では、2023年よりも核果類の供給量が増加する見込みである。カリフォルニア州の核果類の出荷シーズンは、この時点で昨年より約10日早くなっている。収穫はモモとネクタリンから始まり、スモモは今週末から始まる。カリフォルニア州の供給は順調だが、小玉の果実の割合が高くなっている。しかし、核果類では、早生の品種の開花から収穫までの期間が短いため、シーズンの初めにサイズが小さくなることが多い。業界は今シーズンの好調な需要に期待を寄せているが、多くの小売業者が夏の核果類を取り扱い始めたばかりであるため、需要がどの程度であるかを判断するのは時期尚早である。

南アフリカでは核果類は冬の休眠中である。従来から5月の暖かさは休眠を遅らせ、次のシーズンの早生のモモとネクタリンに影響を与えてきたが、今年もそうなる可能性が高いと見られる。

中国のネクタリンは収穫の最盛期に向かっており、経験豊富な労働力の不足が懸念されている。生産者によると、今年は理想的な気候条件に恵まれて生育が良好だったため、大玉で糖度が高く、完璧なシーズンになりそうである。

97. ベトナム 数10億ドル規模の儲かる輸入果実市場

[Vietnamnet Global 2024年6月10日](#)

消費者の嗜好を満たすために、ベトナムは果実と野菜の輸入に年間約20億米ドルを費やしており、その大部分は中国からのものである。では、ベトナム市場へのこの流入が特に多いのはどの果実だろうか？

輸入果実は、伝統的な市場からオンラインプラットフォームまで広がり、主要なスーパーマーケットに行き渡るなどいたるところにあって、国産品よりも目立っている。注目されるのは、高級果実と並んで、多くの品種が輸入され、競争力のある価格や、むしろ最低の価格で販売されているものもあることだ。

税関総局のデータによると、ベトナムは国内の需要を満たすため、2024年は5月中旬までに7億2,560万米ドル相当の果実と野菜を輸入した。2023年の果実と野菜の輸入額は合計19億6千万米ドルであった。

中国はベトナムへの主要供給国であり、中国からの輸入額は7億9,470万米ドルで総輸入額の40.5%を占めている。米国が3億3,150万米ドル、オーストラリアが1億4,240万米ドルで続いている。

品目別ではリンゴが最も多く、2023年の輸入総額は2億3,710万米ドルで、果実の総輸入額の21.8%を占めている。リンゴは一年中輸入され、様々な品種があり、原産国によって価格が安いものから過度に高いものまである。

リンゴに次いで、ブドウが1億5,840万米ドルで総輸入額の14.6%を占め、2番目に多く輸入されている果実である。3位はミカン類、4位はナシで、それぞれ全体の7.1%と5%を占めている。

これらの果実は主に中国産で、その手頃な価格で市場に溢れている。特にブドウは、米国やオーストラリアといった従来からの供給国だけでなく、栽培面積を大幅に拡大している中国からも輸入され国内に氾濫している。

業界のある専門家は、輸入量は市場の需要に左右されると指摘している。ベトナムに輸入される果実は通常、国内の生産能力を超えるものや、ベトナムが競争上の優位性を欠いているものである。

例えば、ベトナム産のリンゴやザクロは栽培上の課題に直面しており、輸入を余儀なくされている。同様に、ブドウやナシは産地があるものの、国内生産量は依然として限られており、国内の消費ニーズを満たすために輸入に頼っている。

生産量の多い中国産の低価格果実が圧倒的に多いことが、リンゴ、ブドウ、ミカン類及びナシがベトナムに一貫して流入している理由を説明している。

執筆者：タム・アン

98. 南アフリカ 赤肉系グレープフルーツの輸出予測を再び下方修正

[FreshPlaza](#) 2024年6月10日

南部アフリカ柑橘類生産者協会 (CGA) のグレープフルーツ品目別グループは、2024年産の輸出予測をさらに下方修正すると発表した。地域を代表する生産者からのフィードバックは、梱包と出荷のデータに見られる今シーズンの傾向を裏付けており、予想輸出量をさらに調整する必要がある。

赤肉系グレープフルーツ：総輸出量は1,143万600箱 (17kg/箱。以下同じ)と予測される。これは、シーズン開始当初の予測 (1,347万5,600箱) から15%、5月の修正予測 (1,257万2,030箱) から9%の減少となる。

白肉系グレープフルーツ：総輸出量は51万2,810箱と予測される。これは5月の予測から0.4%の微増となるが、それでもシーズン開始当初の予測 (55万7,460箱) から8%減少している。

PP (輸出向け加工用) 果実：総輸出量は119万1,900箱と予測される。これは、5月の予測から12%の増、シーズン開始当初の予測 (76万7,080) から55%の増となる。

2024年シーズンは、多くの点で特徴的であることが分かっている。予測改定の最大の要因は、乾燥して温暖な天候の結果として果実が小玉化したことと、国内の加工用果実の価格が良好なことである。

グレープフルーツ品目別グループのバリー・ランドマン座長は、「グレープフルーツの出荷シーズンは早めの終了に向かっており、出荷量が急速に減少している。グレープフルーツの輸出品の大半は、今週の時点で梱包済みである」と述べた。

99. フィリピン 日本がバナナの病害対策を支援

[FreshPlaza](#) 2024年6月11日

日本政府はフィリピンと共同で、バナナとカカオの病害対策プログラムを開始している。この連携事業は、国際協力機構 (JICA) の地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) の一環として、植物産業局 (BPI) とJICAが共同で実施する「バナナ・カカオの新規病害管理システム開発プロジェクト」である。

BPIは、「SATREPSは、日本の大学や機関とフィリピン等のパートナー国の大学との共同研究を推進するものである」としている。この取組みは、フランシスコ・ティウ・ラウレル・ジュニア長官が率いる農業省の戦略に沿ったもので、生産の強化と関係者の連携を通じて食料自給率を向上させるものである。

BPIは、植物検疫規制とその準拠及び許可に焦点を当てた議論を行い、このプロジェクトの覚書 (MOA) の締結を促進した。BPI、中部ルソン州立大学、玉川大学 (東京) 及びJICAの代表者がMOAの最終的な取りまとめに参加した。BPIは、プロジェクトの協力者のために、これらのプロセスを簡素化する包括的な支援を提供することを約束した。

国連食糧農業機関 (FAO) の植物検疫措置委員会は、フザリウム菌熱帯株4 (TR4) がバナナに与える脅威を強調し、この作物に依存している4億人以上の生産者、出荷業者、農村世帯への甚大な影響とそれが気候変動によって悪化していることを指摘している。

出典: businessmirror.com.ph

100. ニュージーランド 初のバイオ燃料試験船が無事到着

[Zespri Media Release 2024年6月11日](#)

ゼスプリの国際海運パートナーの1つであるフレッシュキャリアーズ(FCC)社(本社東京)は、香港とニュージーランドの間を運航するチャーター船でバイオ燃料を使用した航行試験を成功裏に完了した。この試験の目的は、バイオ燃料を燃焼させた際の船のエンジンの性能をテストすることであった。

カカリキ(Kakariki)号は先月末に香港でバイオ燃料を積み込んだ後、南下を開始し、週末にニュージーランドのタウランガ港に到着した。この船は、使用済みの食用油から作られたバイオ燃料の混合物で駆動された。カカリキ号は、ニュージーランドではバイオ燃料が入手できないため、香港でバイオ燃料を積み込んだが、もしニュージーランドでバイオ燃料が入手可能になれば、ゼスプリのチャーター船がこのCO₂排出量の少ない燃料を燃やす機会が増えると見られる。

ゼスプリのジェイソン・テ・ブレイク最高執行責任者(COO)は、業界が低排出輸送などの革新的なソリューションを通じて脱炭素化と将来への備えを進める中、FCC社によるバイオ燃料の試験は、共同で行う一歩前進であると述べている。(以下、特記した場合を除き「」は同氏の発言)

「ニュージーランドの輸出主導型経済において海運業は重要な役割を果たしており、ニュージーランドの貿易の重量ベースで99%、金額ベースで約80%を運んでいる。世界的には、このセクターは世界の貿易量の約80%、世界の貿易額の70%を占めている。」

「ゼスプリのキウイフルーツは毎年、世界50以上の市場の消費者に出荷されている。国際輸送は、ゼスプリの全世界での果実販売にかかる排出量の約43%を占めており、他の一次産品輸出事業者と比較して排出量に占める輸送の割合が大きい。これはゼスプリの生産段階の排出量が少ないためである。去年はシーズン中に57便のチャーター船と1万3,300個のコンテナを使用し、61万9,200トン以上のニュージーランド産キウイフルーツを市場に出荷した。」

「ゼスプリは、輸送時の排出量を直接削減する能力が限られているため、FCC社などの主要な海運・流通パートナーと協力して、輸送と物流の効率を高め、低排出燃料への移行を進めている。」

「FCC社と行ったバイオ燃料試験は重要な前進であり、カカリキ号が航行中ずっと監視され、予期せぬ技術的問題なしにバイオ燃料がうまく機能することが確認されたことで、両社にとって重要な技術的知見が得られた。タウランガ港に無事に到着したのは素晴らしいことだ。」

FCC社のコガ・トシユキ氏は、同社初のバイオ燃料試験船であるカカリキ号がタウランガ港に無事に到着するのを見届けたことを誇りに思うとして、「ゼスプリとは、この試験の実施について数カ月にもわたって協議を続けてきたが、今後、弊社の他の船を使用したバイオ燃料の試験をさらに進めることに期待している。また、今シーズンはゼスプリのキウイフルーツを市場に輸送する北上航路の試験も検討している。バイオ燃料のサプライチェーンは複雑であり、安定供給のためにはまだやるべきことがあるが、今回の実証実験はゼスプリとともに脱炭素化を進める第一歩である」と語った。

ブレイク氏は、「ニュージーランドは太平洋の南の端に位置しているため、低排出燃料の選択肢へのアクセスが課題であり、弊社の野心的な目標と取引先や消費者の期待に応えるために、より持続可能な燃料へのアクセスを強化するパートナーを積極的に探している。業界の脱炭素化と将来への備えの重要性を認識し、長年のパートナーであるFCC社と前向きに協力してきている。この試験は一歩の前進であり、将来的にゼスプリのキウイフルーツを世界中の市場に届けるため低排出燃料の導入に向けた道を歩むことができることを嬉しく思う」と述べた。

101. ゼスプリ 北半球からの供給増加へ向けて生産者に協力要請

[FreshPlaza 2024年6月11日](#)

イタリア、フランス、ギリシャ、日本、韓国の生産者との協力

ゼスプリは、果実の周年供給に対する需要の高まりに応えるため、北半球でのキウイフルーツ生産の拡大について生産者の意見を聞いている。同社は、ニュージーランドのキウイフルーツの出荷シーズンを補完するため、イタリア、フランス、ギリシャ、日本、韓国の生産者と協力している。ゼスプリ・グローバル・サプライ (ZGS) として知られるこの取組みは、生産能力の限界に直面しており、ゼスプリは増加する消費者の需要を満たせないと主張している。現在、これらの地域では合わせて年間2千万箱のグリーンキウイフルーツの供給が認められており、サンゴールド品種の栽培制限は5千ヘクタール、あらゆる新品種の栽培制限は各1千ヘクタールである。

ゼスプリは2022年にこれらの上限の引き上げを提案したが、(ニュージーランド国内の)生産者らは供給過剰の可能性や果実の品質維持に懸念を表明し、承認は得られなかった。ゼスプリは、供給を増やさなければ、競合する供給者がより多くの市場シェアを獲得する可能性が高いとしている。

予測によると、既存の制限では、ゼスプリは2033年までに予想される需要の42%しか満たさないことが示されている。ゼスプリは現在、ZGSの将来と、この問題に関する正式な投票を進めるために必要なあり得る調整について、生産者からのフィードバックを求めている。この協議では、面積拡大の程度、承認期間、及びZGSに対する生産者の信頼を確保するために必要な報告メカニズムを探る。提案に関する議論は、生産者のイベントや7月に予定されている調査など、様々なプラットフォームを通じて行われる。

出典: mz.co.nz

102. ニュージーランド リンゴとナシの輸出が予想を下回る

[PRODUCE PLUS 2024年6月12日](#)

業界団体は小玉化のため収穫後の推計輸出量を改定したが、高い品質が需要を牽引していると指摘

ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会 (NZAPI) は、2024年シーズンの収穫後の推計出荷量を発表し、輸出用のTCE (換算箱数) が11%減少すると予測している。輸出TCEは、産地による果実のサイズのバラツキにより、2024年1月に計算された2,120万箱から収穫後の推計では1,890万箱に減少すると見られる。

しかし、NZAPIによると、果実の風味と貯蔵性は、例外的な夏の好条件のおかげで、業界がここ数年で目にした最高の部類である。同団体のプレスリリースは、暑い日が長く、乾燥したコンディションで、夜は涼しいため、ほとんどの品種で食味と着色の良いリンゴが生産されたとしている。

NZAPIのカレン・モリッシュCEOは、ニュージーランド産のリンゴは既に輸出市場で人気があることが証明されているとして、「果実は全体的に予想よりも小さいが、ここ数年で最高の収穫の1つであった。消費者がリピート買いするような高品質の果実があり、主要な輸出市場の需要は旺盛である」と述べた。

果実のサイズが小さくなったのは、昨年のサイクロン「ガブリエル」の影響が長引いたことと、春の気象条件が原因と考えられると、モリッシュ氏は付け加えた。

同氏は、「各産地で小玉化しており、多くの梱包施設で予想よりも早く荷造りが終わっているため、果実の供給がすぐに不足する可能性がある。しかし、今年の収穫物の風味は素晴らしく、昨年サイクロンで影響を受けた果樹が当初の予想よりもうまく収穫できたことで改めて安心している。輸出用の段ボール箱に納められたリンゴは、ニュージーランドで最高のリンゴであるだけでなく、世界でも最高のリンゴであり、今年の収穫はその事実を証明している」と述べた。

執筆者: ブリー・カッジャティ

103. 米国 サクランボと柑橘類の出荷量予測

訳注：以下の記事中の「トン」は米トン(ショートトン)であり、1米トン＝約 0.907 トン(メートルトン)です。

(1) サクランボ(甘果オウトウ)の出荷量予測

米国農務省農業統計局 2024年6月12日

2024年の米国のサクランボ(甘果オウトウ)の総出荷量は、35万5千トンと予測される。最大の産地であるワシントン州では、2024年の総出荷量は2023年に比べて11%少ない18万5千トンと予測される。オレゴン州では、2024年の総出荷量は2023年より11%多い4万3千トンと予測される。

甘果オウトウ出荷量 - 州別及び米国 2023年実績及び2024年予測(6月1日現在)

州	総出荷量(トン)	
	2023	2024
カリフォルニア州	107,500	105,000
ミシガン州 ¹	(データなし)	22,000
オレゴン州	38,800	43,000
ワシントン州	208,000	185,000
米国計	354,300	355,000

¹ 2024 年に推計開始

(2) 6月の柑橘類出荷量予測

米国農務省農業統計局 2024年6月12日

フロリダ州農業消費者サービス局との共同発表

柑橘類の種類別出荷量及び予測出荷量 - 州別及び米国計

種類及び州	出荷量 ¹		2023-2024 予測出荷量 ¹	
	2021-2022 (1,000 箱)	2022-2023 (1,000 箱)	5月予測 (1,000 箱)	6月予測 (1,000 箱)
バレンシア種以外のオレンジ²				
フロリダ州	18,250	6,150	6,800	6,760
カリフォルニア州 ³	31,500	36,100	38,000	38,000
テキサス州 ³	170	570	700	700
米国計	49,920	42,820	45,500	45,460
バレンシア種のオレンジ				
フロリダ州	22,950	9,670	11,000	11,100
カリフォルニア州 ³	7,600	8,600	8,000	8,000
テキサス州 ³	30	560	400	400
米国計	30,580	18,830	19,400	19,500
オレンジ合計				
フロリダ州	41,200	15,820	17,800	17,860
カリフォルニア州 ³	39,100	44,700	46,000	46,000
テキサス州 ³	200	1,130	1,100	1,100
米国計	80,500	61,650	64,900	64,960
グレープフルーツ				
フロリダ州合計	3,330	1,810	1,800	1,790
赤肉系	2,830	1,560	1,550	1,550
白肉系	500	250	250	240
カリフォルニア州 ^{3 4}	4,100	4,300	4,100	4,100
テキサス州 ³	1,700	2,250	2,600	2,600
米国計	9,130	8,360	8,500	8,490
レモン³				
アリゾナ州	1,250	1,400	1,050	1,050
カリフォルニア州	25,200	26,000	22,000	22,000
米国計	26,450	27,400	23,050	23,050
タンジェリン及びマンダリン				
フロリダ州	750	480	500	450
カリフォルニア州 ³	17,500	23,550	22,000	22,000
米国計	18,250	24,030	22,500	22,450

¹ 1箱当たりの正味重量(ポンド) オレンジ: カリフォルニア州 80、フロリダ州 90、テキサス州 85。グレープフルーツ: カリフォルニア州及びテキサス州 80、フロリダ州 85。レモン: 80。タンジェリン及びマンダリン: カリフォルニア州 80、フロリダ州 95。

² フロリダ州では早生の非バレンシア品種(ネーブル種を含む)及び中生の非バレンシア品種。カリフォルニア州ではネーブル種及びその他の品種。テキサス州では早生品種及び中生品種。

³ 前回の予測を持ち越し ⁴ カリフォルニア州ではボメロを含む。

104. トルコの柑橘類事情(オレンジ、タンジェリン/マンダリン、オレンジ果汁)

米国農務省GAINレポート 2024年6月12日

これは米国農務省海外農業局のアンカラ事務所(トルコ)が作成した「柑橘類半期報告書」のオレンジ、タンジェリン/マンダリン、オレンジ果汁の項(他の品目は生産需給統計表のみ)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

報告書の要旨

トルコは2023/24年度に、前シーズンより39%多い約650万トンの柑橘類を生産すると予測される。しかし、収穫量の増加は、販売と消費に同時並行の問題をもたらした。多くの生産者が直面している収益性の低さから、多くの果樹園から柑橘類が取り除かれている。現地の関係者らは、柑橘類の生産者と輸出業者が事業を維持するためには、新たな輸出市場と輸出補助金が不可欠だという。トルコの輸出業者らは、気候の変動により南アフリカとアルゼンチンがトルコと販売時期が重なる競争相手になったと考えている。2023/24年度の最初の4カ月間に、トルコは前シーズンと比較して25%多い柑橘類を輸出し、それらは主にロシア向け(1億4,800万ドル)及びイラク向け(9千万ドル)であった。

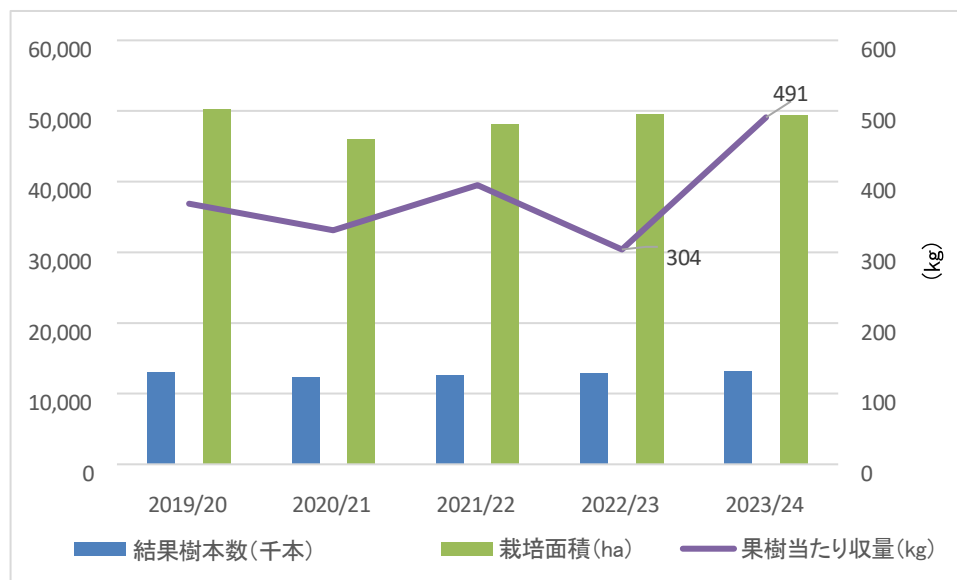
<オレンジ(生鮮)>

生産

2023/24年度のオレンジの収穫量は、2023年春の好ましい天候により、31%増の173万トンになると予測される。トルコのオレンジ総生産量の70%を占めるワシントン品種とヤファ品種は、全体的な収量増加の主な原動力である。果樹1本当たりの収量は、ヤファ品種で71%、ワシントン品種で38%増加した。収量の増加は、主にエーゲ海地方で見られると見込まれる。2022/23年度のトルコのオレンジ生産量は132万トンで、2021/22年度(175万トン)に比べて24.5%少なかった。

農場出荷価格は前シーズンから20%下落し、8~10トルコリラ(TL) (0.2~0.3ドル)/kgとなっているが、小売価格は20~25TL (0.7~0.9ドル)/kgで高止まりしている。

図1 トルコのオレンジ果樹園面積(ha)、結果樹及び未結果樹本数並びに果樹1本当たり収量(kg)
2019-2024 販売年度



出典: トルコ統計庁 2024

チチュウカイミバエは依然として大きな懸念事項であり、質的、量的な損失を引き起こしている。この害虫を駆除するため、農林省は、ミバエ用のフェロモントラップを県事務所や業界団体を通じて生産者に無料で配布している。一方、北キプロス・トルコ共和国(TRNC*)で見られる柑橘類の緑化病は、TRNCからの柑橘類の輸入により、トルコの柑橘類生産者の間で深刻な懸念事項となっている。(*訳注: トルコだけが国家承認しているキプロス島北部のトルコ系住民の多い地域)

この1年間、トルコの農民は人件費が持続不可能なレベルにまで上昇していると不満を漏らし、トルコの農業労働者は賃金が低すぎて快適に暮らせないと主張している。その結果、トルコの柑橘類生産者らは、賃金の安いアフガニスタンやシリアの難民に目を向けるようになった。

消費

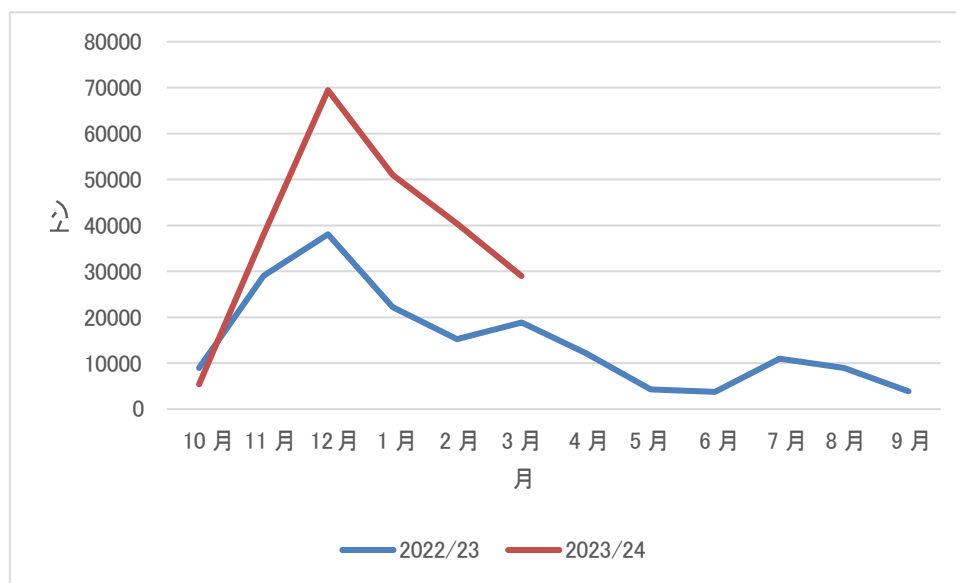
2023/24年度のオレンジ消費量は、生産量の増加により136万トンに増加すると予想されるが、輸送コストや販売コスト(電気代、梱包代等)の上昇により、小売販売価格は依然として高い。2022/23年度のオレンジ消費量は100万トンで、2021/22年度(130万トン)より23%減少した。2022年にトルコ統計庁が発表した最新のデータによると、1人当たりのオレンジ消費量は9.7kgであった。

オレンジの平均小売価格は、農場出荷価格の最大3倍である。この価格差は、生産物が小売店の棚に並ぶまでに、販売業者や輸送・物流業者が価格を上乗せしていることに起因している。他の柑橘類も、同じ理由で農場と小売店の間で大きな価格差が生じている。

貿易

2023/24年度のオレンジの輸出量は、収量と外需の増加に比例して、前シーズン比39.7%増の24万6千トンと予測される。しかし、こうした増加にもかかわらず、トルコの輸出業者らは、競合する他国の高収量と輸出価格の低さに懸念を抱いている。トルコの輸出業者らは、輸出コストの上昇と競争に対処するために補助金が重要であると考えており、農林省からの輸出補助金を求めてロビー活動を行っている。

図2 トルコの月別オレンジ輸出量 2022-2024 販売年度



出典: Trade Data Monitor, LLC

2023/24年度上半期にトルコは23万3,217トンのオレンジを輸出し、これは前年同期より76.2%多く、そのほとんどがイラク、ロシア、シリア、ウクライナに輸出された。オレンジの輸出額は、2023/24年度上半期に前年比85%増の1億2,900万ドルとなり、柑橘類の中で最も輸出の成長率が高かった。

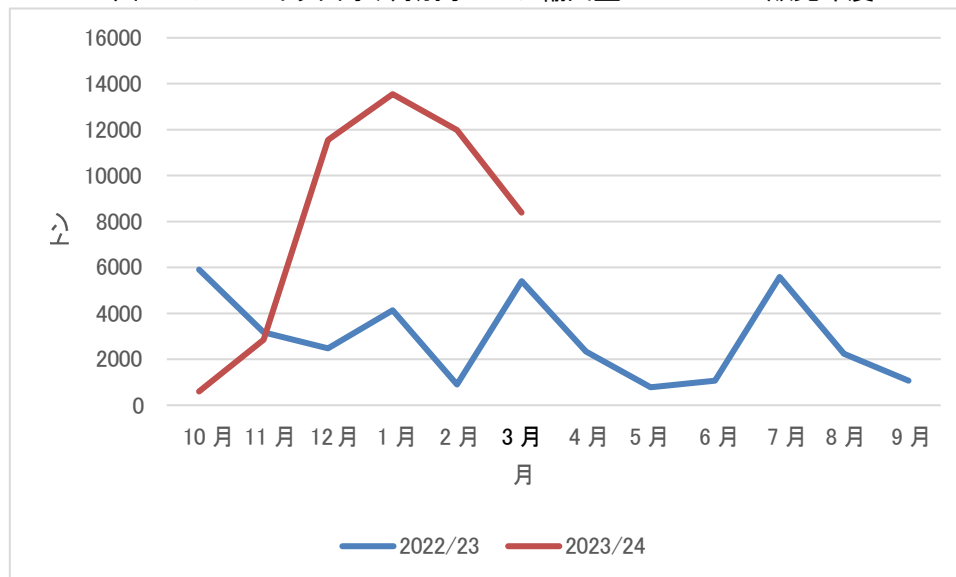
それにもかかわらず、2022/23年度のイラク向けのオレンジ輸出は、価格の下落とイラク政府による国内生産者への支援により大幅に減少した。しかし、2023/24年度上半期のイラクへのトルコ産オレンジの輸出額は、需要の高さから前年同期比918%増の3,230万ドルとなった。2024年の最初の6カ月で、イラクはトルコ産オレンジの輸出先としてロシアを抜いて最大の国となった。

トルコの輸出業者らは、エジプトとギリシャの投入コストが偶々低いことから、これらの国が主要な競争相手であると考えている。

2022/23年度のトルコのオレンジ輸出量は17万6,377トンで、2021/22年度(38万9千トン)に比べて

54%少なかった。この減少は、栽培面積と結果樹本数の増加にもかかわらず、2022年3月のオレンジの開花期の低温により、生産量が減少したことによるものである。さらに、トルコの生産量の70%が地中海地方に偏っているため、2023年2月の地震も柑橘類の輸出に影響を与えた。

図3 トルコのイラク向け月別オレンジ輸出量 2022-2024 販売年度



出典: Trade Data Monitor, LLC

EUと英国は、残留農薬の懸念に対処するために、2022年1月にトルコ産オレンジの適合証明書を要求し始めた。適合証明書をを得るには、貨物に特定の残留物がないか輸出前に検査する必要があり、輸出業者にとってコストがかかる。トルコ産オレンジの英国への輸出では、到着時の残留農薬検査が強化されており、出荷ごとの検査率は50%である。

輸入

当事務所は、国内生産の余剰と、北キプロス・トルコ共和国(TRNC)の柑橘類果樹園で緑化病が見られ、同国からの輸入が制限されていることから、2023/24年度のトルコのオレンジ輸入量の予測を3万トンから2千トンに修正した。2022/23年度には、トルコはTRNCから3万1千トンのオレンジを輸入した。トルコのオレンジ輸入は国内生産の状況に依存しているが、TRNCからの輸入は、トルコがTRNCを経済的・政治的に支援する手段でもある。

表1 トルコの生鮮オレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり トルコ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	48,176	48,176	49,535	49,535	51,000	51,000
収穫面積(ヘクタール)	48,176	48,176	50,000	50,000	51,000	51,000
結果樹本数(千本)	12,620	12,620	12,966	12,966	14,000	14,000
未結果樹本数(千本)	1,210	1,210	1,786	1,786	1,700	1,700
果樹本数合計(千本)	13,830	13,830	14,752	14,752	15,700	15,700
生産量(千トン)	1,750	1,750	1,320	1,320	1,731	1,731
輸入量(千トン)	45	45	31	31	30	2
総供給量(千トン)	1,795	1,795	1,351	1,351	1,761	1,733
輸出量(千トン)	389	389	176	176	246	246
生鮮国内消費量(千トン)	1,284	1,284	1,083	1,083	1,394	1,366
加工仕向量(千トン)	122	122	92	92	121	121
総仕向量(千トン)	1,795	1,795	1,351	1,351	1,761	1,733

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

<タンジェリン/マンダリン(生鮮)>

生産

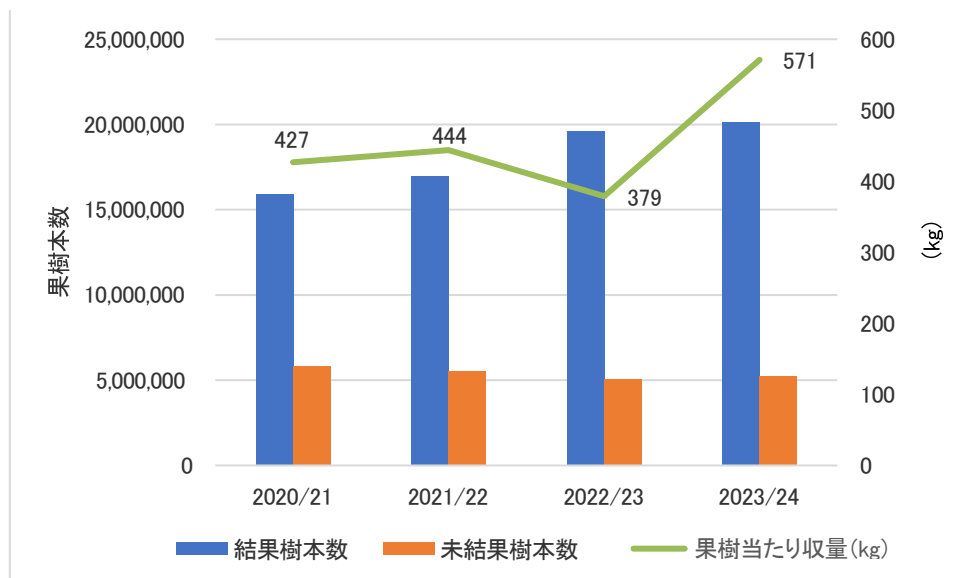
2023/24年度のタンジェリンの総生産量は、2023年3月の開花時の好ましい春の雨と気温条件により、55%増の288万トンと予測される。農場出荷価格は7～8TL(0.2ドル)/kgで、生産者は依然として高い生産コストを補うことができていない。一方、消費者価格は20～30TL(0.70～1ドル)/kgと高く、前年の2倍となっている。トルコの生産者らは収穫期の労働力不足を懸念しているが、労働者は日給の低さに不満を漏らしている。一方、生産者らは、農場出荷価格が低く高い生産コストを補うことができず、輸出補助金も少ないことから果実の販売に苦勞しており、果実を樹上に残すことを余儀なくされた。

タンジェリンはトルコで最も多く生産されている柑橘類で、タンジェリンの84%は地中海地方で生産されている。ウンシュウミカン、この地域で最も広く生産されており、国内消費と輸出の両方にとって重要である。ウンシュウミカンの総生産量の80%は輸出用である。生産者らによると、消費者に好まれるダブルマーコット品種が過剰に植えられているが、生産者らは来年の生産過剰と収益性の低下を懸念している。

エーゲ海に近く従来は農地であった場所での建設や観光投資の増加により、この地域の将来の生産量も不確実である。現地の関係者らは、トルコ政府がこの地域の近代化と建設への投資を促進したため、かつては肥沃な農業拠点だった場所がコンクリートジャングルと化し、地元農民の生活が脅かされていると指摘した。

2022/23年度のマンダリン生産量は、地中海地方の好ましい天候により186万トンであった。2021/22年度のトルコのタンジェリン生産量は181万トンであった。

図 4. トルコのタンジェリンの結果樹及び未結果樹本数並びに果樹 1 本当たり収量
2020/21-2023/24 販売年度



出典: トルコ統計庁 2024

タンジェリン生産者が直面しているもう一つの問題は、果実の質と量に顕著な影響を与えている気候変動の影響である。一部の生産者は、マンゴー、キウイ、ドラゴンフルーツなど、もっと熱帯的な環境により適した他の作物にも目を向けている。これらの熱帯果実も同様に採算が合わないが、生産者らは果樹園を転換して、農林省が柑橘類産業への支援を増やすよう圧力をかけようとしている。

消費

トルコ国内の2023/24年度のタンジェリン消費量は、生産量の増加に伴い178万トンに増加すると推定される。これは、市場価格の上昇と輸出を増やすための継続的な努力、そして冬(トルコ人がより多くのタンジェリンを食べる傾向がある)の始まりが遅いにもかかわらず予想されることである。2022/23年度のマンダリン

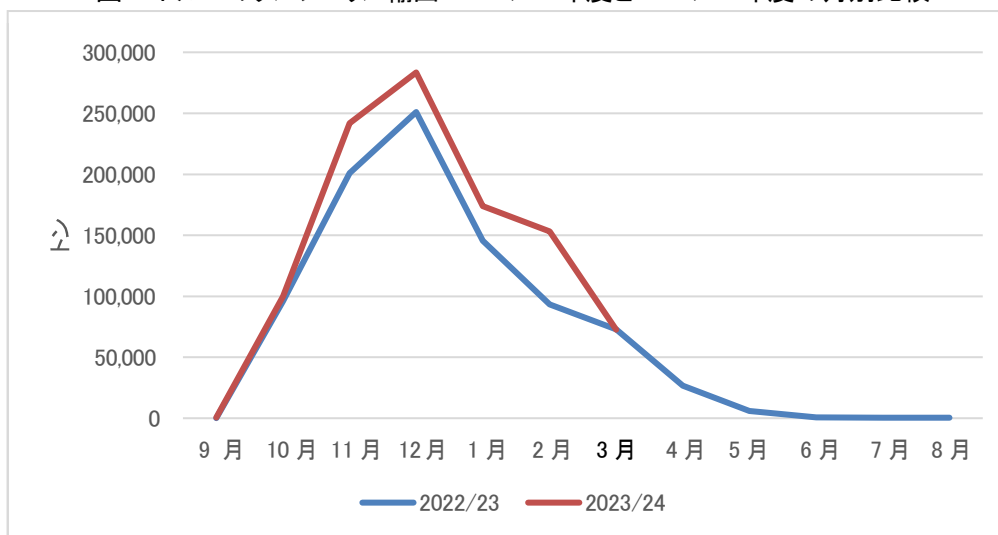
(原文のまま)消費量は、十分な国内生産と輸出の予想外の減少により、102万トンであった。2021/22年度のトルコの国内タンジェリン消費量は87万2千トンであった。

柑橘類生産者の代表者らは地方自治体に対し、生産者から生産コストをわずかに上回る価格で果実を購入し、手頃な価格で一般の人々に届けるよう求めている。そうすることで、内需を増やし、作物の損失を減らすことが期待されている。そうでない場合に考えられることは、生産者が需要不足のために柑橘類の果樹を伐根し続ければ、タンジェリンは今後のシーズンにはるかに高い価格で販売されるということである。

貿易

当事務所は、2023/24年度のタンジェリンの予測輸出量を130万トンから110万トンに若干下方修正した。2023/24年度の収穫量は、収量の増加と品質の向上により、2022/23年度よりも18%多い。一方、輸出業者らは、高い為替レートに対抗するため、梱包資材と輸送コストについて政府からの支援を引き続き求めている。また、彼らは支持価格安定基金(DFIF)も要求しているが、今年の生産物から利益を得るためには80ドル/トンに設定する必要があるところ、実際には1,500TL(52.5ドル)/トンが適用されてきている。

図5 トルコのタンジェリン輸出 2022/23年度と2023/24年度の月別比較



出典: Trade Data Monitor, LLC

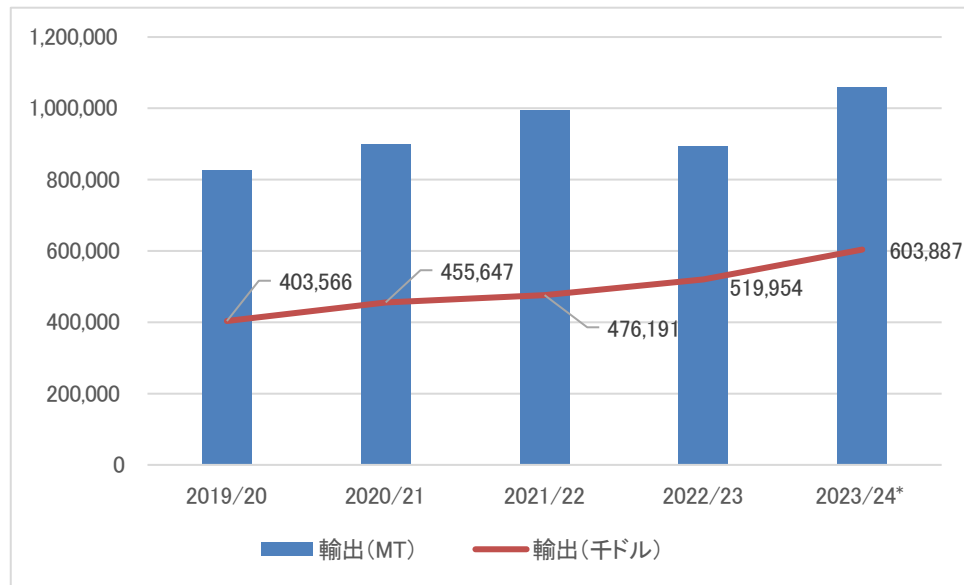
ウンシュウミカンの大部分は、ロシア、ウクライナ、セルビアに輸出されている。イラク政府が国内生産を支援するために果実と野菜の輸入を減速させることを決定したため、昨年はイラクへの輸出が減少した。これは、トルコの輸出業者にとって昨年の輸出価格の変動をもたらした。

2022/23年度のタンジェリンの輸出は、収量の減少、イラクへの輸出の減少、ロシア・ウクライナ戦争、欧州の景気後退により、89万4,065トン(5億2千万ドル相当)であった。トルコは、2021/22年度には99万3千トン(4億7,600万ドル)のタンジェリンを輸出した。

タンジェリンはトルコの柑橘類の中で最も輸出されている品目であり、2023/24年度には6億5千万ドルに達すると予測される。実際、2023/24年度の最初の8カ月間のイラクへのタンジェリン輸出は、需要が高いことから2022/23年度の同時期と比較して68%増加した。

オレンジと同様に、タンジェリンをEU諸国に輸出するには適合証明書が必要である。さらに、2022年1月から、トルコ産タンジェリンの英国への輸出は、到着時の農薬検査の強化対象となっている。現在、出荷ごとの検査率は50%である。

図6 トルコのタンジェリン輸出量及び輸出額



出典: Trade Data Monitor, LLC. 2023/24 年度は当事務所推計値

輸入

2023/24年度のタンジェリンの輸入量は、国内生産の余剰と、北キプロス・トルコ共和国(TRNC)の柑橘類果樹園で緑化病が見られることによる輸入制限のため、6千トンに急激すると予想される。

トルコは2022/23年度に5万6,277トンのタンジェリンを輸入し、そのほとんどがTRNCから輸入された。

2021/22年度のタンジェリン輸入量は5万6千トンであった。トルコのタンジェリン輸入は国内生産の状況に依存しているが、TRNCからの輸入は、トルコがTRNCを経済的・政治的に支援する手段でもある。

表2 トルコのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮) 販売年度の始まり トルコ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021 年 9 月		2022 年 9 月		2023 年 9 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	60,719	0	67,853	67,853	69,000	69,000
収穫面積(ヘクタール)	60,719	0	67,853	67,853	69,000	69,000
結果樹本数(千本)	16,987	0	19,620	19,620	21,000	21,000
未結果樹本数(千本)	5,571	0	5,053	5,053	5,000	5,000
果樹本数合計(千本)	22,558	0	24,673	24,673	26,000	26,000
生産量(千トン)	1,810	1,810	1,860	1,860	2,642	2,883
輸入量(千トン)	53	56	52	56	50	6
総供給量(千トン)	1,863	1,866	1,912	1,916	2,692	2,889
輸出量(千トン)	994	993	894	894	1,100	1,100
生鮮国内消費量(千トン)	868	872	1,017	1,021	1,591	1,788
加工仕向量(千トン)	1	1	1	1	1	1
総仕向量(千トン)	1,863	1,866	1,912	1,916	2,692	2,889

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

＜オレンジ果汁＞

製造及び消費

2023/24年度のオレンジ果汁の製造量は、加工に仕向けられるオレンジの増加により、1万2,100トンと予測される。2023/24年度には、前年比30%増の12万1千トンのオレンジが加工に仕向けられると予測される。2022/23年度のトルコのオレンジ果汁製造量は9,240トンで、収量が少なく加工用に仕向けられるオレンジが減少したため、前年より24%減少した。

トルコの果実加工業はまだ発展途上であり、潜在的な輸出市場に参入できるよう業界を発展させるための政府の支援を求めている。果汁輸出業者らによると、トルコのオレンジ品種の搾汁率は必ずしも理想的な業界基準を満たしているわけではない。それらの基準を達成するため、トルコの生産者らは、果汁用果実の規格を改善する柑橘類の方針確立に向けて政府の支援を期待している。

トルコで最も人気のある果汁用の果実は、リンゴ、アンズ、サクランボ、オレンジ、ザクロである。柑橘類の総生産量の5～10%が果汁業界で加工されている。

国内市場では、同国の高いインフレ率と関連した小売価格の上昇が予想される。一方、オレンジ果汁の消費量は、2023/24年度に8,900トンに増加すると予測される。COVID-19のパンデミックが始まってから、オレンジ果汁の需要が増加した。しかし、トルコの果汁消費量は1人年間11リットルと推定されており、ヨーロッパ諸国に比べてかなり少ない。

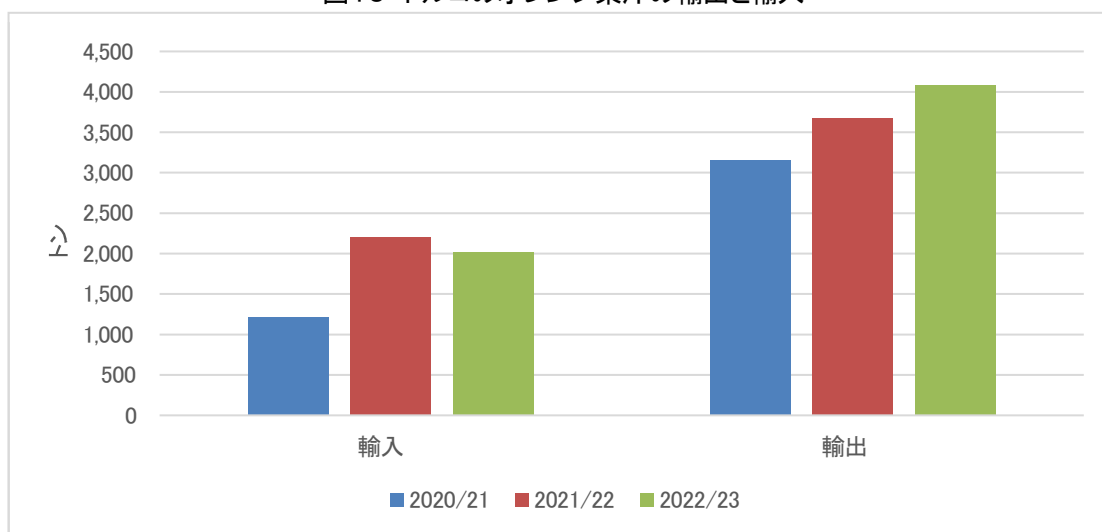
貿易

輸出: 果汁製造業者らによると、中国の製造量の減少に伴い、輸入国からの需要増加が予想されるため、2023/24年度のオレンジ果汁の輸出量は5千トンと予測される。さらに、果汁の輸出業者らは、世界的な供給不足により、2023/24年度により多くの輸出収入を得られると考えている。

トルコは2022/23年度に880万ドル相当のオレンジ果汁4,078トンを中心にドイツ、イタリア、オランダに輸出した。これは、2021/22年度に輸出した3,675トン(570万ドル相当)に比べ10%の増加となった。

輸入: 2023/24年度のオレンジ果汁の輸入量は、国内市場の需要が横ばいのため、1,800トンに減少すると推定される。トルコは2022/23年度に2,018トンのオレンジ果汁を輸入し、そのほとんどがキプロスとブラジルから輸入された。トルコは主に、加糖及び無糖の冷凍オレンジ果汁を輸入している。

図10 トルコのオレンジ果汁の輸出と輸入



出典: Trade Data Monitor, LLC

表5 トルコのオレンジ果汁の生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度の始まり トルコ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021 年 10 月		2022 年 10 月		2023 年 10 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料果実加工仕向量(トン)	122,000	122,000	92,400	92,400	121,000	121,000
期首在庫(トン)	150	150	150	150	150	150
製造量(トン)	12,200	12,200	9,240	9,240	12,100	12,100
輸入量(トン)	2,200	2,200	2,000	2,000	1,800	1,800
総供給量(トン)	14,550	14,550	11,390	11,390	14,050	14,050
輸出量(トン)	3,675	3,675	4,078	4,078	5,000	5,000
国内消費量(トン)	10,725	10,725	7,162	7,162	8,900	8,900
期末在庫(トン)	150	150	150	150	150	150
総仕向量(トン)	14,550	14,550	11,390	11,390	14,050	14,050

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

<レモン/ライム(生鮮)>

表3 トルコのレモン/ライムの生産需給統計

レモン/ライム(生鮮) 販売年度の始まり トルコ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021 年 9 月		2022 年 9 月		2023 年 9 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	52,233	52,233	55,426	55,426	56,500	56,500
収穫面積(ヘクタール)	52,233	52,233	55,426	55,426	56,500	56,500
結果樹本数(千本)	13,539	13,539	14,699	14,699	15,500	15,500
未結果樹本数(千本)	4,112	4,112	4,676	4,676	4,600	4,600
果樹本数合計(千本)	17,651	17,651	19,375	19,375	20,100	20,100
生産量(千トン)	1,500	1,500	1,320	1,320	1,584	1,584
輸入量(千トン)	3	3	4	4	3	1
総供給量(千トン)	1,503	1,503	1,324	1,324	1,587	1,585
輸出量(千トン)	693	693	554	554	637	700
生鮮国内消費量(千トン)	760	760	720	720	900	835
加工仕向量(千トン)	50	50	50	50	50	50
総仕向量(千トン)	1,503	1,503	1,324	1,324	1,587	1,585

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

<グレープフルーツ(生鮮)>

表4 トルコのグレープフルーツの生産需給統計

グレープフルーツ(生鮮) 販売年度の始まり トルコ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021 年 10 月		2022 年 10 月		2023 年 10 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	5,039	5,039	4,982	4,982	5,000	5,000
収穫面積(ヘクタール)	4,900	4,900	4,700	4,700	4,800	4,800
結果樹本数(千本)	1,189	1,189	1,073	1,073	1,200	1,200
未結果樹本数(千本)	27	27	68	68	40	40
果樹本数合計(千本)	1,216	1,216	1,141	1,141	1,240	1,240
生産量(千トン)	249	249	198	198	217	217
輸入量(千トン)	4	4	1	1	1	1
総供給量(千トン)	253	253	199	199	218	218
輸出量(千トン)	149	149	96	96	100	100
生鮮国内消費量(千トン)	103	103	102	102	117	117
加工仕向量(千トン)	1	1	1	1	1	1
総仕向量(千トン)	253	253	199	199	218	218

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

105. ペルー 高品質のマンドリンで日本市場を目指す

FreshPlaza 2024年6月13日

「マンドリンの新しいラベルで最も要求の厳しい市場(日本)に高品質の製品を提供する計画である」

ウンシュウミカンハペルーの産地、特にコンテナ船用の新しい港が現在建設中のワラル市地域(リマ州)に最初に導入されたマンドリン品種であった。(新港建設の)目標は、ペルーからアジア市場への輸送時間を12日短縮することである。また、ワラル地域には日系人の重要なコミュニティがある。様々なマンドリン品種の栽培を専門とするアグロインドustrialG&P社のディエゴ・ガリバルディ氏は、「実際、ウンシュウミカンはそれらの人々によって持ち込まれたものだ」と言う。(以下「」は同氏の発言)

「今から40年以上前、私の父が彼にとって初めてのウンシュウミカンの樹を植えた。現在、ここワラルには60ヘクタールのマンドリン果樹園があり、主にウンシュウミカンが栽培されているが、ナドルコットやハニーマーコットも生産している。また、バランカ市(リマ州)には140ヘクタールの農場があり、現在80ヘクタールの園地にプリモソーレ品種とタンゴ品種を植えている。後者の品種は、その強烈な赤色、高い糖度、種が無いこと、及び輸送に適していることにより、現在ほとんどの市場で大変高く評価されている。」

米国、ヨーロッパ、アジアへの出荷

同氏によると、ワラル地域の気候条件は、早生品種であるウンシュウミカンの成長に適している。「ナドルコットとタンゴの両品種は、日照時間が長く夜は寒いもっと砂漠のような気候に適している。弊社は2つのマンドリン果樹園で生産することで、3月から10月までの8カ月間にわたって果実を供給することができ、米国、欧州連合、英国、カナダ、中国、日本に、年間約230コンテナを出荷している。」

ターゲット市場は日本

同社は数年前から直接輸出に力を入れており、昨年から自社ブランド「ヌナ・フルーツ(Nuna Fruit)」を持ち、最も要求の厳しい市場に高品質の製品を提供することを目指している。ウンシュウミカンの場合、目標は利用できるコンテナのうちかなりの量を日本市場に送ることである。「日本で手にできる価格は、ヨーロッパで手にする価格よりもかなり高い。しかし、日本市場が求める品質や糖度の要求を満たすには、多くの努力が必要である。ウンシュウミカンは脱緑処理に適した品種であるが、主として匂いが残ることから日本人はこの処理に熱心ではない。」

新ブランドで「どこでも笑顔分かち合う」

「弊社はペルーの家族経営企業であり、情熱を持って果実を栽培し、社会の発展と環境的責任を重んじる文化を促進している。ヌナ・フルーツというブランドは、取引先と最終消費者の両方に高品質の製品を提供し、笑顔分かち合う素晴らしい瞬間のための場を作ることを目的として生まれた。」

出荷の序盤は非常に魅力的な価格

「出荷期間の序盤に関しては、今年の価格は概ねこれまでの出荷シーズンよりも高くなっている。これは、果樹園で平均的または高い生産量を得ることができた生産者にとっては興味深いことである。弊社の場合、ウンシュウミカンの生産量は通常70トン/ヘクタールであるが、今年は1ヘクタール当たり55トンで出荷シーズンを終える予定である。今年は価格が高いため、天候に恵まれず収穫サイクルの乱れによって収益性が低かったこれまでの数年を補うような、良好な収益性を達成したいと考えている。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

106. 中国がアジア最大のアボカド輸入国に

PRODUCE PLUS 2024年6月14日

アジアのアボカド貿易は増加傾向にあり、2023年には中国が日本を抜いて初めてアジア最大の輸入国となった

2023年の世界のアボカド貿易量は17%増の340万トンとなった。世界の貿易量の88%は北米と欧州に吸収され、そのほとんどが中南米の生産国から供給されているが、アジア市場への2023年のアボカド輸出量は前年比29%増の18万4千トンとなった。

中国は2023年に6万6千トンを入力し、日本を抜いてアジア最大の輸入国となった。これまでアジア最大の輸入国であった日本は、6万2千トンを入力した。主要な供給国はペルーとメキシコである。

ペルーは中国へのアボカドの最大の供給国であり、出荷量は40%増の5万トンであった。ペルーが76%の市場シェアを占め、チリ(11%)とケニア(6.6%)がそれに続いた。中国とのアボカド貿易の先駆けとなったメキシコは、2千トン(シェア3.1%)を供給し、供給国の構造が変化していることを示している。

メキシコは引き続き日本への最大の供給国であるが、輸出量は10%減の4万5千トンとなり、ペルーは35%増の1万5千トンとなった。オーストラリアは800トンを提供し、日本市場における第3位に躍り出て、より重要なプレーヤーとなった。

韓国の輸入量は6%減の1万3千トンで、市場シェア61%のペルーがここでも首位に立ち、チリとメキシコがそれに続いた。

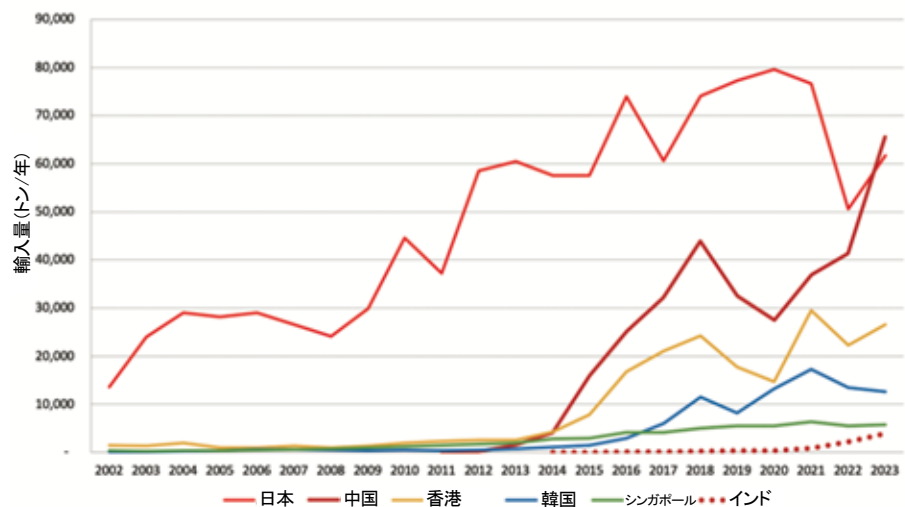
インドもアボカドの大きな市場として浮上しており、輸入量は112%増の3,921トンとなり、そのほとんどがタンザニアから供給されている。オーストラリアとケニアも2023年にインド市場に参入し、輸入量は指数関数的に増加している。

シンガポールは人口560万人の小さな市場だが、1人当たりのアボカド消費量がアジアで最も多く、1人当たり年間1kg、全体で5,790トン消費している。オーストラリアはシンガポールへの最大のアボカド供給国であり、その市場シェアは74%である。

アジア全体でのアボカドの1人当たりの消費量は、0.05kg未満とほとんど測定できないほど少ない。ヨーロッパは1人当たり1.6kg、米国は1人当たり3.5kg以上を消費しており、消費者がアボカドの味に慣れ親しむことによるアジア市場の成長の可能性は計り知れない。

執筆者: ウェイン・プラウズ

アジアの主要なアボカド輸入市場



Source: ITC Trademap based on import data; Fresh Intelligence analysis

107. 南半球の柑橘類の出荷シーズンに天候が大きく影響

[FreshPlaza 2024年6月17日](#)

現在、チリ、アルゼンチン、ペルー、ウルグアイ、南アフリカでは、柑橘類の出荷シーズンである。今シーズン、これらの国々に共通しているのは、天候条件の影響である。干ばつ、降雨、強風は、果実の量や品質、またはその両方に影響を与えている。

チリ

チリのクレメンタインの出荷は例年どおり開始されたが、今シーズンは栽培面積が減少した。セブンシーズ社(米国)のビル・ウェイランド氏は、「干ばつ状態のため、多くの生産者はどの作物に水を与えるかを選択しなければならなかった。他の作物に水を与えることにした生産者もいれば、作物生産から完全に離れてしまった生産者もいた」と言う。その結果、栽培管理された面積が少なくなり、全体的なクレメンタイン出荷量も減少すると予想された。同氏は、「しかし、我々が目にしていることはそうではない。輸出データによると、多くの箱数が米国に入ってきている」と述べた。

クレメンタインの収穫量は予想よりも多いかも知れないが、天候が果実の品質に影響を与えた。生育期間中、生産者らは干ばつと闘ったが、過去6週間は天候パターンが変化し、雨が最も必要とされない時期に雨が降った。同氏は、「収穫期には生産者は雨、時に大雨に繰り返し直面した。降雨は来年以降のシーズンの役に立つであろうが、そのタイミングは、今シーズンの果実の高い品質を確保するのには向いていない」と述べた。

チリからのクレメンタインの出荷は5月に開始され、6月中続く。レモンも5月下旬に出荷を開始し10月まで続き、今シーズンは輸出が増加すると予想されている。同氏は、「この夏は小玉のレモンが不足している米国市場がよい販路になると予想されるため、輸出量の増加が見込まれる」と言う。7月にはネーブルオレンジの出荷が始まり、出荷量は昨年と同程度と見込まれている。晩生のマンダリンの出荷は、7月上旬から中旬に始まり、11月まで続く。

アルゼンチン

アルゼンチンは5月からレモンを出荷している。この生育期は雨が多かったため、レモンは大玉になった。さらに、雨の多い状態は果実の品質に影響を与えている。同氏は、「今年は着荷時点で問題があり、アルゼンチン産レモンの棚持ちが悪いようだ」と話す。

ウルグアイ

主にマンダリンとオレンジの輸出国であるウルグアイは、チリやアルゼンチンと同様の状況に直面している。雨のため農場に入らず、収穫に影響が出た。その結果、柑橘類の出荷シーズンは開始が遅くなり、今シーズンはウルグアイからの出荷量は減少すると予想される。

ペルー

ペルーは南米の柑橘類生産国で唯一、収穫期に雨の影響を受けていないようだ。同国ではマーコットの梱包を通常より1〜2週間早く開始した。出荷量は昨年と同程度と予想されるが、今シーズンは米国への入荷量が減少している。同氏は、「ペルーは国内市場が非常に堅調であり、また中南米で果実の良い販路を見つけている」と語った。

南アフリカ

アフリカ大陸でも、天候の問題が南アフリカの柑橘類の出荷に影響を与えている。この国は例年になく暑い夏に見舞われ、この高い気温は収穫期間中に例年よりも長く影響した。その結果、着色が思うように進まず、生産者らは果実が色づくまで収穫を遅らせた。そのため、クレメンタインの収穫開始は平年より約2週間、オレンジの収穫は平年より約1週間遅れて始まった。

さらに、4月の暴風雨により果実に傷がついた。同国では高い品質基準を順守しているため、出荷率は予想よりもはるかに低いようである。そのため、今シーズンは、米国向けの早生のクレメンタインとネーブルオレンジの出荷量が減少すると予想される。業界関係者は、晩生の品種が暴風の影響をあまり受けておらず、傷

がついていないことを願っている。同国の晩生のマンダリンであるナドルコットは、昨年に比べて約10%の生産量の増加が見込まれている。収穫開始は例年より2週間早く、出荷時期は7月末から10月までと見られる。晩生のオレンジ品種であるミッドナイトの出荷量は、昨年と同様のようだ。同氏は、「8月下旬から10月にかけては、かなりの出荷量が見込まれる」とコメントしている。

グレープフルーツは、南アフリカからの柑橘類の総輸出量に占める割合は小さいものの、今シーズンの見通しは良好である。生産者らが果実の着色を待ったため、収穫はゆっくりと始まった。同氏は、「2週間の遅れはあるものの、収穫量は昨年と同程度になる見込みで、本当に品質の良い果実だ」と言う。南アフリカ産のグレープフルーツは今週米国市場に到着し、10月まで入荷する。

需要

シーズンの成功は、需要と供給のバランスが取れているかどうかにかかっている。ウェイランド氏は、「業界は引き続き、(米国の)消費者の手元にあるドルをめぐる戦いに直面している。厳しい経済状況のため、消費者はお金の使い方に注意を払っており、できるだけ手持ちのドルの使用を引き伸ばそうとしている」と述べた。同氏は、このパターンが短期的に変化するとは考えておらず、「どちらかといえば、支出は減っている」と言い、「できれば、小売業者がこの夏、柑橘類を積極的に宣伝し、人目を引くディスプレイをしてくれることを願っている。それが需要の喚起に確実に役立つからだ」と語った。

執筆者: マリーケ・ヘムズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

108. インド 壊滅的なブドウのシーズン

[FreshPlaza 2024年6月18日](#)

今年のインドの生食用ブドウ出荷シーズンは大きな期待を以て始まり、天候条件に恵まれたことから、予想では果実の入手のしやすさ、品質、出荷量、農薬の残留水準等で非常に明るい兆しを見せていた。インドの農産物輸出業者ジャンキ・フレッシュヤード社のサガール・デオレ氏は、しかし「今シーズンがインドのブドウ輸出の歴史の中で最も困難な部類であることが判明したため、これらの希望は長くは続かなかった」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

紅海危機と輸送の遅延

今年のブドウの出荷シーズンには多くの側面が影響を与えたが、最も深刻だったのは紅海危機とそれに伴うヨーロッパ向けの輸送時間の延長であったとデオレ氏は強調する。「紅海危機がエスカレートし始めるとすぐに、すべての船会社はヨーロッパ行きの船に喜望峯経由の航路をとらせた。ムンバイ(インド)のナバシェバ港からヨーロッパの主要港まで、スエズ運河経由で通常19~22日という輸送日数は、38日から最大60日にまで増加した。船会社は出荷前には輸送時間を30~35日と伝えたが、大部分の船はさらに10~25日以上遅れて到着した。このような輸送時間の増加は、到着時の果実の状態に影響を与えた。また、予定された出荷計画、配送、販売にも大きなマイナスの影響を与えた。」

海上輸送費の急激な増加

デオレ氏は、すでに農産物を海外に送る義務を負っている段階で、輸送コストが突然2倍以上に跳ね上がったことに果実輸出業者らは驚いたと述べている。「1月にブドウの出荷シーズンが始まった時、ヨーロッパの主要港向けの冷蔵コンテナの運賃は約1,400~1,800米ドルと見込まれていたが、1月末までに予想外に4,400~4,800米ドルに上昇した。出荷業者と輸出業者は、すでに約束した販売計画があり配送義務を負っていたため、無理にでも受け入れるしかなかった。この250%の追加輸送コストの突然の発生は、輸出業者に大きな負担となった。」

果実価格の上昇

物流上の問題が起こらなければ、今シーズンは素晴らしいものになっていたかも知れないとデオレ氏は言う。「ブドウは、大きさ、形、色、食味、出荷量の点で良好である。出荷の最盛期は2月から3月と見込まれ、シーズンの終盤には品薄になると予想されていた。そのため、すべての梱包出荷業者は2月から3月上旬までに義務を果たそうと急いだ。その結果、梱包する果実の需要が高まり、また、すべての梱包業者は延長された輸送時間に耐えられるより高品質な果実のみを梱包することを優先した。このこと自体が、出荷可能な果樹園から最高品質の果実を購入するための梱包業者間の競争の激化につながった。継続的な需要の増加は、果実の価格上昇をもたらした。」

着荷時の果実の状態は様々

今シーズンは、より長い輸送時間に耐えられるよう果実の梱包に最善の努力を払ったにもかかわらず、インドの梱包業者と輸出業者の一部は、目的地に到着したブドウの品質の問題に対処する必要があったとデオレ氏は説明する。「これは主に、これまでになかった長い輸送時間が果実の品質と棚持ちに大きな影響を与えたためである。要求される品質パラメータによく適合した品質の高い果実は、直ちに販売された。しかし、影響を受けた果実は再検査と再梱包に送らなければならず、ヨーロッパなどでは人件費が高く、出荷業者と輸出業者にさらなる負担となった。また、予定どおりに到着した荷の販売や、配送と収益確保の約束を守る上でも大きな圧力となった。」

サプライチェーンの破綻

今シーズン、船の運航自体ですでに輸送時間が長くなっていたが、積み替え港の混雑により、さらに遅延が発生したとデオレ氏は言う。「2隻の船がほぼ1週間遅れ、それと同時に2つの異なるスケジュールの2隻の船がこれらの遅れた船と同じ週に到着した。この状況は、市場に非常に混乱した状況を生み出した。予定していた船が来なかったため、市場に果実がほとんどなく予定どおりの配送ができない週があった。その翌週には、2倍の船が入港して入荷量が2倍になり、サプライチェーンに影響を与え、市場価格が大幅に下落した。」

極めて不安定な市場と過小評価された価格設定

「船会社からは船のスケジュールに関する保証がなく、予定どおりに到着する貨物はなかった。予測不可能なサプライチェーンのために、すべての予想と計画は無駄であった。船舶が定時に到着しないこと、着荷時の果実の品質、果実貯蔵庫の限られた収容能力、予想よりも多い出荷数量、インドの現地での出荷データの取得の難しさなど、これらすべての要因が市場を不安定で予測不可能なものにし、最終的に販売価格に高い圧力をかけた。」

今後しばらくの間、この壊滅的なブドウシーズンの痛みを感じるだろう。「一部の出荷業者と輸出業者は、果実を出荷する前にコストがすでに決定されたり支払われたりしているため、今シーズンは財政的に苦しんでいる。上記のすべての困難な側面により、それらの業者は今年はコストを回収できなかった。最高品質の果実を選び、慎重に梱包し、輸送費を250%以上多く払い、最良の物流業者の船に積み込み、あらゆる手段を講じるという最善の努力にもかかわらず、輸出業者は大きな負債、大きな責任、そして困難な将来を背負うことになった。これらは彼ら自身の過失ではなく、船会社に翻弄されている。」

執筆者： ニック・ピーターズ

109. メキシコ ベリー類の輸出は最大20%減少する見込み

FreshPlaza 2024年6月18日

全国ベリー輸出業者協会(Aneberries)の事務局長であるフアン・ホセ・フローレス・ガルシア氏はエル・エコノミスタ紙に対し、ベリー部門は輸出額の18~20%の減少につながる可能性のある重大な課題に直面していると語った。これは、気候変動や干ばつ(これらの現象はベリー類の品質を低下させている)、病害虫の存在、為替レートの不利的な変動、熟練労働者の不足、生産コストの上昇、主要な消費市場の減速など、一連の悪要因によるものである。

同氏によると、主な輸出先は米国、カナダ、日本、中東の一部の国及びヨーロッパであるが、日本円とユーロの為替変動が状況を難しくしている。ベリー類の生産者らは新しい品種を導入し、水利用を効率化しているが、果実の品種は、メキシコの大部分に影響を与える極端な暑さや干ばつ条件に耐えるようには適応していない。

ブルーベリーの価格は特に著しく下落しており、この状況はハリスコ州とシナロア州に最も影響を与えた。同氏は(メキシコの生産ピークと重なった)チリ、米国及びペルーの収穫物との競争が価格の下落に影響を与えた可能性があると言い、さらに、熟練農業労働者が全般的に15~20%不足していると述べた。

このセクターの課題に対処するため、7月24日と25日にグアダラハラの方博会場と同協会の2024年国際会議が開催される。このイベントには、主要な生産者、輸出業者、投入資材やサービスの供給者など、約3千人が参加する予定である。このイベントでは、非生物学的ストレスとその植物自体及び植物のパフォーマンスへの影響、このセクターに対する市場の期待、労働力不足など、様々なトピックを取り上げる。開会式に先立ちチャリティーレースが行われ、集められた資金は児童養護施設に寄付される。

出典: www.eleconomista.com.mx

(関連記事) 世界のブルーベリー需要が供給を上回る

FreshPlaza 2024年6月18日

ブルーベリーの世界的な需要は供給を上回っており、成長を倍増させる必要がある。同じ栽培面積で、または面積をわずかに広げれば、この目標はこの10年で達成される可能性がある。

ブルーベリーは世界の農産物の中で最も新しい果実であるにもかかわらず、現在、多様な文化を持つ世界中の地域で消費されている。ブルーベリーの消費に対する需要は、健康的な果実であるという名声が先行し、人の食事のスーパーフードとして分類されたことから世界中に急速に広まった。さらに、その市場は多様化しており、主に生鮮果実として消費されるだけでなく、果汁からジャム、冷凍食品、リキュール、パストリー、料理等の様々な形態の食品の材料として、さらには医薬品や食品のベースとしても、また化粧品業界でも必要とされている。

世界の数字 ブルーベリー産業の現状は、世界で24万8,550ヘクタールという栽培面積に集約されており、186万60トンの生産量のうち52万9,210トンが果実加工品になるため、130万トン以上が消費者向けの生鮮果実に仕向けられている。これらは大きな数字であり、世界的な存在感のある繁栄し統合された産業について物語っている。しかし、ブルーベリー消費に対する世界的な需要の高まりを満たすにはもはや十分ではなく、すべての専門的な予測によると、世界のブルーベリー産業は今後5年間で生産量を倍増させ、300万トンに達する必要がある。

ペルーの生産性 これらの世界的な数字では、中国が際立っており、7万8千ヘクタールで52万5千トンが生産されている。米国は4万8千ヘクタールで27万7千トンが、ペルーでは2万2千ヘクタールで22万5千トンが生産されている。ペルーの場合、ヘクタール当たりの収量はすべての競争相手よりもはるかに高い。

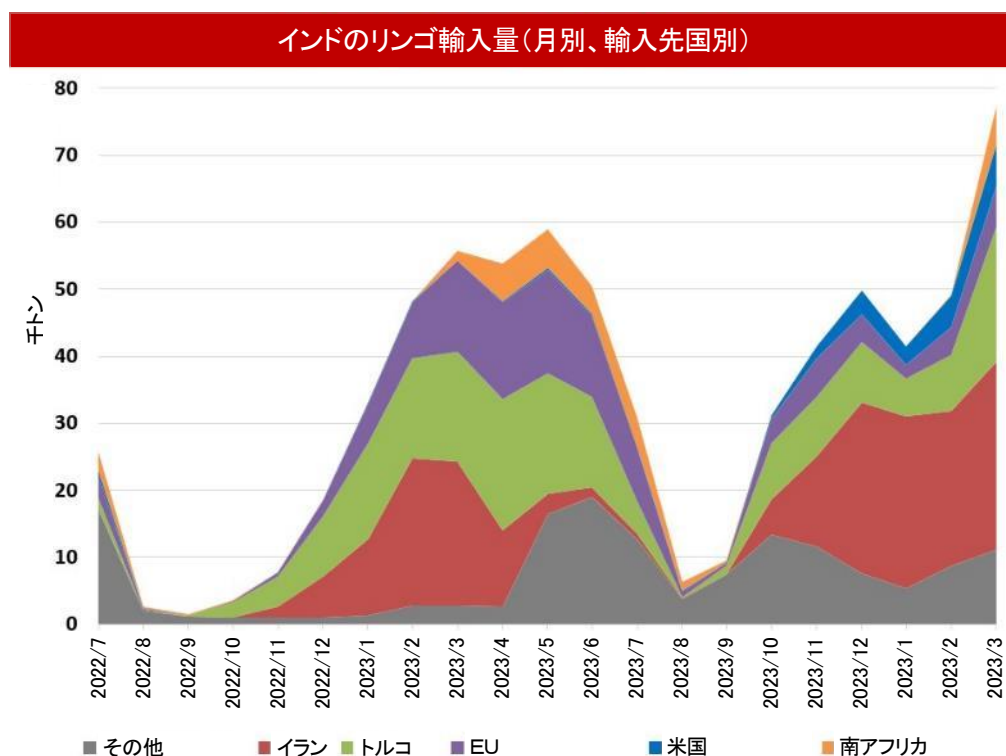
出典: blueberriesconsulting.com

110. 世界の落葉果実事情と市場動向(リンゴ、ブドウ、ナシ)

米国農務省海外農業局 2024年6月18日

インドのリンゴ輸入予測は史上最高

インドの生鮮リンゴの輸入量は、2023/24年度(2023年7月～2024年6月)の最初の9カ月間に前年同期比で70%以上増加し、年間では史上最高の51万トンに達すると予測される。インドにおけるリンゴの消費量は、人口が増加し、より健康的な食品が求められるにつれて増加を続けている。国内生産はわずかに増加すると推定されるが、低品質の国産リンゴをインド北部からインド国内の他の地域に輸送するためのインフラが限られているため、高価格の輸入リンゴの需要は引き続き増加している。



出典: Trade Data Monitor, LLC.

2023/24年度これまでにイランからの輸入がほぼ倍増しており、インドのリンゴ輸入の増加全体の大部分を占めている。2019/20年度以前は、イランのシェアは一貫して輸入量の10%未満であったが、その後全輸入量の3分の1以上に増加した。関税回避のためにアフガニスタン経由でインドに輸入されるイラン産の低価格リンゴによる国内価格の下落圧力に対抗するため、インドは2023年5月にリンゴの最低輸入価格を設定した。最低輸入価格の詳細については、海外農業局(FAS)ニューデリー事務所の「生鮮落葉果実年次報告書2023(英文)」を参照されたい。しかし、イラン産リンゴは、市場シェアの継続的な成長が示すように、価格に敏感なインド市場で依然として手頃な選択肢を提供している。イラン政府は国内供給量の少なさと価格の高騰を理由に、2024年3月にリンゴに輸出関税を課しており、今後数カ月で出荷が減速する可能性がある。

米国からの輸入量も増加し、昨年度の年間2千トンから、この販売年度の最初の9カ月で2万トン近くに増加した。この増加は、インドが2019年6月から課していた米国産リンゴに対する報復上乗せ関税を2023年9月に解除したのを受けたものである。米国のリンゴ生産は回復しているものの、競争が次第に激化するインド市場では、今年の米国からのリンゴ輸入量は過去10年間の平均を大きく下回る可能性が高い。米国産輸入リンゴは、主にレッドデリシャス系で平均1.03ドル/kgであるのに対し、イラン産リンゴは0.62ドル/kgである。

その他の主な輸入先は、欧州連合(EU)、トルコ、南アフリカ等である。EUとトルコの今年のインド向けリンゴ出荷量は、生産量の減少、輸送コストの増加及び紅海での武力攻撃による輸送の遅延により、微増にとど

まっている。南アフリカは、2023/24年度のリンゴの出荷が始まったばかりであるが、生産量の増加と冷蔵処理の輸送中の実施に関する二国間協定に支えられ、すでにインド向けの出荷量が増加している。

<生鮮リンゴ>

世界の2023/24年度のリンゴ生産量は、米国と中国の増加がEUとトルコの減収を上回り、前年比(以下同じ)70万トン以上の増となる8,370万トンと予測される。輸出量は、米国とイランからの出荷量の増加により、10%増の600万トンと予測される。

中国の生産量は、栽培面積の減少にもかかわらず、生産者が既存の果樹園の収量を増やしたため50万トン増の4,500万トンと推定される。輸出量は、ベトナム、フィリピン、バングラデシュ、ネパールへの出荷が増加し、約10万トン増の87万トンと推定される。輸入量は、南半球の輸出国からの出荷量の減少により、1万トン減の8万5千トンと予測される。

EUの生産量は、主要生産国における低温と受粉不良により、47万5千トン減の1,220万トンと推定される。輸出量は、生産量の減少と、主要市場であるエジプトの外貨不足による需要低迷のため、6万5千トン減の97万トンと予測される。輸入量は、域内の消費を補完するため、北マケドニア、モルドバ、セルビアからの出荷量が15%以上増加して、26万5千トン(文末の統計表では27万5千トン)に達すると予測される。

米国の生産量は63万6千トン増の500万トンと、この6年で最高水準になると見込まれる。最大の産地であるワシントン州では、天候に恵まれたことで収量が増加し、生産量は前年比25%増に回復した。このことと、ミシガン州で引き続き生産量が多かったことが相まって、ニューヨーク州の収穫量の減少を上回った。米国農務省農業統計局(NASS)は業界を調査し、2024年5月の「非柑橘類果実及びナッツ類に関するサマリーレポート2023(英文、和文要約)」で、米国の生産量を更新した。輸出量は、生産量の増加に伴うメキシコ、台湾、インドへの出荷量の増加により、27万4千トン増の88万5千トンと予測される。輸入量は、堅調な需要により、微増の10万5千トンと予測される。

チリの生産量は、生産者がより収益性の高い作物に移行して栽培面積が引き続き減少するため、微減の87万トンと予測される。輸出量は微減の46万3千トンで、1999/2000年度以来の低水準と見込まれる。

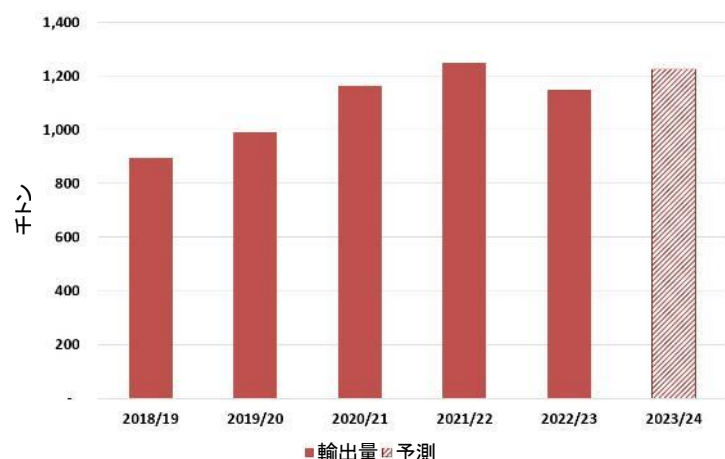
南アフリカの生産量は、好天と、収穫面積の増加により、7万5千トン増の120万トンと予測される。これは、雹害のあった昨年の収穫量からの回復を示しており、過去最高の2021/22年度の収穫量にほぼ匹敵する。輸出量は、インドとEUへの出荷が増加し、4万3千トン増の65万トンと予測される。これが実現すれば、南アフリカは3年連続で南半球最大のリンゴ輸出国となる。

ニュージーランドの生産量は、2023年2月に果樹園に被害を与えたサイクロン「ガブリエル」から生産者が一部回復する中、好天に恵まれ、4万トン増の48万3千トンと予測される。果樹園の改植の高いコストとタイムラグにより、栽培面積が短期的に回復する可能性は低いと見られ、生産量は依然としてサイクロン前の水準を下回っている。生産の回復により、輸出量は2万1千トン増の33万トンと見込まれる。

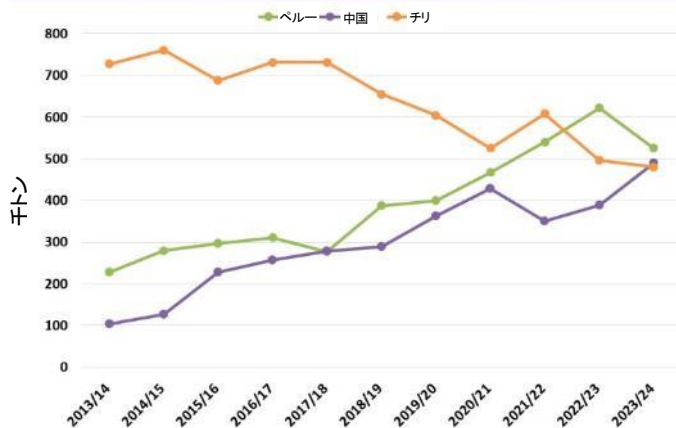
<生食用ブドウ>

世界の2023/24年度の生食用ブドウ生産量は、良好な生育条件によるインドと中国の増収が、EU、トルコ、米国の天候関連の減収を上回り、5年連続で増加して、15万トン以上の増となる2,810万トンと予測される。

南アフリカのリンゴ生産量は概ね最高水準に回復



中国がチリを抜きペルーに次いで第2位の生食用ブドウ輸出国に



輸出量は、ペルー、米国、トルコの減少により、20万トン減の350万トンと見込まれる。

中国の生産量は、5年連続で増加した後さらに75万トン増加して史上最高の1,350万トンを記録するものと推定される。輸出量は25%以上の増となる49万トンと予測され、中国はペルーに次ぐ第2位の生食用ブドウ輸出国となる。輸入量は、国内の供給が潤沢なため、4万トン以上の減となる13万5千トンと予測される。

EUの生産量は、イタリアの天候関連の減収により、約25万トン減の130万トンと予測される。輸出量は、輸出可能な供給量の減少に

より、4万6千トン減の12万5千トンと予測される。輸入量は、南アフリカからの好調な出荷により、2万7千トン増の60万トンと推定される。

米国の生産量は19%減の65万5千トンと推定され、これは過去30年間で最小の収穫量となる。ハリケーン「ヒラリー」は、収穫の最盛期にカリフォルニア州に上陸し、風と雨が収穫を待っていた生食用ブドウの量と質に悪影響を及ぼした。米国農務省農業統計局(NASS)は業界を調査し、2024年5月の「非柑橘類果実及びナッツ類に関するサマリーレポート2023(英文、和文要約)」で、米国の生産量を更新した。輸出量は供給量の減少を反映して6万5千トン減の18万2千トンとなった。国内生産量の減少を補うためチリとメキシコからの輸入が増加し、輸入量は79万3千トンに増加した。

ペルーの生産量は、エルニーニョ現象により潜在的な成長が制限されたため、77万6千トンの微増と予測される。輸出量は、大雨と高温が果実の品質に悪影響を及ぼしたため輸出可能な供給量が減少し、10万トン近い減となる52万5千トンと予測される。ペルーはこの減少にもかかわらず、依然として最大の輸出国である。

チリの生産量は、10年にわたる生産量の減少を招いている栽培面積の減少により、2万トン減の63万5千トンと予想される。輸出量は、米国への出荷が増加したものの、生産量の減少により1万6千トン減の48万トンと予想される。この予想どおりになれば、チリはわずか2年で輸出国の第1位から第3位に転落することになる。

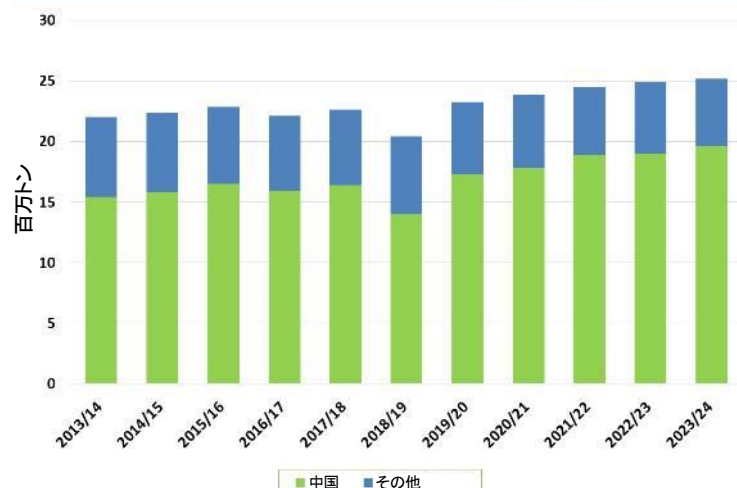
南アフリカの生産量は、冬の天候に恵まれ、5万2千トン増の37万トンとなり、過去最高の2021/22年度に近い生産量にまで回復すると予測される。輸出量は、輸出可能な供給量の増加により、20%近く増となる34万トンと予測される。

<生鮮ナシ>

世界の2023/24年度のナシ生産量は、中国の供給量の増加がEUの悪天候による減収を上回り、27万5千トン以上の増となる2,520万トンと予測される。輸出量は、中国と南アフリカからの出荷量が増加する一方、EUとトルコからの出荷量が減少し、差し引き10万トン以上の増となる180万トンと予測される。

中国の生産量は、通常的气象条件により昨年の霜害からの回復が見込まれるため、60万トン増の1,960万トンと予想される。新しい灌漑・施肥技術や新品種

中国のナシ生産が世界の成長を牽引



への投資は、栽培面積の減少を補って余りあり、生産量の増加と品質の向上につながっている。輸出量は、輸出可能な供給量の増加と、アジアの主要市場とロシアへの好調な出荷により、40%近くの増となる56万5千トンと予測される。中国は依然として、世界のナシ輸出量の3分の1近くを占める最大の輸出国である。

EUの生産量は、イタリアの作柄が過去18年間で最悪となったため、25万トン減の180万トンと推定される。輸出量は、輸出可能な供給量の不足により、4万8千トン減の30万トンと予測される。輸入量は、需要を満たすため(輸出量の減と)ほぼ同じ量だけ増加し、18万トンに達すると予測される。

米国の生産量は、栽培面積の減少が続いているものの、収量の増加により1万5千トン増の60万2千トンと推定される。米国農務省農業統計局(NASS)は業界を調査し、2024年5月の「非柑橘類果実及びナッツ類に関するサマリーレポート2023(英文、和文要約)」で、米国の生産量を更新した。輸出量はメキシコとカナダへの出荷が増加し、15%増の11万5千トンと予測される。輸入量は、中国からの出荷量の増加とアルゼンチン及び韓国からの出荷量の減少がほぼ釣り合うため、微増の7万5千トンと予想される。

アルゼンチンの生産量は、生育条件の悪さと生産コストの上昇により、3万3千トン減の62万1千トンと予測される。輸出量は微増の32万トンと予測され、アルゼンチンは南半球最大で世界第2位のナシ輸出国となる。

チリの生産量は、3年連続の減少となる1万トン減の20万2千トンと見込まれる。輸出量は5千トン減の10万トンで、30年以上ぶりの低水準と見込まれる。

南アフリカの生産量は、十分な雨と低温時間に恵まれた冬の好条件により、3万トン増の53万トンと予測される。輸出量は、輸出可能な供給量の増加とEU向けの好調な出荷により、4万トン増の28万トンと予想される。

利用者への留意事項

欧州連合の定義: 関税同盟の27カ国(リスト省略)

HSコード: 貿易データの集計には以下の6桁コードを使用した。

リンゴ - 080810、ナシ - 080830、生食用ブドウ - 080610

販売年度:

- リンゴ 米国とメキシコは8月から翌年7月。その他のすべての北半球の国は7月から翌年6月。南半球の国は分割表示の2年目として示される暦年。
- 生食用ブドウ 米国とメキシコは5月から翌年4月。他のすべての北半球の国は6月から翌年5月。南半球のアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー、南アフリカは、10月から翌年9月。ブラジルは、分割表示の2年目として示される暦年。
- ナシ 北半球の国は7月から翌年6月。南半球の国は、分割表示の2年目として示される暦年。

リンゴ(生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 12月推計	2023/24 6月推計
生産量						
中国	42,425	44,066	45,973	44,500	45,000	45,000
EU	11,480	11,935	12,266	12,683	12,208	12,208
米国	4,852	4,511	4,438	4,394	4,356	5,030
トルコ	3,620	4,300	4,493	4,968	4,850	4,850
インド	2,370	2,300	2,300	2,400	2,410	2,410
イラン	2,241	2,241	2,241	2,241	2,241	2,241
ロシア	1,779	1,540	1,641	1,742	1,844	1,844
ブラジル	983	1,297	1,297	1,297	1,297	1,297
ウクライナ	1,115	1,279	1,279	1,279	1,279	1,279
南アフリカ	991	1,164	1,250	1,150	1,230	1,225
その他	6,810	6,620	6,321	6,376	6,394	6,354
合 計	78,665	81,253	83,500	83,031	83,109	83,739
国内消費量						
中国	41,487	43,033	45,051	43,821	44,235	44,215
EU	10,659	11,175	11,448	11,887	11,363	11,513
トルコ	3,412	4,013	4,096	4,572	4,471	4,536
米国	4,098	3,844	3,822	3,883	3,646	4,250
インド	2,250	2,400	2,577	2,550	2,639	2,764
ロシア	2,455	2,259	2,216	2,094	2,129	2,099
ブラジル	1,028	1,250	1,392	1,415	1,417	1,432
イラン	1,423	1,286	1,334	1,695	1,511	1,386
ウクライナ	1,114	1,273	1,231	1,247	1,254	1,244
メキシコ	1,017	973	899	1,042	1,061	1,131
その他	9,189	9,177	9,208	8,614	8,924	8,816
合 計	78,133	80,684	83,276	82,820	82,649	83,386
輸入量						
インド	194	377	448	360	410	510
イラク	405	406	455	341	425	415
英国	320	330	328	278	315	325
メキシコ	257	260	266	232	250	320
ベトナム	233	278	299	302	305	320
EU	378	325	331	238	250	275
ロシア	763	796	587	362	295	265
アラブ首長国連邦	171	175	211	190	200	240
サウジアラビア	195	174	179	199	205	220
バングラデシュ	271	266	252	178	205	185
その他	3,239	2,989	3,145	2,715	2,909	2,726
合 計	6,425	6,375	6,502	5,397	5,769	5,801
輸出量						
EU	1,199	1,084	1,149	1,035	1,095	970
米国	861	775	721	611	820	885
中国	1,042	1,102	997	774	845	870
イラン	818	956	907	546	730	855
南アフリカ	509	589	625	607	650	650
チリ	660	644	603	469	480	463
ニュージーランド	400	356	341	309	320	330
トルコ	209	288	398	396	380	315
セルビア	206	185	165	110	170	160
モルドバ	217	150	253	123	140	110
その他	476	506	428	470	463	410
合 計	6,596	6,634	6,587	5,451	6,093	6,018

注：米国とメキシコの販売年度は8月から翌年7月。その他のすべての北半球の国は7月から翌年6月。南半球の国は分割表示の2年目として示される暦年。

ブドウ(生食用、生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 12月推計	2023/24 6月推計
生産量						
中国	10,800	11,450	11,980	12,750	13,500	13,500
インド	2,280	2,300	2,900	2,850	2,950	2,950
トルコ	2,050	2,220	1,857	2,220	1,900	1,900
ブラジル	1,436	1,748	1,748	1,748	1,748	1,748
ウズベキスタン	1,607	1,695	1,695	1,695	1,695	1,695
エジプト	1,385	1,170	1,470	1,560	1,568	1,568
EU	1,548	1,374	1,422	1,546	1,298	1,298
ペルー	645	685	713	766	776	776
米国	905	871	826	811	878	655
チリ	785	665	793	656	745	635
その他	1,302	1,293	1,308	1,319	1,331	1,362
合 計	24,743	25,471	26,713	27,921	28,389	28,087
生鮮国内消費量						
中国	10,677	11,215	11,810	12,537	13,150	13,145
インド	1,803	1,830	2,285	2,254	2,360	2,320
EU	1,872	1,766	1,854	1,948	1,778	1,773
トルコ	1,845	2,006	1,595	1,997	1,722	1,761
ブラジル	1,394	1,677	1,703	1,683	1,705	1,705
ウズベキスタン	1,487	1,566	1,471	1,455	1,595	1,585
エジプト	1,248	1,027	1,328	1,392	1,400	1,400
米国	1,252	1,227	1,281	1,310	1,428	1,265
ロシア	308	369	405	549	328	318
メキシコ	273	272	266	304	276	291
その他	2,159	2,212	2,216	2,095	2,196	2,171
合 計	24,318	25,166	26,215	27,523	27,938	27,735
輸入量						
米国	672	670	713	746	760	793
EU	501	572	604	574	630	600
ロシア	288	351	380	518	300	290
英国	275	269	271	258	280	270
カナダ	189	191	184	178	175	170
ベトナム	113	147	99	140	150	140
中国	239	194	181	176	130	135
メキシコ	91	98	103	130	120	135
タイ	131	140	103	136	145	135
香港	238	201	119	116	120	120
その他	683	743	835	705	729	723
合 計	3,418	3,577	3,592	3,676	3,539	3,511
輸出量						
ペルー	400	468	540	622	595	525
中国	362	428	351	389	480	490
チリ	605	526	608	496	565	480
南アフリカ	284	322	336	285	310	340
インド	185	267	275	283	295	335
メキシコ	224	207	196	209	230	230
米国	325	314	258	247	210	182
エジプト	150	155	150	170	170	170
オーストラリア	153	121	109	131	140	155
トルコ	205	215	264	227	180	140
その他	647	648	654	690	500	501
合 計	3,540	3,669	3,741	3,749	3,675	3,549

注: 米国とメキシコの販売年度は5月から翌年4月。その他のすべての北半球の国は6月から翌年5月。南半球のアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー、南アフリカは、10月から翌年9月。ブラジルは、分割表示の2年目として示される暦年。一部の国は干しブドウ用と生食用を含むことがある。

ナシ(生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 12月推計	2023/24 6月推計
生産量						
中国	17,314	17,815	18,876	19,000	19,600	19,600
EU	2,059	2,373	1,847	2,081	1,832	1,832
アルゼンチン	640	615	557	654	625	621
米国	653	610	601	587	583	602
トルコ	530	550	530	571	540	540
南アフリカ	438	461	540	500	500	530
インド	310	308	310	300	313	313
ロシア	290	247	240	235	230	230
日本	198	206	206	206	206	206
チリ	222	233	223	212	202	202
その他	586	487	564	576	554	525
合 計	23,241	23,906	24,493	24,922	25,186	25,201
国内消費量						
中国	16,707	17,345	18,404	18,607	19,120	19,050
EU	1,823	2,172	1,684	1,873	1,677	1,717
米国	594	577	559	558	553	562
トルコ	479	477	436	482	465	485
ロシア	436	446	422	455	389	415
インド	327	330	338	328	347	342
アルゼンチン	300	301	283	339	306	301
南アフリカ	212	214	253	260	220	250
日本	197	205	205	205	205	205
インドネシア	236	196	215	151	185	190
その他	1,754	1,531	1,629	1,649	1,622	1,614
合 計	23,067	23,793	24,429	24,906	25,090	25,132
輸入量						
インドネシア	236	196	215	151	185	190
EU	172	175	186	140	170	185
ロシア	194	241	183	220	160	185
ブラジル	138	121	133	159	160	150
ベトナム	133	97	101	96	110	125
英国	100	105	103	112	100	100
香港	76	81	77	80	80	90
メキシコ	84	73	72	80	80	85
ベラルーシ	119	112	78	108	105	75
米国	72	75	69	71	80	75
その他	509	473	503	481	479	487
合 計	1,832	1,749	1,719	1,696	1,709	1,747
輸出量						
中国	619	480	482	410	500	565
アルゼンチン	340	315	275	315	320	320
EU	407	377	349	348	325	300
南アフリカ	227	247	287	241	280	280
米国	130	109	110	100	110	115
チリ	114	127	116	105	105	100
トルコ	51	73	94	89	75	55
ベラルーシ	16	54	27	56	45	40
韓国	31	19	24	30	25	20
オーストラリア	9	9	8	6	8	8
その他	15	11	11	15	12	14
合 計	1,959	1,821	1,784	1,713	1,805	1,817

注: 北半球の国の販売年度は7月から翌年6月。南半球の国は、分割表示の2年目として示される暦年。

111. EUの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁)

米国農務省GAINレポート 2024年6月18日

これは米国農務省海外農業局のマドリッド事務所(スペイン)が作成した「柑橘類半期報告書」のエグゼクティブサマリー及びオレンジとオレンジ果汁の項(他の品目は生産需給統計表のみ)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

2023/24年度のEUのオレンジとマンダリンの生産量の減少は、レモンとグレープフルーツの生産量の増加を上回った。EUの柑橘類生産は地中海地域に集中している。スペインとイタリアがEUの主要な柑橘類生産国であり、ギリシャ、ポルトガル、キプロスがそれに続く。

EUは、輸入が輸出を大幅に上回る柑橘類の純輸入者である。貿易の大部分は、EU域内の生産国と非生産国の間で行われる。アジアルート経由の貿易がますます困難になる中、地中海沿岸のEU近隣の柑橘類生産国(エジプト、トルコ等)は、EUへの輸出に力を入れている。このことは、北半球の柑橘類の出荷シーズンと重なり、この地域での競争が激化する販売年度(10月～)の前半に特に当てはまる。2023/24年度のEUの柑橘類輸出は、主にEU域外のヨーロッパ諸国向けに集中しており、わずかに減少すると予測される。

コロナ禍中に記録的な量を達成した生鮮柑橘類の消費量は、コロナ禍前の水準に戻ると見込まれる。2023/24年度は、温暖な冬の天候により柑橘類の消費が妨げられた。さらに、一部の消費者がインフレに対応するため支出を精査して果実の消費を減らしたことや、熱帯果実等の非柑橘系果実を選択する傾向を強めたことから、消費は減少傾向にある。EUにおける柑橘類の加工仕向量は消費量のごく一部にすぎないが、柑橘類加工品の新しい市場が生まれるにつれて拡大すると予想される。

<オレンジ>

表1 EUの生鮮オレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり 欧州連合(EU)	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	283,872	283,872	285,348	285,348	285,147	286,863
収穫面積(ヘクタール)	261,440	261,440	264,632	264,632	236,305	265,831
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	6,728	6,728	5,564	5,580	5,475	5,475
輸入量(千トン)	736	735	1,043	1,047	1,000	1,090
総供給量(千トン)	7,464	7,463	6,607	6,627	6,475	6,565
輸出量(千トン)	403	403	343	343	340	300
生鮮域内消費量(千トン)	5,950	5,950	5,640	5,660	5,525	5,625
加工仕向量(千トン)	1,111	1,110	624	624	610	640
総仕向量(千トン)	7,464	7,463	6,607	6,627	6,475	6,565

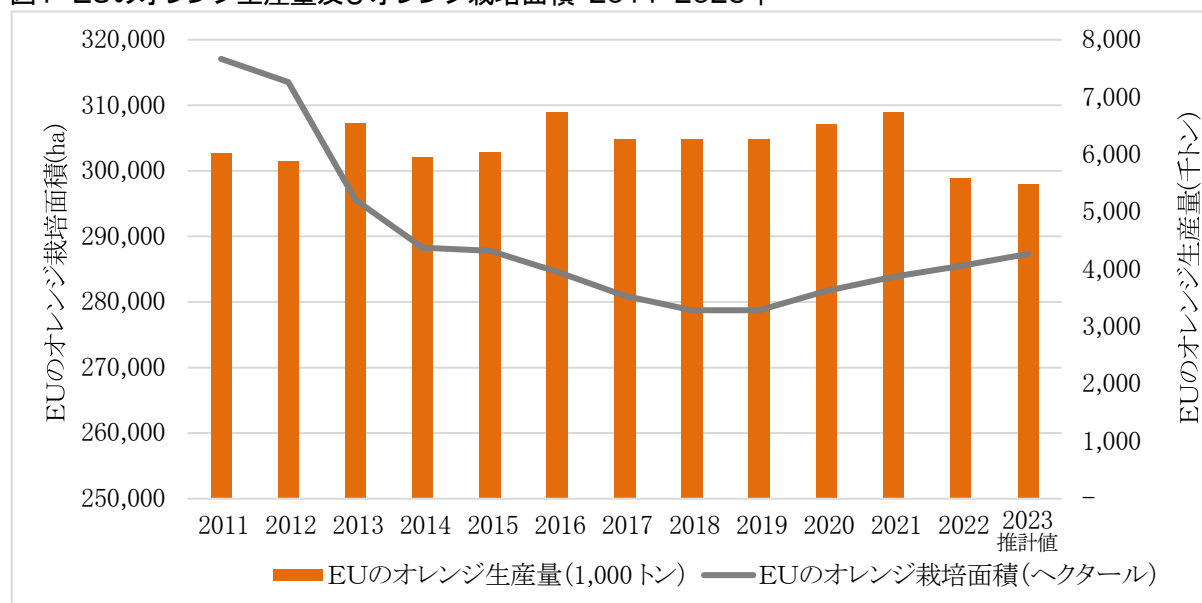
これは米国農務省の公式データではない。

出典: 2021/22年度及び2022/23年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

2023/24年度のEUのオレンジ生産量は、すでに少なかった2022/23年度からさらに微減となる540万トン強と予測される。オレンジの出荷量はEU域内で生産される柑橘類の中で最大であり、スペインがEUの生産量の50%を占めている。着果期の過度の雨、干ばつと高い気温及び灌漑の制限が、果実のサイズに悪影響を及ぼし、収量が減少した。スペイン及びそれより程度は少ないもののギリシャとポルトガルで生産性が低下し、イタリアの生産量の増加はそれを補うには十分でなかった。

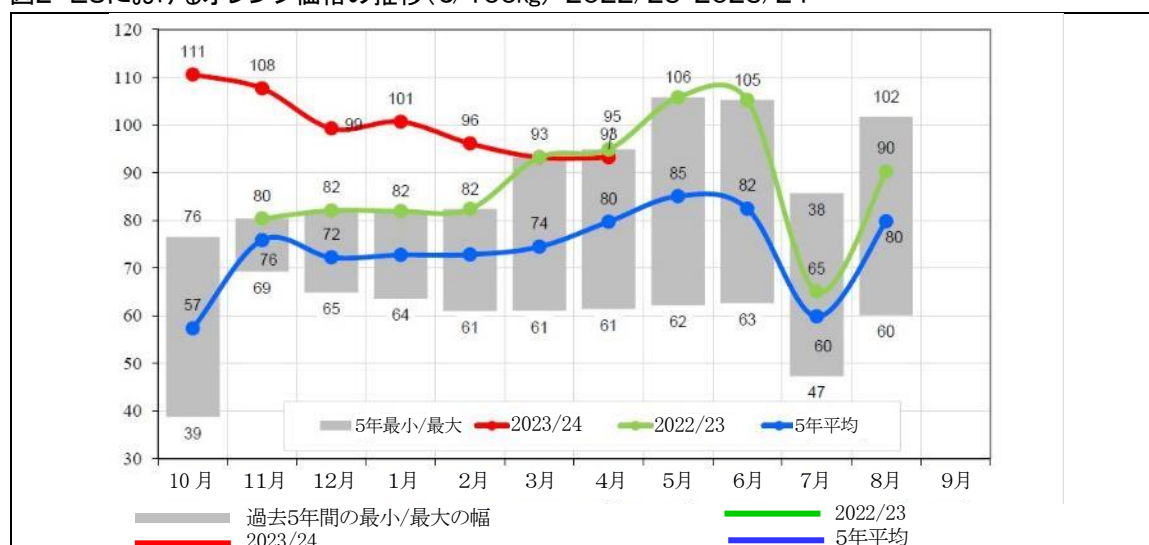
[EU Citrus Dashboard](#)によると、2023/24年度のオレンジ価格は、2022/23年度よりも高い水準で始まり、それは2024年2月まで続いた。しかし、2024年3月以降は、EUのオレンジ価格は下方修正され、前年度を下回る水準となった。

図1 EUのオレンジ生産量及びオレンジ栽培面積 2011-2023年



出典: 海外農業局EU各事務所

図2 EUにおけるオレンジ価格の推移(€/100kg) 2022/23-2023/24



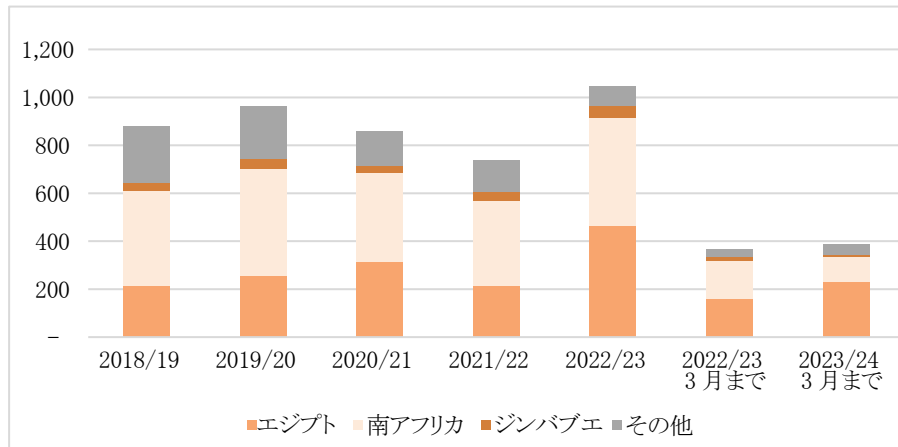
出典: DGAGRI Dashboard: Citrus Fruit.

2023/24年度の生鮮オレンジの消費量は、EU域内における2年連続の不作に伴う価格の上昇と消費者嗜好の変化の両方により、昨シーズンに比べて減少すると予想される。逆に、2023/24年度の加工仕向量は、商業的に販売できないサイズのオレンジが比較的に入手しやすいことを考慮して上方修正した。詳細については、以下の「[オレンジ果汁](#)」の項を参照されたい。

2023/24年度には、域内の生産の減少を補うため、最終的には生鮮消費と加工用の両方で、より多くのオレンジがEUに輸入されると予想される。主な輸入先国は、EUの収穫期と重なるエジプトと、オフシーズンの南アフリカ及びジンバブエである。

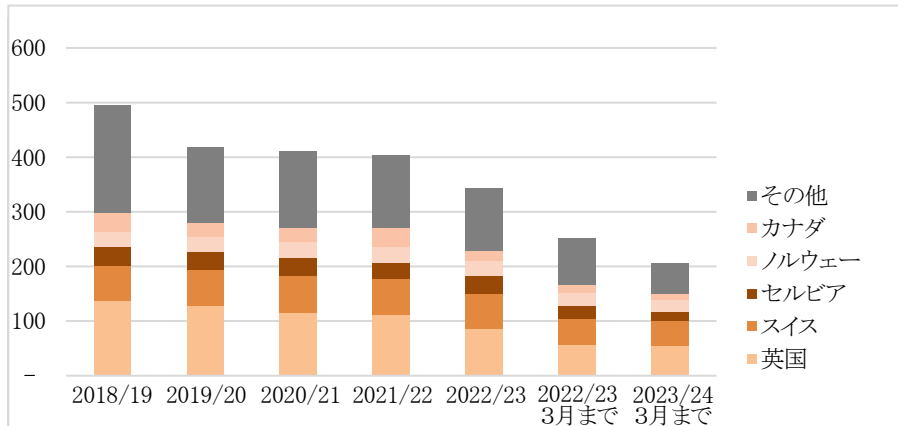
2023/24年度には域内のオレンジを入手しにくく、地中海沿岸の他のオレンジ生産国 - 従来のEUからの輸出市場をアジア向け輸出ルートに代わる堅実な選択肢と見ている - との競争が激化していることから、EUのオレンジ輸出は減少すると予測される。主としてスペインから輸出されるEU産オレンジの主要輸出先は、英国、スイス、セルビア、ノルウェー、カナダ等である。

図3 EUの原産国別オレンジ輸入量(千トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作成

図4 EUの出荷先別オレンジ輸出量(千トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作成

<オレンジ果汁>

表2 EUのオレンジ果汁(ブリックス値 65)の生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度の始まり 欧州連合(EU)	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021 年 10 月		2022 年 10 月		2023 年 10 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料の加工仕向け量(トン)	1,111,000	1,111,000	624,000	624,000	910,000	640,000
期初在庫量(トン)	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
製造量(トン)	86,127	86,127	48,374	48,374	47,288	49,614
輸入量(トン)	566,745	566,745	525,090	525,090	508,000	528,000
総供給量(トン)	667,872	667,872	588,464	588,464	570,288	592,614
輸出量(トン)	111,848	111,848	110,798	110,798	95,000	116,000
域内消費量(トン)	541,024	541,024	462,666	462,666	460,288	461,614
期末在庫量(トン)	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
総仕向け量(トン)	667,872	667,872	588,464	588,464	570,288	592,614

これは米国農務省の公式データではない。

出典: 2021/22年度及び2022/23年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

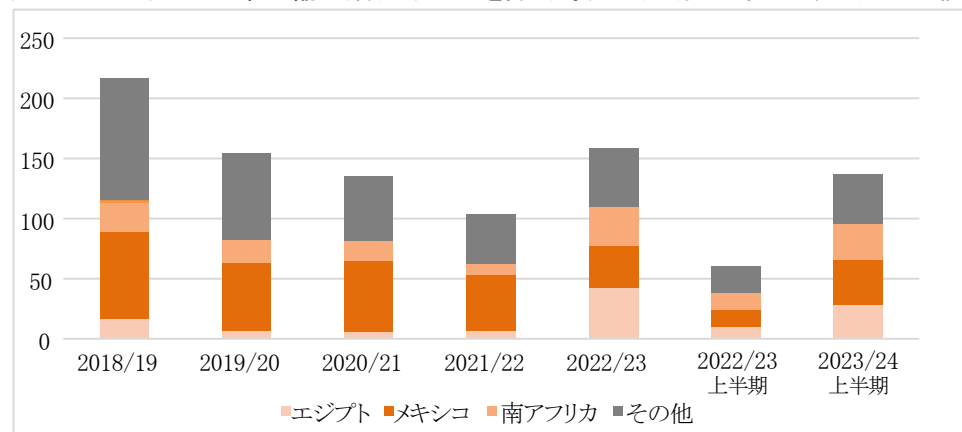
生鮮消費のサイズ基準を満たしていないオレンジの割合が多く、オレンジの輸入量もやや多いため、2023/24年度の域内のオレンジ果汁製造量は微増の4,960万トンと予測される。

オレンジ果汁価格の世界的な高騰にもかかわらず、入手可能なデータに基づき、2023/24年度上半期のEUのオレンジ果汁輸入を輸入量と輸入額の両面で2022/23年度の水準から上方修正した。一部の業界関係者は、消費者が支払う小売価格への影響を和らげるため、オレンジ果汁を他の柑橘類と混合する選択肢を模索している。ブラジル¹に次いでEUへの第2位の供給国であるエジプトからのオレンジ果汁輸入は数量的に最大の増加を記録し、一方メキシコからの輸入は金額的に大幅に増加した。

2023/24年度上半期の入手可能なデータは、EUのオレンジ果汁輸出も増加していることを示しており、そのほとんどが英国向けで、英国は依然としてEU産オレンジ果汁の突出して最大の輸出先である。

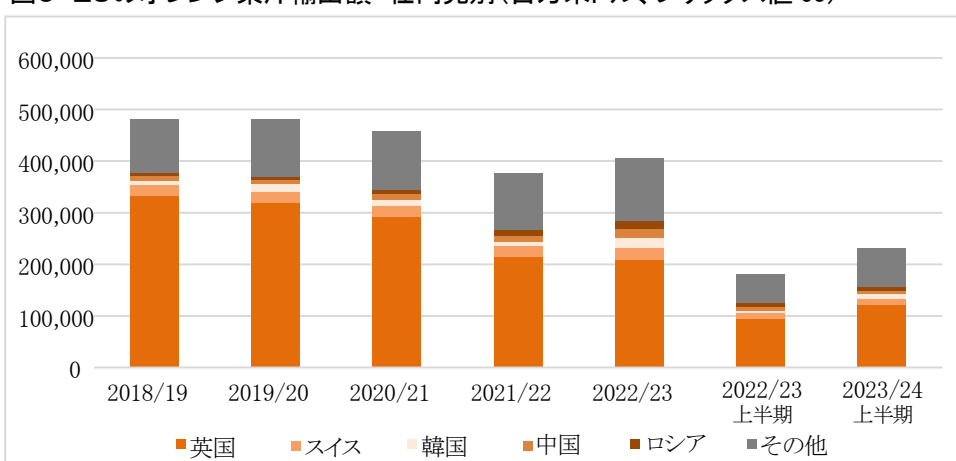
2023/24年度のオレンジ果汁の消費量は、価格の上昇により価格に敏感な消費者が摂取量を減らしたり、より手頃な価格の代替飲料や他の果汁を選択したりしているため、前シーズンと比較してわずかに下方修正した。

図5 EUのオレンジ果汁輸入額(ブラジルを除く)原産地別(百万米ドル、ブリックス値 65)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作成

図6 EUのオレンジ果汁輸出額 仕向先別(百万米ドル、ブリックス値 65)



出典: Trade Data Monitor, LLC のデータに基づき当事務所が作成

¹ ブラジルはEUのオレンジ果汁輸入の平均90%を占める。

<タンジェリン/マンダリン>

表3 EUのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮)	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021 年 10 月		2022 年 10 月		2023 年 10 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
販売年度の始まり						
欧州連合(EU)						
栽培面積(ヘクタール)	150,200	150,200	146,120	146,120	142,033	142,000
収穫面積(ヘクタール)	137,785	137,785	136,458	136,458	132,595	132,485
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	3,190	3,190	2,820	2,947	2,675	2,650
輸入量(千トン)	430	430	482	482	480	470
総供給量(千トン)	3,620	3,620	3,302	3,429	3,155	3,120
輸出量(千トン)	322	322	297	296	225	295
生鮮域内消費量(千トン)	3,051	3,051	2,785	2,913	2,720	2,575
加工仕向量(千トン)	247	247	220	220	210	250
総仕向量(千トン)	3,620	3,620	3,302	3,429	3,155	3,120

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2021/22年度及び2022/23年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

<レモン/ライム>

表4 EUのレモン/ライムの生産需給統計

レモン/ライム(生鮮)	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021 年 10 月		2022 年 10 月		2023 年 10 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
販売年度の始まり						
欧州連合(EU)						
栽培面積(ヘクタール)	86,466	86,466	87,838	87,838	89,371	89,043
収穫面積(ヘクタール)	74,174	74,174	77,192	77,192	78,841	78,539
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	1,635	1,635	1,458	1,453	1,685	1,673
輸入量(千トン)	630	630	581	581	550	600
総供給量(千トン)	2,265	2,265	2,039	2,034	2,235	2,273
輸出量(千トン)	144	142	122	122	180	140
生鮮域内消費量(千トン)	1,830	1,830	1,650	1,650	1,790	1,780
加工仕向量(千トン)	291	293	267	262	265	353
総仕向量(千トン)	2,265	2,265	2,039	2,034	2,235	2,273

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2021/22年度及び2022/23年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

<グレープフルーツ>

表5 EUのグレープフルーツの生産需給統計

グレープフルーツ(生鮮)	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021 年 10 月		2022 年 10 月		2023 年 10 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
販売年度の始まり						
欧州連合(EU)						
栽培面積(ヘクタール)	3,791	3,791	4,203	4,230	4,610	4,614
収穫面積(ヘクタール)	3,191	3,191	3,323	3,323	3,729	3,735
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	106	106	98	98	104	108
輸入量(千トン)	223	224	209	209	200	210
総供給量(千トン)	329	330	307	307	304	318
輸出量(千トン)	17	17	20	20	25	20
生鮮域内消費量(千トン)	299	300	276	276	267	284
加工仕向量(千トン)	13	13	11	11	12	14
総仕向量(千トン)	329	330	307	307	304	318

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2021/22年度及び2022/23年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM)、その他は海外農業局EU各事務所

112. チリの柑橘類事情(レモン)

米国農務省GAINレポート 2024年6月19日

これは米国農務省海外農業局サンチャゴ事務所(チリ)が作成した「柑橘類半期報告書」の要旨及びレモンの項(他の品目は生産需給統計表のみ)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

当事務所は、栽培面積の増加傾向と通常の収量を前提として、チリの2023/24年度のレモンの生産量を6.7%増の17万5千トンと推定する。チリのレモン輸出量は8.8%増の合計7万4千トンと見込まれる。当事務所はまた、厳しい利益率が続いていることから、2023/24年度のオレンジの栽培面積は減少すると予測する。その結果、チリのオレンジ生産量は1.6%減の合計17万7千トンと見込まれる。オレンジの輸出量はこれを踏まえ、3.2%減の合計9万2千トンと見込まれる。チリの2023/24年度のマンダリン生産量は、マンダリンの主要産地における干ばつにより9.7%減の合計24万2千トンと見込まれる。同様に、マンダリンの輸出量は21万1千トンに減少し、これは前年度に比べて10.6%の減となる。

<レモン(生鮮)> (レモンには貿易統計上レモンと同一区分のライムを含みます。)

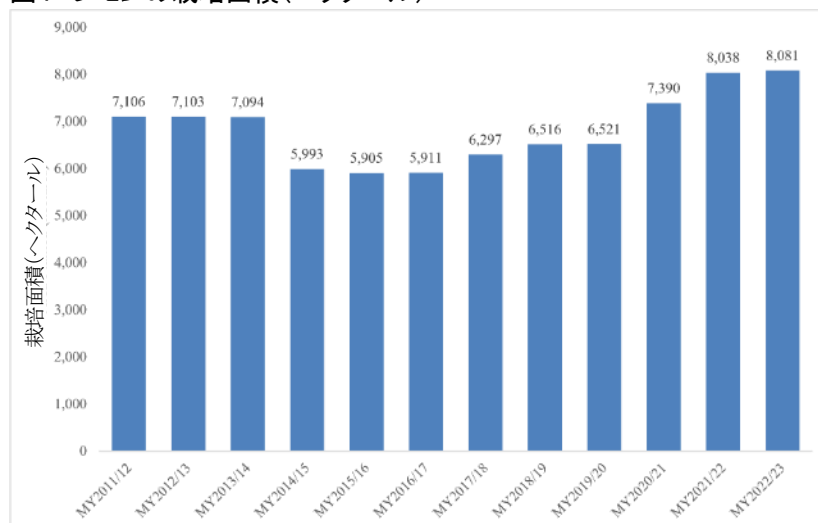
表1 チリのレモンとライムの生産需給統計

レモン/ライム(生鮮) 販売年度の始まり チリ	2021/2022 2022年4月		2022/2023 2023年4月		2023/2024 2024年4月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	8,040	8,040	8,080	8,081	8,150	8,150
収穫面積(ヘクタール)	8,000	8,000	8,000	8,000	8,050	8,050
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
生産量(千トン)	136	136	164	164	175	175
輸入量(千トン)	15	12	12	13	10	10
総供給量(千トン)	151	148	176	177	185	185
輸出量(千トン)	56	56	68	68	74	74
生鮮国内消費量(千トン)	86	83	98	99	100	100
加工仕向量(千トン)	9	9	10	10	11	11
総仕向量(千トン)	151	148	176	177	185	185

出典: 当事務所推計 公式データは [PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

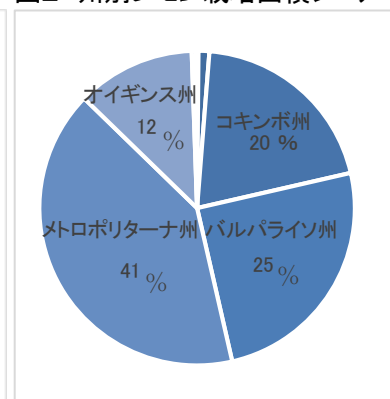
生産

図1 レモンの栽培面積(ヘクタール)



出典: ODEPA(農業省調査政策局) 2024 MYは販売年度

図2 州別レモン栽培面積シェア



出典: ODEPA, 2024

当事務所は、栽培面積の増加傾向と通常の収量を前提として、チリの2023/24年度のレモンの生産量を6.7%増の17万5千トンと推定する。同年度には、その収益性の高さにより、レモンの栽培面積は8,150ヘクタールと見込まれる。

タールに達すると見込まれ、これは2022/23年度に比べて1%の増加に相当する(図1)。生産者らは、レモンは価格が高く、必要とする水の量が少ないため、生産と輸出においてアボカド等の他の作物に代わる収益性の高い代替品であることをわかっている。チリのレモン栽培面積は、2016/17年度の5,911ヘクタールから2022/23年度には8,081ヘクタールに増加した。

レモンの栽培面積は、国の北部のコキンボ州から中南部のオイギンス地域に及ぶすべての産地で増加した。ただし、栽培面積の40%以上はチリ中部のメロポリターナ(首都)州にある(図2)。

チリでは、国内市場の価格が高い12月から3月までの夏の間、レモンは国内市場向けに出荷される。6月から9月までのチリの冬の間は、国際価格が国内価格よりも高く、ほとんどのチリ生産者は北米、ヨーロッパ、アジアにレモンを輸出する。

消費

当事務所は、2023/24年度のレモンの国内消費量を、人口の増加に伴い1%増の10万トンと予測する。国内のレモン消費量は、商業的生産量の57%を占めている。消費のピークは国内の供給が減少する12月から3月である。

2023/24年度のレモンの加工仕向量は、生産量の増加に伴い、2022/23年度より10%多い1万1千トンと見込まれる。レモンは、果汁、エッセンシャルオイル、菓子用の濃縮物に加工される。

貿易

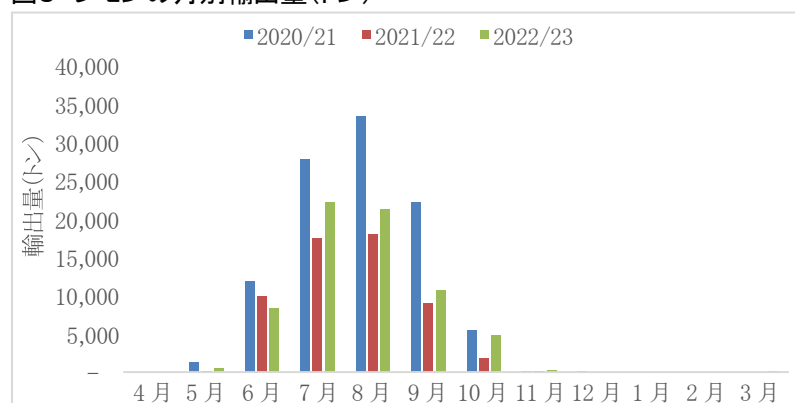
当事務所は、チリの2023/24年度の輸出量を、生産量の増加により8.8%増の7万4千トンと予測する。チリ産レモンの最大の市場は米国である。2022/23年度にチリはレモン輸出量の61.5%を米国に輸出した。2022/23年度のチリ産レモンのその他の上位市場は、日本、韓国、オランダであった(表2)。

表2 レモン及びライムの輸出量(トン)

輸出先国	品目: 080550、レモン及びライム、生鮮または乾燥 販売年度						2022/23 対前年増減
	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	
世界	88,315	90,286	96,606	101,996	56,217	67,794	20.6%
米国	56,116	55,972	54,458	65,682	31,222	41,672	33.5%
日本	18,285	20,170	18,705	17,056	15,578	17,076	9.6%
韓国	3,931	3,792	5,343	4,999	4,423	5,593	26.5%
オランダ	4,553	5,225	4,575	4,630	901	1,634	81.4%
イタリア	987	1,148	1,298	617	209	576	175.6%
スペイン	1,218	1,606	966	858	689	432	-37.3%
オーストリア	0	0	0	0	0	288	
中国	0	0	5,657	6,532	1,558	124	-92.0%
ドミニカ共和国	33	38	30	56	54	97	79.6%
コロンビア	38	80	88	54	58	93	60.3%
その他	3,154	2,255	5,486	1,512	1,525	209	-86.3%

出典: Trade Data Monitor, LLC

図3 レモンの月別輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

チリでは、レモンの販売年度は収穫期が始まる4月からである。輸出の大部分は毎年6月から9月の間に行われ、天候や市場の状況に応じて7月または8月にピークを迎える(図3)。

チリは、2022/23年度に1万3,200トンのレモンを輸入した。レモンの最大の供給国はペルーで、ブラジル、コロンビア、米国がそれに続いた(表3)。ブラジルからのレモンの輸入は、2020/21年度以降一貫して増加しており、2022/23年度の総輸入量の30.6%を占めた。

表3 レモン及びライムの輸入量(トン)

品目：080550、レモン及びライム、生鮮または乾燥							
輸入先国	販売年度						2022/23 対前年増減
	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	
世界	13,861	11,466	11,356	12,703	12,267	13,200	7.6%
ペルー	7,980	8,943	8,027	10,350	8,567	7,837	-8.5%
ブラジル	0	0	0	202	3,057	4,035	32.0%
コロンビア	1,611	941	2,204	1,827	500	1,177	135.4%
米国	4,249	1,582	1,116	324	142	149	4.9%
その他	21	-	9	-	1	2	100.0%

出典: Trade Data Monitor, LLC

<オレンジ>

表4 チリのオレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり チリ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022年4月		2023年4月		2024年4月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	6,371	6,371	6,362	6,362	6,300	6,300
収穫面積(ヘクタール)	6,180	6,180	6,200	6,200	6,150	6,150
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
生産量(千トン)	164	164	179	180	175	177
輸入量(千トン)	3	2	3	1	3	2
総供給量(千トン)	167	166	182	181	178	179
輸出量(千トン)	86	81	95	95	90	92
生鮮国内消費量(千トン)	71	75	76	75	77	76
加工仕向量(千トン)	10	10	11	11	11	11
総仕向量(千トン)	167	166	182	181	178	179

出典: 当事務所推計 公式データは [PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

<タンジェリン/マンダリン>

表7 チリのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

マンダリン/タンジェリン(生鮮) 販売年度の始まり チリ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022年4月		2023年4月		2024年4月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	11,194	11,194	11,184	11,184	12,000	12,000
収穫面積(ヘクタール)	11,000	11,000	11,000	11,000	11,800	11,800
結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(千本)	0	0	0	0	0	0
生産量(千トン)	158	158	268	268	287	242
輸入量(千トン)	1	1	1	1	0	1
総供給量(千トン)	159	159	269	269	287	243
輸出量(千トン)	131	131	233	236	250	211
生鮮国内消費量(千トン)	25	25	33	30	34	29
加工仕向量(千トン)	3	3	3	3	3	3
総仕向量(千トン)	159	159	269	269	287	243

出典: 当事務所推計 公式データは [PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

113. ブラジルの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁)

米国農務省GAINレポート 2023年6月19日

これは米国農務省海外農業局ブラジリア(ブラジル)農務事務所(OAA)が作成した「柑橘類半期報告書」を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。「ブラジル年度」等と特記した場合を除き、この報告書の2023/24年度(販売年度)は2024年7月～2025年6月を指し、これはブラジルの2024/25年度に該当します。

要旨

2023/24年度のブラジル産オレンジの出荷量は、3億7,800万箱(90ポンド(約40.8kg)/箱)と予測されており、これは1,542万トンに相当し、当事務所の前回の予測(4億800万箱すなわち1,650万トン)と比較して7.3%少ない。これは主に、より深刻な干ばつに至った天候条件とカンキツグリーニング病の影響によるものである。一方、当事務所は2023/24年度のオレンジ1果実当たりの重量予測を、前回予測した158グラムより4.2%重い165グラム(5.82オンス)に修正した。これは、生産量の減少とそれに伴う1果実当たりの生育スペースの拡大によるものである。当事務所はまた、2023/24年度のブラジル産オレンジ果汁(ブリックス値65の冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)換算)の予想製造量を106万トンに修正した。これは、干ばつ、極端な高温及びカンキツグリーニング病の発生の増加によって、加工用に仕向けられる果実の出荷量が減少すると見込まれるためであり、2022/23年度の当事務所の推計値(116万トン)に対して8.62%の減少となる。

<生鮮オレンジ>

生産需給統計表

次の表は、ブラジルの2022/23、2023/24各年度(7月～翌年6月)における生鮮オレンジの生産、供給、流通の改訂データと、2024/25年度の最新の予測を示している。上記のブラジルの年度は、それぞれ米国の2021/22、2022/23及び2023/24年度に相当する。(翻訳に当たり、表に合わせて文章を整理しました。)

表1 ブラジルの生鮮オレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり ブラジル	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022年7月		2023年7月		2024年7月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	614,100	614,100	600,000	600,000	590,000	590,000
収穫面積(ヘクタール)	546,400	546,400	510,000	575,000	500,000	570,000
結果樹本数(千本)	228,000	228,000	200,476	198,070	198,000	197,194
未結果樹本数(千本)	34,300	34,300	40,000	39,302	42,000	41,176
果樹本数合計(千本)	262,300	262,300	240,476	237,372	240,000	238,370
生産量(千トン)	16,932	16,932	16,673	15,482	16,500	15,300
輸入量(千トン)	28	28	27	27	30	32
総供給量(千トン)	16,960	16,960	16,700	15,509	16,530	15,332
輸出量(千トン)	0	0	0	0	0	0
生鮮国内消費量(千トン)	4,669	4,669	4,500	4,500	4,530	4,400
加工仕向量(千トン)	12,291	12,291	12,200	11,009	12,000	10,932
総仕向量(千トン)	16,960	16,960	16,700	15,509	16,530	15,332

公式データは、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

注: ブラジルの販売年度と米国の販売年度の間には1年のずれがある。例えば、2024/25ブラジル販売年度は、2023/24米国販売年度に相当する。データの継続性を確保するため、本レポートでは現在の2024/25ブラジル販売年度を2023/24年度と表記する。

全般

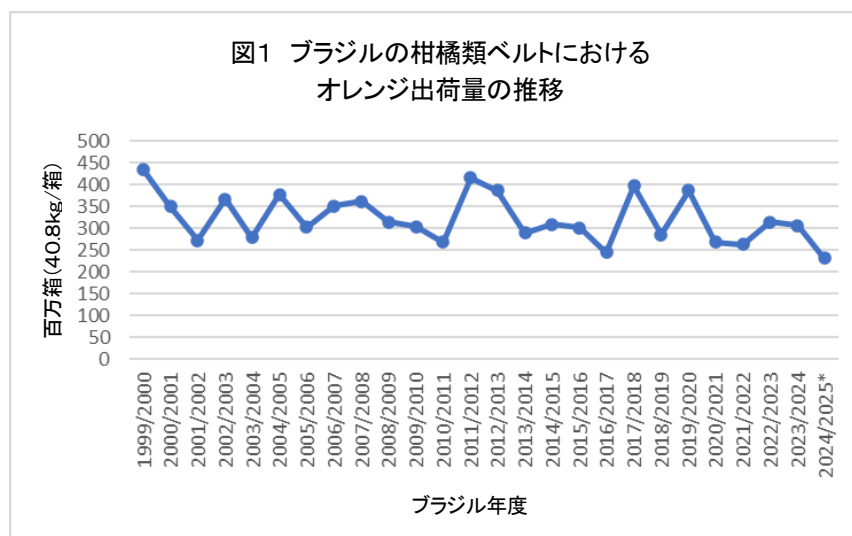
当事務所は、2023/24年度(7月～6月)のブラジル産オレンジの総出荷量を3億7,800万箱(40.8kg/箱(以下同))すなわち1,542万トンと予測する。これは主に、より深刻な干ばつに至った天候条件とカンキツグリーニング病の影響によるものであり、前回の当事務所の推計値(4億800万箱すなわち1,650万トン)と比較して7.3%少ない。

当事務所への情報提供者らによると、ブラジルの農業労働力の16%は果実部門に属している。さらに、ブラジルの柑橘類のGDPは年間65億米ドルに相当する。しかし、ブラジルの柑橘類ベルト(主要な商業的柑橘類生産地域)では、収穫量の予測が24%低下し、柑橘類部門は警戒態勢に入った。急激な落ち込みの主な理

由は天候であった。柑橘類ベルトの果樹園のうち、灌漑されているのはわずか36%で、また2024年には降水量が少なくなると予想されている。2023年の開花期には非常に雨が少なく、開花後の気温が非常に高かった。当事務所への情報提供者らによると、2023/24年度の収穫量は過去35年間で2番目に少なくなる。

柑橘類栽培防衛基金(Fundecitrus)が2024年4月に発表した最新データによると、サンパウロ州とミナスジェライス州西部のトリアングロ・ミネイロ地域(ミナス州の三角地帯)の商業的産地では、2022/23年度に3億722万箱(1,252万トン)のオレンジを出荷した。柑橘類ベルトの総出荷量のうち、サンパウロ州では2億7,940万箱(1,139万トン)、トリアングロ・ミネイロ地域では2,782万箱(113万トン)が収穫された。同基金による2023/24年度の予測では、前年に比べ331万トンに相当する7,400万箱の大幅な減少が予想されている。

ブラジルでは、オレンジ生産量の約30%が生鮮市場に出荷され、70%が果汁製造に使用される。ブラジルが生産する主なオレンジ品種は、ハムリン、ウェスティン、ルビー、バレンシアアメリカナ、セレタ、パイナップル、BRSアルボラーダ、ペラリオ(ペアオレンジ)、バレンシア、「フォリャムルチャ」バレンシア、ナタールである。ブラジルの柑橘類産業は高度に工業化されている。



出典: Fundecitrusのデータにより当事務所が作図
2024/2025* (ブラジル年度)は予測値

上のグラフ(図1)は、ブラジルの柑橘類ベルトにおけるオレンジ生産量の推移を更新したもので、1999/2000ブラジル年度の4億5千万箱(1,836万トン)から、2010/11ブラジル年度の2億5千万箱(1,220万トン)まで、25年の間に大きく変動したことを表している。柑橘類ベルトは、収穫量の多い時、特に2011/12、2012/13、2017/18、2019/20各ブラジル年度においては平均4億箱(1,632万トン)を出荷した。しかし、過去4回の販売年度にはそれより約1億箱(408万トン)少ない平均3億箱(1,224万トン)に減少している。2023/24年度(2024/25ブラジル年度)の新たな予測値は近年で最も少なく、気候要因とカンキツグリーニング病の影響が予想どおりに続くとなれば、これは出荷量の大幅減少の出発点を示している。

柑橘類ベルトにおけるオレンジの収量は、オレンジの品種、果樹園の密度、用いる技術等の生産者の戦略に応じて、1ヘクタール当たり1千箱(40.8トン)未満から2千箱(81.6トン)まで大きく異なる。

当事務所は、2023/24年度のオレンジの果実1つ当たりの重量予測を、生産量の減少とその結果として果実当たりの成長スペースが増えたことから、当事務所の以前の予測である158グラムよりも4.2%重い165グラム(5.82オンス)に修正した。Fundecitrusの現在のデータでは、2023/24年度(2024/25ブラジル年度)のオレンジの果重は169グラム(5.96オンス、1箱当たりの果実数241個)と予測されており、前年度の平均重量(160グラム)と比較して5.32%重く、1箱当たりの果実の入数は5.4%少ない(2022/23年度は255)。同基金によると、今シーズンの果実は昨年より平均2カ月生育が早く、果樹当たりの果実の数が少ないため、果実間の競争が減り、果実が重くなる。

生産



ブラジルの果樹園で集められたオレンジ

2024年4月に発表されたブラジル地理・統計院(IBGE)のデータによると、2022/23年度のブラジルの柑橘類の栽培面積は58万5,448ヘクタールであった。柑橘類ベルトは、ブラジルの栽培面積の約83%を占めている。

当事務所の情報提供者らによると、2022/23年度に柑橘類ベルトで生産された3億722万箱のうち、90.4%がサンパウロ州で、9.5%がミナスジェライス州で生産され、全体のうち約18%が生食用に、82%が加工用に使用された。ブラジルでは、柑橘類の生産者は市場の需要に応じて栽培・販売しており、その多くは果汁業界との契約を通じて行われる。一方、柑橘類ベルトでは主な柑橘類の病害であるカンキツグリーニング病(別名 ^{ホシロシ}黄龍病(HLB))の症状を示す植物の発生率が最も高い。Fundecitrusが発表したデータによると、オレンジの樹の38%がカンキツグリーニング病の影響を受けているが、症状の程度は様々である。

2023年を通して、柑橘類ベルトの気温は驚くべき数値に達し、上限は華氏95~104度(摂氏35~40℃)の範囲であった。水分が土壌から蒸発し植物から発散する「蒸発散」と呼ばれるプロセスは、熱波の強度が増加するにつれて高まり、果実の生産に悪影響を及ぼす。同基金は、気温が摂氏1度高くなるごとに果樹当たり61個の果実が減少するという、最高気温と果実数の相関関係を見出している。

2023年5月から8月の乾季が到来すると、サンパウロ州内の柑橘類ベルトでは平均を26%下回るほど雨が少なく、果樹は干ばつストレスにさらされた。2024年5月の同基金の報告によれば、2023年12月と2024年1月及び2月に観測された雨は果実の生育を促すとともに、遅い4回目の開花に繋がり、柑橘類ベルトの前年の同じく4回目の開花と比較して、この開花による生産量は7%多かった。

ブラジルの経済研究センター(CEPEA*)によると、2023年を通して、多くのオレンジがしおれたり日焼けしたりして、消費者が通常購入しないような変化が見られた。このような果実の状態や早期の落果を避けるために、多くの生産者は、バレンシアやナタールを主体とする晩生品種の収穫を早めた。2023年10月の豊富な雨により、干ばつのストレスは緩和されたが、生鮮市場でのオレンジの入手は依然として制約されていた。2024年については、ブラジルの気象プラットフォームであるClimatempoが、降雨量は10月中旬まで平均を下回ると予測しているため、CEPEAは好ましくない天候を予想している。同プラットフォームはまた、サンパウロの5月の気温が摂氏32.8度(華氏91度)と81年間で最も高かったことを強調している。

(*: CEPEA(セペア)は、サンパウロ大学応用経済高等研究センター)

灌漑されている地域では、オレンジの開花がより進んでいるため、被害が軽減される傾向にある。これらの地域はサンパウロ州の北部にあり、通常は気温が高くなる。Fundecitrusによると、灌漑は高温のリスクを減らすことができ、干ばつの影響と戦うための補完的な戦略と考えられている。しかし、前述のとおり、柑橘類ベルトの面積の36%しか灌漑されておらず、63%は灌漑されていないか灌漑に関する情報がない。当事務所への情報提供者らによると、灌漑地域でさえも地下水の不足のために乾燥気味だという。したがって、彼らによれば、干ばつが予想よりも早く果樹園に影響を与えており、大きな懸念を引き起こしている。このため、ブラジルのオレンジ生産量の減少の主な原因は、これまでのところ天候問題である。2024年5月に収集された情報によると、サンパウロ州内の柑橘類ベルトでは50日近く雨が降っていなかった。

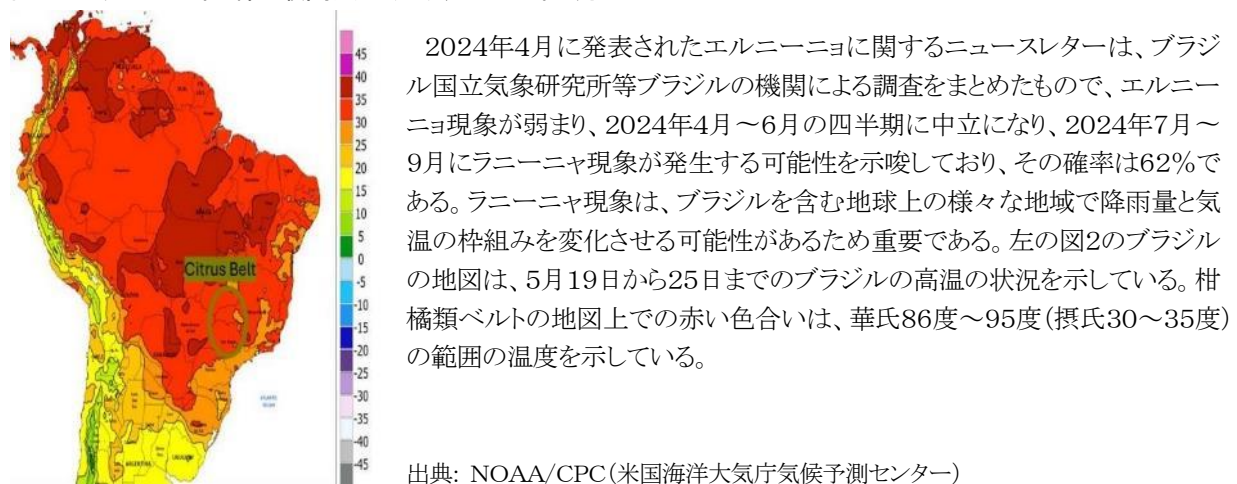
カンキツグリーニング病に関しては、2024年に同基金が実施している研究により、その影響と深刻さが間もなくより明らかになる。

エルニーニョ現象によるブラジルの熱波は2023年6月に始まり、その後弱まったものの2024年6月まで続

いた。当事務所の情報提供者らによると、柑橘類ベルトの高温と雨不足は、2024年には次の収穫(2023/24年度産)の懸念材料になると予想される。

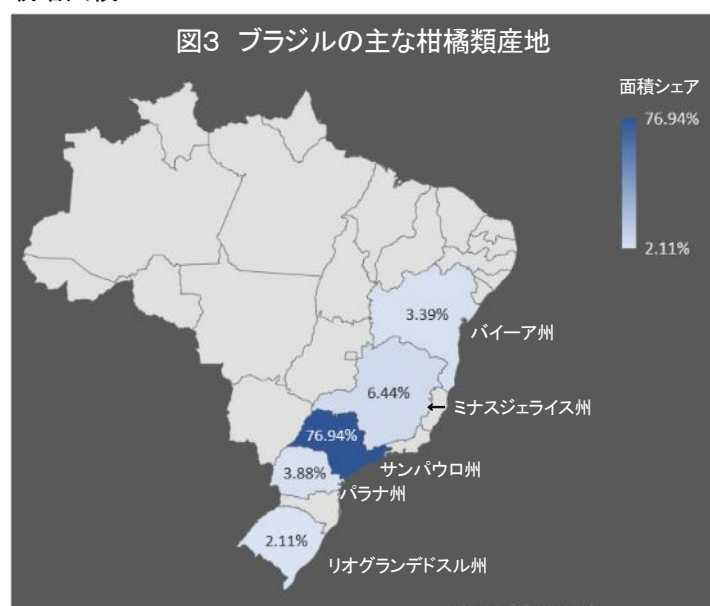
ブラジル干ばつモニターによると、降雨量が平年を下回った結果、ミナスジェライス州西部で中程度の干ばつが進行した。サンパウロ州では、降雨量が異常に減少したため、同州西部では干ばつが弱から中程度に悪化し、州の南部と南西部では弱い干ばつが進行した。

図2 ブラジルの極端な最高気温(°C)、2024年5月19～25日



ブラジルの国立自然災害監視警報センターが2024年3月に発表したテクニカルノートによると、2024年9月から2025年2月の間にエルニーニョからラニーニャに急速に移行する可能性がある。この時期はブラジルのほとんどの地域で雨季である。分析は、降水量と気温に関して、最も可能性の高いシナリオでは、柑橘類ベルトの一部が位置するミナスジェライス州を含む3つの州で平均以上の降雨量になるとしている。ラニーニャ現象は、2年から7年の間隔をあけて再発することがある。直近では、2020年7月から2023年2月まで続いた。

栽培面積



出典: IBGE2022のデータにより当事務所が作図

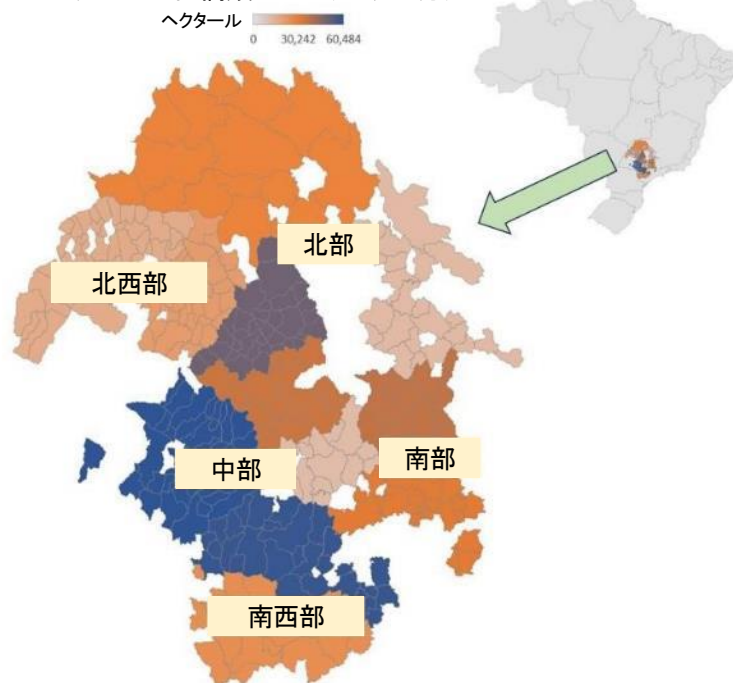
当事務所は、毎年、伐根と改植の率がバランスを保っていることを考慮し、2023/24年度のオレンジの栽培面積予測を59万ヘクタールで維持する。これは、IBGEが発表した公式のヘクタール数に基づく2022/23年度の推計値(60万ヘクタール)と比較して2%未満(1万ヘクタール)の減となる。

サンパウロ州は、植栽本数と果樹の登録データを取りまとめている唯一の州である。Fundecitrusの2024年4月の最終データによると、サンパウロ州の2022/23年度の結果樹本数は合計1億6,854万本で、39万9,279ヘクタールの柑橘類ベルトの中で74万8千本の結果樹が減少した。

オレンジはブラジル全土で生産されているが、図3の地図はIBGEのデータ(2022年)による主要な柑橘類産地を示している。これはバイーア州(面積シェア3.39%)、パラナ州(同3.88%)及びリオグランデドスル州(同2.11%)が、柑橘類ベルト(サンパウロ州76.94%、ミナスジェライス州6.44%)以外のブラジルの主要なオレンジ産地であることを示している。

柑橘類ベルト内のオレンジ産地は、北部、北西部、中部、南部、南西部の5つの地域で構成されている。ブラジルには約5千のオレンジ農場があり、そのほとんどが生産性の高い大規模生産者である。病虫害のほか、生産コストの高さと労働力の不足により、多くの小規模生産者がこの業界から遠ざかった。2023年に当事務所の情報提供者らが報告したところによれば、1つの柑橘類農場への投資には約4千万レアル(744万米ドル(約12億円))の費用がかかる。

図4 ブラジルの柑橘類ベルト(地域区分)



出典: Fundecitrusのデータにより当事務所が作図

上の図4の地図は、柑橘類ベルトの5つの地域区分(北部、北西部、中部、南部、南西部)のそれぞれにオレンジの栽培面積を示している。面積の多寡は色で示されている。例えば、最も暗い紺色は、オレンジの栽培面積が最も集中している地域を示しており、自治体レベルでは5万8,824ヘクタールのアヴァレ地区と6万446ヘクタールのドゥアルティーナ地区等が含まれる。一方、アルティノポリス地区には1万2,169ヘクタール、プロタス地区には1万1,570ヘクタールがあり、地図上では最も明るいオレンジ色で表示されている。果樹園の密度は、同じ地域の中でも非常に不均一なことがある。

前回のレポートで既に報告したように、一部の柑橘類農場、特に中小規模の農場は、より投資リスクの低いサトウキビや畜産などの他の作目に転換されつつあることが注目されている。ブラジルの柑橘類生産者の中には、価格に影響されて様々な品目への転換を決定する者もいるが、気候やカンキツグリーニング病の影響が少ない地域でオレンジを栽培する方法を探求している者もいる。

長期的には、オレンジ産業がサンパウロ州とミナスジェライス州の外に拡大する傾向は続くと思われる。例えば、バイーア州では、柑橘類ベルトの主要産地から距離があり、またその気候のために、カンキツグリーニ

ング病はまだ存在しない。当事務所への情報提供者の中には、柑橘類ベルトの外での柑橘類栽培の需要を移転とみなし、必ずしも拡大とは見ていない者もいる。オレンジ生産者らは、新しい栽培場所を決定するために潜在的可能性分析を実施している。しかし、マツグロソ州やマツグロソドスル州等、ブラジルでオレンジを栽培できる可能性のある新しい地域のほとんどが、現在の加工場や港からかなり離れているため、このような移転にはリスクが伴う。

気候リスクを考慮することに加えて、新しい地域で柑橘類を新植して生産する農業計画には、保護された環境で生産された健全な苗木の使用を含める必要がある。

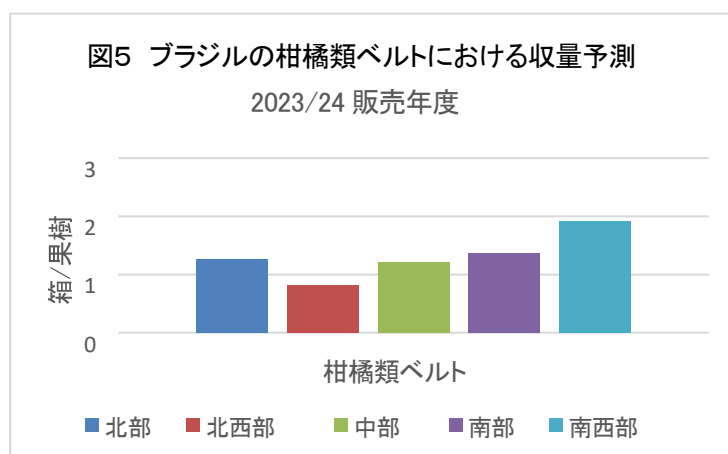
オレンジ果樹園は、炭素隔離と気候変動の緩和にも重要な役割を果たしている。スムージーと果汁を製造する英国企業のイノセントドリンクス社が資金を提供し、Fundecitrusとブラジル農業研究公社(Embrapa)が実施した最近の調査では、柑橘類ベルト全体に約3,600万トンの炭素が蓄積されており、これは1億3,340万トンの二酸化炭素(CO₂)に相当し、サンパウロ市が約8年間に排出する量と同じである。Embrapaによると、農地は炭素の供給源及び吸収源として同時に機能し、柑橘類を栽培する土地は動物相を確保し安定化させるため、二酸化炭素ガスの吸収が地球温暖化の影響の軽減に貢献することができる。

果樹台帳と収量

当事務所は、2023/24年度のブラジルの果樹の登録総本数の予測を2億3,837万本に修正する。そのうち1億9,719万本が結果樹、4,117万本が未結果樹である。総本数は、2022/23年度の改定推計値である2億3,737万本と比較して0.41%の微減となった。減少は、主にサンパウロ州内の商業的柑橘類ベルトで起こると予想される。

2023/24年度の収量予測は、2022/23年度の推計値(1.82箱)より12%少ない果樹1本当たり1.6箱(90ポンド(40.8kg)/箱)に下方修正した。これは、既に2024年に観測されている干ばつの長期化による着果数減少の可能性が見込まれることと、新たな熱波やカンキツグリーンング病の影響を受ける可能性があるためである。

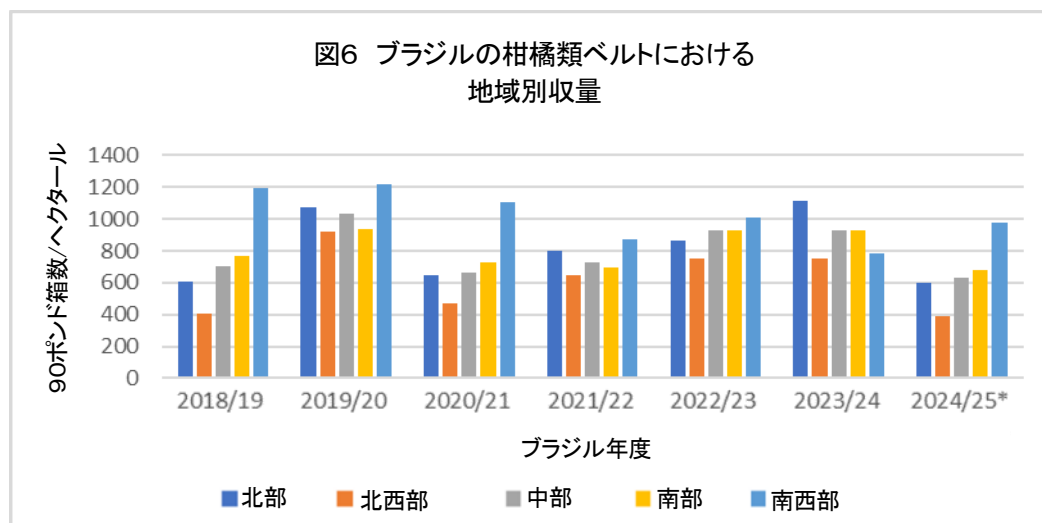
柑橘類ベルトの収量について、下の図5のグラフは、Fundecitrusによる2023/24年度産の現時点での収量予測を示しており、果樹1本当たり1.38箱(90ポンド/箱)となっている。南西部は果樹当たり1.91箱と最も生産性の高い地域として際立っており、北西部は果樹当たり0.81箱で最も生産性が低い地域となっている。



出典: Fundecitrusのデータにより当事務所が作図

Fundecitrusは、すべてのオレンジ品種を合わせて考えた場合、柑橘類ベルトの2022/23年度の90ポンド箱の入数は平均255個であると報告し、2023/24年度については241個と予測した。この数値に関連して、同基金は2023/24年度産のオレンジの1果重を前年度の160グラムよりも6%重い169グラムと推計した。果実が重くなるのは、前作の最終的な果実の大きさと、最初の2回の開花による当初の果実の大きさ、さらに5月から7月までの累積降雨量を組み合わせた「回帰栽培モデル」と呼ばれる計算の結果である。

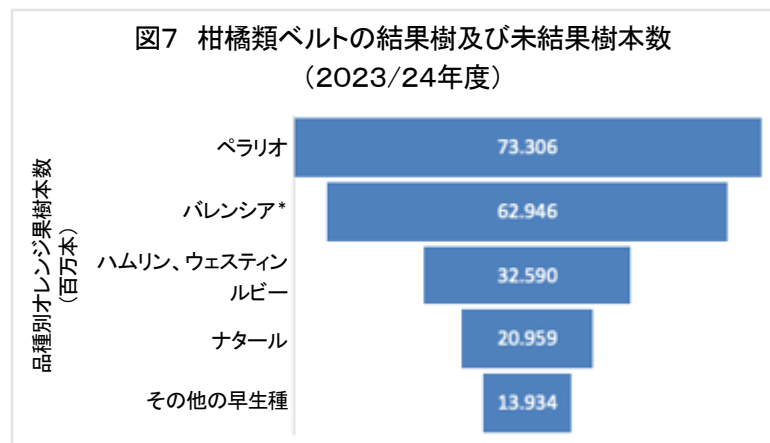
下の図6のグラフは、ブラジルの柑橘類ベルト(サンパウロ州及び「ミナス州の三角地帯」)の生産性を示している。数字は1ヘクタール当たりの箱数で、地域別の過去の収量とFundecitrusによる今年度(2023/24年度(2024/25ブラジル年度))の予測値を示している。



出典: Fundecitrusのデータにより当事務所が作図 *は予測値

グラフはまた、同基金の推計値によると柑橘類ベルトの北部の生産性が2022/23年度(2023/24ブラジル年度)の1ヘクタール当たり1,117箱(90ポンド/箱)から、2023/24年度(2024/25ブラジル年度)には46%少ない601箱に低下することを示している。一方、南西部地域では2022/23年度には1ヘクタール当たり782箱(31.9トン)が出荷されたが、2023/24年度には1ヘクタール当たり979箱(39.9トン)に増えると予測されている。柑橘類ベルト全体の平均では、収量が1ヘクタール当たり911箱(37.16トン)から691箱(28.19トン)に24%減少すると推定されている。

下の図7と図8は、どの品種が最も多く栽培されているかを示している。



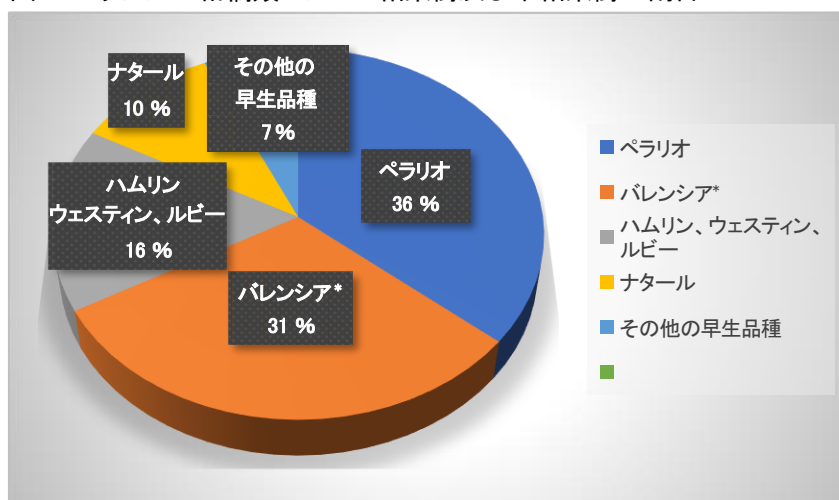
バレンシア*はバレンシア及び「フォリヤムルチャ」バレンシア

その他の早生品種はバレンシアアメリカナ、セレタ、パイナップル及びアルボラータ

出典: Fundecitrusのデータにより当事務所が作図

ペラリオは柑橘類ベルトで最も多く栽培されており、36%を占め、これはFundecitrusの以前の予測を反映している。バレンシアの果樹本数は31%を占め、以前の推計値より6%多い。次に、ハムリン、ウェスティン及びルビーが16%を占めている。2024年6月10日に発表された同基金の現在の数値では、以前の登録本数と比較して、2023/24年度には約85万2千本、すなわち0.42%の増加を示している。この増加は、2023年に植えられた苗木の総数と、同じ年に伐根・放棄された果樹本数の差によるものである。

図8 ブラジルの柑橘類ベルトの結果樹及び未結果樹の割合



バレンシア*はバレンシア及び「フォリヤムルチャ」バレンシア

その他の早生品種はバレンシアアメリカナ、セレタ、パイナップル、及びアルボラーダ

出典：Fundecitrusのデータにより当事務所が作図

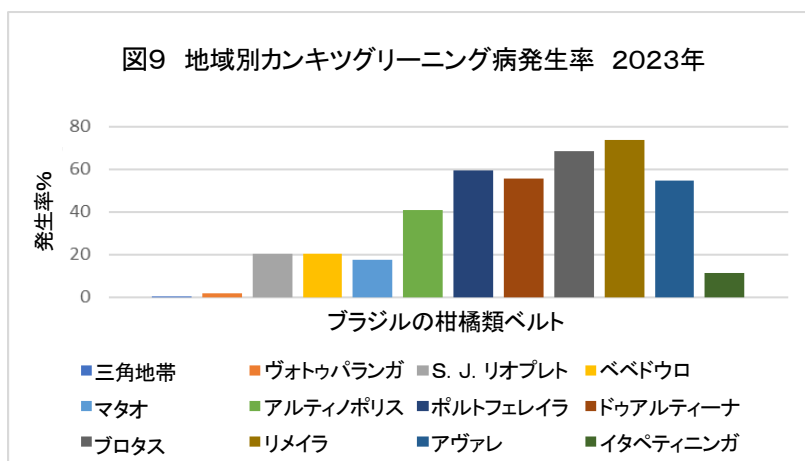
Fundecitrusは、2023/24年度の柑橘類ベルトの結果樹本数を1億6,854万本と予測しており、これは前の年度(2022/23年度)の1億6,929万本と比較して0.44%の微減となる。新しい植栽戦略は、柑橘類生産者にとって依然として目標となっている。2023年の改植は、生産者がブラジルのどこに改植するかを決め兼ねていたため、平均をわずかに下回った。計画では、供給を維持するため、毎年果樹園の7%を改植することとなっている。この場合、果樹園の寿命は15年であることに留意しておくことが重要である。

カンキツグリーニング病の発生率の上昇により、信用供与の必要性が高まる傾向がある。当事務所の情報提供者らによると、サンパウロのアグリビジネス拡大基金(ポルトガル語でFEAP)は、家族経営の農業を支援するために約30年前から存在している。そのような信用供与により、多くのオレンジ生産者がリスクを回避するために他の作物に転換する可能性がある。それにもかかわらず、2023年には2万2,029ヘクタールが伐根され、2万3,354ヘクタールが植栽され、植栽が伐根を上回った。前年の収穫から同年の収穫までの間に生産性の高い樹齢の果樹がわずかに減少した。

カンキツグリーニング病

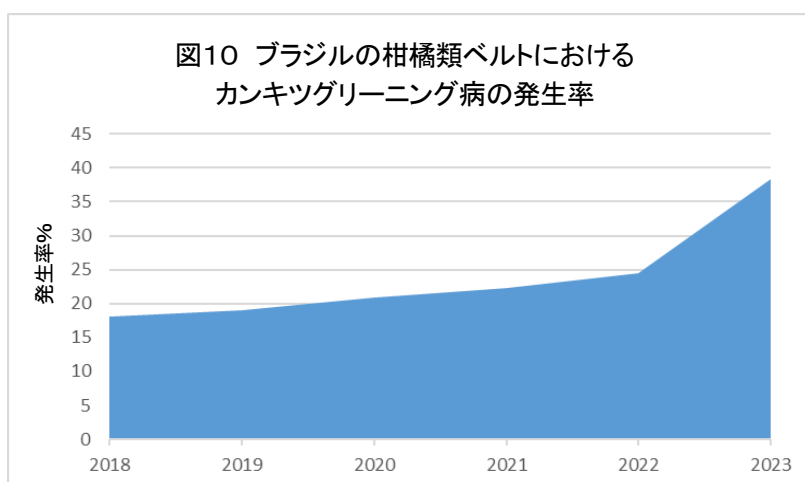
近年、柑橘類の栽培は病害虫、特に^{ホシロシ}黄龍病(HLB)すなわちカンキツグリーニング病の発生によって大きな影響を受けている。カンキツグリーニング病の細菌は罹患性の植物内で急速に増殖し、わずか40日で高い個体数に達する。ブラジルでは、同国の主要産地である柑橘類ベルトで被害が顕著になっている。カンキツグリーニング病はこの20年間この地域に影響を与えており、現在、これまでで最高に達している。主な課題の1つは、媒介昆虫が突然変異を起こし、駆除のために作られた薬剤に対して免疫を持つようになるという事実である。

前述したとおり、ブラジルではカンキツグリーニング病の発生率が大幅に増加したため、柑橘類ベルトの柑橘類生産者らは、ゴイアス州などこの病害がまだ発生していない地域や、ミナスジェライス州、パラナ州、マトグロソドスル州など発生率の低い地域を求めるようになった。2023年のFundecitrusのデータによると、柑橘類ベルトでは合計7,722万本の果樹が感染しており、このうち3,479万本(全本数の17%)が初期の段階、2,493万本(12.3%)が中間段階、1,750万本(8.6%)が極めて深刻な状況にある。



出典：Fundecitrusのデータにより当事務所が作図

左図(図9)に示す同基金の疾病調査のデータによると、柑橘類ベルトで発生率が最も高いのは、リメイラ(2022年の70.72%から2023年の73.87%に上昇)、プロタス(49.41%から68.53%に)、ポルトフェレイラ(47.05%から59.65%に)、ドゥアルティーナ(25.37%から55.66%に)、アヴァレ(31.80%から54.79%に)の各地域であった。



出典：Fundecitrusのデータにより当事務所が作図

図10は、2018年以降、ブラジルの柑橘類ベルト全体でカンキツグリーニング病の発生率が急速に増加したことを示している。ブラジルでは20年前からカンキツグリーニング病が確認されているが、過去6年、特に2022年から2023年にかけては発生率が24%から38%に14ポイント増え増加のピークとなった。これは平均で年率1.25%の過去の増加を大幅に上回っており、柑橘類セクターに警戒感をもたしている。

ブラジル農業畜産省(MAPA)が策定した黄龍病(HLB=カンキツグリーニング病)の予防と管理のための国家プログラムは、認定された温室の苗床で苗木を育てることがこの病害を制御するための理想的な方法であることを確定した。これは、新しい栽培地へのカンキツグリーニング病の広がりを封じ込める方法である。柑橘類ベルト以外でオレンジを植えている州には、バイーア州、パラナ州、ゴイアス州、エスピリトサント州、マトグロソ州、リオグランデドスル州等があり、IBGEのデータによると、現在、ブラジルのオレンジ生産量の10%強を占めている。

カンキツグリーニング病を予防する別の解決策は、病害媒介昆虫の天敵であるミカンキジラヒメコバチ(*Tamarixia radiata*)の利用である。また、現在研究中のグリーニング病の感染、拡大を防ぐ新しい方法としては、米国のフロリダ州で使われているインヴァイオ社の抗体もある。その抗体を処理しても、果実には残留しない。当事務所への情報提供者らによると、ブラジル政府はバイテク品種の試験を承認したが、米国での取組はより進んだ段階にある。Fundecitrusは、MAPA及び国家生物安全技術委員会(CTNBio)とともに、2023年からカンキツグリーニング病に対抗するため、媒介昆虫に対して忌避効果のある柑橘類を作出する方法を見出すための研究を行っている。すでに、30ヘクタール以上の実験農場の遺伝子組み換え体の中から、忌避効果のあるオレンジ樹の変異が4種類見つかっている。2種類の変異を組み込んだバレンシアオレンジでは、300株からなる試験区でカンキツグリーニング病の発症が50%減少した。

価格

サンパウロ大学の一部を構成するルイス・デ・ケイロス農業大学(ESALQ)はCEPEAと共同で、国内の生鮮市場向け及びサンパウロ州内の果汁工場向けのオレンジについて、累次の指標価格を公表している。生鮮市場向けの価格は、樹上の果実の価格である。各暦年の終わりには在庫水準が低下するため、業者から

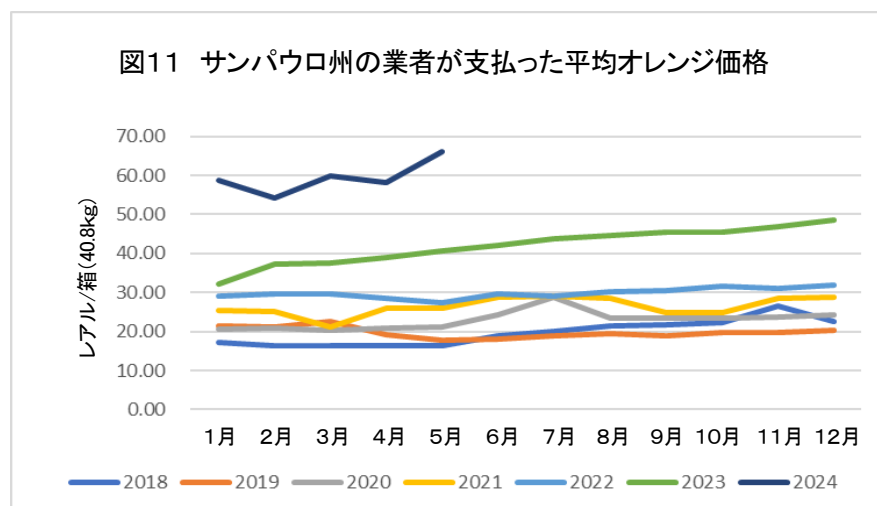
の需要が高く、価格が上昇する。

一部の契約には、オレンジ果汁の価格に応じたプレミアムが含まれる場合がある。当事務所への情報提供者によると、生産・出荷業者の間には契約を履行できない可能性について懸念があり、オレンジの確保に精力的に取り組んでいる。なお、最低生産者価格があるはずであるのに、果実には最低価格保証政策がほとんど適用されていないとの情報も得ている。

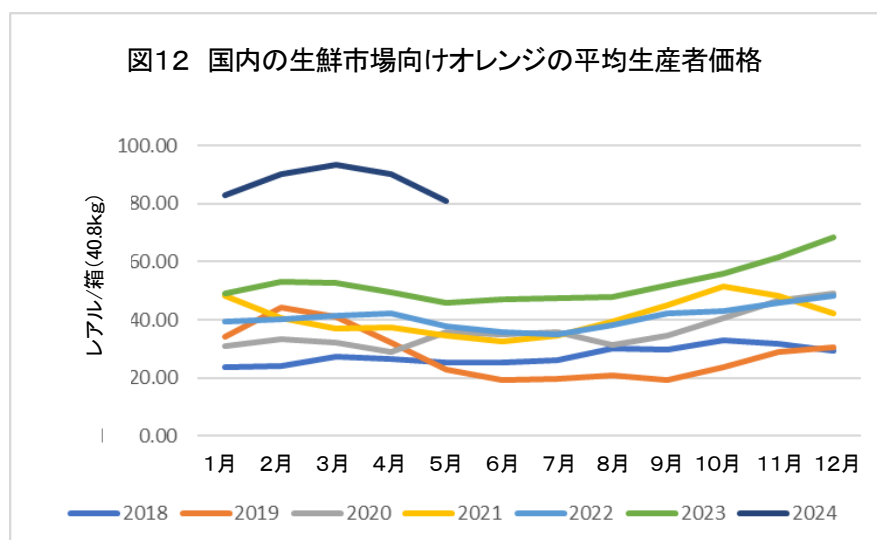
果汁用のオレンジの価格は、2024年初頭から30年ぶりの高値に達している。CEPEAによると、2024年5月上旬の乾燥した暖かい天候のため、サンパウロ州の柑橘類生産者らは落果を懸念した。2024年6月の第1週には、オレンジ(収穫後加工場渡し)はサンパウロ州で85レアル(15.86米ドル)/箱で取引され、1994年からのCEPEAの指標価格の累積データ(総合物価指数(IGP-DI)による調整済み)の中で最高となった。

また、CEPEAの研究者らによると、価格の上昇は需要の増加と供給の減少の両方から生じている。需要側では、オレンジ果汁の在庫が非常に少ないため、果汁業界は原材料を入手する必要がある。供給面では、サンパウロ州と「ミナス州の三角地帯」では果実の生産量が再び少なくなると予想されている。

下のグラフ(図11)は、サンパウロ州の加工業者向けスポット市場のオレンジの平均価格(すべてのオレンジ品種の加工場渡し1箱(40.8kg)当たりレアル)を示している。2023年の1箱の価格は42~48レアル(7.84~8.96米ドル)の範囲で、供給量が少なかったために1箱当たりの価格が20レアル(3.73米ドル)上昇した2024年上半期よりも大幅に低かった。



出典: CEPEA/ESALQ のデータにより当事務所が作図



国内の生鮮市場向けオレンジの生産者価格(樹上価格)。すべてのオレンジ品種(ペラ、ナタール、バレンシア、リマ、バイーア)の平均で、時期によって品種構成が変化する。

出典: CEPEA/ESALQ のデータにより当事務所が作図

図12は、生産者が受け取るオレンジ価格が、2023年1月の90ポンド箱当たり50レアル(9.33米ドル)から年末には60レアル(11.20米ドル)以上にまで上昇したことを示している。2023年末から2024年初頭にかけて、価格は60レアル以上から100レアル近く(18.66米ドル)の範囲で推移し、30年ぶりの高値となった。

カンキツグリーンニング病と天候(異常な気温と長期間の干ばつに直面している)の組み合わせにより、ブラジルのオレンジの価格が高騰している。そのため、生産者は果実が完全に成熟する前に、早めに収穫するようになった。2月には、最も広く消費されているペアオレンジの価格が6%以上上昇し、インフレ率を上回った。2023年3月から2024年3月までの間に、オレンジの価格は36%以上上昇した。

一般的に、果汁業界にオレンジを提供する生産・出荷業者は、より多くの輸送を必要とするため、コストが高くなる。CEPEAによると、果汁業界が提供する魅力的な価格が、生鮮市場での果実の価値を押し上げている。果実をめぐる競争は、すべてのセグメントで価格を押し上げている。

ブラジルの雑誌であり市場調査も行うホーティフルッティブラジル(Hortifruti Brasil)誌は、2023/24年度産収穫物の短期契約及び新規の長期契約を通じてサンパウロ州の業者に販売されたオレンジの記録的な価格が、農業投入資材に関して柑橘類生産者の購買力を高めるはずだと伝えた。さらに、肥料などの柑橘類栽培に使用される重要な資材の最近の値下がりも、肥料を購入するために必要な当該年度のオレンジの箱数が以前よりも減少したため、生産者に有利に働く。

消費

健康的な食生活を満たすために生果のオレンジ需要が高まっているにもかかわらず、当事務所は、2023/24年度のブラジルのオレンジ消費量の予測を、以前の推計値(4.5万トン)と比較して2.2%減となる440万トンに修正した。オレンジの供給不足とそれに伴う価格の上昇は、消費に直接影響する。この数値には、実際の国内消費量に加えて、自然な落果及び収穫、輸送、梱包に伴う損失が含まれている。

なお、国内市場向けの「非濃縮(NFC)」オレンジ果汁の製造のために加工業者に仕向けられる果実は、生鮮オレンジの消費量としてではなく、「NFC製造のための加工業者への納入」として計上される。生鮮国内消費量の推計値は、オレンジ生産量の推計値と加工仕向量(国内消費用及び輸出用に製造されるFCOJ及びNFCの原料として加工業者に出荷されたオレンジの量)の差として計算される。

エジプトからの輸入オレンジがブラジルで増加している。これらは価値の高い別のオレンジ品種であり、当事務所の情報提供者らによると、これまでのところ、それらの生果での消費は比較的少数の特定の消費者に限られている。

貿易

長年にわたり、ブラジルは生鮮オレンジの貿易量が少ないが、これは輸入に関しては変化しており、輸出に関しては以前と変わらない。

輸出

2023/24年度の生鮮オレンジの総輸出量は実質的にゼロと予測される。2022/23年度について当事務所は、ブラジル政府貿易局(SECEX)の貿易フローに関する最新情報に基づき、前シーズンと同様に推計値を実質的にゼロとしている。ブラジルは、他国への市場アクセスが限られている。

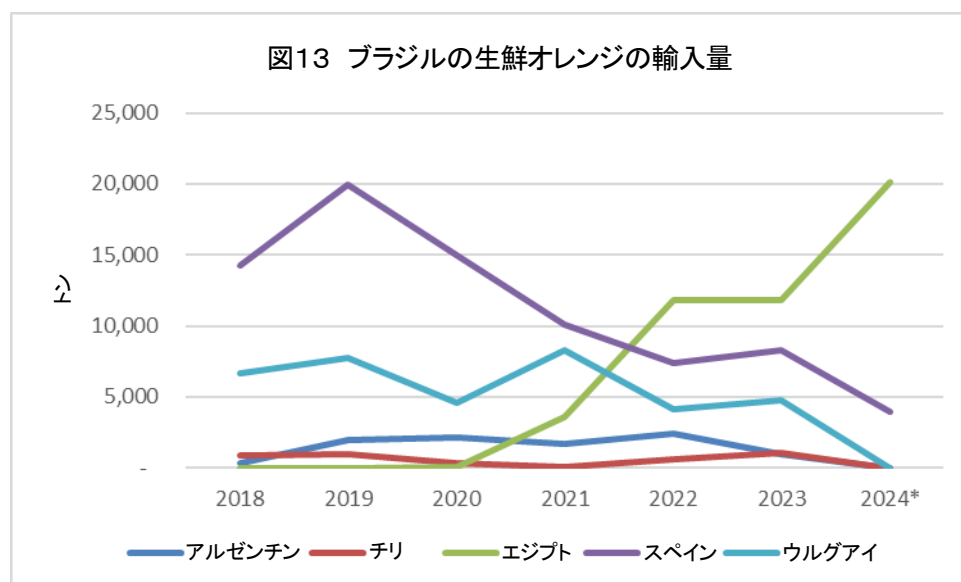
パラグアイとアルゼンチンが主な輸出先国であったが、2023年後半以降は大幅に減少している。パラグアイへのオレンジ輸出量は、2023年上半期に合計972トン、下半期はゼロで、2024年はこれまでに155トンにとどまっている。欧州連合(EU)、カナダ、米国への輸出は実質的にゼロである。

輸入

当事務所は、貿易連携協定と生鮮オレンジの需要の増加に基づき、2023/24年度の生鮮オレンジ総輸入量の予測を3万2千トンに修正した。これは、当事務所の以前の推計値である3万トンから6.25%の増加となる。2022/23年度にはブラジルは合計2万7千トンを入力した。2022年7月から2023年6月までの輸入オレンジの主要原産国は、エジプト、ウルグアイ、スペイン、アルゼンチンであった。

オレンジの在庫が既に少ないため、スーパーマーケットや青果店に送られるはずの果実のかなりの量が果汁の製造に仕向けられていると見られ、果実の輸入が増加している。

ブラジルは園芸分野でスペインと強固な関係を築いており、かなりの貿易の流れを生み出している。輸入オレンジは、一般的にブラジル産のオレンジとは食感や風味が異なる。下の表は、生鮮オレンジ(商品コード0805.10.00)の輸入量を輸入先別に示している。



出所: TDMのデータにより当事務所が作図

2024年*: 2024年1月から5月までのデータによる

上のグラフ(図13)は、暦年の生鮮オレンジ輸入量とエジプトからの輸入量の増加を示しており、後者は2024年には2019年のスペインからのオレンジ輸入量のピークと同水準に達している。エジプトは2017年にメルコスール(ブラジルを含む南米の貿易圏)と自由貿易協定を締結した。エジプト産オレンジの最初の試験出荷の75トンが2020年にブラジルに到着した。1年後にはエジプトからブラジルへのオレンジ輸出量は3,600トンに達した。2022年の輸出量は1万1,800トンで、2023年にはほぼ1万4千トンに達した。2024年の1月から4月までに、ブラジルはエジプトから2万811トンのオレンジを輸入した。

世界全体からは、2023年7月から2024年5月までに、ブラジルは3千万米ドル相当の3万7,861トンの生鮮オレンジを輸入した。なお、このレポートの提出期限までには、部分的な収穫量データしか入手できなかった。この輸入量は、前年度の2022年7月から2023年6月までの期間よりも既に20%多い。

<オレンジ果汁>

生産需給統計表

次の表は、ブラジルの2022/23、2023/24各年度(7月～翌年6月)におけるブラジル産オレンジ果汁の製造、供給、流通の改訂データと、2024/25年度の最新の予測を示している。上記のブラジルの年度は、それぞれ米国の2021/22、2022/23及び2023/24年度に相当する。(表に合わせて文章を整理しました。)

この表には、ブリックス値66の冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)に換算された輸出用の非濃縮果汁(NFC)が含まれている。換算係数: 1トンのブリックス値66のFCOJは、ブリックス値11.6のNFC5.4～5.6トンに相当する。

表2 ブラジルのオレンジ果汁の生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度の始まり ブラジル	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022年7月		2023年7月		2024年7月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料果実の加工仕向量(トン)	12,291,000	12,291,000	12,200,000	11,009,000	1,200,000	10,932,000
期初在庫量(トン)	15,000	15,000	9,000	9,000	8,170	8,170
製造量(トン)	1,135,000	1,135,000	1,124,170	1,169,274	1,105,700	1,065,830
輸入量(トン)	0	0	0	0	0	0
総供給量(トン)	1,150,000	1,150,000	1,133,170	1,178,274	1,113,870	1,074,000
輸出量(トン)	1,068,000	1,068,000	1,050,000	1,095,104	1,034,870	1,000,000
国内消費量(トン)	73,000	73,000	75,000	75,000	75,000	70,000
期末在庫(トン)	9,000	9,000	8,170	8,170	4,000	4,000
総仕向量(トン)	1,150,000	1,150,000	1,133,170	1,178,274	1,113,870	1,074,000

公式データは、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

*注: ブラジルの年度と米国の年度の間には1年のずれがある。例えば、2022/23ブラジル年度は2021/22米国年度に相当する。データの継続性を確保するため、本レポートでは、2023/24ブラジル販売年度を2022/23年度と表記する。

製造

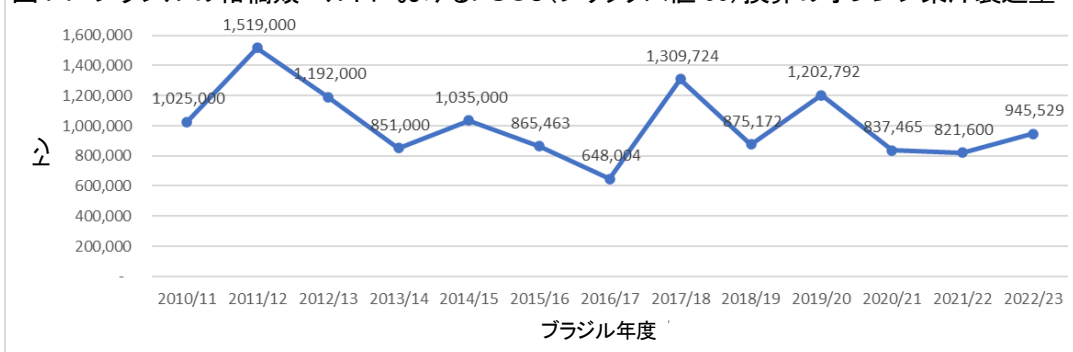
当事務所は、干ばつ、極端な高温、及びカンキツグリーンニング病発生率の増加によって、加工用果実が入手し難くなると見込まれることを踏まえ、2023/24年度のブラジルのFCOJ(ブリックス値66換算)製造量の予測値を106万トンに修正する。これは、当事務所の2022/23年度の推計値(116万トン)より8.62%少ない。オレンジ果汁の数値には、FCOJ(ブリックス値66)に換算された輸出用NFCの製造量が含まれている。ブラジルにおけるNFCの需要と供給に関する公式の推計値はない。

製造業者の団体(CitrusBR)によると、果汁の製造は、糖度(理想的な糖度を得るための果汁の混合)に関連する課題に直面している。特定のオレンジ果汁の基準を満たすには、異なる品種の収穫期間にまたがって様々な種類のオレンジを混ぜる必要がある。例えば、早生オレンジの果汁は糖度が低く、理想的とは見なされないが、より甘い中生及び晩生のオレンジと混合すると、消費嗜好に合った糖度基準が満たされる。この糖度の変動と現状のオレンジの供給不足により、現在の収穫と次の収穫の間にオレンジ果汁の供給が途絶える可能性がある。当事務所への情報提供者らによると、加工が終了した時点で3カ月分のオレンジ果汁の在庫が必要である。

オレンジ果汁の製造は、ランキング最上位のサンパウロ州に集中しており、ミナスジェライス州とパラナ州がそれに続く。2022/23年度(2023/24ブラジル年度)の収穫では、サンパウロ州とミナスジェライス州の柑橘類ベルトで加工されたオレンジの総量は2億6,700万箱(1,089万トン)であった。これは非公式な生食用オレンジの消費量と加工された果汁の量の差(原文のまま)から計算されたものである。果汁のほとんどがCitrusBRの会員であるシトロスコ社、クラーレ社及びブレイドレフュス社によって製造された。

柑橘類ベルト全体で、カンキツグリーニング病、熱波及び干ばつによって収穫量は様々な形で影響を受けた。供給量が少ないため、一部の企業は低品質の果実を加工している。カンキツグリーニング病に感染したオレンジは味が変わり、酸味が強くなるが、人間の健康に害を及ぼすことはない。このため、一部の製造業者は、国内用及び輸出用の混合果汁または濃縮果汁の製造にこれらの果実を活用することを選択するが、カンキツグリーニング病に感染したオレンジはほとんどが収穫前に落果する。

図14 ブラジルの柑橘類ベルトにおけるFCOJ(ブリックス値 66)換算のオレンジ果汁製造量



出典: CitrusBRのデータにより当事務所が作図

本報告書の締め切りまでに新たな更新がなかったため、上のグラフ(図14)は前回の報告書から複製した。これは、ブラジルの柑橘類ベルトにおけるFCOJ(ブリックス値66)換算の出荷量が10年前の2010/11年度(2011/2012ブラジル年度)に約160万トンのピークに達したことを強調するためである。その後、2015/16年度(2016/17ブラジル年度)の64万8,004トンまで5回の収穫量が減少し、2017/2018ブラジル年度の収穫量は130万トンと新たなピークを形成した。

消費

当事務所は、オレンジ不足や価格上昇など、上記の項で取り上げた今後のリスクを踏まえ、2023/24年度のFCOJ(ブリックス値66)換算の国内消費量の見通しを7万トンに修正する。これは、2022/23年度の推計値(7万5千トン)を6.66%下回る。

オレンジの不足により、果汁業界はミックスフレーバーの飲料を発売している。オレンジが入手し難くなったことで、企業は2種類以上の果実の組み合わせを商品の品揃えに組み込むようになった。これは過去10年の間にブラジルで始まったトレンドであるが、ブラジル市場で脚光を浴びたのは最近になってからである。

オレンジは多くの健康効果を持つ果実であり、それが消費需要が高まる傾向にある理由の1つであるが、最近の価格上昇によりオレンジ果汁の消費が変わると予想される。オレンジ果汁の統計にはNFC消費量をFCOJ相当量に換算したものが含まれることに留意願いたい。

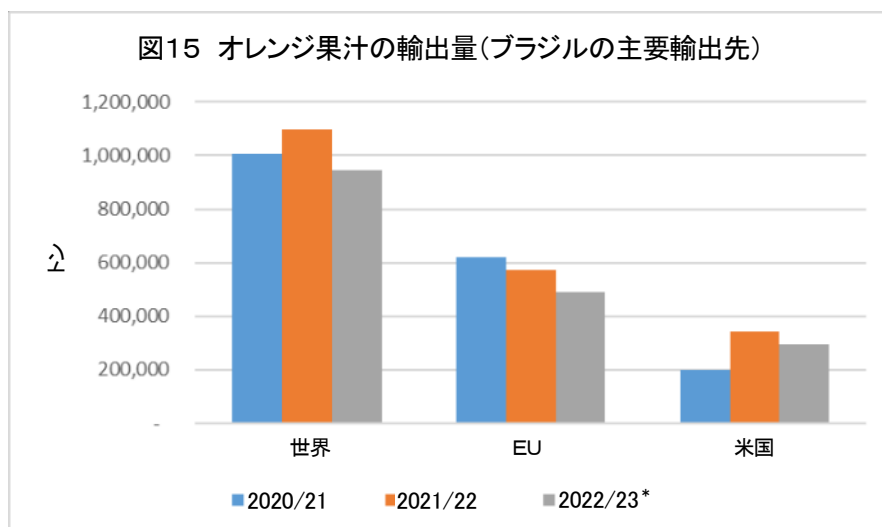
貿易

ブラジルでは、オレンジ果汁は濃縮果汁と非濃縮果汁に加工され、世界中に流通している。ブラジルは世界最大のオレンジ果汁輸出国であり、世界で販売されているオレンジ果汁の75%を占めている。オレンジジュースの10杯に7杯はブラジルで製造されたものである。

最大の輸出市場は欧州連合(EU)で、米国がそれに続く。欧米ではオレンジ果汁の消費量がわずかに減少しているが、供給はさらに速いペースで減少している。これは、ブラジルの果汁工場では在庫が非常に少なく、次の収穫ではカンキツグリーニング病が増えると予測されているためである。一方、ブラジルは最近、オレンジパルプ(果実繊維)等他のオレンジ製品を、特にアジア市場に輸出することが求められている。

輸出

当事務所は、2023/24年度のブラジルのFCOJ(ブリックス値66)換算輸出量を、前回の予測(105万トン)に対して4.76%の減となる100万トンに修正した。これは、前回のレポートで言及したのと同じ製造上の課題 - 主に気象条件とカンキツグリーンング病の発生率 - の影響を受けるためである。ブラジルは、2022/23年度のこれまで(2023年7月～2024年5月)に、94万4,227トンのFCOJを世界に輸出し、そのうち49万2,235トンが欧州連合に、29万3,033トンが米国に輸出された。



出典: SECEXのデータにより当事務所が作図

2022/23*は2023年7月～2024年5月のデータ

上のグラフは、米国がオレンジの生産上の問題に直面し、ブラジル産オレンジ果汁の輸入増加につながった市場の動きを反映している。世界全体では、ブラジルは2021/22年度に109万トンのFCOJを輸出し、そのうち34万736トンが米国向け、57万1,786トンがEU向けであった。

当事務所の情報提供者らによると、ブラジルのNFCの50%以上が米国に輸出されており、輸出の98%以上がサントス港を拠点としてブラジルの柑橘類ベルトから出荷されている。

輸入

ブラジルはオレンジ果汁を輸入していない。

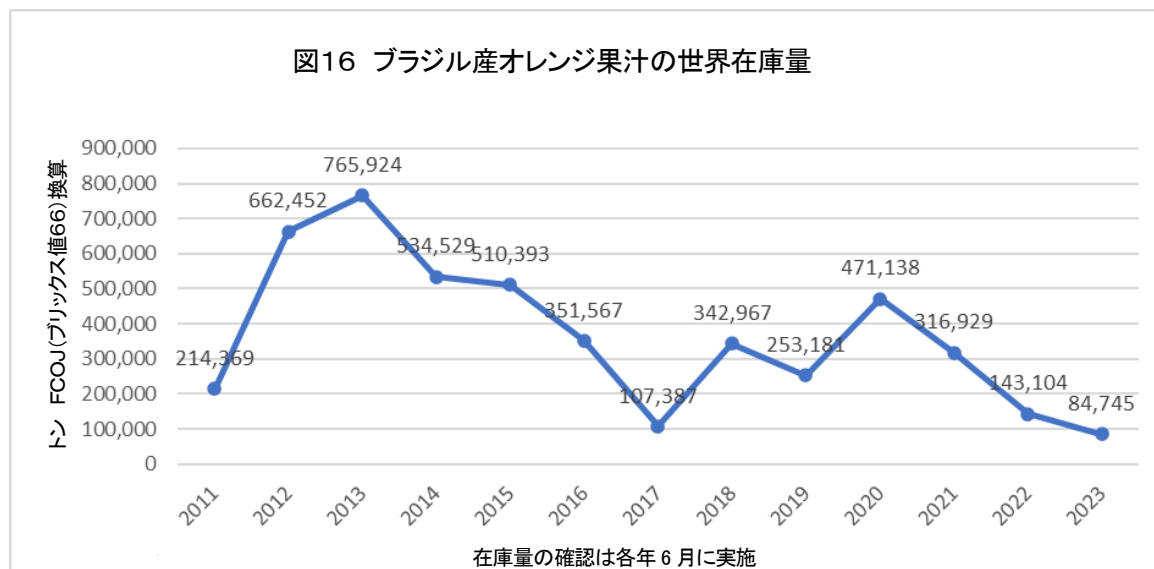
在庫

当事務所は、2023/24年度のオレンジ果汁(ブリックス値66換算)の期末在庫を4千トンと予測しており、これは当事務所の2022/23年度の推計値(8,170トン)に比べて50%の大幅な減少となる。在庫量には、ブラジル国内のオレンジ果汁施設(加工場、港湾ターミナル等)の貯蔵タンク内の在庫のみが含まれており、米国、欧州、日本の積み替えターミナルや港湾ターミナル等、ブラジル企業が海外に所有する在庫は含まれていない。

CitrusBRの世界在庫量には、ブラジル国内の加工場や港湾ターミナルの貯蔵タンクにあるオレンジ果汁と海外(世界中の船舶や港湾施設)の在庫が含まれる。当事務所への情報提供者らが確認したところによると、2022/23年度のブラジルの在庫量は、史上最低水準に落ち込むと推定される。ただし、正式な数字が発表されるのは2024年6月30日である。10年前、オレンジの在庫は100万トンを超えていた。しかし、前述したように、着実な需要と世界的な供給上の課題により、在庫量は劇的に減少した。

CEPEAによれば、予想される在庫量とオレンジの高価格が続く可能性があることを考慮すると、オレンジ果汁の世界的な供給が損なわれる可能性がある。CEPEAは現在、ブラジルの国内供給の不足を補うのに十分な出荷量を有する競合国はないとしている。在庫は減少傾向にあると見られ、これは今季だけにとどまらない。

図16 ブラジル産オレンジ果汁の世界在庫量



出典: CitrusBRのデータにより当事務所が作図

上の図に示すように、2023年6月30日に確認されたCitrusBR会員企業によるオレンジ果汁の世界在庫量(FCOJ換算)は8万4,745トンで、前年同期の14万3,104トンと比較して40.7%減少した。このグラフはまた、2020年6月の47万1,138トンから2023年6月の8万4,745トンへの87%の大幅な減少を反映している。次回の在庫確認は2024年6月30日に行われる。

114. ブラジル オレンジ果汁の輸出量は依然として前年を下回る

[CEPEA 2024年6月19日](#)

セペア、2024年6月18日 - 2023/24年度シーズンこれまで(2023年7月～2024年5月)にブラジルが輸出したオレンジ果汁の量は、依然として前年同期に記録された量を下回っている。COMEXStat(ブラジル政府の公式貿易統計)のデータによると、ブラジルはこの期間に91万490トンのオレンジ果汁を輸出し、これは昨年同期と比較して8.9%少なかった。

一方、今シーズンの輸出額は24億7千万米ドルで、前年同期比で22%増加した。セペアが照会した機関によると、輸出額増加の主な理由は、ブラジルでこの商品が入手し難くなっており、果汁1トン当たりの価格が上昇したことであった。

2023年7月から2024年5月までの欧州連合(EU)へのオレンジ果汁出荷量は48万9,790トンで、前年同期比8.2%減少した。一方、輸出額は27%増の13億5千万ドルとなった。米国への輸出は、前年同期比で11%減となる29万3,640トンであった。同期間に確認された輸出額は7億3,700万米ドルで、前年同期比9%増であった。

国内市場 - 加工用に仕向けられるオレンジの価格は、2024/25年度シーズンの契約が締結され始めた3月から上昇してきている。6月上旬にサンパウロのスポット市場で取引された果実の価格は、収穫費用及び配送料込みで85.00リアル/箱(40.8kg/箱)に達し、実質ベース(IGP-DI(ブラジルの総合物価指標)によってインフレ修正済み)で1994年に開始されたセペアの累積データの中で新記録を達成した。

価格の上昇は、需要の増加と供給の制約の両方に関連している。需要に関しては、オレンジ果汁の在庫量が非常に少ないため、果汁製造業者は原材料を購入する必要がある。供給に関しては、サンパウロ州とトリアングロ・ミネイロ(ミナスジェライス州の三角地帯)で、オレンジ果実の出荷量が再び少なくなる可能性がある。

セペア(サンパウロ大学応用経済高等研究センター)

115. トルコ サクランボは順調だがアジア市場では低価格が問題

FreshPlaza 2024年6月19日

アジア市場での価格問題にもかかわらず、トルコのサクランボは前向きなシーズン

トルコの果実輸出業者デミルフレッシュフルーツ社のオーナーであるアルパー・ケリム氏は、トルコ産のサクランボは品質が安定しており、天候も全く問題が無く、非常に前向きなシーズンだと言う(以下「」は同氏の発言)。

「トルコのサクランボのシーズンはこれまでに全く順調だ。弊社のサクランボの品質は非常に良く、社内の農業技術者チームと購買チームは最高品質のサクランボを調達する素晴らしい仕事をしている。ここ2〜3週間は天候がかなり良好であった。収穫中の産地では雨が降っておらず、収穫は滞りなく続いている。」

同氏は、他国産のサクランボが市場に多く出回っているため、トルコ産サクランボが勢いを増すのにしばらく時間がかかったと説明する。しかし、7月には状況が改善すると予想している。

「カリフォルニア州産とワシントン州産のサクランボが非常に好調なスタートを切ったため、トルコ産サクランボのシーズンの初めには、引き合いはゆっくりとしたペースであった。スペイン産のサクランボは今はまだ出回っているが、1〜2週間の内に終了すると見ている。米国産とスペイン産の供給は、トルコ産のスタートにマイナスの影響を与えたが、それらが終わりに近づく一方で、トルコ産はまだ出荷するサクランボがあり、その上、最高品質のサクランボを提供する地域では収穫はまだ始まっていない。そのため、7月には、非常に良い需要が見込まれる。また、この時期には弊社の梱包施設の周辺で収穫が始まるので、サクランボの取引にとって重要な迅速な出荷を行うことができ、その地域にとって最適な時期である。」

ケリム氏によると、アジア市場におけるサクランボの価格は、コストを賄えないほど奇妙な水準にまで下落した。トルコの輸出業者らが互いに競争する中、アジアの輸入業者らはこの状況を利用している。「トルコの他の出荷業者のせいで、アジアへの輸出はあまりうまくいっていない。残念なことに、トルコの出荷業者達はアジア市場に売るために互いに争っており、これらの市場はこの状況を有利に利用している。現在、アジア市場で価格が非常に低いのは、トルコの出荷業者がアジア市場で売れさえすればよいとして原価で果実を販売しているためだ。」

トルコの競合他社にとって、これらの低価格の背後にある戦略が何であるかは、ケリム氏にはわからないが、同氏はそれが短期的には業界に打撃を与えていると感じている。同氏は、「名前は明かさないが、いくつかのトルコのブランドは現在、アジア市場で損失を出していることは確かだ。その理由は単に、諸経費を計算に入れると販売価格が意味をなさないからである。彼らが計算方法を知らないか、将来への投資と見なしている可能性があるが、これについてはわからない。しかし、短期的にはサクランボの価格に打撃を与えている。」

ケリム氏は、「全体として、7月から8月にかけて数量が増加し、非常に堅調な輸出水準が見込まれる。現在の様に品質が安定していれば、8月の第1週まで継続できるはずである。これまでのところ問題になるようなことはなく、弊社の果実の品質には自信がある。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

116. 北米 生食用ブドウはメキシコ産から米国産に移行

[FreshPlaza 2024年6月25日](#)

ソノラ州はメキシコ最大の生食用ブドウの産地であり、今シーズンは合計2,200万箱の輸出が見込まれている。今週末までに、2,050万箱が米国との国境を越えると予想されており、AALPUM(ソノラ州の生食用ブドウ生産者協会)の事務局長であるセルジオ・ルーゴ氏は、「今シーズンの出荷の大部分は今週末までに完了し、残り数回の出荷は7月になるだろう」と話す。

昨年と比べると、ソノラ州の出荷シーズンはまったく異なる始まり方をした。昨年は流通段階の在庫が皆無であったが、今年はソノラ州が出荷を開始した時点で市場は満杯であった。パンドル・ブラザーズ社のジョン・パンドル氏は、「私は先週トロント(カナダ)にいたが、まだチリ産の生食用ブドウが小売店に並んでいた。信じられないことではないが、かなり珍しいことだ」とコメントした。新しいブドウ品種は収穫が遅くなる傾向があり、その結果、今のチリは6月の市場で、5年前と比較してより存在感を示す可能性がある。

サンホアキンバレーの出荷開始 今後は、ソノラ州やコーチェラヴァレー(カリフォルニア州南部)からカリフォルニア州の主要なブドウ産地であるサンホアキンバレー地域への順調な移行が見込まれる。現在、ソノラ/コーチェラ地域の出荷は約80%完了しており、この数字は週末までに90%に近づくであろう。同時に、サンホアキンバレーでは、早ければ今週後半にでも1箱目のブドウを収穫する可能性がある。7月8日の週末には、早生品種生産者のほとんどが収穫を開始する。

ソノラ州産のブドウは、アリゾナ州ノガレス市で米国との国境を越える。ノガレスの推定在庫は、昨年の600万箱に対し、現在は300万~400万箱である。ノガレスにある在庫と、ソノラ/コーチェラ地域でこれから収穫されるブドウを合わせると、供給量の約3週間分に相当する。パンドル氏は、「これだけの量があれば、サンホアキンバレーのブドウに整然と移行できるはずだ」と結論付けた。(一部省略しました。)

執筆者: マリーケ・ヘムズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事) 米国 カリフォルニア州産ブドウの本格出荷の開始は平年並み

[FreshPlaza 2023年6月24日](#)

カリフォルニア州のブドウの出荷は、コーチェラバレーの出荷シーズンの終わりから、サンホアキンバレーからの大量の出荷へと円滑な移行が予想されている。ミラベラ農場のフィリップ・マルカリアン氏は、「コーチェラの出荷量は年々減少しており、以前は400万~600万箱だったのが、今では約200~250万箱しかない」と言う。メキシコもブドウの出荷シーズンの概ね半ばである。

サンホアキンバレーからの出荷は、7月10日から14日の間に開始される予定である。マルカリアン氏は「作柄はまずまずで、出荷量に関しては昨年とほぼ同じだ。タイミングは昨年よりも平年に近く、昨年に比べて16~18日程早いようだ。昨年はもっと涼しかったが、今年は平年並みの天候パターンだ」と話す。

ミラベラ農場の品種別(フレイム、サマーローヤル、アイボリー、ティムソン、アリソン、パッションファイア、クリムゾン、スカーレットローヤル、オータムローヤル、オータムキング、レッドグローブ、シュガーワン等)の出荷量も昨年と同様のものである。マルカリアン氏は「古い品種の多くは取り除かれ、新しい品種に置き換えられたが、置き換えた新しい品種は今やかなり生産が本格化していると思う」と言う。ミラベラ農場は今シーズン、近年導入されたレッドマリブシードレス品種の出荷量を3倍に増やした。

需要については、昨年よりも強いと予想されている。とはいえ、カリフォルニア州は人件費をはじめとして、資材や燃料などの投入コストの上昇に引き続き対処している。それでも、出荷価格は昨年と同程度か、または10月から12月のカリフォルニア州産ブドウの出荷の終わりに向けて若干上昇する程度と見込まれる。なお、天候要因がその時点での価格に影響を及ぼす可能性もある。(一部省略しました。)

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

117. ペルーの柑橘類事情(マンダリン、タンジェリン)

米国農務省GAINレポート 2024年6月25日

これは米国農務省海外農業局のリマ事務所(ペルー)が作成した「柑橘類半期報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

ペルーのマンダリン/タンジェリンの生産量及び輸出量は2023/24年度(2024年3月～2025年2月)に回復し、生産量は2%増の56万トンに達し、輸出量は3%増の21万トンに回復すると予測される。最近の低い気温による収量の増加と潜在的に好ましいと考えられる雨の少ない天候条件は、出荷量と輸出量に良い影響を与えると期待される。2023/24年度の生鮮マンダリン/タンジェリンの国内消費量は、前年比3%増の32万2千トンと予測される。米国は引き続きペルーの最大の輸出先国であり、輸出の50%を占めると見られる。

表1 ペルーのマンダリン/タンジェリンの生産需給統計

ペルー: マンダリン/タンジェリン(生鮮)	推計値	推計値	予測値
表示年	2021	2022	2023
分割表示(販売年度)	2021/2022	2022/2023	2023/2024
販売年度の始まり	2022年3月	2023年3月	2024年3月
栽培面積(ヘクタール)	23,000	23,000	23,000
収穫面積(ヘクタール)	23,000	23,000	23,000
結果樹本数(千本)	9,200	9,200	9,200
未結果樹本数(千本)	0	0	0
果樹本数合計(千本)	9,200	9,200	9,200
生産量(千トン)	570	550	560
輸入量(千トン)	0	0	0
総供給量(千トン)	570	550	560
輸出量(千トン)	224	206	210
生鮮国内消費量(千トン)	316	314	322
加工仕向量(千トン)	30	30	28
総仕向量(千トン)	570	550	560

*注: ペルーの販売年度と米国の販売年度の間には1年のずれがある。例えば、ペルーの2024/25販売年度は米国の2023/24販売年度に相当する。データの継続性を確保するために、現在のペルーの2024/25販売年度は、このレポート全体を通して2023/24年度と記述する。

生産

2023/24年度(2024年3月～2025年2月)のマンダリン/タンジェリンの生産量は、前年度比2%増の56万トンと予測される。2024年3月下旬の涼しい天候は、晩生のマンダリン/タンジェリン品種にプラスの影響を与える可能性がある通常より寒い冬を今後招くかも知れないことを示している。早生品種の収穫は2024年1月上旬に前倒しで始まった(元々は3月を予定していた)が、主に不安定な天候条件により平均を下回っている。全体的には、ペルーでは品種間の生産量のバランスが良いことが期待され、早生品種が少なくても、晩生品種が増加する可能性がある。

2023/24年度は、マンダリン/タンジェリンの生産者にいくつかの課題が生じた。2024年の夏(2023年12月～2024年3月)は、高い海水温のために気温が平均を上回る好ましくない気象条件となり、病害虫の発生が増加した。夜まで続く夏の熱波は、プリモソール、クレメンティン、ウンシュウミカン等の早生品種に影響を与えた。マンダリンは、輸出に必要な色の基準を達成するために、生育の遅い段階で涼しい天候を必要とする。国内市場は、良い価格を提示しており、早生品種をよく受け入れている。ペルーのマンダリン/タンジェリン市場は安定しており、成長しているスーパーマーケットが良い販売機会を提供している。

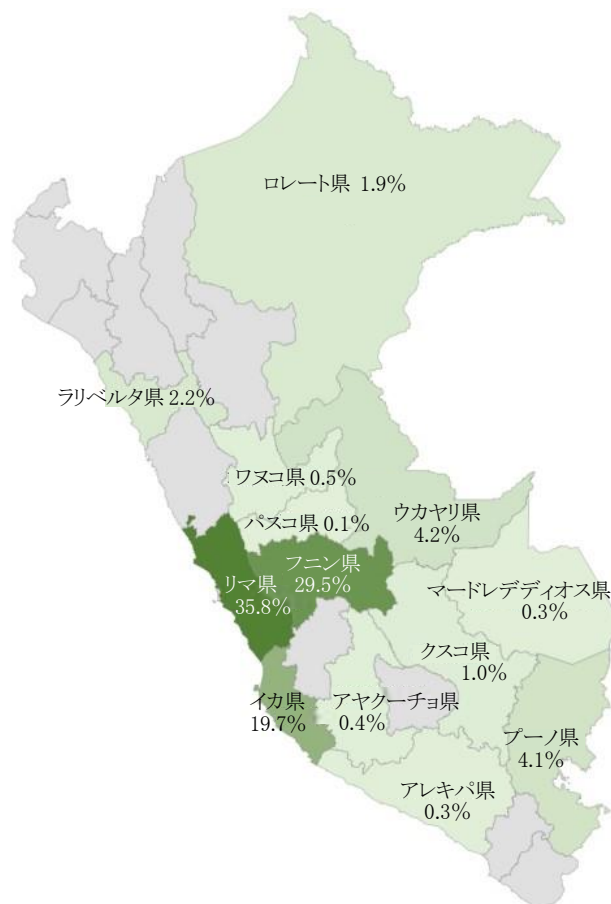
2023年(暦年)のペルーの秋と冬は暖かく、早生品種の開花が2022年と比較して50%減少した。晩生品種(タンジェロ、タンゴ、オッリ、ダブルマーコット)への期待が高まっている。開花と着果は影響を受けていない可能性があり、樹上の果実の量は平均を上回っているようである。

マンダリン/タンジェリンの園地は、気温の変動、湿度の変化(2022年以降)、2023年の大雨と暖冬などによる負の影響を受け続けている。

これらの非生物的要因は、サビダニの一種(学名 *Phyllocoptruta oleivora*、英名 citrus rust mite)、チャノホコリダニ(*Polyphagotarsonemus latus*, broad mite)、ミカンハダニ(*Panonychus citri*, red spider)及びクロカビ類(すす病)(*Cladosporium spp.*(sooty spot))に関連するタマバエの一種(*Prodiptosis longifila*)の4つの病虫害の発生を促進した。さらに、植物にストレスがかかり、特にペルー南部では、黄斑病(*Mycosphaerella citri*, greasy spot)が多発する可能性が高い。

公式データによると、マンダリン/タンジェリンはペルーの25県のうち13県で生産されている。亜熱帯気候で水が確保しやすい沿岸地域が総生産量の60%を占めている。ペルーの主なマンダリン/タンジェリン産地は、総生産量の36%を占めるリマ県、フニン県(30%)及びイカ県(20%)である。

図1 ペルーのマンダリン/タンジェリン産地



出典: PROCITRUSのデータに基づき当事務所が作成

ペルーではマンダリン/タンジェリンの生産が活発に行なわれており、世界市場に追いついていくために新品种の導入を強く推進している。現在、古い品種から輸出に重点を置いた新しいライセンス品種への転換が、年率1%で行われている。過去8年間、早生のマンダリン/タンジェリン品種は、アボカドなどのより収益性が高く、需要の多い作物に転換されている。

ペルーのアマゾン盆地と高地での生産は国内市場向けであり、リマ県とイカ県の川の流域での生産は輸出志向である。リマ、イカ両県での生産は、ともに砂漠的な条件(低い病虫害リスク、日較差の大きい気温)と、主要港であるカヤオ港(リマ県)またはピスコ港(イカ県)へのアクセスの良さの両方の恩恵を受けている。

ペルーで栽培される主な品種は次のとおりである。

ウンシュウミカン (*Citrus unshiu*)：クラウゼリーナ、興津、尾張、プリモソール

クレメンタイン (*Citrus reticulata*)：クレメンタイン、クレメノール

交雑種：フォルチューナ、カラ、ピクシー、ノヴァ

Citrus reticulata と *Citrus paradise* の交雑種のタンジェリン：マーコット、オルタニク、タンゴ

その他：ダンシー及びナドルコット。マルバセオとリオデオロもペルーで長年人気がある。

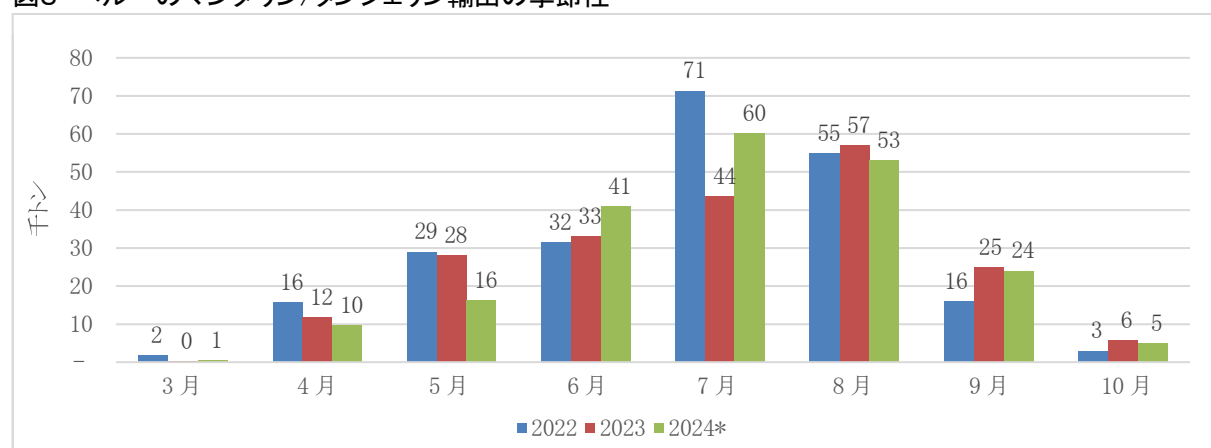
輸出市場は、マーコット、タンゴ、プリモソール、クレメンタイン、オッリなどの皮を剥くのが容易な品種や種なし品種が大部分を占めている。ウンシュウミカン、プリモソール、クレメンタインは早生の品種と見なされ、マーコット、タンゴ、オッリはそれより遅い時期に収穫される。ウンシュウミカンは国内市場向けであり、プリモソールとクレメンタインは輸出されている。

図2 ペルー・イカ県のマンダリン農園(2024年6月上旬撮影)



出典：当事務所

図3 ペルーのマンダリン/タンジェリン輸出の季節性



出典：ペルー税関(SUNAT)

2023/24年度の収穫面積は2万3千ヘクタールと予測されており、前年と同水準を維持している。ペルーの収穫期は3月から10月で、最盛期は6月から8月である。ただし、ペルーでは一年中マンダリン/タンジェリンが出荷されている。

公式データによると、タンジェリンの栽培面積は4,500ヘクタールと推定され、マンダリンやその他の交雑種

は1万8,500ヘクタールを占めている。タンジェロは、ペルーのマンドリン/タンジェリンの総栽培面積の15%を占めている。クレメンティーナ、ダブルマーコット、ウンシュウミカンがペルーで最も人気のある品種である。

マンドリンは、地代と植栽費用を別にして、年間5千〜6千米ドルの投資を必要とする。これは、小規模農家にとって大きな支出である。公式データによると、ペルーには平均3ヘクタールの小規模生産者が3千以上いる。事実上、それらの生産者の生産物はすべて国内市場にとどまる。収量は1ヘクタール当たり12〜20トンの範囲である。

図4 2024年6月から8月までの降水量予測



出典: [SENAMHI](#)

ペルー国立気象水文局 (SENAMHI) は、2024年6月から8月までの季節平均降水量を予測している(図4)。沿岸部では乾季(ピンク色)のため、降雨量が少ないと予想される。平均を下回る降雨量は、国の西部(原文のまま)、北西部の高地、及び国の中南部のジャングル地帯で予想される。白色で示した地域は平均的な降水量で、降水量が平年を下回る地域はオレンジ色で表されている。予報によると、晩生品種の収穫は、涼しく乾燥した天候の恩恵を受けると予想される。

気温については、SENAMHIの2024年6月から8月の季節予報によると、ペルーの海岸地方では平年を下回る。アンデス及びアマゾン地域では、平均気温が平年並みかそれ以上となる見込みである。高地では、冬期の霜の頻度と強度が増加すると予想される。主に影響を受ける地域は、イカ県、アンカシュ県、ラリベルタ県、ランバイエケ県、リマ県等である。この予報は、3月中旬からの秋期に通常の範囲内で気温が低下することを強調しており、それは柑橘類の生産に恩恵をもたらす。

国のエルニーニョ現象研究 (ENFEN) における南方変動調査 (ENSO) によると、2024年には「エルニーニョ」現象は予測

されていない。12月までは平年並みの天候になる可能性が高い。

消費

当事務所は、2023/24年度の生鮮マンドリン/タンジェリンの国内消費量を32万2千トンと予測する。ペルーではマンドリンは昼食の弁当や間食として好まれている。ペルーの1人当たりのマンドリン/タンジェリン消費量は11kgと推定される。マンドリンジュース、ジャム、エッセンシャルオイル、ヨーグルト、粉末(原文のまま)及びアルコール飲料は、消費を促進する画期的な手法として、スーパーマーケットやコンビニエンスストアで一般的となった。4オンス(約113グラム)容器入りの果汁漬けカットマンドリンの輸出量は、2017年の2千トンから2023年には1万2千トンと年平均34%で増加した。

ウンシュウミカンとタンジェリンは、国内市場に一年中供給されている。他のすべての品種には季節性がある。2023年の国内市場の卸売価格は、平均で前年比20%高かった(表2)。リオデオロ品種は国内市場で最も価格が高く、ウンシュウミカンとタンゴがそれに続く。

表2 マンダリン/タンジェリンの平均価格 2023 年 1 月～12 月(米ドル/kg)

クレメンタイン	コリ	マルバセア	マーコット	ノヴァ	ピクシー	プリモソール	リオデオロ	ウンシュウ	タンジェリン	タンゴ
0.33	0.44	0.52	0.51	0.47	0.46	0.45	0.64	0.56	0.27	0.56

出典：ペルー農業省価格システム

図5 スーパーマーケットでのマンダリンの販売の様子(2024年6月撮影)

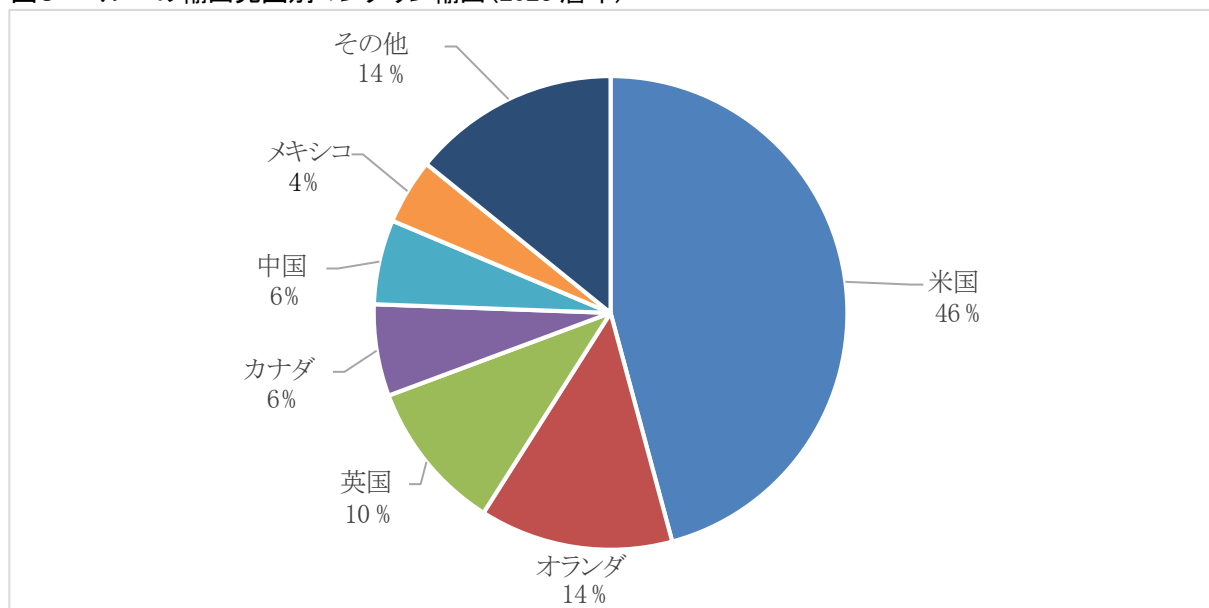


出典：当事務所

貿易

当事務所は、2023/24年度のペルーのマンダリン/タンジェリン輸出量を微増の21万トンと予測する。2023年1月から12月のペルーの生鮮マンダリン/タンジェリンの主な輸出先は、米国(46%)、オランダ(14%)、英国(10%)であった。ペルーの輸出先は世界36市場に及んだ。

図6 ペルーの輸出先国別マンダリン輸出(2023 暦年)

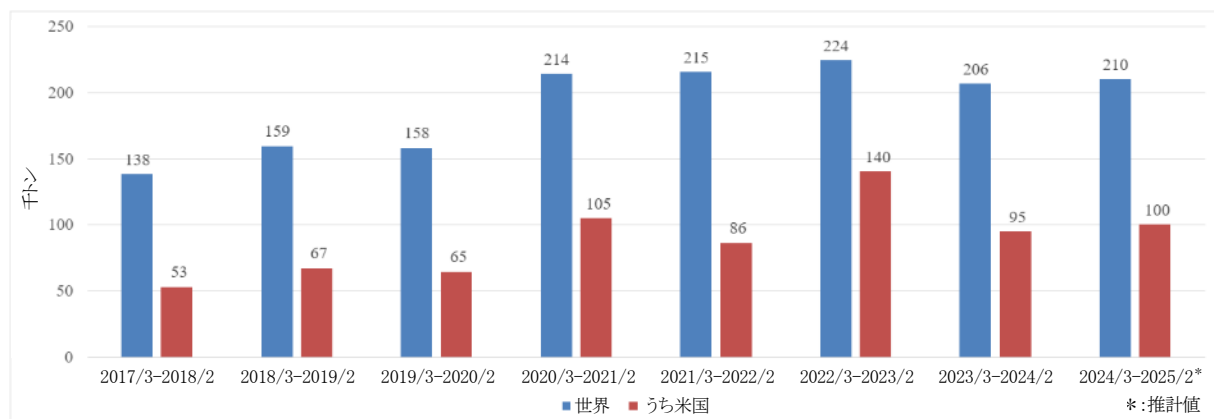


出典：ペルー税関(SUNAT)

2022/23年度の生鮮輸出量は前年比8%減で、22万4千トンから20万6千トンに減少した。2015/16年度にペルーは11万2千トンを輸出し、その後一貫した成長を見せ、輸出量はほぼ倍増した。

米国向けの輸出量は、ここ数年一貫して増加している。しかし、2022/23年度(2023年3月～2024年2月)には14万トンから9万5千トンへと30%減少した。また、米国の市場シェアは、2021/22年度の63%から2022/23年度には46%に減少した。これに関連して、オランダはペルー産果実の2番目に大きな市場となった。

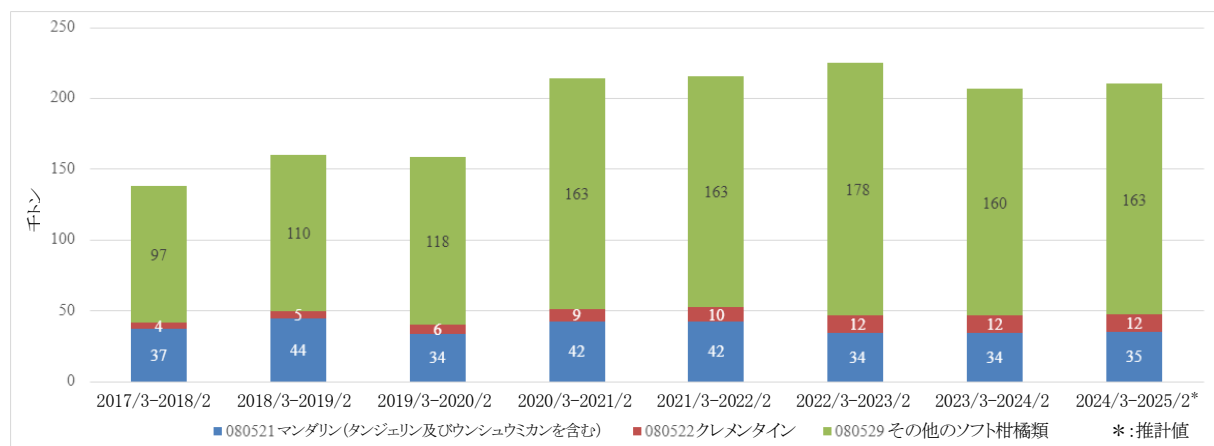
図7 ペルーのマンダリン/タンジェリン輸出量の推移(千トン)



出典: Trade Data Monitor

ペルーのマンダリン/タンジェリン総輸出量は、2023/24年度には晩生品種の好調により回復すると予想される。通常どおり交雑種が総輸出量の78%を占めている。

図8 ペルーのマンダリン/タンジェリン輸出量 HSコード別世界計(千トン)



出典: Trade Data Monitor

2023暦年の「その他の柑橘類」の交雑種の1トン当たり平均輸出価格は、米国向けが1,180ドル、英国向けが1,005ドル、オランダ向けが1,124ドルで、2022暦年よりも良い価格であった。2024年1月～6月の1トン当たりの平均輸出価格は、2023年の1,136ドル、2022年の1,059ドルに対し、1,246ドルに達した。

クレメンタインの輸出量は2016/17年度から3倍に増加し、主に米国市場向けである。当事務所は、ペルーのクレメンタイン輸出量は今後数年間、堅調な成長を維持すると予想する。2023/24年度の米国向けのマンダリン/タンジェリン輸出量は増加し、近い将来10万トンに達すると予想される。

ペルーの輸出向けマンダリン/タンジェリン生産は、大部分が50ヘクタール以上の産業規模の農場で行われている。生産量を最大化するため、最先端の点滴灌漑システムを使用し、正確な量の水と栄養分を供給している。これらの農場の収量は平均70～90トンで、多収で品質の高い品種が選択されている。

政策

ペルーのマンダリン/タンジェリンの輸出は、米国、EU、中国等との数多くの自由貿易協定の恩恵を受けている。2009年2月1日に発効したペルー貿易促進協定(PTPA)は、ペルー産マンダリン/タンジェリンに対し米国への無税のアクセスを提供する。

ペルー政府は、港湾の整備を戦略的優先事項と見なしている。リマ市の北60kmにある「チャンカイ・メガポート」と名付けられた新しい港は、南米とアジアの間の物流にとって革命的であるとペルー当局は宣伝している。中国の国有企業であるコスコ SHIPPING 社(Cosco、中運海運)が建設・運営する同港は建設の最終段階にあり、2024年末までに開港する予定である。

当局は、この港は最先端であって、中国やアジアの他の港への輸送時間を大幅に短縮することを約束しており、操業開始の1年目に農産物や工業製品を中心に全輸出品の25%を扱うと主張している。しかし、同港の完全運用までのタイムラインと有効性は、ビジネスリーダーや物流の専門家から疑問視されている。

さらに、カヤオ(リマ県)の二つの港が改修され、イカ県のサン・フアン・デ・マルコナ鉱石港の操業については最近、中国企業に30年間の運営権が与えられた。これらの投資により、ペルーは南米地域内の、またアジア市場との、戦略的及びビジネス上のつながりを強化しようとしている。

ペルー政府は、農産物の輸出に向けた産業界の取り組みを支援している。PROMPERU(ペルーの輸出促進機関)とその海外事務所は、ペルーの代表的輸出農産物であると認識されているマンダリン/タンジェリンを積極的に宣伝している。

近年、ペルーは果実と野菜のトップクラスの生産国として世界的なブランドを構築することに成功し、国際的な食品見本市や展示会で強い存在感を示している。

ペルー政府と産業界は、業界を前向きにし、社会的対立を減らす手段として、小規模農家を農産物輸出チェーンに組み入れることに取り組んでいる。また、政府は生産的農村農業開発プログラム(AGRORURAL)を通じて、生鮮品の代替として、マンダリンを果汁、粉末(原文のまま)、乾燥スナックに加工することを奨励している。

2000年から2020年まで、ペルーの農産物輸出業者は農業振興法の恩恵を受けており、この分野の多くの関係者は、これがペルーの農産物輸出の成功に寄与したと考えている。この法律は農産物の輸出に対する税金を軽減し、投資と正規雇用を促進した。2020年に法律が改正され、ペルーの柑橘類やその他の生鮮果実産業関係者らによると、税金と労働者への補償要件の複雑な役所仕事が発生した。業界関係者らは、この変更が生産者と労働者の両方に負担となり、非正規雇用を増やし、投資を減少させたと主張している。

PROCITRUSはペルーの柑橘類貿易団体であり、柑橘類輸出産業全体の80%を代表している。同団体は1998年に設立され、研究、開発及び官民連携に向けた業界の取り組みを主導している。

ペルー農業検疫局(SENASA)は、輸出用生鮮果実の監視と管理において主導的な役割を果たしている。収穫期ごとに、SENASAは登録された果樹園と加工場のリストを更新する。公式データによると、同庁は424のマンダリン/タンジェリン生産農場と31の梱包処理施設を登録している。

登録果樹園: [マンダリン生産農場 \(senasa.gob.pe\)](https://senasa.gob.pe)

登録梱包処理施設: [マンダリン梱包施設 \(senasa.gob.pe\)](https://senasa.gob.pe)

マンダリン/タンジェリンの規格は、柑橘類業界の品質要件と基準の統一を促進する2014年の技術基準([NTP 011.023](#))で規定されている。

118. 南アフリカの柑橘類事情(オレンジ、グレープフルーツ、ソフト柑橘、果汁)

米国農務省GAINレポート 2024年6月25日

これは米国農務省海外農業局のプレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「柑橘類半期報告書」を訳したものであり(一部省略)、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

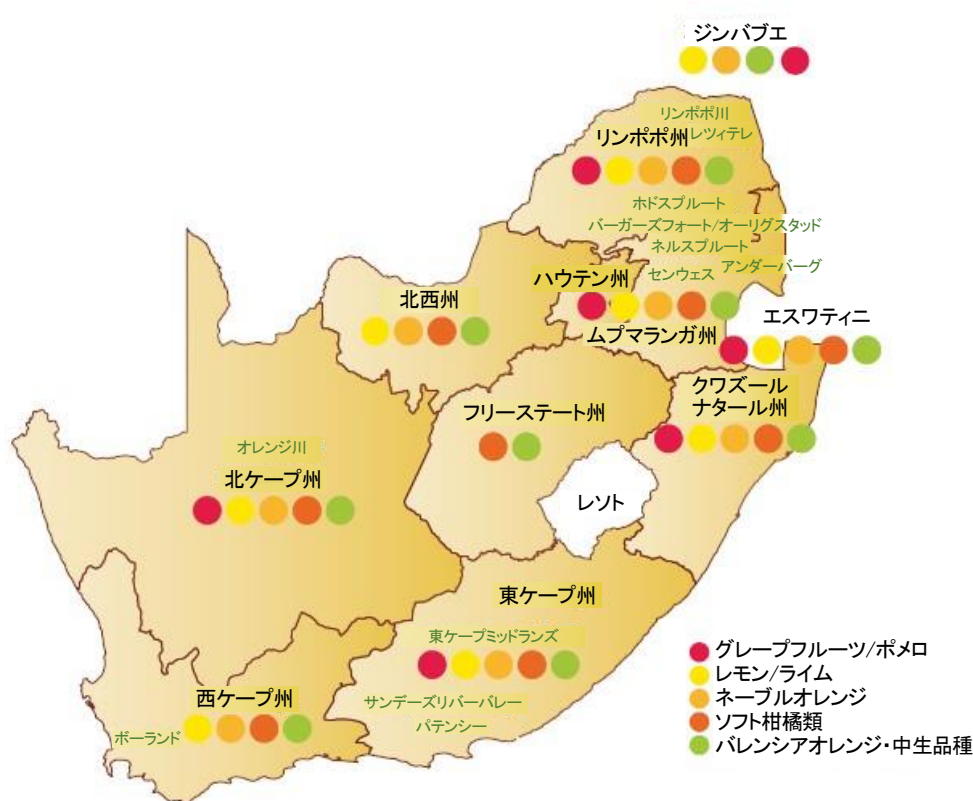
要旨

記録的なオレンジ果汁の価格により生産者が加工用の出荷を増やすため、オレンジ果汁の生産量が急増すると予想される。生産者はオレンジを、輸出市場や国内(生鮮市場)への販売から、有利な価格で加工に振り向けている。2023年春には、すべての柑橘類産地で灌漑に十分な量の雨が降った。2023/24年度には、すべての種類の柑橘類の生産が量と品質の両面で向上すると見込まれる。しかし、北部の産地では生育期に雨が少なく、果実が小玉化し、輸出規格を満たす果実の割合が減少した。2023/24年度のオレンジ、グレープフルーツ及びレモンの輸出量は、果実の小玉化と国内の加工用への転用により下方修正された。

背景

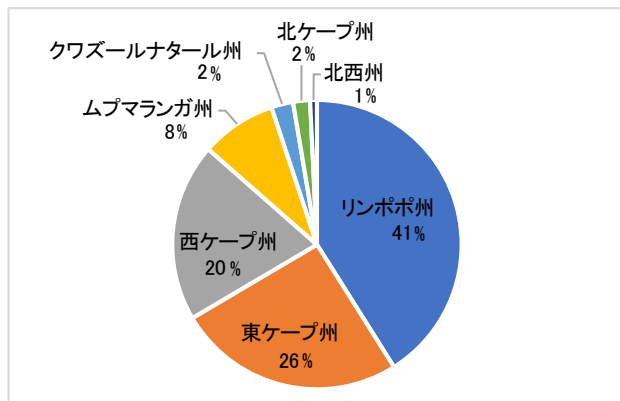
南アフリカの2022/23年度の柑橘類の総栽培面積は9万5,980ヘクタールで、2021/22年度の9万6,277ヘクタールから0.3%の微減となった。この減少は、柑橘類産業の急速な成長に続くものであり、加工と輸出の機会が制約されるため、供給過剰の懸念が高まっている。さらに、業界は、物流上の課題、投入コストの上昇、不安定な電力供給、及び特にEU市場における植物検疫要件など、いくつかの課題に直面した。南アフリカの柑橘類は、主にリンポポ州、東ケープ州、西ケープ州、ムプマランガ州で生産されている(図1)。西ケープ州と東ケープ州は相対的に冷涼な気候で、ネーブルオレンジ、レモン及びクレメンタイン、ウンシュウミカン等の皮を剥きやすいソフト柑橘類の生産に適している。ムプマランガ州、リンポポ州、クワズールナタール州は相対的に温暖な気候で、グレープフルーツやバレンシアオレンジの栽培により適している。

図1 南アフリカの柑橘類産地



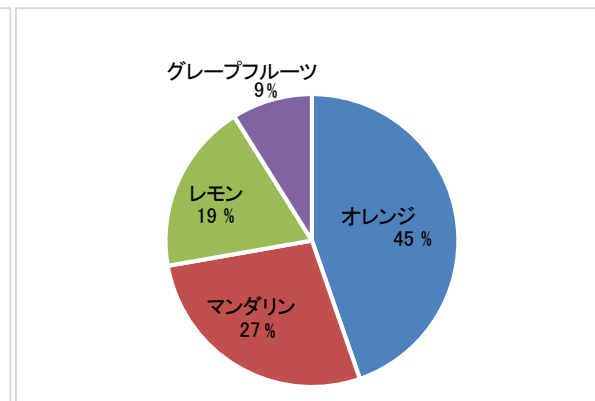
出典: 柑橘類生産者協会 (CGA)

図2 柑橘類の地域別栽培面積シェア



出典: CGA

図3 柑橘類の種類別栽培面積シェア



出典: CGA

図3は、オレンジが南アフリカで生産される最大の柑橘類の種類であり、2022/23年度の柑橘類の総栽培面積の45%を占めていることを示している。一方、タンジェリン/マンダリンは、柑橘類の総生産に占める割合が、2015/16年度の約16%から2022/23年度の27%と最も大きく増加した。

南アフリカでは、少なくとも210種類の柑橘類が商業的に栽培されている。表1は、南アフリカで栽培されている最も一般的な柑橘類の品種を示している。スタールビーは最も多く栽培されているグレープフルーツの品種であるが、最近の苗木の販売額はグレープフルーツへの関心が大幅に低下していることを示している。バレンシア種はネーブル種よりも貯蔵寿命が長く、収量が多いため、生産者は、ネーブル種よりもバレンシア種を好む。ナドルコットは、南アフリカで最も人気のあるソフト柑橘類品種の1つである。

表1 柑橘類の品種

柑橘類の種類	品 種 名
グレープフルーツ	スタールビー、マーシュ、ジャクソン、ポメリット、ローズ、レッドハート
オレンジ	バレンシア種/中生品種: ミッドナイト、バレンシアレート、デルタ、ターキー、ベニー、デュロワ、グソクラ、ジャシー
	ネーブル種: カンプリア、パーマー、バイアニーニャ、ワシントン、ワイト克蘭、カラカラ、ナベリーナ、ロビン、レーンレート、オータムゴールド、ニューホール
マンダリン/ タンジェリン	ウンシュウミカン: 三保早生、クイーン、尾張、ベラベラ、宮川早生
	クレメンタイン: ミュール、アンデス-1、オクトゥブリーナ、エスバル、マリソル
	マンダリン: ナドルコット、ナドルコットLS、タンゴ、ノヴァ、リーンリ、オッリ、ラム、モル、バレーゴールド、タンバー、シーガル
レモン/ライム	ユーレカ、リスボン、2Phシードレス、リモネイラ8A、ジェノヴァ、ユーレカシードレス、レモネリア

出典: CGA

表2 南アフリカの柑橘類の収穫期

柑橘類の種類	収穫期
マーシュグレープフルーツ	3月～6月
スタールビーグレープフルーツ	3月～9月
ネーブルオレンジ	3月～7月
バレンシアオレンジ	5月～9月
マンダリン/タンジェリン	3月～8月
レモン/ライム	2月～8月

出典: CGA

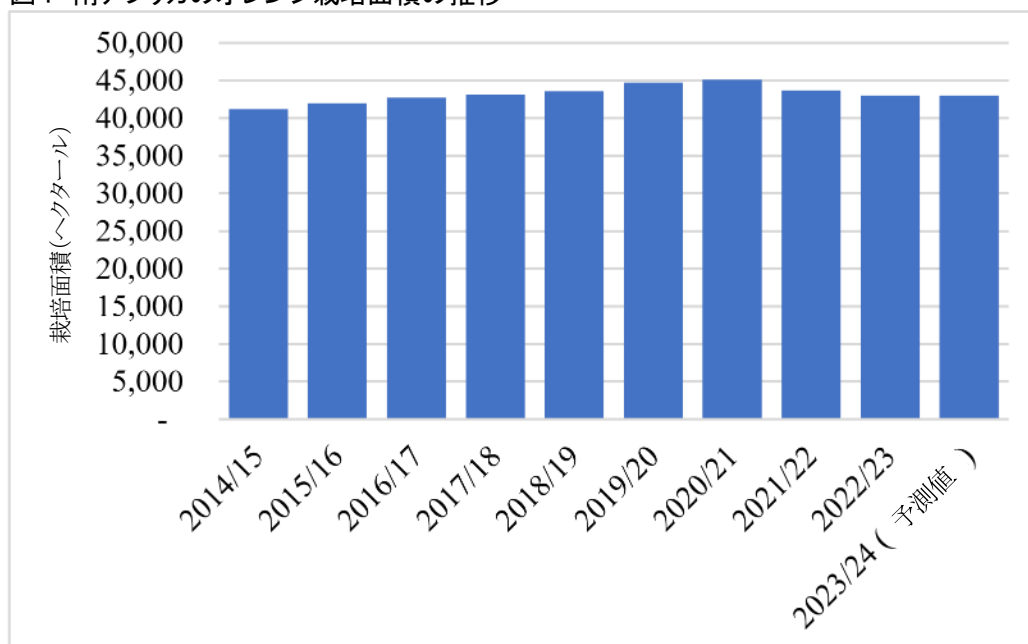
<オレンジ(生鮮)>

栽培面積

当事務所は、南アフリカの2023/24年度のオレンジの栽培面積は4万2,990ヘクタールで概ね横ばいと予測する。生産者らは、市場の需要動向に追随するため、一部の早生ネーブルを晩生のネーブル品種に置き換えているようである。オレンジの新植は限られており、樹齢の高い果樹園を改植していると見られる。図4は、オレンジの栽培面積の推移を示しており、2020/21年度がピークとなっている。西ケープ州とリンポポ州の産地におけるソフト柑橘類への積極的な転換により、オレンジの栽培面積の増加は抑制されている。

南アフリカでは電力供給が不安定なため、生産者やバリューチェーンの他の関係者らは、中断のない灌漑と一貫したコールドチェーンへのアクセスを確保するため、代替電源への投資を続けている。さらに、生産者は気候リスクをより適切に管理し、果実の品質を向上させるために日除けネットへの投資を増やしているが、これにより面積の拡大に充てる資金がほとんど残っていない。当事務所の情報提供者らによると、生産者らは輸出市場へのアクセスに関する懸念 - 特にEUの植物検疫要件への懸念 - により、面積の拡大を制限している。非効率な港湾運営、鉄道網の不調、道路インフラの老朽化、投入コストの上昇により、オレンジ生産者の収益性が低下し、業界の継続的な投資が制限されている。2022/23年度の栽培面積は2%減の4万2,993ヘクタールとなったが、これは主にネーブル種の栽培面積の減少によるものである。

図4 南アフリカのオレンジ栽培面積の推移



出典: CGA 予測値は当事務所

リンポポ州は総栽培面積の50%を占める南アフリカの主要なオレンジ産地であり、東ケープ州(24%)と西ケープ州(15%)がそれに続く。バレンシア種はオレンジの総栽培面積の3分の2を占め、ネーブル種が残りの3分の1を占めている。植えられている主要品種はミッドナイトで総面積の26%を占め、バレンシアレート(10%)、デルタ(9%)、ベニー(7%)、ターキー(7%)の各品種が続く。南アフリカの他の栽培品種は、パーマー、カンブリア、バイアニーニャ、ワシントン等である。

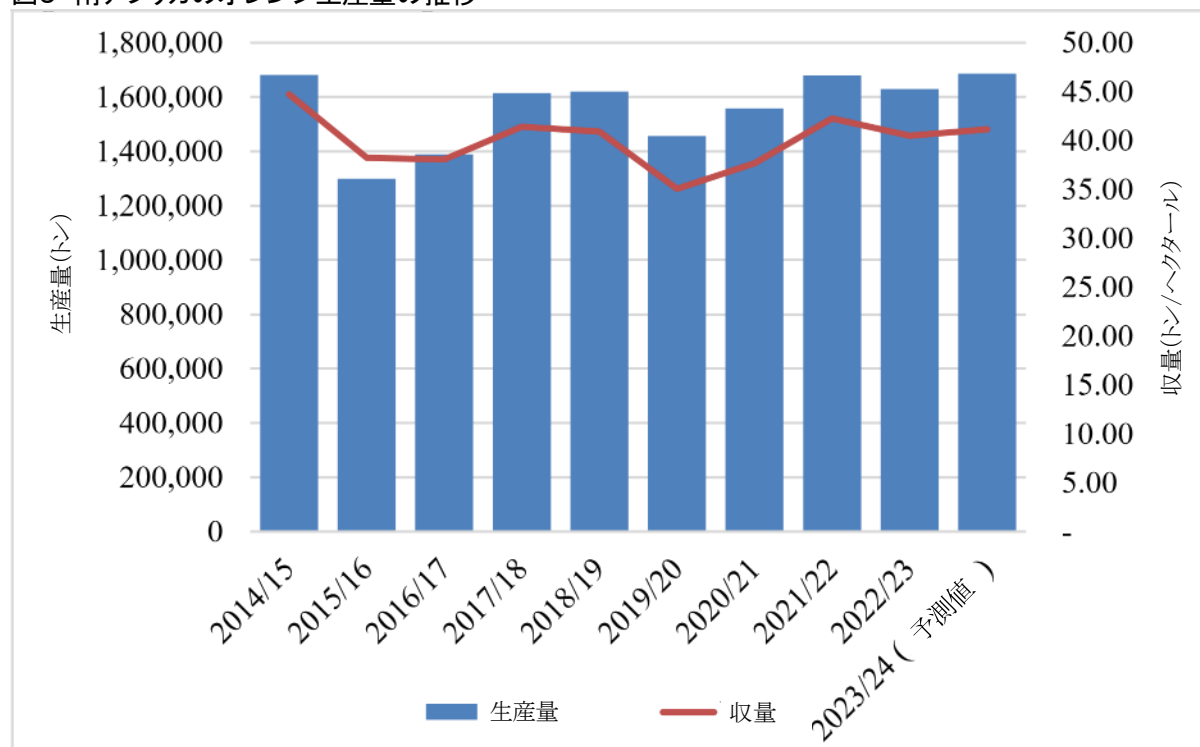
生産

2023年11月と12月に十分な雨が降り、特に北ケープ州と東ケープ州の産地で灌漑に十分な水が確保されたため、当事務所は2023/24年度のオレンジの予測生産量を169万トンに引き上げた。北部地域では、2023年12月に約10日間、非常に暑い状況が続き、生産者らは、これが果実の小玉化につながったと報告している。防護ネットへの投資拡大により、生産者らは2023/24年度産の品質と収量の全般的な向上を期待

している。したがって、当事務所は、2023/24年度のオレンジ生産量を前年比3%増と予測する。

当事務所は、2022/2023年度の実産量の推計値を据え置く。生産量は、リンボポ州、西ケープ州及び東ケープ州の産地で発生した霜を伴う嵐と大雨により、前年比3%減少した。さらに、不安定な電力供給は、生産者が必要に応じて灌漑を行う能力に影響を与えた。2021/22年度には、主要産地でシーズンを通して平均以上の降雨量に恵まれて十分な灌漑用水が確保され、収量を押し上げる生育条件が整ったことで、生産量は前年比8%増加した。図5は、2014/15年度以降の南アフリカのオレンジ生産量を示している。

図5 南アフリカのオレンジ生産量の推移



出典：農業農地改革農村開発省 (DALRRD) 予測値は当事務所

消費

南アフリカの生産者は輸出市場への供給を優先し、輸出基準を満たさない果実は通常、国内の生鮮消費と加工に使用される。生鮮オレンジは、南アフリカで最も広く消費される柑橘類である。しかし、米国フロリダ州のオレンジ生産量の減少と、ブラジルの干ばつによる収穫量減少への懸念により、オレンジ果汁の価格は歴史的な高値となっている。当事務所は、生鮮消費よりも相対的に収益性の高い加工用に仕向けられるオレンジが増えると予想する。さらに、消費者の嗜好はソフト柑橘類の消費にシフトしている。

当事務所への情報提供者らは、従来は地元の市場で販売されていた早生のネーブルオレンジが加工用に販売されたと報告している。そのため、当事務所は2023/24年度の国内消費量を下方修正し、前年比31%減とした。

当事務所は、国内で加工用に販売されるオレンジが増加したと見て、2022/23年度及び2021/22年度の実鮮国内消費量の推計値を下方修正した。消費量の数値には、人の食用と動物飼料の両方の生鮮出荷量が含まれている。

輸出

当事務所は、2023/24年度にはオレンジの小玉化により海外市場への出荷箱数が減少するとの予想を踏まえ、オレンジの輸出量を前年比12%減の110万トンに下方修正する。生産者は、加工用に仕向けられるオレンジの価格上昇により、搾汁用の出荷を増やしている。当事務所は、通常は輸出市場向けのクラスⅡの果実が、加工用に仕向けられると予想する。当事務所への情報提供者らによると、リンボポ州 (グローブラースダ

ール)と西ケープ州の産地では、輸出市場向けの果実が強風と降雹による被害を受けた。

輸出されるオレンジは通常、ダーバン港(54%)とケープタウン港(21%)を経由して南アフリカを離れる。基幹となる機材の故障が輸出市場への果実のタイムリーな出荷を妨げており、業界関係者らは引き続き港湾のパフォーマンスに懸念を抱いている。南アフリカの業界は、輸出に対するリスクを管理するため、港湾当局との調整を続けている。

当事務所は、2022/23年度の推計輸出量を前年比5%減の120万トンに引き下げた。生産者らは、果実がカンキツ黒星病(CBS)やフォールスコドリグモス(FCM)のために検疫で止められることを懸念して、晩生のバレンシアオレンジのEUへの輸出を控えた。

南アフリカは世界100カ国以上にオレンジを輸出しているが、EUは依然として南アフリカの最大の輸出市場であり、オレンジの輸出シェアの約36%を占めている。南アフリカは柑橘類の輸出に免税アクセスを認め、EUとの自由貿易協定にもかかわらず、CBSとFCMの蔓延により、引き続き市場で植物検疫の課題に直面している。

南アフリカ政府は2024年4月24日に、CBSに関する貿易植物検疫規制について、世界貿易機関(WTO)にEUとの協議を要請した。また、南アフリカは2022年7月に、新たな規則で規定された低温処理について、EUをWTOに提訴した。EUは柑橘類の輸入において、FCMに対する防疫を確実にするために、輸入前に指定された低温処理と一定期間の予冷を行うことを義務付けている。

表3 南アフリカの生鮮オレンジ輸出

輸出先国	2021/22(トン)	2022/23(トン)	増減率	2月～4月		
				2022/23(トン)	2023/24(トン)	増減率
オランダ	264,586	280,832	6%	20	24	20%
アラブ首長国連邦	109,228	140,540	29%	198	239	21%
ロシア	85,153	96,484	13%	62	14	-77%
中国	96,892	84,345	-13%	87	0	-100%
ポルトガル	59,261	64,704	9%	0	0	-
米国	59,192	57,543	-3%	2	1	-50%
英国	73,686	54,389	-26%	95	46	-52%
香港	47,692	48,094	1%	48	335	598%
サウジアラビア	66,208	46,605	-30%	25	102	308%
カナダ	42,630	44,229	4%	46	384	735%
イタリア	34,538	38,758	12%	0	0	-
マレーシア	49,160	34,980	-29%	24	26	8%
バングラデシュ	59,977	30,682	-49%	0	0	-
インド	28,173	26,945	-4%	0	0	-
イラク	41,475	21,181	-49%	120	0	-100%
スペイン	6,630	16,720	152%	0	0	-
フランス	10,091	14,667	45%	0	20	-
シンガポール	12,894	9,691	-25%	24	129	438%
その他	150,722	120,649	-20%	4,493	4,975	11%
合計	1,298,188	1,232,038	-5%	5,244	6,295	20%

出典: Trade Data Monitor, LLC.

2021年に開始されたモザンビークのマプト港からの南アフリカ産柑橘類の輸出は、アジアや中東への輸送時間とコストを削減する画期的な出来事である。南アフリカのオレンジのかなりの量は、ダーバン港よりもマプト港にかなり近い国の北東部で生産される。昨シーズンはマプト経由で出荷されたオレンジはわずか0.6%であったが、2023/24年度にはマプト経由で輸出される割合が高くなると予想される。

南アフリカの対米輸出は、2022/23年度には生産量の減少により3%減ったものの、引き続き増加すると予想される。アフリカ成長機会法(AGOA)に基づく免税措置の恩恵を受け、米国へのオレンジの輸出量は、2021/22年度に2020/21年度の4万7,501トンから25%増加し、過去最高の5万9,192トンに達した。南アフリカは、主に米国の夏の間、ミッドナイトオレンジを輸出している。2023/24年度の南アフリカ産オレンジの米国への最初の荷は6月の第1週に到着し、10月末まで毎週の輸出が続くと予想される。

表5 南アフリカのオレンジの生産需給統計

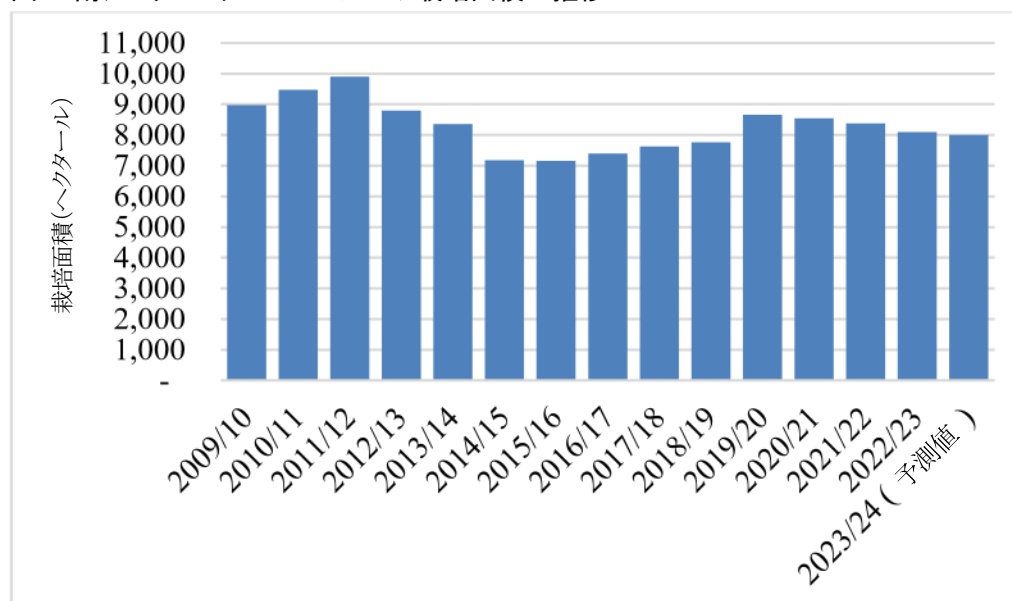
オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり 南アフリカ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022 年 2 月		2023 年 2 月		2024 年 2 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	43,668	43,668	43,900	42,993	43,700	42,990
収穫面積(ヘクタール)	39,738	39,738	40,250	40,250	40,000	41,000
結果樹本数(千本)	42,130	39,898	42,500	39,281	42,150	39,280
未結果樹本数(千本)	4,495	4,344	4,000	4,276	4,100	4,274
合計果樹本数(千本)	46,625	44,242	46,500	43,557	46,250	43,554
生産量(千トン)	1,609	1,680	1,630	1,630	1,620	1,687
輸入量(千トン)	5	5	3	3	3	3
総供給量(千トン)	1,614	1,685	1,633	1,633	1,623	1,690
輸出量(千トン)	1,299	1,298	1,338	1,232	1,370	1,080
生鮮国内消費量(千トン)	100	32	130	32	93	22
加工仕向量(千トン)	215	355	165	369	160	588
総仕向量(千トン)	1,614	1,685	1,633	1,633	1,623	1,690

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から入手できる。

<グレープフルーツ(生鮮)>

栽培面積

図6 南アフリカのグレープフルーツ栽培面積の推移



出典: CGA 予測値は当事務所

近年は新植に限られる一方古い果樹園が廃園されていることから、当事務所は、2023/24年度のグレープフルーツの栽培面積は減少傾向が続き、1%減の8千ヘクタールになると予測する。生産者が他の柑橘類に移行することを選択しているため、グレープフルーツの苗木の販売額は減少を続けている。南アフリカのグレープフルーツ栽培面積は、2011/12年度に約9,900ヘクタールでピークに達した。この成長は、ヨーロッパ、アジア、中東をはじめとする世界的な需要の急増によるものであった。しかし、2012/13年度以降、世界的な需要の軟化により、栽培面積は年平均2%で減少している。さらに、投入コストの上昇により、グレープフルーツ生産者の収益性が低下し、業界の投資が制限されている。

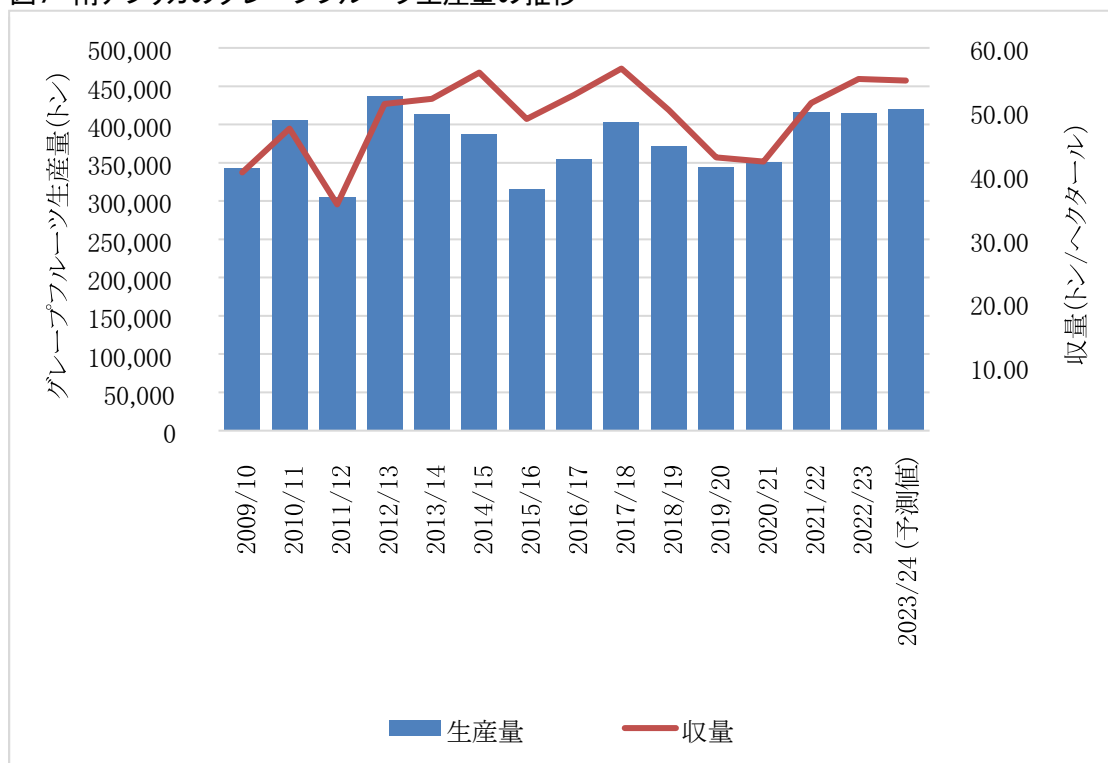
リンポポ州は南アフリカのグレープフルーツの主要産地で、総栽培面積の56%を占め、ムプマランガ州(20%)、クワズールナタール州(10%)、北ケープ州(6%)がそれに続く。スタールビーは、総栽培面積の88%を占める主な栽培品種である。南アフリカで栽培される他のグレープフルーツ品種は、マーシュ、Fe1(ジャクソン)、ポメリット、ローズ、レッドハート等である。

生産

当事務所は、2023年11月と12月に全般的に十分な降雨があり灌漑に必要な水が確保されたため、2023/24年度の予測生産量を2022/23年度比で1%の増加となる42万トンに引き上げる。しかし、当事務所への情報提供者らは、特に北部の産地で12月に10日間乾燥した時期があったため、果実の平均サイズが小さくなると予想している。

当事務所は、主要なグレープフルーツ産地での十分な降雨量に基づき、2022/23年度のグレープフルーツ生産量を41万5千トンと推定する。南アフリカの2021/22年度のグレープフルーツ生産量は前年度比で19%増加した。2021/22年度の夏の降雨シーズンは、ほとんどの産地で平年並みに始まり、シーズンを通して広範囲に雨が降り続き、十分な灌漑用水を確保して生産量の増加を支える生育条件となった。図7は、2009/10年度以降の南アフリカのグレープフルーツの生産量と収量を示している。

図7 南アフリカのグレープフルーツ生産量の推移



出典：農業農地改革農村開発省 (DALRRD) 予測値は当事務所

加工

国内でのグレープフルーツの加工は、輸出に代わる選択肢を提供する。2023/24年度は小玉のグレープフルーツが加工用に売却される可能性が高いと見られるため、グレープフルーツの加工仕向量を20万2千トンに上方修正する。当事務所の情報提供者らは、2022/23年度以降、加工用グレープフルーツの価格が改善したと報告している。2022/23年度には、クラスⅡ及び標準サイズに満たないグレープフルーツの輸出を控えるという業界の決定に基づき、加工用に仕向けられたグレープフルーツが前年比12%増加したと推定される。2021/22年度には輸送費(の高騰)のために輸出の収益性が損なわれ、グレープフルーツの加工仕向量が前年比203%増の17万9千トンに達した。

グレープフルーツは果汁や濃縮物に加工され、その大部分はヨーロッパに輸出される。商業的な搾汁で残ったパルプは、多くの清涼飲料水の風味付けや香料の成分として使用されるグレープフルーツオイルの重要な原料である。内果皮はペクチンとクエン酸の原料であり、どちらも食品業界で果実、ジャム、マーマレードの保存に使用される。トニックウォーターに独特の苦味を与えるナリンギンもグレープフルーツの皮から抽出される。

輸出

当事務所は、2023/24年度のグレープフルーツ輸出量を、2022/23年度の輸出量とほぼ同じ21万8千トンに下方修正した。今シーズンの果実はサイズが小さく、輸出市場向けの1箱当たりの果実の入数が多くなり、総箱数が少なくなる。生産者は大きな果実を輸出する可能性が高く、小玉やクラスⅡグレードの果実は加工用に仕向けられる。ほとんどの市場でグレープフルーツの需要が縮小していることを反映して、全体的な輸出量は伸びが鈍化しているようである。一部のグレープフルーツ産地がクラスⅡの果実の輸出用の梱包を減らし、国内の生鮮消費と加工用に回したため、2022/23年度の輸出量は前年比9%減の21万7千トンと推定される。2021/22年度のグレープフルーツの輸出量は前年比18%減少した。投入コストの高騰と輸送運賃の上昇により、一部のグレードのグレープフルーツは輸出で利益を上げることができなかった。

オランダは、2022/23年度の南アフリカ産グレープフルーツの主要市場(34%、7万2,948トン)であり、次いで中国(14%、3万1,352トン)、ロシア(10%、2万1,561トン)、日本(8%、1万7,353トン)が続いた。これら4カ国を合わせると、昨年の南アフリカのグレープフルーツ総輸出量の3分の2を占めた。中国は、2021/22年度の南アフリカのグレープフルーツ輸出の主要市場であり、輸出量の27%(6万3,470トン)を占めた(表6)。しかし、2022/23年度には、中国が加工用のグレープフルーツを輸入したのに対し、南アフリカの生産者はPPクラス(加工用グレード)の果実の輸出を減らして国内での加工に回したため、中国向けの輸出量は51%減少した。

総量はまだ少ないが、米国向けのグレープフルーツの輸出は過去10年間で指数関数的に増加しており、2010/11年度の275トンから2022/23年度には8,990トンに増加した。グレープフルーツの米国への輸出は、2021/22年度に輸出が全体的に減少したことを反映して30%急減したが、2022/23年度には45%増加した。北ケープ州で生産されるスタールビーグレープフルーツは、米国の夏の間、同国への輸出品として人気がある。

表6 南アフリカの生鮮グレープフルーツの輸出量

輸出先国	2021/22 (トン)	2022/23 (トン)	増減率	2022/23 1月～3月 (トン)	2023/24 1月～3月 (トン)	増減率
オランダ	63,408	72,948	15%	335	688	105%
中国	63,470	31,352	-51%	296	215	-27%
ロシア	19,429	21,561	11%	95	133	40%
日本	22,866	17,353	-24%	0	0	
英国	8,978	9,342	4%	150	67	-55%
米国	6,184	8,990	45%	0	4	
イタリア	4,854	7,181	48%	0	255	
カナダ	7,168	6,889	-4%	99	79	-20%
香港	6,862	6,381	-7%	0	9	
ポルトガル	4,472	5,375	20%	0	0	
アラブ首長国連邦	3,831	5,270	38%	21	0	-100%
韓国	7,427	3,844	-48%	0	0	
台湾	2,970	2,798	-6%	0	21	
エスワティニ	3,372	2,737	-19%	23	24	4%
ギリシャ	1,439	1,539	7%	0	0	
フランス	812	1,199	48%	0	21	
ドイツ	1,744	1,127	-35%	176	41	-77%
アイルランド	656	672	2%	0	0	
その他	7,811	10,010	28%	94	129	37%
合 計	237,753	216,568	-9%	1,289	1,686	31%

出典: Trade Data Monitor LLC

表8 南アフリカのグレープフルーツの生産需給統計

グレープフルーツ(生鮮) 販売年度の始まり 南アフリカ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022 年 1 月		2023 年 1 月		2024 年 1 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	8,377	8,377	8,477	8,097	8,450	8,000
収穫面積(ヘクタール)	8,100	8,100	8,307	7,530	8,350	7,650
結果樹本数(千本)	8,500	8,350	8,595	8,250	8,450	8,200
未結果樹本数(千本)	1,000	950	955	900	900	850
合計果樹本数(千本)	9,500	9,300	9,550	9,150	9,350	9,050
生産量(千トン)	416	416	420	415	400	420
輸入量(千トン)	5	5	8	8	5	5
総供給量(千トン)	421	421	428	423	405	425
輸出量(千トン)	238	238	218	217	230	218
生鮮国内消費量(千トン)	4	4	5	5	5	5
加工仕向量(千トン)	179	179	205	201	170	202
総仕向量(千トン)	421	421	428	423	405	425

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から入手できる。

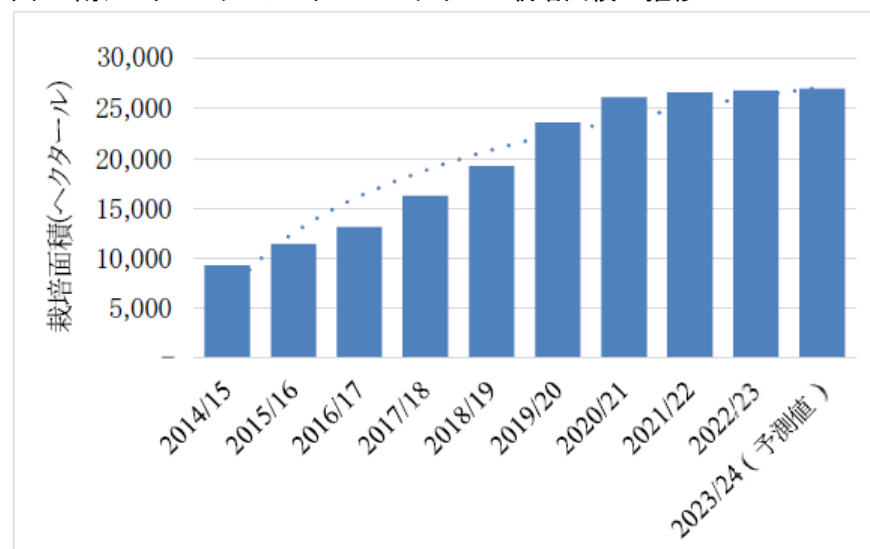
<タンジェリン/マンダリン(生鮮)>

栽培面積

南アフリカでは、タンジェリン/マンダリン(ソフト柑橘類)の面積拡大が鈍化している。種無しソフト柑橘類に対する世界的な需要の高まりと、他の柑橘類と比較して比較的高い利益率に牽引された生産者の関心は、近年の大幅な新植につながり(図8)、多くの生産者は市場が飽和状態にあるのではないかと疑問に思っている。農業投入コストの上昇、インフラの非効率性、非効率な港湾運営、鉄道網の不調、道路網の悪化により、ソフト柑橘類生産者の収益性が低下し、この分野への継続的な投資が制限されている。生産者らは、病害虫をより適切に防除し、より良い水管理を可能にし、強風、降雹、日焼けなどの悪天候から果実を保護するために、防護ネットで覆われた面積を拡大している。さらに、不安定な電力供給のリスクを管理するために、代替エネルギー源への投資が行われている。

当事務所は、2023/24年度のタンジェリン/マンダリンの栽培面積を1%増の2万7千ヘクタールと予測する。このわずかな増加は、輸出市場でのソフト柑橘類の需要が相対的に高いことによるグレープフルーツ等の他の柑橘類からソフト柑橘類への移行を反映している。

図8 南アフリカのタンジェリン/マンダリンの栽培面積の推移



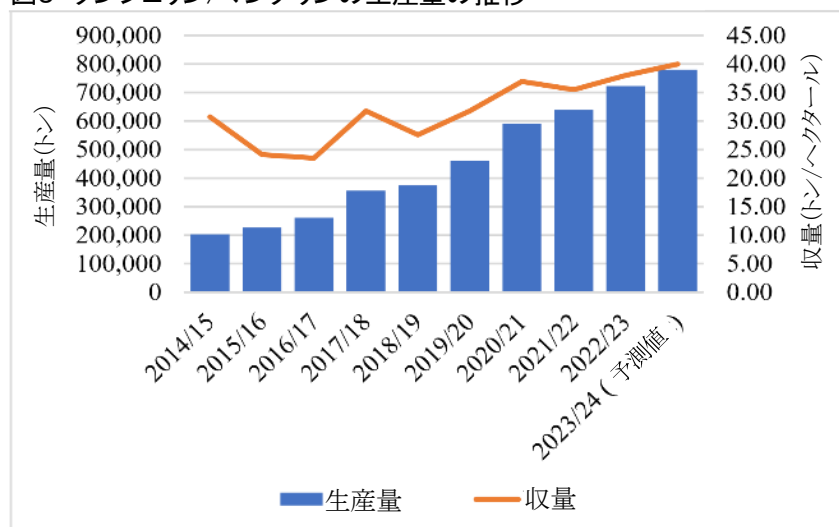
出典: CGA 予測値は当事務所

苗木の売上の低下を踏まえると、2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの栽培面積は、1%の微増にとどまった。西ケープ州、リンポポ州及びクワズールナタール州の産地では、わずかな面積拡大が見られた。2021/22年度のタンジェリン/マンダリンの栽培面積は前年比2%増となった。当事務所への情報提供者らによると、2021/22年度産のタンジェリン/マンダリンのうち少量が、販売機会が限られ利用されなかったことが確認された。一部の生産物の売り先がないため、生産者はこれ以上の拡大を躊躇している。

栽培されている主な品種はナドルコットで、総面積の約18%を占めている。ナドルコットに次いで、アークシット9(16%)、タンゴ(14%)、ヌール(11%)、ノヴァ(9%)、リーナリ(7%)、オッリ(7%)が続く。西ケープ州はソフト柑橘類の最大の産地であり、南アフリカの総生産量の38%を占め、2021/22年度から1%増加した。リンポポ州(28%)と東ケープ州(24%)がそれに続く。南アフリカのソフト柑橘類栽培面積の約18%は樹齢4年以下の果樹園であり、今後数年間は市場に出回るソフト柑橘類の量が増加することになる。

生産

図9 タンジェリン/マンダリンの生産量の推移



出典：農業農地改革農村開発省(DALRRD) 予測値は当事務所

当事務所は、若い果樹の成木化と収穫面積の拡大が見込まれることから、2023/24年度の予測生産量を前シーズン比8%増の78万トンに引き上げる。さらに、タンジェリン/マンダリンの産地では、今年度は灌漑用の十分な水があると報告されている。防雹ネットの下で栽培されるタンジェリン/マンダリンが増えており、品質と収量の両方が向上すると当事務所は予想する。

2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの予測生産量は、主要産地で灌漑に十分な水資源をもたらした降雨と、若い果樹の成木化により、13%急増して72万3千トンとなった。西ケープ州は大雨と洪水に見舞われ、クレメンタイン等の晩生柑橘類の出荷量が減少したが、洪水は作物の大部分が収穫された後に発生した。

2021/22年度のタンジェリン/マンダリンの生産量は、栽培面積の拡大、好ましい気象条件及び防護ネットの使用により、前年比8%増となった(図9)。

消費

当事務所は、2023/24年度のタンジェリン/マンダリンの国内消費量を、供給量の増加と、消費者が他の柑橘類よりも皮をむきやすく、ジューシーで甘いと考えてオレンジからタンジェリン/マンダリンに大きなシフトを図ったことに基づいて、前年比19%増の4万3千トンと予測する。2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの国内消費量は、輸出量の増加に伴い20%減の3万6千トンと推定される。2021/22年度には、南アフリカは4万5千トンのタンジェリン/マンダリンを消費し、その一部は家畜飼料にも使用された。

南アフリカの業界は、ソフト柑橘類の輸出市場を優先し、余剰の果実のみを国内市場に供給している。防護ネットの使用が増えたことで、より高品質の果実が生産され、輸出が増加し、国内の消費者への供給が減

少した。しかし、ウールワース等の一部の高級小売チェーンは、輸出グレードの柑橘類を国内の消費者に販売している。国内消費量には、人間の消費量と動物飼料の両方が含まれている。

加工

南アフリカは輸出市場への供給を優先し、輸出基準を満たさない果実は通常、加工に使用される。当事務所は、2023/24年度のタンジェリン/マンダリンの加工仕向量を、生産量の増加により1%の微増となる7万トンと予測する。2022/23年度については、当事務所は、輸出と国内需要の増加により、タンジェリン/マンダリンの加工仕向量は9%減の6万9千トンと推定する。2021/22年度には輸送コストの高騰により輸出機会が限られたため、国内向けの供給量が増加し、加工量は前年度比で73%増加した。南アフリカのタンジェリン/マンダリンは、ほとんどが果汁と濃縮物に加工される。

輸出

当事務所は、南アフリカの2023/24年度のタンジェリン/マンダリン輸出量を、生産量の増加と品質改善への投資に基づいて、8%増の67万トンと予測する。タンジェリン/マンダリンの約48%がケープタウン港から、34%がダーバン港から輸出される。港湾運営は現在、輸出市場への農産物の輸送に影響を与える運用上の制約に対する懸念が高まっており、2023/24年度の輸出にリスクをもたらしている。業界と政府の関係者は、特に5月に始まったピークシーズンの受け入れ態勢と業務効率の向上を確実にするために、港湾当局との調整を続けている。

2022/2023年度のタンジェリン/マンダリンの輸出量は、生産量の増加と輸送運賃の正常化を背景に、19%増加したと推定される。南アフリカは2021/22年度に、前年度比3%増の52万615トンのタンジェリン/マンダリンを輸出した(表9)。

表9 南アフリカの生鮮タンジェリン/マンダリンの輸出量

輸出先国	2021/22 (トン)	2022/23 (トン)	増減率	2022/23 2月～4月 (トン)	2023/24 (トン)	増減率
オランダ	102,01	134,16	32%	5,477	5,415	-1%
英国	87,821	97,448	11%	7,143	5,831	-18%
米国	53,489	49,634	-7%	67	159	137%
ロシア	51,336	51,958	1%	5,142	5,455	6%
アラブ首長国連	39,962	57,446	44%	275	726	164%
中国	23,117	30,851	33%	23	0	-100%
カナダ	22,906	29,250	28%	747	2,245	201%
バングラデシュ	21,762	22,239	2%	110	84	-24%
ポルトガル	10,853	17,269	59%	71	0	-100%
マレーシア	10,744	8,118	-24%	45	27	-40%
香港	9,475	11,438	21%	0	0	-
サウジアラビア	9,437	10,321	9%	24	71	196%
アイルランド	8,288	8,997	9%	1,010	1,275	26%
イラク	6,137	6,140	0%	0	23	-
台湾	6,020	1,681	-72%	0	0	-
インド	5,161	9,014	75%	0	0	-
セネガル	4,997	6,646	33%	0	0	-
フランス	4,461	6,055	36%	0	9	-
その他	42,635	63,337	49%	754	1,553	106%
合 計	520,615	622,002	19%	20,888	22,873	10%

出典: Trade Data Monitor LLC

(訳注: オランダ向け輸出量の一部欠落は原文のまま)

南アフリカのソフト柑橘類の最大の海外市場はEUと英国で、総輸出額の45%を占め、次いでアラブ首長国連邦(9%)、ロシア(8%)、米国(8%)、中国(4%)、カナダ(5%)が続いている(表9)。アフリカ成長機会法(AGOA)に基づく南アフリカから米国へのソフト柑橘類の輸出は、過去6年間で指数関数的に増加し、2017/18年度の1万3,695トンから2022/23年度には4万9,634トンに増加した。2022/23年度の米国への輸出は減少したものの、「イージーピーラー(皮が剥きやすい)」品種に対する米国の消費者の嗜好の拡大に基づいて、増加傾向が続くと予想する。

表11 南アフリカのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮)	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022 年 2 月		2023 年 2 月		2024 年 2 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
販売年度の始まり 南アフリカ						
栽培面積(ヘクタール)	26,677	26,677	26,977	26,833	27,500	27,000
収穫面積(ヘクタール)	18,000	18,000	18,500	19,000	19,000	19,500
結果樹本数(千本)	10,500	10,340	12,000	10,405	12,200	10,470
未結果樹本数(千本)	5,000	3,825	4,950	3,850	5,100	3,870
合計果樹本数(千本)	15,500	14,165	16,950	14,255	17,300	14,340
生産量(千トン)	639	639	710	723	740	780
輸入量(千トン)	3	3	3	4	3	3
総供給量(千トン)	642	642	713	727	743	783
輸出量(千トン)	521	521	600	622	630	670
生鮮国内消費量(千トン)	45	45	47	36	49	43
加工仕向量(千トン)	76	76	66	69	64	70
総仕向量(千トン)	642	642	713	727	743	783

<オレンジ果汁>

製造

南アフリカの生産者は、主に生鮮輸出市場向けにオレンジを生産しているが、一部の生産者、特に雹を伴う嵐による被害やその他の品質を低下させる天候の影響を受けやすい地域の生産者は、加工施設に供給するオレンジを大量に、または場合によっては専用に生産している。

2023/24年度には、オレンジ生産者が輸出品質の果実を加工用に直接納入することを検討するほどの非常に高い価格を国内の果汁業者が支払っていると報告されている。このオレンジ果汁価格の高騰は、米国フロリダ州のオレンジ生産量の減少と、ブラジルの干ばつによる収穫量の減少に対する懸念によるものである。2023/24年度のオレンジ果汁の製造量は上方修正され、59%急増の5万8,800トンと予想される。さらに、オレンジのサイズが通常より小さいと報告されており、小さいサイズのオレンジの一部は加工用に売却される可能性が高い。当事務所への情報提供者らによると、通常、国内市場で生鮮果実として販売される早生のオレンジ品種が加工用に出荷されたとのことである。一部の生産者は、海外市場と国内の果汁業者の価格差が極めて小さいため、出荷シーズンが終わってみれば収入が減少する可能性があるものの、港湾や輸送の課題に伴うリスクと不確実性を軽減することも踏まえて、計画を再考すると報告している。

2022/23年度のオレンジ果汁製造量は、加工用オレンジの出荷量の増加と生産者向けの価格の改善により、推定値を4%上方修正する。2021/22年度のオレンジ果汁製造量は、加工用オレンジの供給量の増加により48%急増した。

当事務所への情報提供者らによると、計画停電(国内では負荷軽減と呼ばれる)中に発電機を稼働させるため、燃料需要が増加して加工のコストが大幅に増加した。果汁は品質を維持するために一定の温度に保つ必要があり、加工部門にとって途切れることのない電力供給が重要である。一方、過去数年間の停電対策への投資により、国内の加工業者は、世界的な果汁価格の上昇がもたらす機会を掴むための事業拡大が可能になった模様である。

この業界では、一年中出荷できるように、前シーズンからの持ち越し在庫を保有している。南アフリカで製造されるオレンジ果汁全体の少なくとも90%は、濃縮果汁が占めている。

南アフリカでは、オレンジ果汁の業界統計はほとんど入手できない。(以下の生産需給統計表の)製造量、消費量、在庫量は、様々な情報源及び協力者からの情報、並びに生鮮オレンジの加工仕向量のデータから算出される情報に基づく当事務所の推定及び予測を表している。

輸出

当事務所は、2023/24年度のオレンジ果汁の輸出量は、製造量の回復、高い世界需要、為替レートの低迷により、14%改善すると予測する。2022/23年度のオレンジ果汁輸出量は、世界的な需要の改善と有利な価格水準により、32%増加したものと推定される。すべてのオレンジ果汁の輸出データは、以下の換算係数に基づいて、当事務所でブリックス値65相当に換算した。

HS200919のオレンジ果汁は1.02倍、HS200912のオレンジ果汁は0.18倍に換算した。HS200911のオレンジ果汁は、すでにブリックス値65に相当するため、変換していない。ブリックス値は、糖度に基づく果汁の濃度を表す。したがって、ブリックス値65は、果汁100グラム中に少なくとも65グラムのショ糖が含まれることを意味する。(訳注: このブリックス値の説明は厳密ではありません。)

南アフリカは、主にエスワティニ、ボツワナ、ナミビア、レソト、ジンバブエ等の南部アフリカ諸国にオレンジ果汁を輸出している(表15)が、ヨーロッパも南アフリカのオレンジ果汁にとって重要な市場である。南アフリカから米国へのオレンジ果汁の輸出は、2020/21年度の186トンから2021/22年度の1,871トンへと900%以上増加したが、2022/23年度には18%減少した。2023/24年度は製造量の増加により、南アフリカから米国へのオレンジ果汁の輸出も増加すると予想される。

表15 南アフリカのオレンジ果汁輸出量(HS200919、HS200911、HS200912)

輸出先国	2021/22(トン)	2022/23(トン)	変動率
オランダ	9,275	13,040	41%
ボツワナ	3,860	9,067	135%
エスワティニ	2,924	2,899	-1%
ナミビア	2,014	2,669	33%
イスラエル	1,959	1,722	-12%
米国	1,871	1,540	-18%
スペイン	928	1,523	64%
イタリア	930	1,230	32%
レソト	1,005	1,132	13%
エチオピア	803	880	10%
ジンバブエ	896	828	-8%
ザンビア	677	631	-7%
インド	577	474	-18%
ギリシャ	147	416	183%
中国	102	303	197%
モザンビーク	203	246	21%
その他	3,004	2,463	-18%
合 計	31,175	41,063	32%

出所: Trade Data Monitor

表16 南アフリカのオレンジ果汁の生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度の始まり 南アフリカ	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022 年 4 月		2023 年 4 月		2024 年 4 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料の加工仕向量(トン)	215,000	355,000	165,000	369,000	160,000	588,000
期首在庫(トン)	12,150	11,438	11,952	13,240	9,852	6,989
製造量(トン)	35,000	35,500	32,000	36,900	31,000	58,800
輸入量(トン)	981	981	800	1,112	800	800
総供給量(トン)	48,131	47,919	44,752	51,252	41,652	66,589
輸出量(トン)	31,179	31,179	30,000	41,063	28,000	47,000
国内消費量(トン)	5,000	3,500	4,900	3,200	4,850	3,200
期末在庫(トン)	11,952	13,240	9,852	6,989	8,802	16,389
総仕向量(トン)	48,131	47,919	44,752	51,252	41,652	66,589

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) から入手できる。

119. 米国 ワシントン州は最盛期のサクランボを空輸

FreshPlaza 2024年6月26日

6月に始まる甘果オウトウの出荷の最盛期には、シアトル・タコマ国際空港(SeaTac)の貨物機の運航が12週間にわたって大幅に増加する。米国の甘果オウトウの約90%を生産することで知られるワシントン州は、特にボーイング社の貨物機を利用した輸出のハブとなっている。

ボーイング社商用機部門のマーケティング担当ディレクターであり、貨物機のモデルリーダーであるジョン・パードック氏は、主に海外市場で1kg当たり最大40ドルの小売価格を達成できる高品質のサクランボの輸出に注目している。米国の太平洋岸北西部は年間約4万トンのサクランボを輸出しており、これは777型貨物機約400機分を満載にする積載量に相当し、同空港はこの量の約半分を扱っている。

中国、韓国、東南アジアが主な輸出先として注目されており、品質を維持するため、サクランボを果樹園から商品棚まで48時間以内に運ぶことを目標としている。サクランボは傷みやすいため、品質を維持するために迅速な輸送が必要であり、航空機はサプライチェーンの不可欠な要素となっている。同氏は、サクランボは湿度、温度、物理的な損傷に敏感であるため、輸送に最適な条件を提供できる貨物機の恩恵を受けていると説明する。特にボーイング777型貨物機は、高い積載密度と個別に制御可能な貨物室を備えている。

ボーイング社はまた、サクランボ等の生鮮食品の輸送能力をさらに向上させることを約束する777-8F型機を投入する予定である。この新型機は、貨物室の大型化、積載量の増加、環境制御システムの強化を特徴とし、摂氏2度まで温度を下げるができる。99.7%のスケジュール信頼性を備えたボーイングの貨物機は、これらの生鮮食品が最適な状態で国際市場に届くことを保証し、甘果オウトウの出荷シーズンにある輸出業者にとって引き続き重要な資産である。

出典: aircargonews.net

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

120. メキシコ 干ばつによりハリスコ州産アボカドの収穫開始が遅れる

FreshPlaza 2024年6月27日

メキシコのハリスコ州では最近の干ばつにより、アボカドの収穫開始がわずかに遅れている。同州のアボカド生産者と輸出業者を代表する団体は、最近のミチョアカン州での米国の検査官による検査の一時的な停止(治安の悪化による)は影響しなかったとしているが、彼らは突然の供給ギャップを活用することができなかった。

ハリスコ州アボカド協会(APEAJAL)のエレアザル・オセゲラ・アグアヨ会長によると、隣の州で最近起こった検査停止の間、ハリスコ州はそれを穴埋めして需要を満たすことができなかった。同会長は、「検査の停止は問題ではない。ハリスコ州は、出荷計画に従って米国に果実を送っている。認定済みの果樹園から出荷できる果実は限られているため、これ以上出荷することはできない」と説明する。(以下「」は同会長の発言)

APEAJALは、ハリスコ州の3,200のアボカド生産者とこの地域で活動している23の包装・輸出企業を代表している。同州の主要な輸出市場は日本、カナダ、EU、米国であり、インド、韓国、中国、マレーシア、チリでの輸出拡大を目指している。「来年は、新しい果樹園で収穫が始まるので、昨年よりも多くの出荷量を予定している。ハリスコ州は30カ国に輸出し、うち米国に13万トン、カナダ、日本、EU、南米や中東諸国等に7万トンを輸出する。米国では、カリフォルニア、テキサス、フロリダの各州に果実を送っている。」

同会長は、アボカドの成熟を待っており、7月4日(独立記念日)など別の時期に米国で需要が高いからと言って出荷量を増やすことはないと言う。「今のところ、我々は果実が適切な乾物率に達するのを待っている。我々は高品質の果実を提供することに関心を持っており、祝日に向けての輸出の増加は想定していない。」

メキシコの干ばつはすべての作物に影響 同氏は、進行中の干ばつがすべての作物に影響を及ぼしていると話す。「干ばつはすべての生産者に影響を及ぼし、アボカドの生産に大きな影響を与えているが、我々はそれに対処するために多くの戦略を実行している。幸い今週は大雨が降っており、大部分の生産者は雨水を貯める手段を持っている。乾季を乗り切るため、貯めた水が少なくとも5〜6カ月はもつことを願っている。」

執筆者: クレイトン・スワート

121. 北米 業界団体が持続可能な農産物包装ガイドラインを策定へ

[The Packer](#) 2024年6月27日

西部生産者協会(米国の家族経営農家の団体)とカナダ青果物マーケティング協会(CPMA)は、北米全域で政府と小売業者の双方から求められる包装要件の新たな状況に対処するため、作業部会を立ち上げた。

ニュースリリースによると、農産物の包装の現状について議論し、北米における持続可能な農産物包装の調和(SPPA)の目標を概略設定するため、北米全土から数十の生産者団体が集まった。

SPPAは、2025年12月の完了を目標に、北米の青果物サプライチェーン全体で使用する統一ガイドラインを策定する。

西部生産者協会の会長兼CEOであるデーブ・プーリア氏はリリースで、「包装は、青果物の品質、手頃な価格、安全性を確保するための鍵である。消費者は、生産者に高品質の青果物と包装の変更を求めている。そのため、業界は公共部門と民間部門の両方からの新しく前向きな要求に直面している。しかし、これらの要求は互いに対立することも多く、業界の現実と進歩を完全に認識しているものでもない。最も重要なパートナーとの取引を継続するとともに、消費者が栄養価の高い食品を引き続き入手できるようにするため、持続可能性と包装の交点を見出す必要がある」と述べている。

CPMAのロン・ルメール会長はリリースで、「包装は、北米及び世界の青果物サプライチェーンの持続可能性を実現する上で重要な役割を果たしている。包装に関する市場の要請と規制の要件が乖離する傾向は、青果物のサプライチェーンにとって重大なリスクであり、したがって、青果物包装に関する北米ガイドラインを策定し採用することが戦略的に重要である」と述べている。

リリースによると、西部生産者協会とCPMAは、カナダの食料品店で許容される青果物の包装を制限するカナダ環境・気候変動省(ECCC)の事前提案に積極的に取り組んでいる。同省は現在、農産物のプラスチック包装の大幅な削減を提唱しており、2026年までにすべての農産物の75%をバラ売りまたは非プラスチック包装で販売し、2028年までにこれを95%に引き上げることを求めている。

SPPAプロジェクトは、米国の特産作物*の生産者向けに、業界に焦点を当てた分析、白書及び青果物包装技術に関するウェブツールの開発；関係者の教育と調整を行うワークショップの開催；業界の専門知識を活用して上記のツールを作成するための技術作業部会会合の開催；及びガイドラインが利用可能になった際にその使用方法を利害関係者及び一般に知らせるリソースの立ち上げを計画しているとリリースは記述している。

*特産作物は、米国の「2004年特産作物競争力法」に定める果実、野菜、ナッツ類、薬草、花き、苗木等

(令和5年度3月分)

408. 世界のマンダリン市場(抜粋)

[FreshPlaza 2024年3月1日](#)

イスラエル： オットリ・ジャッファ品種に高い需要 今シーズンのオットリ・ジャッファ(ヤーファ)品種の収穫予測では、9万5千トン(前年と同程度)が見込まれていた。シーズン半ばの果樹園の状態は昨年と同様である。しかし、貿易の状況を見ると人手不足が輸出量に直接影響し、輸出量はすべての市場の最低限の需要をやっと満たす水準まで減少した。

今年の冬は、気象条件は完璧である。0℃を大きく上回る穏やかな気温で、雨が降る日もあり、風は弱く落果することはなかった。過去30年間の降雨量記録を更新するほどの雨が降ったが、雨と雨の間に十分な収穫時間があり、順調な取引ができた。

イスラエル植物生産販売委員会のある関係者は、「今シーズンは、すべての市場でオットリ・ジャッファへの高い需要とひどい品不足で始まった」と言い、「イタリアからフランス、イギリス、カナダ、アメリカ、日本まで、世界中の消費者がオットリ・ジャッファを求めている。イスラエルからの輸出は前シーズンより2週間遅れて始まり、ほとんどの市場で1月中旬から手に入るようになった。取引条件は依然として良好である」と述べた。

同関係者はさらに、「イスラエルの研究開発専門家達は、生産者らの全面的な協力を得て、出荷時期を1月まで早めるために、オットリ・ジャッファと同様の性質を持つ新しい品種を探している。我々は、地中海地方の晩生のソフト柑橘類交雑種の動向を意識している。生産者らは、晩生の交雑品種の栽培面積を増やしており、我々は南半球でも、ここイスラエルでも、そのことに注目している」と述べた。

北米： マンダリンの出荷シーズンは早めに終わる可能性 カリフォルニア州では、マンダリンの収穫量が10～20%少なく、おそらく隔年結果も一つの要因であろう。さらに、最近の雨で収穫が遅れる時もあり、雨が降る前に収穫を急いでいる農場でさえ、出荷可能性に影響が出ている。

また、セントラルバレー地域(カリフォルニア州)では、多くの地域でアザミウマによる被害が大きい。これは昨年の豪雨の影響で、アザミウマが草むらで繁殖できる環境が整い、開花時に果樹園に入ってきた可能性もある。そのため多くの生産者は、アザミウマを寄せ付けないように精力的な薬剤散布を行わなければならない、その結果出荷量が減り、中級品が増えた可能性がある。カリフォルニア州の柑橘類の出荷シーズンも、例年より早く終わる可能性がある。

一方、東部では、フロリダ産のジュシー克蘭チ等の品種も、シーズンの開始が早く、需要が旺盛だったこともあり、2週間早く出荷が終了すると見られる。需要に関しては良好であり、市場価格は堅調である。

南アフリカ： マンダリンは生育中で、出荷予想は3月中旬か4月上旬に判明 南アフリカの未熟なマンダリンはまだ樹上にあり、供給は北半球に依存している。ある小売業者のバイヤーは、「モロッコからマンダリンを仕入れているが、外観が大変良い」と言う。

南アフリカの柑橘類業界は、新シーズンの収穫予測(3月か4月に公表)を計算するために、マンダリンの生産に関するデータの照合に着手したばかりである。

ある柑橘類農園の技術部長は、「新しい果樹園の増加に伴いマンダリンの生産量は年々増えているが、今年もおそらく例外ではない。1か月後には、マンダリンの見通しは今よりもずっと明らかになるだろう」と言う。

気温が高いと日焼けの発生率が高くなるが、同部長はリンポポ州とムプマランガ州の果樹園では日焼けによるダメージは目立たないと言う。クレメンタインの出荷は第13週頃(3月末)に始まり、1か月の内にノヴァーリーが続く。晩生のマンダリンの収穫は第21～22週(5月下旬～末)までに完全に始まる。

同部長は、「南アフリカのソフト柑橘類については、今年は良いシーズンになると思う。モロッコの出荷シーズンは早く終わり、ペルーのシーズンは序盤の出荷量が少なそうなので、南アフリカの出荷シーズンが始まる頃の市場の状況は良いはずだ」と語った。

409. エジプト 次のブドウの季節に向けて新しいDNAラボを準備中

[EUROFRUIT 2024年3月2日](#)

エジプトでは、植物品種育成者の権利の侵害を防ぐために様々な取り組みが行われており、今年の出荷シーズンに間に合うようにブドウのDNAフィンガープリンティングを導入

2024年産のブドウの出荷シーズンから、エジプトの植物検疫中央管理局(CAPQ)は、DNA検査を使用して、違法の疑いのある出荷を特定し、産地で阻止することとしている。

これまでの出荷シーズンには、育成者権者は、違法な貨物を差し押さえるためにヨーロッパの港の税関当局に頼ることを余儀なくされていた。

すべての主要な生食用ブドウ品種育成者を代表する植物品種育成者連盟のダンカン・マッキンタイア会長は最近、農業省で国際農業局とCAPQを監督するサード・ムッサ同省次官及び植物検疫の技術的責任者であるエルサイド・アーメド・アッバーズ氏と会った。

植物品種育成者連盟は、CAPQによる新しいDNAラボの設置や、ブドウのDNAフィンガープリンティングの詳細に関するスタッフトレーニングの実施を支援してきた。

同連盟はまた、CAPQが輸出品の真正性を迅速に検証するために独自の参照データベースを構築できるよう、すべての会員の保護品種の公式DNAサンプルの提供を手配している。これは、農業・干拓省植物防疫局で登録・保護されているすべての品種に適用されることとなっている。

マッキンタイア会長は、「エジプトは、知的財産権侵害を根絶し、無許可の果実の輸出を防ぐことに真剣に取り組んでいることを証明した。現在、輸出貨物をチェックするための法的枠組みと技術的リソースの両方がそろっており、連盟の会員の知的財産権を侵害した場合の罰則は輸出禁止である」と述べた。

2019年にUPOV91条約に加盟して以来、エジプトは植物品種育成者の権利侵害と戦うための強力な措置を実施してきた。エジプトの農業大臣は2021年に省令第387号を発出し、農場と梱包施設が当局の承認を受け、ブドウを輸出する資格を示すコード番号を取得することを義務付けた。

その後、CAPQは、生食用ブドウの輸出プロセスを規制する指令を発出した。この指令の下では、保護された品種をライセンス無しに扱った生産者や梱包施設は、輸出禁止処分を受け、コード番号が失効するリスクがある。

マッキンタイア会長は、「これらの措置を講じたCAPQのムッサ次官とそのチームを祝福する。当連盟の会員は、エジプトのブドウ産業の利益のために、優れた性質を持つ生食用ブドウ新品種に自信を持って投資を続けることができる」と述べた。

執筆者 トム・ジョイス

410. エジプト 南アフリカを抜きアフリカ最大のオレンジ輸出国に

[FreshFruitPortal](#) 2024年3月4日

天候不順と欧州委員会による低温処理の義務化は、昨年の南アフリカ産柑橘類の輸出に深刻な影響を与えた。[Federcitrus](#) (アルゼンチン柑橘類協会) の分析によると、この不利な状況により、南アフリカの輸出業者らはアフリカ大陸最大の輸出国としての王座を失った。

米国農務省海外農業局 (FAS) の12月19日付けの[報告書](#)によると、南アフリカの2024年のオレンジ出荷量は1%減少すると予測されている。輸出量は2%増加すると予想されるが、(港湾の非効率による) 果実の品質劣化は輸出量に影響を与えている。

対照的にFASのカイロ事務所(エジプト)は、2023-24販売年度について、オレンジの生産量が3%増加すると予測している。さらに、エジプトの生鮮オレンジ輸出量は25%増加し、200万トンに達すると[報告](#)している。他方、南アフリカの輸出量についてFASは、137万トンと予測している。

FASのデータによると、2021-22年度の両国の生鮮オレンジ輸出量はともに約130万トンであった。

エジプトの収穫量の増加は、良好な環境条件、新たなオレンジ市場の開拓、及び農場の登録と生産の監視に優れたトレーサビリティシステムに起因している。

国際市場でのエジプト産オレンジの需要の高まりと、官民共同の取り組みの成功により、生産者は他の種類の果実よりもオレンジを栽培するようになった。

過去10年間、小規模生産者も商業的(大規模)農場も、価値の高い輸出市場への大量出荷を維持するために、クリーンな果実の生産に注力してきた。

オレンジはエジプトの主要な柑橘類作物であり、柑橘類の栽培面積全体の70%を占めている。バラディ、バレンシア、ネーブル、スイートオレンジは、エジプトで最も多く栽培されている品種である。

エジプト産生鮮オレンジの輸出先トップ10は、今後もオランダ、ロシア、サウジアラビア、インド、アラブ首長国連邦、スペイン、バングラデシュ、シリア、中国及び英国で変わらないと思われる。

南アフリカの柑橘類生産者協会 (CGA) によると、南アフリカの柑橘類産業では、2023年にはハブ(主要集出荷施設)の出荷量が減少し、前年比1%未満の成長にとどまった。

CGAのジャスティン・チャドウィック代表はリリースで、同業界は果実を海外に販売するに際して複数の課題に直面していると述べている。

同代表は、国営電力会社「エスコム」のエネルギー危機による度重なる停電が、果樹園の灌漑と施肥、梱包及び低温貯蔵に影響を与えていることを指摘した。

さらに、6月の壊滅的な洪水は、主要産地の1つである西ケープ州の農場に影響を与え、推定5億ランド(2,460万ユーロ)以上の経済的損失を引き起こした。

チャドウィック氏は、これらの国内の混乱に加えて、南アフリカの輸出産業にとって最大の課題は、欧州委員会がヨーロッパの柑橘類農場へのフォールスコドリグモス(蛾の一種)の蔓延を防ぐために南アフリカに課した「低温処理の義務化であった」ことを改めて訴えた。

411. 米国ハーバード大学 長生きするための果物・野菜の消費量

[Abrafrutas News](#) 2024年3月4日

ハーバードの研究は、長生きしたい人が毎日消費すべき果物と野菜の量を示している

長生きするには、毎日2単位(サービング/ポーション)の果物と3単位の野菜を摂取する必要がある。これは、ハーバード大学のT.H.チャン公衆衛生大学院の研究者によって実施され、米国公衆衛生協会が発表した新しい研究の成果である。

研究の筆頭著者であるドン・ワン氏はCNBC(ニュースサイト)に対し、「この量は、重篤な慢性疾患の予防という点で最大の利益をもたらす可能性が高く、一般の人々にとって比較的達成可能な摂取量である」と語った。

長寿や死亡率と果物・野菜の消費量との間の関係を見出すために、研究者らは1984年から2014年までの10万人以上の成人のデータを分析した。また、30年以上にわたり、2〜4年ごとに食品摂取頻度アンケートを実施した。さらに、果物と野菜の摂取に関する他の26件の研究からも情報を収集した。

一方、この研究によると、果物や野菜を1日に5単位より多く食べても、健康上の利点の増加とは関連していなかった。

さらに、研究によると、葉物野菜、アブラナ科の野菜(ブロッコリー、芽キャベツ)、柑橘類の果物、ベータカロテンが豊富な食品、赤い色の果物など、一部の果物や野菜は健康のために一層有益であることが明らかとなった。研究者らはまた、エンドウマメ、トウモロコシ、ジャガイモなどのでんぷん質の多い野菜は最も健康的でないことを発見した。

この研究で示された果物または野菜の1単位は概ね80グラムで、これはバナナ1本または調理済みのホウレンソウの半カップに相当する。

出典: Metropolises

412. 中国 ゼスプリがキウイフルーツの偽装包装に挑む

[FreshPlaza](#) 2024年3月5日

中国における偽装包装の蔓延とサンゴールド・キウイフルーツの無許可栽培に対して、ゼスプリは調査及び法的な取り組みを強化している。ニュージーランドを拠点とする同社は、権利が設定されているサンゴールド(G3)品種を中国の生産者が違法に栽培していることを発見したが、この状況は、切り取った植物が中国に違法に持ち込まれた2016年にさかのぼる。ゼスプリはその後、複数の事業者がキウイフルーツを販売するために偽装パッケージを使用していることを確認した。

ゼスプリは上海公安局と協力して、これらの偽装行為に関与した個人に対する強制措置を開始した。ゼスプリの広報担当者は「ゼスプリの調査を通じて収集された情報により、地元警察はこれらの販売者に対して何度かの強制捜査を行うことに成功した」と述べている。これらの活動により、ドールとゼスプリの取引先である佳農食品グループ(GoodFarmer)等の他の果実販売業者に影響を与える偽装行為も発覚し、それらの業者の強制措置への参加が促された。中国検察庁は、これらの犯罪を起訴することを約束しており、ゼスプリは、ニュージーランドの生産者と世界中の消費者の利益を守ろうとするこの動きを歓迎している。

さらに、ゼスプリは、スマイリング・フェイス社のガオ(高)・ハオユ取締役とその妻のシュエ・シアが、中国におけるサンゴールド・キウイフルーツの無許可増殖に関与したとして、追加の法的措置を追求している。この訴訟は、ゼスプリがキウイフルーツ品種の無許可栽培の増加に対処する決意を表している。

出典: nzherald.co.nz

413. ペルー 天候不順の中でブドウが最大の輸出果実に

[FreshFruitPortal](#) 2024年3月5日

世界最大の輸出入情報システムである[Fluctuante](#)(会員限定、スペイン語)によると、厳しい気象条件と困難な政治的規制に苦しんでいるにもかかわらず、ペルーの2023年の農産物輸出は前年比で2%増加した。

Fluctuanteのデイビッド・サンドバルCEOは、エルニーニョ現象による気温の上昇と農作物の収量の問題がある中で、緩やかな成長となったと述べている。

サンドバル氏は肯定的な点として、業界の雇用は4.4%増加し、雇用創出の歴史的な増加を見せたと述べた。この成長は、ブルーベリー、アボカド、ブドウ、アスパラガスの加工と輸出における労働力需要が牽引した。

2024年について、ペルー農業生産者協会(AGAP)のガブリエル・アマロ会長は、「農産物輸出部門の見通しは、大きく後退した2023年と同様の数字で終わる可能性があり、それほど明るいものではない」と述べた。

好ましくない規制

同会長は、ペルーの輸出は、労働者の権利に関係する新しい農業法31110というさらに大きな課題に直面していると言い、「この規制は、農業の成長や地域への投資を奨励するものではなく、小規模家族経営の近代的な流通への統合を促進するものでもない。この状況は、農産物の輸出にとってリスクとなるだけでなく、農業全体に害を及ぼすものである。このような農業を阻害する法律ではなく、その活動を促進する法令が採用されれば、期待される成長はさらに大きくなる可能性がある」と述べた。

農業関連の雇用が増加したと報じられたのとは対照的に、アマロ会長は、この法律は2023年に農業分野での10万人以上の正規雇用の喪失に加担したと述べた。同会長は、2022年にはこの業界で40万人の雇用が失われたと述べ、この状況は競争力を損ない、収益と持続可能性に影響を与えていると付け加えた。

AGAPは、昨年の農業収穫高は2.9%減少したと報告した。最も影響が大きかったマンゴーの生産は89.87%減少した。そのほか、生食用ブドウが11.98%、アスパラガスが7.20%、スイカが44%減少した。

主な輸出品

主な輸出果実はブドウで、輸出額(FOB)は前年比30%増の18億ドルとなり、輸出額が6%増の15億ドルであったブルーベリーはブドウに抜かされて2位となった。

3位はアボカドで、輸出額は前年比3%増の10億3,100万ドル、シェアは10%であった。これに続くのがマンゴーで、輸出額は前年比16%減の2億5,400万ドル、シェア3%、バナナは前年比6%減の1億1千万ドルでシェアは1%であった。

2023年の生食用ブドウの総輸出货量65万4千トンのうち、49%が米国向けで、次いでオランダ向けが11%、メキシコ向けが7%であった。

2番目に輸出货量の多いブルーベリーは20万7,595トンであった。主に米国(57%)、オランダ(22%)、中国(7%)の3市場に出荷された。

2023年に最も懸念された品目の1つはマンゴーで、輸出額が16%減少した。合計19万8,560トンが輸出され、そのうち米国向けが30%、オランダ向けが30%、スペイン向けが11%であった。

414. EU 果実・野菜のプラスチック包装を禁止へ

[EUROFRUIT 2024年3月5日](#)

青果物業界は、生鮮果実・野菜のプラスチック包装を排除する一方で他の食品は影響を受けないPPWRに対して「法的異議申し立て」を行うと予想される

欧州議会*と理事会*は、包装の削減、再利用、リサイクルに関する規則の改訂について[暫定合意](#)に達した。

欧州委員会*によると、「包装及び包装廃棄物規制」(PPWR)として知られる新しい措置は、食品の安全性を高め、循環型経済を促進する。

この規制は、すべての包装がリサイクル可能であることを義務付け、有害物質の存在を最小限に抑え、不要な包装を減らし、リサイクルされた原材料の利用を促進し、(包装廃棄物の)収集とリサイクルを改善することにより、EUで使用される包装をより安全で持続可能なものにすることを目指している。

しかし、提案の改訂により、当初は果実と野菜のすべての使い捨て包装を禁止していたものが、プラスチック包装のみに焦点を絞った禁止に置き換えられた。

本日これまでに伝えられているように、業界のリーダー達は、この規則は甚大な損害を与え、果実・野菜業界を不当に名指しするものであると述べている。彼らはまた、この規則は食品廃棄物を増やし、消費者の健康的な食品へのアクセスを制限し、全体的なリサイクル率にほとんど重大な影響を与えないと主張している。

業界団体Freshfel Europeのフィリップ・ビナール代表は、Fruitnet(本誌の出版元)に対し、禁止は発想が貧困で、差別的であり、違法である可能性が高いと語った。

同代表は、「果実や野菜の包装、特にプラスチック包装を禁止する理由は見当たらない」と言い、「影響評価が行われていない。もし(議会と理事会が)合意に至れば、その提案に異議を唱える訴訟が起きることは間違いない」と述べた。

発効前に欧州議会と理事会が正式に承認する必要があるこの規則は、2030年までに5%、2035年までに10%、2040年までに15%の包装削減目標を設定している。また、EU加盟国に対しては、特にプラスチック包装廃棄物の量を削減するよう求めている。

規則案によると、2030年1月1日から、未加工の生鮮果実・野菜の包装など、様々な形態の使い捨てプラスチック包装が禁止される。

交渉担当者らは、すべての包装がリサイクル可能で、今後制定される規則で定義される厳格な基準を満たすべきであることに同意した。軽量の木材、コルク、繊維、ゴム、セラミック、磁器、ワックスについては、一定の免除が予想される。

このほかの合意された措置は、包装中のすべてのプラスチック部分についてのリサイクル原材料の最少含有量目標及び発生する包装廃棄物の重量ベースの最少リサイクル目標の設定並びにリサイクル可能性要件の引き上げ等である。

報告者のフレデリック・リース氏は、「EUは環境関係の法律で初めて、使用する材料に関係なく包装材の消費量を削減する目標を設定しようとしている。我々は、すべての産業部門、EU加盟国及び消費者に対し、過剰包装との闘いにおいてそれぞれの役割を果たすよう呼びかけるものである」とコメントした。

執筆者: マイク・ノウルズ

*訳注 文中の各機関について(wikipedia等から要約)

欧州議会(European Parliament) 政策決定機関の1つ。欧州連合理事会とともに立法府を形成している。

理事会(Council of the European Union) 政策決定機関の1つ。欧州連合理事会または閣僚理事会とも呼ばれる。

なお、欧州理事会(European Council)は首脳会議であり、欧州評議会(Council of Europe)は欧州連合とは別の機関。

欧州委員会(European Commission) 法案の提出や決定事項の実施を担う政策執行(行財政運営)機関。

(関連記事)EU 持続可能な包装の新しい規則に関する暫定合意

[欧州議会プレスリリース 2024年3月5日](#)

月曜日(4日)、欧州議会と理事会は、包装の削減、再利用、リサイクル並びに安全性の向上及び循環型経済の促進のための規則の改訂に関する暫定合意に達した。

新しい措置は、すべての包装がリサイクル可能であることを義務付け、有害物質の存在を最小限に抑え、不要な包装を減らし、リサイクルされた原材料の利用を促進し、(包装廃棄物の)収集とリサイクルを改善することにより、EUで使用される包装をより安全で持続可能なものにするを目的としている。

包装の削減と特定の包装形態の制限

暫定合意では、包装の削減目標(2030年までに5%、2035年までに10%、2040年までに15%)が設定されており、EU加盟国には特にプラスチック製包装廃棄物の量を削減することを求めている。

この合意によると、2030年1月1日から、特定の形態の使い捨てプラスチック包装が禁止される。これには、未加工の生鮮果実・野菜の包装、カフェやレストランで充填・消費される食品や飲料の包装、(調味料、ソース、クリーマー、砂糖などの)1回分の個包装、宿泊施設用の化粧・洗面用品のミニ包装、空港でのスーツケースのシュリンク包装等が含まれる。

また、欧州議会議員らは、衛生上の理由から必要な場合や、食品の無駄を防ぐために計り売り/ばら売りの食品の一次包装として提供される場合を除き、非常に薄い(15ミクロン未満)ビニール袋の禁止も保証した。

「永年性化学物質」の使用禁止

健康への悪影響を防ぐために、欧州議会は、いわゆる「永年性化学物質」(パーフルオロアルキル物質及びポリフルオロアルキル物質、いわゆるPFAS)の食品に接触する包装への使用禁止の導入を確保した。

リユース(再利用)及びリフィル(詰め替え)の選択肢の消費者への奨励

交渉担当者らは、アルコール飲料及び非アルコール飲料(牛乳、ワイン、フレーバードワイン、スピリッツ等を除く)の再利用可能な包装の使用率の具体的な目標(少なくとも10%)を2030年までに設定することに合意した。加盟国は、一定の条件の下で、この要件からの5年間の免除を認めることができる。

外食産業における飲料や持ち帰り用食品の最終流通業者は、消費者に自分の容器を持参するという選択肢を提供する義務を負うようにする。また、2030年までに商品の10%を再利用可能な包装形態で提供するように努める必要がある。

さらに、欧州議会の要請により、加盟国は、レストラン、食堂、バー、カフェ、ケータリングサービスに対し、水道水(利用可能な場合)を再利用可能または詰め替え可能な形態で(無料または低額で)提供するように奨励することが義務付けられる。

リサイクル可能な包装、より良い廃棄物収集とリサイクル

交渉担当者らは、すべての包装がリサイクル可能で、今後制定される規則で定義される厳格な基準を満たすべきであることに同意した。軽量の木材、コルク、繊維、ゴム、セラミック、磁器、ワックスについては、一定の免除が予想される。

その他の合意された措置には、次のものが含まれる。

- 包装中のすべてのプラスチック部分についてのリサイクル原材料の最少含有量目標の設定;
- 発生する包装廃棄物の重量ベースの最少リサイクル目標の設定とリサイクル可能性要件の引き上げ;
- 2029年までに、使い捨てのプラスチック製及び金属製の飲料容器(3リットル以下)の90%を分別収集すること(デポジット・リターン・システムによる)。

次の段階

欧州議会と理事会は、合意が発効する前に正式に承認する必要がある。

(コメント及び背景は省略しました。コメントの要約は上記の記事の[最終段落](#)を参照)

415. オーストラリア 記録的な量のハニーゴールドマンゴーを収穫

[FreshPlaza](#) 2024年3月6日

オーストラリアでは1月に記録的な量のハニーゴールドマンゴーを収穫

ハニーゴールドマンゴーの生産・出荷業者であるピニャータ農場は、1月の出荷量が43%増加し、過去最高であった2022-23年度シーズンに迫る出荷量でシーズンを終了した。ギャビン・スカー社長は、当初の予測では、主要な産地での不規則な寒波により冬の開花が不調であったため、不作の年になると予想していたと述べた。この予測は、オーストラリアのマンゴー業界の予測に即したものであった。(以下「」は同社長の発言)

しかし、北部準州のダーウィン、キャサリン、マタランカの各地域にあるピニャータの直営農場では、11月中旬から12月中旬にかけてまずまずの収穫量となり、クイーンズランド州の契約生産者らは1月の収穫が豊作となった。

「クイーンズランド州の最北部では2つのサイクロンと記録的な降雨にもかかわらず、同州の生産者らは不作になるという彼ら自身の予測を覆し、皆が豊作となった。中には、今までで最大の収穫量だった人もいた。サイクロンや洪水の影響を受けた地域の生産者らは、事前に綿密に計画されていた緊急時対応を実行した。彼らは病気の管理をしっかりと行い、必要以上に樹上に果実を残しておくリスクを避けた。」

マリーバ地区では、12月中旬から1月中旬にかけての正に収穫期に、年間平均降水量である900mmを上回る降雨があった。「気象条件により、複数の産地の収穫時期が重なった。マリーバ地区の生産者は収穫が遅くなり、グラッドストーン、バンダバーグの両地区及びクイーンズランド州南部の生産者は収穫が早まって、1月は非常に忙しくなった。最後のハニーゴールド品種は2月19日に収穫された。

「これらの生産者の中には、2002年にハニーゴールド品種を手掛けて以来、弊社と契約している人もいる。彼らは、長年のマンゴー栽培の経験と品種に関する知識を活かして悪天候に対処した。」同社長はこの品種について、他の多くの品種よりも品質が安定しており、適応性が高いのが特徴であると述べた。

売り上げは2022-23年度を上回る

スカー氏は、市場に出回るマンゴーの量が少なかったため、クリスマス前の売上は素晴らしかったと述べた。1月には平均を下回る価格水準まで落ち込んだが、全体としては前シーズンを上回る平均価格となった。「全国の小売業の取引先が出荷シーズンを通しての果実の品質を賞賛してくれ、オーストラリア全土の消費者から素晴らしいフィードバックをいただいている。」

ピニャータ農場は、北部準州、クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州、西オーストラリア州の約570ヘクタールの土地でハニーゴールドマンゴーを生産する約30の契約生産者のネットワークを有している。

同農場は、5月19日からケアンズ市で開催される毎年恒例のハニーゴールド会議で、今シーズンのハニーゴールド品種の成果を報告する。同会議では毎年、最優秀生産者が発表される。

執筆者: クレイトン・スワート

416. オーストラリア 青果物業界の代表団が日本を訪問

[FreshPlaza](#) 2024年3月6日

2024年3月6日から8日まで、オーストラリアの主要な果実・野菜生産・出荷業者の代表団が日本を訪問し、増大する市場機会と日豪両国の青果物産業の協力関係の一層の強化について議論する。

今回の訪問は、2022年12月の最初の訪問とその際に開催された第1回日豪青果物交流会の成功に続くものである。

オーストラリア青果物連盟 (AFPA) のクレア・マクレランドCEOは、「オーストラリアと日本の関係は、世界一とは言わないまでも、アジアにおいて最も緊密で成熟したパートナーシップの1つである。我々は互いの専門性と知識を非常に尊重しており、オーストラリアと日本の生産者にとって最良の結果をもたらすよう、日本の関係者との関わりを引き続き強化していきたいと考えている」と言う。

2日間の現地訪問中、代表団は日本の業界関係者を伴って生産現場を訪問し、日本の様々な輸入業者との昼食会を開催するとともに、駐日オーストラリア大使と会談する。

マクレランド氏は、「日本の農業は、オーストラリアが直面しているのと同じ多くの課題を共有していることを我々は知っている。労働力不足、生産コストの上昇、貿易機会へのアクセス等の共通の課題について、日本の主要な業界団体や関係者らとの対話を継続することを楽しみにしている」と述べた。

日本は現在、オーストラリアの青果物の最大の市場の1つであり、オーストラリアからの生食用ブドウ、柑橘類、アボカド、サクランボ、メロンの輸出額は1億3,400万豪ドルに上る。(1豪ドル=約98円)

マクレランド氏は「我々の業界は、日本との双方向の貿易を成長させる真の機会を見出している。日本市場との距離が比較的近いことや、日本国内とは季節が逆転した農産物を供給できることなど、オーストラリア産農産物には日本市場における様々なメリットがあることを我々は知っている。

また、日本のカウンターパートの話から、より多くの日本産農産物をオーストラリアに輸出するための市場機会を探ることに日本側が強い関心を持っていることも理解している。オーストラリアと日本の緊密な関係を考えると、双方向の貿易拡大に向けて協力することは真のチャンスである」と述べた。

オーストラリアの農業界は海外貿易の拡大に意欲的であるにもかかわらず、生産者に対するより良い支援に関する政府の取り組みや人々の議論は、現在のところ国内の競争問題や調査に固執している。AFPAは、国内での競争を改善するための主要な解決策は、技術的な市場アクセスと貿易機会の改善を支援することであると概説している。

マクレランド氏は、「生産者が有力な輸出市場を利用できるようになれば、国内での交渉力が向上し、消費者にとっては農産物価格が安定し、より持続可能な青果物産業の支援になることを我々は承知している。オーストラリアの生産者にとって国内の競争を改善するための最善の解決策の1つは、連邦政府が農水林業省内のリソースの投入と、貿易成果の改善に焦点を当てたハイレベルな政治的関与を組み合わせることで、業界の輸出市場へのアクセス改善に注力することである」と語った。

417. エジプト産柑橘類は紅海の危機で南北アメリカと欧州へ

(1) ブラジルとカナダでエジプト産柑橘類の輸入が増加

[FreshPlaza](#) 2024年3月6日

紅海の危機により、エジプトの柑橘類輸出業者がアジアで直面している困難は、他の市場を開拓する原動力になっていると、フルーツファーム社(エジプト)の輸出部長であるアムル・カダー氏は述べている。(以下「」は同氏の発言)

「アジア市場は、湾岸諸国、ヨーロッパ、ロシアと並んで、エジプト産柑橘類の主要な輸出先である。我々は、東アジア市場と中国に代わる輸出先を見つけるために多大な努力を払った。幸いなことに今年は品質が大変良いことに助けられており、サイズ分布も昨年に比べて大幅に改善し、出荷量も年ごとに増加している。」

「今シーズンは、ブラジルとカナダという2つの新市場が特にダイナミックで、かなりの量を引き取っていることに注目している。」

エジプトは、ほとんどの輸出市場でスペイン、トルコ、モロッコとの競争に直面しているが、近年の穏やかな気象条件とより競争力のある価格の恩恵を受けている。「当社のオレンジは現在400〜450米ドル/トンの輸出単価(FOB)で販売され、ヨーロッパへの着荷時で600米ドルまたはそれ以下であり、この価格は取引先にとって大変有利である。」

「弊社では現在、バレンシアオレンジ、マーコット、アダリアレモン及びマンダリンを販売しており、すべての同僚達に順風が吹くことを願っている。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド

(2) ポーランドは今年スペインとエジプトから柑橘類を輸入

[FreshPlaza](#) 2024年3月6日

ポーランドの青果物販売業者ベニーフルーツ社の共同創業者であるイギット・アスラン氏は、輸入柑橘類が例年と異なる原産地から入っており、異例のシーズンになっていると言う。(以下「」は同氏の発言)

「柑橘類市場は予想通りには展開していない。悪天候のため、最近は柑橘類の売り上げが減っている。ポーランドの消費者は現在、皮がむきやすいマンダリンやオレンジを好む傾向にある。柑橘類の主な調達先は従来トルコであったが、今シーズンはトルコ産の価格が高騰したため、調達先を変更した。それはすなわち、今年はスペインとエジプトから輸入しているということだ。」

トルコ産の農産物は値段が上がっているが、今シーズンはもっと安い選択肢が出てきたとアスラン氏は説明する。「今シーズンの我々の苦戦状況を見ると、これらの問題は主に商品の価格設定に関係するものだ。既に述べたように、この問題を解決するために他の原産国から調達することを選択しており、今シーズンはそれ以外の問題には遭遇していない。品質やサービスに関するすべてのことが実に良好であった。」

紅海の危機により、エジプト産の柑橘類がアジアに輸出されなくなったため、それらの果実は現在ヨーロッパ市場で見られるようになり、価格と需要に影響を与えている。

「エジプト産の柑橘類が洪水のように市場に溢れたことは、トルコやスペインなどの他の輸出国に間違いなく影響を与えている。価格面に加えて、エジプトの柑橘類市場は、農薬残留基準(MRL)の遵守と堅牢なトレーサビリティ対策により、称賛に値する品質基準を誇っている。その結果、ヨーロッパ市場では激しい競争が繰り広げられ、価格は近年のシーズンに比べて全体的に下落している。」

執筆者: ニック・ピーターズ

418. 南アフリカ ブドウはシーズン終盤に近付き輸出は好調

[The Grape Reporter 2024年3月6日](#)

南アフリカのブドウの出荷シーズンは、昨年より2週間早く、3月末までに終了すると予想されている。

南アフリカ生食用ブドウ産業協会(SATI)は、梱包作業が最終段階に入り、出荷量の91%がすでに輸出検査を受けたとしている。今シーズンこれまでの出荷量は前年比18%増となっている。南アフリカは今シーズン、合計で7,580万箱を輸出する見込みである。

第8週(2月18日～22日)には、450万箱が検査を受け、これらは主にクリムゾンシードレス、オータムクリスプ、スカーロットシードレスの各品種であった。

地域別の状況

ヘックス川流域では、局地的な天候の問題により、出荷量が6%減少し、2,240万箱となった。しかし、全体としては、この地域の生産者は収穫量に恵まれ、良好な天候は着色に有利に働いたとSATIは見ている。

この地域及びベルク川流域では梱包作業が進行中である。SATIは、「この地域は、昨年よりも約2週間早く、今後2～3週間以内に出荷シーズンが終了すると予想」している。

一方、北部の各州とオレンジ川流域では梱包作業が完了し、オリファンツ川流域でもほぼ完了している。

港湾の課題

ケープタウン港での遅延により、南アフリカのブドウ輸出業者らは代替策の模索を続けている。ケープタウン港の風と霧による混乱は2月にはやや収まったが、物流の問題は残っている。

SATIは、「コストが増加するため理想的とは言えないが、第8週にはポートエリザベス港から輸出するためにさらに83万1,191箱がケープタウン港からポートエリザベス港に転送された。今シーズン中にポートエリザベス港から輸出されたブドウの総量は710万箱となり、これまでの輸出量全体の12.3%を占めている」と報告している。

青果物輸出業者フォーラム(FPEF)のアントワネット・ファン・ヘールデン物流部長は、輸出業者らはケープタウン港での貨物の動きを管理するために、国営港湾当局のトランスネットと引き続き協力していると述べた。

同部長は、「来シーズンまでには追加の機器が稼働すると期待されているが、代替港は引き続き利用される可能性がある」と述べている。

市場の実績

こうした課題にもかかわらず、ブドウ連盟のレオン・デ・コックCEOは、欧州と英国では価格と荷動きが好調であるとして、「これまでのところ、欧州市場の価格は好調に推移している。品物はバリューチェーンを迅速に動いている。今後数週間は、他の生産国からの輸入量が増えるため、市場での圧力が高まると予想される。英国でもスーパーマーケットを通じて品物は迅速に動いており、在庫量は最小限となっている。今後数週間は入荷量の増加が予想されるため、在庫水準が上昇すると予想される」と述べた。

同氏は、中東では、生産コストの低いインド産の圧力により、価格競争が激しくなっていると述べ、来シーズン以降はインドの市場シェアが増加し、南アフリカの市場シェアが減少すると予想した。

また、アジアでも課題が見られた。デ・コック氏は、輸出業者に対し、この地域に送られる商品の品質を確保するよう助言し、「アジア市場では、非常に高い水準の品質が求められる。失われた信頼を再構築するには時間がかかるため、業界としてこの市場に標準以下の品物を送らないことが不可欠である。今年の中国市場は、マクロ経済要因により厳しい状況であった」と語った。

国連機関のデータによると、南アフリカは2022年に(数量ベースで)世界第4位の生食用ブドウの輸出国にランクされた。上位3か国はチリ、ペルー、イタリアであった。

419. 米国 柑橘類の生産量は長期的に減少の見通し

[EUROFRUIT 2024年3月7日](#)

グレープフルーツとオレンジは、他の柑橘類と非柑橘系の果実に市場シェアを奪われると予測される

米国農務省(USDA)チーフエコノミスト室の報告書によると、米国の柑橘類の生産量は、2033年に安定するまで長期的な減少を続けると予測される。この傾向は、レモンとタンジェリンの生産量が増加する一方で、オレンジとグレープフルーツの生産量が減少することに起因している。

「[米国農務省2033年農業予測](#)」報告書では、米国の柑橘類の総生産量は、2022年の約112億ポンド(580万トン)から2024年には約99億ポンド(449万トン)に減少すると予測されている。その後の生産量はかなり安定し、2033年には111億ポンド(503万トン)と予測されている。

州別に見ると、カリフォルニア州は引き続き生鮮オレンジ、グレープフルーツ、タンジェリン、レモンの最大の生産州であると予想されているが、同州のグレープフルーツとオレンジの収穫量はわずかに減少すると見込まれている。グレープフルーツとオレンジは、他の柑橘類及び非柑橘系の果実に市場シェアを奪われると予測されている。カリフォルニア州のレモンとタンジェリン(皮のむき易いマンダリンを含む)の生産量は、予測期間を通じて増加すると見込まれている。

フロリダ州のオレンジ、グレープフルーツ、タンジェリンの生産量は、柑橘類の果樹園が他の用途に転換されるのに伴い、数十年にわたる長期の減少傾向が続くと予想されている。

米国における柑橘類の総生産額は、価格の上昇により2022/33年度の間25%増加し、2022年の農業生産額29億8千万米ドルに対し、2033年には37億米ドルに増加すると予測されている。

報告書によると、農業部門全体の農業純収入は、2023年の1,511億米ドルから2024年には1,438億米ドルへと73億米ドル(4.8%)減少すると予想されている。2033年の農業純収入は1,236億米ドルと予測されている。2024年の農業純収入が2023年と比較して減少すると予測される主な要因は、商品価格の下落による現金収入の減少である。

執筆者: マウラ・マクスウェル

420. 昨年末の世界のオレンジ果汁在庫量は回復するも供給量は不十分

[ロイター通信 2024年3月7日](#)

サンパウロ 7日 ロイター - ブラジルのオレンジ業者の団体CitrusBRは7日、昨年12月31日現在の世界のオレンジ果汁の在庫量(冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)相当量)は46万3,940トンと推定され、2022年末より6.7%増加したと発表した。在庫量の前年比での増加は3年連続の減少に終止符を打ったが、同協会のデータがある過去13年間で2番目に低い在庫水準であり、市場の逼迫を緩和するには十分でなかった。

ルイドレフュス社、クトラーレ社、シトロスコ社などが加盟するCitrusBRによると、この在庫量の少なさは、オレンジ果汁の世界最大の生産・輸出国であるブラジルで、4シーズン連続でオレンジが不作であったことを反映している。CitrusBRのイビアパバ・ネットー会長は「過去4シーズン、園地では極端な干ばつから猛暑まで、生産に悪影響を及ぼす一連の問題があった」と述べている。

カンキツグリーンング病として知られる柑橘類の病気は、昨年オレンジ果汁の価格を過去最高近くに押し上げたが、同会長は在庫量減少の主な理由は悪天候であると述べた。

同会長はさらに、ブラジルの2023/24年度シーズンが終了したことで、市場関係者は国内の機関である柑橘類栽培防衛基金(Fundecitrus)が5月10日に発表する2024/25年度のオレンジ収穫予測に注目しており、それが新しいシーズンの基調となると付け加えた。

報告者: ロベルト・サモラ、執筆者: ガブリエル・アラウジョ、編集: アンドリュー・コーソーン、バーバラ・ルイス

421. ニュージーランド ルビーレッド・キウイは今シーズン100万箱を達成へ

[ASIAFRUIT 2024年3月8日](#)

ゼスプリの赤肉キウイフルーツはアジア市場の韓国、マレーシア、香港などに初めて出荷される

ゼスプリのルビーレッド・キウイフルーツの供給量は今シーズン3倍に増える見込みで、ゼスプリは100万箱(3,600トン)の大台に乗るものと見込んでいる。

ゼスプリ・ルビーレッド・キウイフルーツは現在、ニュージーランドのほとんどのスーパーマーケットや青果店で販売されており、日本、中国、台湾、シンガポール等のアジア太平洋地域の市場でも販売されている。今シーズンは韓国、マレーシア、香港で初めて販売される予定である。

ゼスプリのダン・マシソンCEOは、商業生産の3年目を迎えるゼスプリ・ルビーレッド・キウイフルーツが百万箱の大台に到達することを嬉しく思うとして、「ゼスプリのルビーレッド・キウイフルーツの生産量は昨シーズンの3倍に増えた。今年はニュージーランド国内と、多くの新しい市場を含むアジア太平洋地域の取引先や消費者により多くの果実を届けることができるのは素晴らしいことである。取引先や消費者、特に独特の味、色、健康上の利点を好む若い消費者の間で、非常に高いレベルのエキサイトと支持を得ているルビーレッドに対する強い需要がある」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

ゼスプリのルビーレッド・キウイフルーツは、プラント・アンド・フード・リサーチ社とのパートナーシップにより、ゼスプリのキウイフルーツ育種プログラムを通じて開発された。天然の果実サイズは小さい。

「今シーズンは、すべてのキウイフルーツ品種で力強い成長が見込まれており、世界中の市場に合計1億9,300万箱のキウイフルーツが出荷される。その中で、ゼスプリ・ルビーレッド・キウイフルーツは、新しい園地での収穫が始まったことで出荷量が増加している。」

「弊社は、その最新のキウイフルーツ品種であるゼスプリ・ルビーレッド・キウイフルーツに関する知識の蓄積を続けており、旺盛な需要に応えることができる。これには、消費者のフィードバックを収集して、市場での1箱当たりの収益を高め、ルビーレッドの生産者に還元できる価値を最大化することが含まれる。」

「我々は、グリーン品種とサンゴールド品種を補完するレッド品種に大変喜んでいる。また、キウイフルーツのカテゴリーに新規の消費者や若い消費者を呼び込むのに役立っている品種でもあり、今後数年間の生産量の増加が、高価値市場での成長を後押しすると信じている。」

強力な販売促進キャンペーンにより、今年はゼスプリのルビーレッド・キウイフルーツが市場全体で販売される見込みである。今シーズンの販促キャンペーンでは、店頭での宣伝や試食、インフルエンサーを起用したデジタルの、またはソーシャルメディアを通じたキャンペーン等を行い、ゼスプリ・ルビーレッドの独特の風味と健康上の利点を強調する。

執筆者：リアム・オキャラハン

422. トルコ 紅海危機にも拘わらずリンゴ輸出は継続 次はサクランボ

[FreshPlaza 2024年3月13日](#)

「我々は、困難な状況にもかかわらず、紅海危機を生き延びている」

トルコの果実輸出業者デミルフレッシュフルーツ社のオーナーであるアルパー・ケリム氏は、紅海危機により、トルコ産リンゴのインド向け輸出が様変わりしたと言う。(以下「」は同氏の発言)

「インド向けのリンゴ輸出に関してはすべてが変わった。紅海危機以来、輸送時間が長くなり、運賃が上昇し、多くの遅延が発生した。しかし、これらすべての課題にもかかわらず、我々はまだ生き残っている。これまでに350コンテナのリンゴをインドに出荷した。ここまでは順調だったと言える。輸送時間は確かに長くなったが、我々のリンゴの品質は、これらの長い輸送時間に確実に耐えられる。我々の果実の品質に大変満足しており、インドへの輸出を継続することができる。」

困難にもかかわらず、ケリム氏は今の時点でもまだ様々な市場にリンゴを輸出している。「現在、中東やアジアの国々にリンゴを出荷しており、ロシアにも出荷している。トルコ産リンゴの価格は、昨シーズンに比べて約10～15%高い。運賃が高騰したことも含め、紅海危機は価格に大きな影響を与えている。」

リンゴの出荷シーズンが終わりに近づく中、同社は別の果実に力を入るとケリム氏は説明する。「来シーズンのリンゴの前のサクランボの出荷に備えている。これからのシーズンのサクランボについては、非常に良い契約を結んでいる。うまく行ったリンゴのオペレーションを、サクランボにも引き継ぎたいと思う。サクランボの輸出先は主にヨーロッパとアジアの国々であり、出荷シーズンの開始を楽しみにしている。」

今の状況が事前にわかっていたら、どんな違うことをしたかったかを尋ねると、ケリム氏は、自社のコンテナ船で、もっと早くにもっと多くのリンゴをインドに運ぼうとしただろうと答えた。「我々は船主でもある。デミル海運は我々の別会社であり、自前の貨物船を保有している。ただし、それらはすべてばら積み船である。トルコの国旗を掲げたコンテナ船を1隻保有し、弊社やトルコの他のリンゴ輸出業者のインド向けコンテナを運べたらよかったと思う。」

執筆者: ニック・ピーターズ

423. 中国 柑橘類産業は堅調な成長

[FreshPlaza 2024年3月13日](#)

中国の農業部門における最近の発展の中で、同国の柑橘類産業は大幅な拡大を経験し、農業の近代化と構造の最適化において顕著な成果を示している。

最新の統計によると、中国は現在、240万ヘクタール超の柑橘類栽培面積を誇り、世界最大の柑橘類生産国として位置付けられる。同国の年間生産量は4,753万トンという驚異的な数量に達しており、この産業の堅調な成長と世界の柑橘類市場における極めて重要な役割を顕示している。

さらに、中国の柑橘類の輸出は目覚ましく増加し、輸出量は200万トンを超え、柑橘類の国際貿易における重要な担い手としての地位を確固たるものになっている。この輸出の急増は、品質と規格の向上に向けた業界の協調的な取り組みが、世界市場での中国産柑橘類の競争力を大幅に向上させたことによるものである。

全体として、中国の柑橘類産業は、持続可能な農法と市場の拡大に重点を置き、継続的な成長を遂げる態勢が整っている。この業界のサクセスストーリーは、より広い意味での中国の農業近代化の成果と、世界の農業情勢において主導的な役割を果たすという中国のコミットメントを反映している。

出典: [XINHUANET](#) (新華網)

424. ニュージーランド 今季のジャズリンゴの輸出開始は順調

[PRODUCE PLUS 2024年3月13日](#)

ほぼ完璧な気象条件とサイクロン・ガブリエルからの復旧努力により品質の高い果実に

今シーズン、T&Gグローバル社とその独立系契約生産者らは、ジャズ、エンヴィ等の価値の高いブランドリンゴを含む、合わせて400万箱相当以上のリンゴを収穫する予定である。

同社の業務責任者であるクレイグ・ベティ氏は、樹上には良質な果実があり、2023/24年度のニュージーランド産リンゴの出荷は良好なスタートを切ったと述べた。(以下「」は同氏の発言)

「全国的にリンゴの生育条件はほぼ完璧で、日中は晴れて暑く、夜は涼しく、果実の着色と食味が素晴らしくなった。弊社のジャズリンゴは、消費者が好んで求める歯ざわりの良さと甘酸っぱい風味のバランスが完璧で、素晴らしい食味である。」

ベティ氏は、ホークスベイ地方のジャズの生産量は昨年のサイクロン・ガブリエルの影響を受けたが、復旧努力により、今シーズンは品質の高い果実を実らせることができると述べた。

「昨年は、ちょうど収穫が始まる直前にサイクロン・ガブリエルがホークスベイ地方を襲い、一部のジャズの出荷量に影響が出た。弊社のチームは、独立系の契約生産者らとともに、被害を受けた果樹園の片づけと復旧のために膨大な量の作業を行った。今シーズンの収穫物の品質は、彼らの献身と努力の証である。」

同社とその契約生産者らは、ギズボーン地方のタイラフィティ地域やホークスベイ地方で、ポッピー、ロイヤルガラ、パシフィッククイーンなどの早生品種の収穫を2月上旬に開始し、3月にはジャズの収穫が始まった。その数週間後には南島のジャズの収穫が始まる。3月下旬には最初のジャズがネイピア港からアジアに向けて出荷される。同社のエンヴィブランドの高級リンゴは4月上旬から収穫が始まる。

「ジャズは、既にニュージーランドの人々が全国の店舗で入手できるのに加えて、3月下旬にホークスベイ地方から香港に向けて最初の出荷が始まり、その後数か月にわたって中国、日本、マレーシア、タイ、ベトナムでも手に入るようになる。」

また、ホークスベイ地方にある同社の自動化された最新鋭の梱包施設が出荷シーズンを通して稼働するのもこれが初めてだ。

「ワカツ地区(ホークスベイ地方)にある弊社の梱包施設は、世界有数のAI選別、果実用ソフトハンドリング技術、果実梱包・パレット積みロボット等を活用することで、果実の品質を優先しつつ、増え続ける果実を処理する能力を確保するのに役立っている。」

「サプライチェーン全体で、クラス最高の複数のシステムにより、リンゴが良好な状態で市場に届き、取引先と消費者のニーズを満たすことを確保している。」

執筆者: ブリー・カッジャティ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

425. ニュージーランド 2024年最初のゼスプリ・キウイ専用船が出航

[PRODUCE PLUS 2024年3月14日](#)

2,500トンのキウイフルーツを積載したこの船は、今シーズン運航予定の63便のうちの第1便である

2024年のニュージーランド産キウイフルーツ輸出シーズンにおけるゼスプリの最初のチャーター船が、上海に向けてタウランガ港を出港した。

ゼスプリが2020年に命名した専用船コーファイ号は、中国の取引先向けの70万箱(約2,500トン)のゼスプリ・サンゴールド・キウイフルーツと、15コンテナのゼスプリ・レッドルビー・キウイフルーツを輸送している。コーファイ号と今シーズン2隻目のチャーター船ソレントスター号はともに、3月末に上海に到着する予定である。(訳注:「コーファイ」はニュージーランド先住民のマオリ語で「黄色」を意味し、サンゴールド・キウイフルーツを象徴しています。)

これは、ゼスプリが今シーズン、グリーン、サンゴールド、ルビーレッドの3種類のキウイフルーツ1億9,300万箱(約69万5千トン)の約半分を50か国以上に出荷するために使用する予定の63便のチャーター船の最初の船である。この便数は昨シーズンに使用されたチャーター船の51便より多い。ゼスプリによると、チャーター船は、航路の途中で他の港に寄港することなく輸出先市場に直行するため、より多くの果実を積み、より確実である。

今シーズンのチャーター計画では、船体の内部に果実を収納する冷蔵船を使用する。北欧向け3便、地中海向け14便、北米西海岸向け4便、アジア向け42便を予定しており、残りはコンテナで輸送する。

ゼスプリの最高執行責任者(COO)であるジェイソン・テ・ブレイク氏は、良好な生育期間の後で、シーズン最初のチャーター船の出港は、この業界において常にときめく瞬間であると言う。(以下「」は同氏の発言)

「毎シーズン、出荷計画を実行に移し、ゼスプリのキウイフルーツを世界中の市場に届けることを楽しみにしている。今年は特に生産量の増加が見込まれているのでなおさらである。」

「我々は、収穫量が多い今シーズンの出荷計画において、高品質な果実を出荷期間を通じて安定的に取引先や消費者に提供するために、業界としてどう対応するかに重点を置いた。」

同氏は、今シーズンの計画の重要な取組みの一つは、販売期間の序盤に良い果実を取引先に供給できる産地の確保に注力することであると述べた。

「天候は完全に良かったわけではなく、収穫は予定より少し遅れているが、シーズン中うまく出荷することができると確信している。」

「最初のチャーター船が航行中で、これからのシーズンに向けて大変期待しており、今後数週間から数か月にわたって、チャーター船とコンテナ船の両方がタウランガ港からヨーロッパ、中国、日本など50以上の市場に向けて次々と出航することを楽しみにしている。」

同氏は、ゼスプリは世界の海運環境を引き続き監視しており、チャーター船とコンテナ船の運航計画を通じて今シーズンの収穫物を届ける同社の能力に自信を持っていると述べた。

426. 韓国 リンゴ生産の危機に直面

FreshPlaza 2024年3月15日

韓国は、差し迫った問題に取り組んでいる。リンゴの不足が価格の高騰につながり、「アップレーション*」危機と呼ばれている。リンゴの卸売価格は5,414ウォン(4.11ドル)/kgに急騰し、前年比97.33%という驚異的な上昇率を記録した。このリンゴ価格の急騰は、生鮮果実全体の価格が前年比41.2%と大幅に上昇し、過去30年間で最大の高騰となった要因ともなっている。(※: アップル+インフレーションの造語)

この危機の根本的な原因は、多くの要因に関係する。2023年の韓国のリンゴ生産量は、主に悪天候により、また気候変動によってさらに悪化し、前年比で30%急落した。春の降霜、寒波、頻繁な降雨、リンゴ炭疽病の発生により、リンゴの生産が著しく妨げられ、市場では大幅な不足が発生している。

さらに、リンゴ栽培の分野にも課題が山積している。気候変動の影響により、リンゴ栽培に理想的な地域が徐々に変化し、従来からの産地が存続しにくくなっている。特に、かつてはリンゴの主産地であった大邱広域市や慶尚北道などの(東部)地域では、リンゴの栽培面積が減少している。逆に、江原道(東北部)ではリンゴ園が急増しており、同国のリンゴ生産の状況の変化を示唆している。

これらの課題をさらに悪化させているのが、果実の輸入に関する韓国の厳しい規制である。国内生産が減少しているにもかかわらず、厳しい規制により外国産のリンゴの輸入が妨げられ、品不足を悪化させ、価格の高騰を後押ししている。

この先、韓国のリンゴ産業の見通しは引き続き暗い。気候変動の長期的な影響は、リンゴ生産者の高齢化と相まって、厳しい状況を描き出している。これらの課題に対処するためには、変化する気候条件に適応した農法の実施や、市場へのリンゴの安定供給を確保するための輸入規制の見直しなど、緊急の対策が必要である。断固とした行動をとらなければ、「アップレーション」の危機がさらに悪化し、消費者と生産者の両方に等しく悪影響を及ぼす可能性がある。

出典: kedglobal.com

(関連記事)韓国 価格高騰の中、政府はリンゴ等の輸入禁止を維持

FreshPlaza 2024年3月11日

韓国では、果実価格の大幅な上昇にもかかわらず、政府は病虫害の蔓延への懸念を理由に、リンゴとナシの輸入規制緩和に反対する断固たる立場を表明した。2月の韓国統計庁のデータによると、リンゴ、ミカン、ナシなどの生鮮果実の価格は前年同月より41.2%高くなり、1991年9月以来の大幅な上昇を記録した。この急騰は、リンゴの生産量の減少によるところが大きく、リンゴでは前年比71%の価格上昇が見られた。果実価格の上昇によるインフレ圧力は、2月の消費者物価指数に0.57%ポイント寄与しており、全般的なインフレに大きな影響を与えている。

差し迫ったインフレの懸念にもかかわらず、植物検疫措置を優先する政府は、これらの果実の輸入政策を修正するつもりがない。宋美玲農林畜産食品部長官(農業大臣に相当)は、リンゴを輸入しても前年の不作による価格高騰を直ちに緩和することはできないと強調した。

ただし、政府はリンゴの輸入について11か国との交渉を模索しており、日本との交渉が最も進んでいる*。一方、国内の果実不足を緩和するための措置としては、果実の割引支援の拡大や、関税を払えば輸入できる輸入果実の範囲の拡大などがある。また、次の収穫期までの消費者の需要を満たすために、オレンジやバナナの直接輸入や、「見た目の悪い」果実の供給にも力を入れる。

出典: koreajoongangdaily.joins.com

* 訳注: 出典元の記事では、「リンゴの輸入交渉は11か国と行われており、8段階が必要で、日本は第5段階にあり最も進んでいる。農林畜産食品部によると、日本は1992年に韓国へのリンゴ輸出の許可を要請し、2010年から2015年まで輸入リスク分析を行った後、無期限に停止した。ドイツとニュージーランドは第3段階、米国は第2段階である。」としています。

427. 南アフリカ産アボカド 欧州でチャンス、日本へは試験輸送

[FreshPlaza](#) 2024年3月15日

南アフリカ産のアボカドは先週、アボカドが異常に不足していたヨーロッパ市場に到着した。一方、米国に供給できるメキシコ産アボカドが少ないことが予想されるため、ペルーは当然、パナマ運河を通してヨーロッパまで行くよりも、北米の品不足を埋めることを好むであろう。

南アフリカ・アボカド生産者協会のエドリアン・エルンスト会長は、「このような現実を考えると、欧州のアボカド市場ではペルー産の圧力が少なくなり、ペルー産が存在感を示すのは通常よりも遅い時期からになると予想している。ペルーでは天候上の問題もあり、作柄に影響が出ている」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

しかし、ロシアの戦争が欧州の平均的な消費者の財布に影響を及ぼし、彼らの可処分所得や支出パターンに影響を受けていることから、状況は複雑化している。

南アフリカの収穫量は、今年は隔年結果の表年に当たる。今シーズンの輸出量は4kg箱換算で2千万〜2,500万箱(8万〜10万トン)と推定されている。2023年の輸出量は1,800万箱であった。

ヨーロッパからの引合いがかなり強い一方、中国に弾みがつかない

南アフリカ産グリーンスキン・アボカドの重要な市場の一つであるロシアが恐らく安定したままだと思われる一方、ツァニーン市に本拠を置くアレクサンドロフ農場の共同経営者でもあるエルンスト氏は、南アフリカ産アボカドの輸入を昨年許可したばかりの中国に、業界全体として大量の出荷を割り当てることは予想していない。

「中国で需要開拓の余地があることは間違いないが、現在はそれほど大きな市場ではない。また、中国に出荷するのはかなりリスクの高い提案である。中国に出荷する際の要件と出荷手続きを考えると、業界はまだ足場を固めなければならない。」同氏は、ヨーロッパでの商機がこれほど有利に見える今シーズン、中国にアボカドを送る動機付けはあまりないと指摘する。

もう一つの良い知らせは、日本市場が開かれたことである。「業界内では、6月ごろに日本向けに試験出荷を行う計画がある。そこでの課題は、果実を傷つけずに低温処理を行うことである。」

そして、日本におけるアボカドの可能性を伸ばす取組みが始まる。エルンスト氏は、西洋人の予想に反して、日本では伝統的な寿司にアボカドを使用するのは一般的ではないと述べている。「しかし、日本人は食に対するアプローチにおいて非常に独創的であり、我々は彼らと手を組んで、我々のアボカドが合うのは彼らの料理のどこなのかを見極めたいと考えている。」

アボカド消費量の世界的な格差

同氏は、米国のような国のアボカド需要は、南アフリカの年間総収穫量をわずかに数週間で吸収する可能性がある一方で、中国やインド(南アフリカはまだ市場アクセスがない)のようなもっと人口の多い国でも、アボカドの消費量は「驚くほど少ない」ことを観察している。

他方で、東アフリカのアボカド産業の発展が注目されている。南アフリカ国内の出荷シーズンが始まる前に、南アフリカの小売業者がタンザニア、ケニア、モザンビークからアボカドを輸入することは、国内の消費を増やすチャンスであると同氏は考えている。「これらの国から輸入されるアボカドの量は今のところ比較的少なく、また国内の出荷時期との重複も比較的少ないので、国内のアボカド生産者はあまり影響を感じないと思う。」

出荷は問題なく開始

アボカドの輸出に際しては、南アフリカの港、特にケープタウン港の問題から逃れられない。「前向きな動きは色々あるが、出荷状況を改善するような大きな成果は得られていない。今のところは問題ないが、運用上の変更が間に合わない限り、柑橘類の出荷量が増えたとすぐに同じ問題が再び発生することは間違いない。」

業界の出荷量がいつ頭打ちになるかについて同氏は、「この業界の天井がどこにあるかはわからないが、それが近くないことはわかっている」と答えている。(一部省略しました。)

執筆者: キャロライズ・ハンセン

428. トルコ 今年のサクランボは大玉を期待

FreshPlaza 2024年3月18日

「弊社の果樹園では26+や28+など大玉のサクランボが多くなることを期待」

トルコの青果物輸出業者であるアラナール社で販売コーディネーターを務めるイギット・ギョキギット氏は、同社の次のシーズンのサクランボは3つの地域から出荷される予定だと話す。(以下「」は同氏の発言)

「トルコのサクランボの出荷シーズンは、例年どおりイズミル県から始まる。今年の出荷は5月下旬に始まると見込まれる。弊社は契約生産者と連携しているが、トルコ国内の3つの異なる地域にある自社の果樹園でもサクランボを栽培している。これらの果樹園は、チャナッカレ、アフイオン、マニサの各県にある。弊社の約700ヘクタールの果樹園では、サクランボ、イチジク、アンズ、スモモ、ブルーベリーを栽培している。サクランボは自社で栽培する主な果実で、200ヘクタール近くの果樹園がある。トルコで栽培されるサクランボの主な品種はZ-900であるが、弊社では主にレジーナ品種を栽培している。」

同社にはまだ成園化していない果樹園が複数あるため、サクランボの生産量は来年も増加する見込みだと同氏は説明する。「弊社にはまだ若いサクランボの果樹があり、毎年収穫量が増えて行く。ここ数年は毎年最大500トン収穫することができたが、今年は600トン以上を見込んでいる。2026年には1千トンの収穫を見込んでおり、2029年までに年間収穫量が1,800トンまで増加する見込みである。また、今年は果実の直径が26ミリメートル以上や28ミリメートル以上となる大玉が以前よりも多くなることを喜んでいる。」

ありがたいことに、天候は数年前よりも良いようである。その結果、ギョキギット氏は非常に有望なサクランボのシーズンを期待している。「自社の果樹園だけでなく、全国の契約生産者も今年は良いシーズンを期待している。2年前の2022年は、天候の影響が最悪の部類で、全国の収穫量が過去数十年で最も少ない年の1つとなった。しかし、2024年は今のところサクランボに最適な天候に恵まれており、生産者は今年の出来に期待している。」

アラナール社は主として果実を空輸で出荷しているため、紅海の危機はほとんどに影響しないと見られる。しかし、同氏は、海上輸送する果実は別の輸出先を見つけなければならないかも知れないと予想している。

「アジアの太平洋側の地域では最近、サクランボの需要が高まっている。湾岸地域からも同様の関心が寄せられている。弊社はトルコからアジア向けに生鮮果実を輸出する主要な業者の1つであるが、イチジク、サクランボ、ブルーベリーなどニッチな果実を栽培、梱包、輸出しているため、これらをすべて空輸している。これは、海上貨物の物流問題の影響をそれほど受けないことを意味する。そう言いつつも、アンズとスモモは日持ちがするため、海上輸送で送っている。現在の難しい状況では、今からのシーズンにはこれらの品目をアジアに送らないことになるかも知れない。」

「弊社は北米からアフリカまで40か国以上にサクランボを輸出している。弊社の主な市場は従来どおりヨーロッパ、中でも主にドイツである。今年は、中東、中央ヨーロッパ、英国など、様々な地域にさらに多くの果実を送る予定である。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

429. 米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を設定・拡大 [米国農務省動植物検疫局通知 DA-2024-08 2024年3月12日\(19日送信\)](#)

米国農務省動植物検疫局は、この通知を東部夏時間2024年3月19日午後3時58分に送信した

件名: APHISがカリフォルニア州ロサンゼルス郡、サンディエゴ郡、ベンチュラ郡にカンキツグリーニング病(HLB)の検疫規制地域を設定及び拡大

宛先: 州、部族及び準州の農業規制当局担当官

以下は直ちに発効する。米国農務省動植物検疫局(APHIS)は、カリフォルニア州食品農業局(CDFA)と協力して、同州のHLB(黄龍病: *Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病)の検疫規制地域を拡大し、同州ロサンゼルス郡、サンディエゴ郡及びベンチュラ郡の一部を通知DA-2023-19(2023年10月10日)の検疫規制地域に追加する。

APHISは、同州での定期的な調査の中で、複数の場所で収集された植物組織のサンプルからHLBが検出されたためにこの措置を講じるものである。

これらの検出の結果、APHISはサンディエゴ郡のバレーセンター地域に86平方マイルの新しい検疫規制地域を設定する。これには、柑橘類の商業的な生産を行う果樹園1,756エーカーが含まれる。サンディエゴ郡内のオーシャンサイド市とサンディエゴ市の検疫規制地域には変更がない。(1平方マイル=約2.6平方キロメートル、1エーカー=約0.4ヘクタール)

APHISは、ロサンゼルス郡のアズサ地域とサンガブリエル地域の一部も検疫規制地域に追加する。この追加により、ロサンゼルス、オレンジ、リバーサイド及びサンバーナーディーノ各郡の検疫規制地域が合計23平方マイル拡大し、1,885平方マイルとなる。これには、柑橘類の商業的な生産を行う果樹園2,222エーカーが含まれる。

さらに、APHISはベンチュラ郡のサンタポーラ地区の検疫規制地域を2平方マイル拡大し、102平方マイルとする。これには、柑橘類の商業的な生産を行う果樹園8,707エーカーが含まれる。

APHISは、カリフォルニア州の検疫規制地域からの規制対象物品の州間移動に安全対策を適用している。これらの措置は、2023年10月から2024年1月の間にCDFAが定めた州内の検疫の変更と並行して行われる。この措置は、HLBが米国の非感染地域に広がるのを防ぐために必要なものである。

カリフォルニア州の検疫規制地域の具体的な変更内容は、APHISカンキツグリーニング病ウェブサイトにも掲載されている。APHISは、おってこの変更通知を連邦官報に掲載する。

詳細については、以下に問い合わせ願いたい。

(連絡先省略)

署名

マーク L デビッドソン博士

動植物検疫局次長(植物検疫担当)

430. 米国 リンゴの輸出量は前年同期比47%増

[FreshFruitPortal](#) 2024年3月20日

米国農務省が火曜日(19日)に公表した最新のデータによると、昨年8月から今年1月の期間の米国のリンゴ輸出量は10億ポンド(約45万トン)を超えた。これは、前年同期比で47%の増加であった。

輸出量の増加を牽引したのは、米国産リンゴの主要輸出先であるメキシコで、2022-23年度の2億500万ポンドから今シーズンは2億9,900万ポンドに急増した。

輸出の成長を押し上げているもう一つの市場はインドである。インドが2023-24年度の出荷シーズンに米国産リンゴに対する20%の報復関税を撤廃したのを受けて、シーズン半ばまでの輸出量は2022-23年度のシーズン合計の16倍となった。

報復関税が課される前、ワシントン州は1億2千万米ドル相当のリンゴをインドに輸出していた。最も減少した時期には、ワシントン州の生産者は100万米ドル未満しか輸出していなかった。

2024年1月までに米国はインドに約3,900万ポンドのリンゴを輸出したが、昨シーズンの同時期の輸出量は58万4千ポンドであった。

米国農務省によると、リンゴの関税撤廃をはじめ米国政府が2023年に交渉した様々な貿易政策により、米国の農産物生産者と様々な農産物の輸出業者は、64億ドル近くの潜在的な市場へのアクセスを獲得した。

台湾でも、米国産リンゴの輸出は2022-23年度の5,150万ポンドから今シーズンは1億2,300万ポンドへと目覚ましい成長を遂げた。米国は引き続き、この市場へのリンゴの主要な供給国となっている。

中国向けも増加傾向にある。同国のシェアは総輸出量の1%強に過ぎないものの、今シーズンの出荷量は84%増加し、1,900万ポンド以上となった。

コロンビアも、昨シーズンの輸入量がわずか660万ポンドに落ち込んだ後、米国産リンゴの需要を回復しつつあると見られる。今年の輸出量は3千万ポンドを超えた。

今年は米国のリンゴにとって歴史的な年であり、105億ポンド以上の生産が見込まれている。記録的な収穫は、生産者にとって予期せぬ課題をもたらした。供給過剰である。

インドなどの市場への拡大により、生産者は果実を販売し、価格を安定させるチャンスが増加した。

執筆者: セバスチャン・ラミレス

431. ニュージーランド キウイの収益改善を予測 日本市場に不安も

[ASIAFRUIT 2024年3月22日](#)

2024/25年度の最初の生産者向けガイダンスの発表に当たり、ダン・マシソンCEOは生産者ができるだけ早く果実を収穫し、シーズンを力強く始めることを奨励

ゼスプリは本日(3月22日)、2024/25年度シーズン最初の生産者向けガイダンスを発表し、旺盛な需要と収量の改善を背景に1ヘクタール当たりの収益(生産者手取り)が増加すると報告した。

ダン・マシソンCEOは、販売プログラムを開始するためにできるだけ早く果実を収穫するよう生産者に奨励するなど、業界はシーズンの力強いスタートに努めていると述べた。(以下「」は同CEOの発言)

「今年は収穫量が多いため、出荷シーズンを力強くスタートさせ、早い時期に取引先に届ける果実を増やし、早期の販売機会を生かすことが重要である。」

「ここ数か月、取引のある主要小売業者の多くがニュージーランドを訪れ、彼らの顧客(消費者)が我々の果実に対して示す強い需要について伝えてくれたことは素晴らしいことであり、今シーズンは、より多くの出荷量でその需要に応えることが期待される。」

「今週すでに、日本でルビーレッド・キウイフルーツの販売プログラムが始まった。この品種は、特に若い消費者の間で大きな関心を引き起こし、また果実が出回る期間が限定されることから、我々にとって望ましいスタートの切り方である。」

同CEOは、ゼスプリは今シーズン、すべてのキウイフルーツ品種で力強い成長を見込んでおり、世界中の市場に約1億9千万箱のキウイフルーツが出荷される予定だと続けた。

「果実の成熟の具合により予想よりやや遅いスタートとなったが、収穫量は増え始めており、これまでに約1,500万箱が出荷された。出荷量は急速に増加すると予想している。」

「また、現在、果実が入荷したらすぐに売って旺盛な需要を活かせるように、販売活動を強化している。」

「2023/24年度シーズンには出荷量の少なさと北半球での供給の制約によって出荷の終了時期が早まり、取引先の小売業者に継続して果実を提供することができなかったのが、このことは特に重要である。」

今シーズンのガイダンスには、1ヘクタール当たりの収益の増加が含まれており、スイートグリーンを除くすべての品目で、1ヘクタール当たり収益の予測幅の下限が、2023/24年度の1ヘクタール当たり収益の最終予想を上回っている。

「ここ数年は生育期間中の条件が特に厳しかったので、今年生育条件が良くなったのは本当に前向きなことである。収量が増加し、このことは1ヘクタール当たりの収益が昨シーズンに比べて大幅に上昇することに寄与すると見られ、生産者にとって良い知らせとなるだろう。」

ガイダンスでは、より厳しい市場環境や、日本円にとって好ましくない為替変動の影響などが下振れリスクとして取り上げられた。

後者は、日本での売上に占める割合が高い有機栽培品、スイートグリーン、ルビーレッドの各品目に特に影響を与えると予想される。

執筆者: カール・コレン

432. 南米の不振な季節を終えて、ブルーベリーは北米に移行中

FreshPlaza 2024年3月25日

ブルーベリーの出荷は南半球から北半球へと移っている。ペルー産果実の出荷量の減少に続いて、チリ産の出荷も今週で終了する。業界の活動は北上し、メキシコ産の出荷が増え、米国国内産の出荷がフロリダ州から始まる。グルメ商会(本社:米国カリフォルニア州)のアドリアーナ・フォーチュン営業部長は、「サンシャインステート(フロリダ州)の出荷量は着実に増加し、4月上旬までに最大に達すると予想される」と述べている。(以下「」は同氏の発言)

チリでは予想外の展開

「南米産ブルーベリーの出荷シーズンを振り返ると、冴えないと表現するのが適切である。残念なことに、チリからの出荷が終了すると業界が予想していた時期に出荷量が急増した。」チリの出荷は2月まで続かないという見方が広がっていたため、同月に予定されていた宣伝活動が少なく、増加した数量を売りさばくことが困難であった。「市場は不意を突かれた形であった。」

また、品質に対する認識も需要不足の大きな要因となった。「昨年の標準に満たない品質が多くの小売業者の印象に残っており、今年の生産物に対する信頼の欠如につながった。」今年は全体的な品質は向上したが、それでも理想的とは言えない品質が見られた週もあった。「チリの出荷シーズンの前半は大きな期待を抱かせたが、予期せぬ数量の急増と価格の低下が軌道を狂わせ、後半は残念な終り方となった。」

切れ目のない移行

チリ産のシーズンが終わり、焦点はフロリダ州に移り、グルメ商会は国内シーズンの開幕を心待ちにしている。現在の米国国内の出荷量は限られているが、今後7日間で大幅な増加が見込まれている。「4月後半から5月になる頃までには、ジョージア州やカリフォルニア州だけでなく、他の地域でも出荷が活発化するだろう。」すべての産地が協力して取り組むことで、切れ目のない移行が保証される。「自然条件が好ましければ、切れ目のない供給ができるものと期待している。」

「需要面では、輸入もののブルーベリーに依然として多くの関心が寄せられている。しかし、ペルーの出荷量不足とそれに伴うこの冬の出回り量の少なさは、市場の成長路線を際立たせ、ブルーベリーに対する消費者の旺盛な需要を示している。」

同氏は、この品薄の影響により、消費者がニーズを満たす代替の産地を求めているため、国内産ブルーベリーの需要が高まる可能性があると予想している。「すでに価格が着実に上昇している。」4月と5月には国内産の出荷量が増加し、販売促進活動が活発化して市場での存在感を高め、取引先の活動を促進することが予想される。

同社の目標は、取引先と緊密に連携し、正確な情報を提供し、取引先のニーズに合った販促活動の実施を支援することである。

「弊社はこの国内産シーズンのスタートに向けて準備万端であり、やる気満々である。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

433. 米国カリフォルニア州 核果類の出荷が早まる可能性

[FreshPlaza 2024年3月25日](#)

カリフォルニア州での早期の予想によると、今年の核果類(モモ、スモモ等)の収穫は少し早く始まる可能性がある。HMC農場のジョン・マクラーティ氏は、「昨年はいくつかの収穫が遅かったため、それよりもおそらく7〜10日早くなるだろう。弊社の収穫は5月上旬に開始する予定だ」と述べている。(以下「」は同氏の発言)

そうは言っても、収穫まで2か月を切った今、それ次第では収穫のタイミングに大きな影響を与える可能性がある天候に注目が集まっている。「カリフォルニア州は、適切な低温積算時間の下限にあると思う。果樹にとってはまずまずのオフシーズンであったが、素晴らしい収穫ではない。」

今後の収穫を見据えて

収穫量はまだ決まっていない。シーズン中のこの時点では、霜と雹という2つの気象現象がカリフォルニア州の核果類に影響を与える可能性がある。「霜を心配する時期は終わりに近づいてきており、雹を警戒しはじめている。これまでのところ、シーズンの初めに霜害の影響をわずかに受けた昨年と比べると前半については良いようで、平均的な収穫のように見える。」

需要については、マクラーティ氏は好調だと予想している。「核果類は季節の果実の中で最後に出てくるものの1つなので、弊社の品目の中でも関心が高い。」

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

434. 南アフリカ産リンゴ タイ市場の再開に向けて査察を受け入れ

[HORTGRO 2024年3月26日](#)

タイが、行政上の手違いにより、南アフリカ産の落葉果実の輸入を禁止してから16年が経ち、交渉は正しい方向に進んでいる。

生食用ブドウ、リンゴ、ナシ、核果類などの南アフリカ産青果物のタイ向け輸出が禁止された当時(2008年)、その市場価値は約670万米ドルであった。

タイ農業省の査察官が最近、南アフリカ産リンゴの輸出市場の再開可能性を確認することを目的として、現地の生産状況を評価する12日間の調査のために南アフリカに到着したことから、産地の関係者らは大きな期待を寄せている。

査察官らは、南アフリカのリンゴ産業がタイへのアクセスを取り戻すための最後のステップの1つとして、果樹園と梱包施設の検査を実施した。査察団には、農業・土地改革・農村開発省、生鮮食品輸出管理委員会(PPECB)及び南アフリカ園芸生産者協会(Hortgro)の関係者が同行した。

最初の1週間は、EGVV(西ケープ州のエルギン、グラボウ、ヴィーブーム、ヴィリアスドープの各地域の頭文字)地域とセレス地域(西ケープ州)の産地の果樹園や梱包施設を訪問し、その後、ラングクルーフ地域(東ケープ州)の現場も同様に訪問した。また、日程には冷蔵倉庫やコンテナデポへの訪問も含まれていた。

Hortgroの貿易・市場担当部長であるジャック・デュプリーズ氏は、市場再開のプロセスを完了する迄には、まだいくつかの作業を行う必要があるとしつつ、「南アフリカのリンゴ生産者と輸出業者は喜んでおり、味の良いリンゴを再びタイに輸出し、両国間の貿易関係を強化する見通しに期待を持っている」と述べた。

執筆者: エリーゼマリー・スティーンカンブ

435. 米国 オレンジジュースの売上はインフレの中で引き続き堅調

[FreshFruitPortal](#) 2024年3月26日

フロリダ大学食品農業科学研究所(UF/IFAS)の新しい調査によると、消費者へのインフレ圧力にもかかわらず、米国のオレンジジュース飲用者は2023年にわずかに増加した。

このオレンジジュース追跡調査では、参加者に過去30日以内に購入した食料品の種類を報告するよう求めた。その期間にオレンジジュースを購入した人々を飲用者と定義した。

この調査によると、これに該当する消費者は2021年の48%から2022年には51%に増加し、2023年の最初の4か月間も一定に保たれていた。

オレンジジュース追跡調査のデータを分析したところ、オレンジジュースを肯定的に捉えている消費者の割合は安定しており、堅調に推移していることがわかった。これは、100%果実から作ったオレンジジュースを摂取することに関し、健康・ウェルネス属性についてのマーケティング活動を継続的に行っていることに一部起因している。

フロリダ州政府柑橘類局の経済・市場調査部長で、オレンジジュースの購買習慣を追跡したAsk IFAS文書(Ask IFASはIFASの文献サイト)の共著者であるマリサ・ザンスラー氏は、「フロリダ州のオレンジジュースに対して消費者が持っている本質的な価値がある。フロリダ州といえばオレンジジュースを思い浮かべることが多いだろう」と述べている。

消費者にとっての価格ストレス

飲用者の増加にもかかわらず、オレンジジュース価格の上昇は全体的な消費者信頼感に影響を与えた。旅行中にオレンジジュースを購入しようとする人の割合は、2021年の67%から2023年には65%にわずかに減少した。

調査によると、「2023年の第1四半期までに1ガロン(約3.8リットル)のオレンジジュースの価格は8.82ドルになり、7.77ドルであった2022年よりも14%高くなった。第1四半期の販売額は前年同期の8億6千万ドルから7億6,500万ドルへと11%減少し、多くの消費者にとって価格が高すぎるということが明らかとなった。」

価格の上昇はオレンジジュースに限ったことではないことを消費者は認識しており、インフレの中で食品購入の制限が一般的なコスト削減戦略になっているとこの調査は指摘している。

生産上の課題

フロリダ州のオレンジ生産量は、従来から米国の加工用オレンジの85%を占めてきた。しかし、同州のこの産業は、カンキツグリーニング病や天候関連の問題による様々な課題に直面している。フロリダ州のオレンジ出荷量は、2022年と2023年に歴史的な低水準に落ち込んだ。

フロリダ州では2022年に複数の自然災害が発生した。ハリケーン、寒波、カンキツグリーニング病が州のオレンジ生産に打撃を与え、出荷量は22.3%減の4,105万箱に落ち込んだ。

世界的には、フロリダ州での生産上の課題と、ブラジルや他の主要産地などでカンキツグリーニング病の打撃を受けたことにより、オレンジジュースの出荷量が10%減少した。

一方、米国によるブラジル産オレンジ果汁製品の輸入は、米国の国内供給の逼迫を受けて増加した。米国農務省によると、1月の時点で、年度初めからのブラジル産オレンジ果汁の輸入額は3億200万ポンド(約13万6千トン)に達し、前年比で5千万ポンド(約2万3千トン)近く増加した。

436. ニュージーランド ロキット・リンゴの輸出量は2倍に

[PRODUCE PLUS 2024年3月26日](#)

ロキット社は、世界市場に向けたニュージーランド産リンゴの周年供給を計画しており、今シーズンはこれまでで最大の収穫量を予想

ニュージーランドのリンゴ生産・出荷業者であるロキットグローバル(Rocket Global)社は、昨年のほぼ2倍にあたる約2億個のロキットブランドのリンゴを輸出するこれまでで最大のシーズンに期待している。ホークスベイ地方を拠点とする同社はまた、拡大し続ける同社の国際市場ネットワークに向けて、初めてニュージーランドからの周年供給を行う。

マーク・オドネルCEOは、過去数年間のコロナ禍とサイクロン被害から順調に回復している同社にとって、2024年は前例のない成長の年になると述べた。(以下「」は同氏の発言)

「弊社には、野心的だが達成可能な成長目標があり、我々の目的は、強力な販売・マーケティング計画を通じて世界で最も愛されるリンゴブランドとなり、2023年に苦労が多かった弊社の契約生産者に十分な利益をもたらすことである。」

「2024年はこれまでで最大の収穫があり、素晴らしい年になることはわかっていた。しかしここ数年は困難な年で、収穫の最盛期にコロナ禍に見舞われ、収穫・梱包の労働力に大きな圧力がかかった。そして昨年は、サイクロンでリンゴの3分の1が失われた。」

「そのため、収穫量を着実に倍増させていくのではなく、全てを一気にやろうとしている。そして、今年はニュージーランドからの周年供給を達成する最初の年になる。我々は、ニュージーランドでの栽培を増やし、世界市場での流通チャネルと販売棚のスペースを増やすことで、これを達成した。」

同社は、この成長に合わせて、インドなどへの海外販売を拡大する計画である。同社はインドで、潜在力の高い同市場における足がかりを確保する目的でリンゴを販売してきた。

「中国、中東、ベトナムといった主要なグローバル市場での販売額は2倍以上に増加しており、北米のセブンイレブンやサークルKをターゲットとしたコンビニエンスストアの販売経路など、従来は商品を提供してこなかった新しい市場にも進出している。」

執筆者: ブリー・カッジャティ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

437. トルコ 気候変動がブドウ栽培に影響を与える可能性

[FreshPlaza 2024年3月26日](#)

最近の研究では、気候変動がトルコのブドウ栽培に及ぼす影響が強調されており、気温の上昇と降雨量の減少により、今後30年間でブドウ生産に適した地域が変化する可能性があると言われている。気候の変化に敏感なブドウは、こうした環境変化により、収量と品質の両面で脅威にさらされている。

具体的には、この研究では、重要なブドウ産地であるマニサ、デニズリの両県でのサルタナブドウの収量の減少を予測している。逆に、黒海地方西部の内陸部や東アナトリア地方西部などの地域ではサルタナ種の栽培により適してくる可能性がある。また、エーゲ海地域では、高温下で良く育つボーアズケレ (Boğazkere)、エクズゴズ (Öküzgözü)、シレ (Şire) などの品種が適する可能性があることが示唆されている。

気候変動の悪影響を緩和するために、新たな適地で暑さと水ストレスに強いブドウ品種を栽培するなどの適応戦略が提案されている。

出典: bianet.org

438. 米国 研究によると「薬としての食品」戦略は有効

[Produce Market Guide 2024年3月26日](#)

新しい研究によると、地元の農場から新鮮な果実や野菜を無料で毎週宅配する事業が、健康状態の改善に役立ったことが明らかになった。

3月18日から21日にかけてシカゴで開催された米国心臓協会の「疫学と予防/ライフスタイルと心血管代謝科学セッション2024」で発表されたこの研究は、青果物の宅配により、受領者の栄養水準、身体活動の程度、及び心血管疾患の危険因子が改善されたとしている。

研究の概要によると、青果物を16週間無料で毎週宅配した後、研究参加者らは果実と野菜の摂取量を1日当たりほぼ1/2単位(サービング)増やし、毎週の身体活動時間を42分増やした。1年後には、毎週無料の青果物の配達を受けなかった成人と比較して、血糖値のコントロールが良く、悪玉コレステロールの値が低かった。また、毎週無料の青果物プログラムに参加した成人は、心血管健康指標が改善されたこともわかった。

この研究の筆頭著者であり、スタンフォード大学医学大学院の医学部と疫学及び公衆衛生学部で助教授を務めるリサ・ゴールドマン・ローザス氏はニュースリリースで、「果実や野菜などの健康的な食品を食べることが体に良いことは誰もが知っているが、健康を改善するための小さな予防策を講じるのではなく、単純な解決策を見つけることに集中しすぎることがある。我々が調査したレシピー・フォー・ヘルスのような『薬としての食品』プログラムは、健康状態の改善に役立てるため、すべての人が新鮮な果実や野菜などの健康的な食事を常に手頃な価格で入手できるようにすることに焦点を移すことを目的としている」と述べている。

関連リンク: [研究概要\(英文\)を見る](#)

執筆者: トム・カースト

439. 米国フロリダ州 柑橘類の生産は引き続き減少

[FreshFruitPortal 2024年3月28日](#)

2022-23年度シーズンの最新のフロリダ州柑橘類統計レポートによると、総生産量は前年比で60%減少した。現在、米国の柑橘類の生産量はカリフォルニア州が最も多く、総生産量の79%を占めているが、以前かずっとそうだったわけではない。カリフォルニア州は2016年にフロリダ州を抜いて米国内最大の柑橘類産地となった。近年、2017年のハリケーン「イルマ」のような一連の破壊的な気象災害がこの業界に打撃を与えている。その年のフロリダ州の収穫量は過去70年間で最低となった。

州内でカンキツグリーンング病の蔓延が続いているため、州内の生産者は毎シーズン課題に直面している。フロリダ州でこの病気が最初に検出された2005年以降、同州のオレンジ出荷量は1億5千万箱から2023年には1,580万箱へと90%減少した。

2022-23年度の全米の収穫量に占めるフロリダ州の割合は17%に減少し、カリフォルニア州に大差を付けられた第2位となっている。残りの4%はテキサス州とアリゾナ州が生産した。品目別では、フロリダ州のオレンジ出荷量は1,580万箱で、前のシーズンから62%減少した。フロリダ州のグレープフルーツ出荷量は181万箱で46%減少し、タンジェリンとタンジェロの出荷量は前のシーズンから36%減少した。

出荷額の減少 フロリダ州の2022-23年度の柑橘類の出荷額は、暫定的な樹上評価額で1億9,400万ドルと推定され、これは2021-22年度の改訂推定値5億100万ドルから61%の減少となる。全米合計の出荷額は13%減の25億8千万ドルであった。

輸出 2022-23年度のフロリダ州の生鮮果実輸出量は、合計46万7千箱であった。ベルギー向けはフロリダ州のグレープフルーツ輸出量のほとんどを占め、カナダ向けはフロリダ州のオレンジとタンジェリンの輸出量の大部分を占めた。2022-23年度シーズンには、合計67万5千ガロンの冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)がフロリダ州から輸出された。(上記報告書内の情報の多くは米国農務省農業統計局のデータによる。)

440. 米国産果実 生産増でリンゴ等が価格低下の見通し

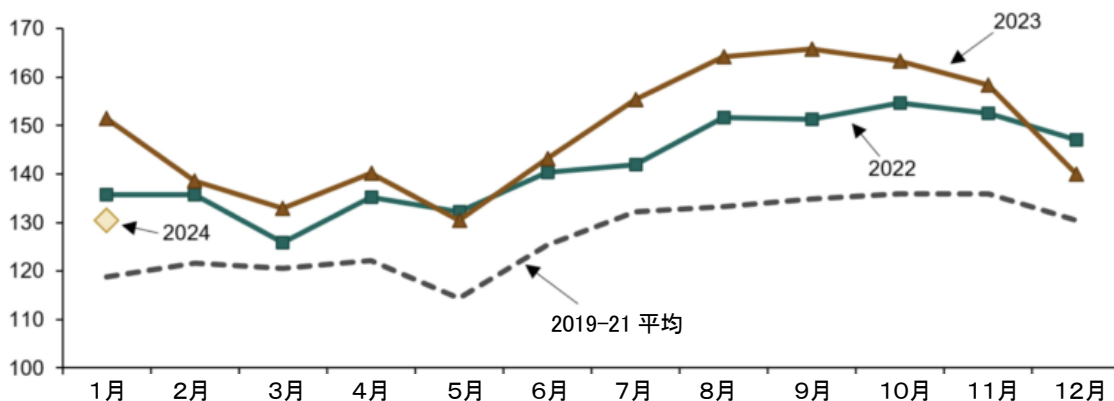
FreshFruitPortal 2024年3月28日

米国の果実生産者が春夏のシーズンに入る中、米国農務省は、一部の主要品目の増収に起因する国内生産者価格の全般的な低下を予測している。

この予測は、2023年後半に始まり、2024年に入っても続いている米国の生産者価格の下落傾向に沿っており、農務省経済調査局(USDA ERS)が米国内のリンゴ、イチゴ、オレンジの収量の増加を予想していることによるものである。

ERSの[報告書](#)は、「2024年1月時点の価格指数は2022-23年度(2023年1月)の指数をおよそ3%下回ったが、2019-21年度の1月の平均指数に比べれば10%上回っていた」としている。

果実とナッツ類の生産者価格指数の推移



出典：米国農務省農業統計局の「農産物価格」に基づき同省経済調査局が作成

アーモンド、クルミ、ヘーゼルナッツも、2010年代半ばの記録的に高い価格水準から次第に下落してきている。業界では2024-25年度のナッツ類の収量増加を予想しているおり、価格は低水準にとどまると見られる。カリフォルニア州で水が十分にあることとアーモンドの受粉期間中の天候が良いことが収量の増加に寄与すると見られる。こうした要因により、これらの品目には引き続き価格下落圧力がかかると予想される。

また、リンゴ、イチゴ、オレンジの増収も、生産者価格を昨シーズンよりも下げると見られる。

米国リンゴ協会は、2月1日現在で生鮮市場の在庫量が前年比で36%多く、過去5年間の平均より24%多いと報告している。ERSは、「在庫が増加したことで、リンゴの価格は低く抑えられており、これはワシントン州での2023/24年度の生産量の増加を反映している」としている。

イチゴは、米国産冬イチゴの主要な供給源であるフロリダ州のほか、カリフォルニア州の南部と中部でも1月に豊作となり、価格は前年比14%下落した。

柑橘類の動向

生鮮オレンジも、国内供給量の増加により、平均価格が下がっている。ERSによると、オレンジの価格は12月に上昇したが、1月には下落した。米国産オレンジの供給量は2023/24年度に比べて11%増の277万トンと予測されている。(訳注：ERSの報告書に従って原文記事から一部修正しました。)

しかし、米国産柑橘類全体としては、出荷量は485万トンと1%の減少が見込まれている。生産に大きな打撃を受けると予想される品目の1つはレモンで、ほぼ全量がカリフォルニア州で生産されているが、2023/24年度の出荷量は83万6千トンで、25%減少すると予測されている。タンジェリンの出荷量も90万4千トンで7%の減少と予測されている。(柑橘類の出荷量予測については[No.444](#)参照)

訳注：この記事中の「トン」は米トン(ショートトン)であり、1米トン＝約0.907トン(メートルトン)です。

441. イタリア Vogがリンゴの新しい販売方法を導入

EUROFRUIT 2024年3月28日

新しい小売用移動式展示台は、コンソーシアムのトップブランドを1か所に集める

イタリアのVogリンゴ・コンソーシアムは、スーパーマーケットの青果物売り場に付加価値と魅力を与えるため、最新のブランドを1か所にまとめて展示する新しい展示方法をヨーロッパのいくつかの国で開始した。

「移動式で多用途に柔軟に使える展示台で、消費者が自分のニーズに合ったリンゴを見つけられるように導きながら、売り場に魅力的な要素を追加する」と説明されている「イノベーションコーナー」は、消費者の注目を集め、品種の進歩を強調するように設計されている。



この取り組みは、コズミッククリスプ、レッドポップ、ギガ、イエロなどのブランドを対象にすでにヨーロッパの多くの小売店で登場している。Vogは、各市場や時期に特有のニーズに適応できるとしている。

販売部長のハンネス・タウバー氏は、「我々はリンゴに特化しているため、青果物売り場における(消費者との)コミュニケーションを改善する(小売業者の)品目別管理のパートナーとして最適である。イノベーションコーナーはその一例だ。この道具立てにより、最新の特徴的なブランドが、新しい消費者の興味をそそり、好みの商品を特定するための手段を提供することで、その魅力を十分に発揮することができる」と述べている。

Vogは、新しいディスプレイと店頭での試食を組み合わせてきており、それによってその場での即売や、後日の再購入を促進できるとしている。また、このツールの柔軟性により、青果物売り場から離れてリンゴに関するコミュニケーションを行うことも可能になった。

営業部長のクラウス・ヘルツル氏は、「消費者も取引先も、この取り組みに非常に関心が高かった」と言い、「消費者は、通常とは異なる展示方法で、品種やブランドについてよりよい説明を提供するためのスペースが広いことに気づいた。小売業者は、リンゴについて何か新しいものを生み出そうとする努力を高く評価している。中には、コミュニケーションの要素を加え、ディスプレイをクリエイティブに使用している業者もいた。この熱意は、この取組みが正しい方向を向いており、サプライチェーン全体を強化するための当社と取引先の共同作業を強化するものであることを裏付けている」と述べた。

Vogは、総合的生産管理と有機栽培のどちらで栽培されたリンゴでも、一年中毎月、適切なものを提供できるとしている。このコンソーシアムは1945年に設立され、4,600の家族経営農場を組合員とする11の協同組合で構成されている。世界の75の市場に向けて、年間50万トン以上のリンゴを出荷している。

執筆者： マウラ・マクスウェル

* 訳注： イエロ(yello®)は長野県で開発されたシナノゴールドの商標であり、イタリアの2団体(VIP(ヴァル・ヴェノスタ果実・野菜協同組合連合会)及びVog(南チロル果実生産者協同組合共同事業体))が県と独占的販売契約を結んでいます。

442. エジプト 今年の柑橘類は採算が合わない

FreshPlaza 2024年3月28日

エジプトの柑橘類輸出業者らは、紅海危機によってアジアの重要な市場から切り離され、さらに他の市場での供給量が増加し、その結果として価格の下落につながったため、困難なシーズンになっていると異口同音に不満を漏らした。ジェリラ社のエスラム・ジェリラCEOによると、紅海危機により2023-24年度の出荷シーズンは不採算となった。(以下「」は同CEOの発言)

「アジア、特に極東における弊社の事業は、紅海の状況によって大きな打撃を受けており、これはエジプトのすべての輸出業者に当てはまる。それでも少量をなんとか出荷しているが、毎回リスクを負っている。」

「極東への輸送コストの大幅な増加に加えて、輸送時間が22日から45日に増加したため、現地の輸入業者らは、果実の鮮度と棚持ちについて懸念を抱いている。強力なブランドを持ち、その品質によって市場で知られている輸出業者は、他の業者よりはうまくやっているが、誰もが同じ運命にある。」

業界筋によると、中国の海運会社数社が安全かつスムーズに紅海を航行している。しかし、同CEOは、それらの会社のサービスを利用するリスクは高すぎると言う。「個人的にはそのような例を直接知らないが、いずれにせよ、弊社は良く知られた評判の良い国際企業と仕事をしている。貨物全体を失うリスクを冒すわけにはいかない。」

この状況に対処するために、エジプトの輸出業者らは、従来からの市場であるヨーロッパ、ロシア、中東や、新興市場であるブラジル、カナダなど、他の市場に目を向けている。同CEOは同社が今シーズン、ブラジルへの輸出を50%増やしたと述べた。

「東アフリカと西アフリカへの輸出も増やしているが、これらの国では購買力が低いため、満足のいく価格が得られず苦戦している。」

「今シーズン、エジプトの柑橘類生産量が大幅に増加したことに留意すべきである。アジア市場を失ったことと関連して、主要市場であるヨーロッパ、ロシア、中東への供給量が増加し、低価格につながっている。」

「価格は昨シーズンの同時期と同じ水準であるが、シーズン終盤の価格は下がると予想している。」他の情報筋によると、米ドル建ての価格は昨年と同じ水準にあるものの、自国通貨(エジプトポンド)建てでは低くなっており(原文のまま)、生産者と輸出業者は同様に利益率が大幅に低下している。

ジェリラ氏は、「結局のところ、今シーズンの柑橘類は採算が取れない。我々は、雇用とキャッシュフローを維持し、特に最大の輸出国であるエジプトの地位を市場で維持するためだけに輸出を続けている」と嘆く。「今年のこの難しい出荷シーズンは、出荷量が昨シーズンより多いために長引き、終了が通常よりも遅くなりそうである。」

エジプトの輸出業者らは、以前は紅海の危機の早期終結を願っていたが、今はより冷静な見通しを持っている。「ラマダンが終わる頃(4月8日ないしは9日頃)にはスペインの出荷が終了するはずなので、市場の前向きな動きを期待している。夏にはオレンジ果汁の出荷と消費が刺激されることを期待している」。

執筆者: ユーネス・ベンサイド

443. エジプト 来たる生食用ブドウシーズンの課題

FreshPlaza 2024年3月28日

グリーンIAP社の技術支援・開発の責任者で、栄養学の専門家でもあるヘシャム・タンタウィ氏は、エジプトの今年の生産条件は、農学的にも財政的にも、生食用ブドウの生育段階を難しくし、波乱に満ちた出荷シーズンを告げていると言う。(以下「」は同氏の発言)

「最近まで最適な気温で、全般的に15度を超えていたが、突然通常よりも気温が低くなり、これが開花期に影響し、受粉率の低下や早期の落果につながっている。一部の品種は他の品種よりも影響を受けている。」

「その結果、ブドウの生育も遅れているが、これが出荷の開始が遅れることを意味するかどうかはまだ分からない。一部の生産者が5月上旬に早期に収穫したとしても、大部分の収穫は例年よりも遅れることが予想される。」

「異なる生産者の収穫時期に時間差が見られるのは良いことである。これは、シーズンを通して出荷量のバランスをとる上で良い兆候である。しかし、エジプトの競争上の最大の優位性は、市場への早期の出荷であり、特に2018年から現在まで、最初の1か月間は競争がないことである。出荷の開始が遅れると、商業的に難しいことになる。」

経済状況もまた、これからのブドウのシーズンに課題をもたらしている。「状況をさらに複雑にしているのは、為替レートの頻繁な変動である。販売上の制約により、技術的な意思決定、つまり農作業が非常に困難になっている。」

エジプトは、米ドルに対する自国通貨(エジプトポンド: EGP)の下落に長い期間直面してきたが、現地通貨は最近大幅に切り下げられた。「この切り下げは、生食用ブドウの生産者らが農業資材を輸入した直後に起こった。したがって、生産コストは現在の米ドルレートに対して高すぎた。したがって、これらのコストを輸出価格に織り込むことは困難であり、同時に価格の上昇が避けられない。」

「エジプトでの生食用ブドウの生産コストは、1ヘクタール当たり約50万エジプトポンド(約160万円)とこれまでで最高に達しており、これは昨年2倍である。」

紅海危機もこのセクターに影を落としているが、ヘシャム氏は自信を失っていない。「あまりにも長く続いているこの危機を封じ込めるために多くの努力が払われており、徐々に正常な状態に戻りつつある。できればブドウの出荷シーズンが始まる前に正常化してほしい。」

エジプトでは、昨年生食用ブドウ部門が直面した問題を解決するための取り組みも展開されていると、同氏は報告する。「物流の面では、エジプトの新しい海運会社が間もなく稼働し、これはヨーロッパへの輸送の混雑を回避するのに役立つ。輸送時間に特に敏感な生食用ブドウのためになるだろう。」

「政府はまた、海賊版ブドウ品種が出荷されていないか監査するために、技術的手段に裏打ちされた新しい措置を導入した。また、種苗会社は苦情処理の仕組みを使えるようになり、疑わしい園地の監査を発動できるようになる。」

ヘシャム氏は、「品種の選択に関しても、国レベルで大きな変化が見られ、これまで見過ごされてきた特定の品種の状況が大きく変化し、復活を遂げている。栽培面積と生産量の点で、こうした傾向の大きな勝者は、スーペリアとアーリースイートの両品種である。また、レーズン分野でも急速な進展が見られる」と結論付ける。

ヘシャム氏は今週、ある民間テレビ放送局が後援する「100万エーカー」事業で、同事業の科学委員会と同業者による投票の結果、「植物栄養コンサルタント」部門の賞を受賞した。同氏は、「この賞は私にとって大きな意味があり、エジプトの生食用ブドウ産地を振興するためにエジプトの生産者と協力するという私のコミットメントを強化するものだ」と述べている。

執筆者: ユーネス・ベンサイド

444. 米国 2024年3月の柑橘類出荷量予測

FreshPlaza 2024年4月29日

2023/24年度の最新の米国産柑橘類出荷量予測(2024年3月)は485万トンで、2022/23年度の最終総出荷量の490万トンから1%減となる。2024年3月の米国農務省農業統計局(NASS)の作物生産レポートは、国内の生産者は2022/23年度の最終的な出荷量に比べて11%増の277万トンのオレンジを出荷すると予測している。グレープフルーツの出荷量は、2022/23年度に比べて4%増の34万トンと予想されている。

レモンの出荷量は、その95%がカリフォルニア州の農場から供給されているが、2022/23年度の111万6千トンから2023/24年度には83万6千トンへ25%減少すると予想されている。タンジェリンの出荷量は、2022/23年度の97万1千トンから2023/24年度には90万4千トンへと7%減少すると予想されている。

(以下「米国農務省経済調査局報告書」についての記述を省略。同報告書の要点はNo.440参照)

訳注: この記事中の「トン」は米トン(ショートトン)であり、1米トン＝約0.907トン(メートルトン)です。

(関連記事)米国 柑橘類出荷量予測

米国農務省農業統計局(2024年3月8日)
フロリダ州農業消費者サービス局との共同発表

柑橘類の種類別出荷量及び予測出荷量 - 州別及び米国計

種類及び州	出荷量 ¹		2023-2024 予測出荷量 ¹	
	2021-2022 (1,000 箱)	2022-2023 (1,000 箱)	2月 予測 (1,000 箱)	3月 予測 (1,000 箱)
パレンシア種以外のオレンジ ²				
フロリダ州	18,250	6,150	6,800	6,800
カリフォルニア州 ³	31,500	36,500	38,000	38,000
テキサス州 ³	170	570	600	600
米国計	49,920	43,220	45,400	45,400
パレンシア種のオレンジ				
フロリダ州	22,950	9,650	13,000	13,000
カリフォルニア州	7,600	6,700	7,800	8,000
テキサス州 ³	30	560	350	350
米国計	30,580	16,910	21,150	21,350
オレンジ合計				
フロリダ州	41,200	15,800	19,800	19,800
カリフォルニア州	39,100	43,200	45,800	46,000
テキサス州 ³	200	1,130	950	950
米国計	80,500	60,130	66,550	66,750
グレープフルーツ				
フロリダ州合計	3,330	1,810	2,400	2,200
赤肉系	2,830	1,560	2,100	1,900
白肉系	500	250	300	300
カリフォルニア州 ³	4,100	4,000	3,800	3,800
テキサス州 ³	1,700	2,250	2,350	2,350
米国計	9,130	8,060	8,550	8,350
レモン ³				
アリゾナ州	1,250	1,400	900	900
カリフォルニア州	25,200	26,500	20,000	20,000
米国計	26,450	27,900	20,900	20,900
タンジェリン及びマンダリン				
フロリダ州	750	480	550	500
カリフォルニア州 ^{3 4}	17,500	23,700	22,000	22,000
米国計	18,250	24,180	22,550	22,500

¹ 1箱当たりの正味重量(ポンド) オレンジ: カリフォルニア州 80、フロリダ州 90、テキサス州 85。グレープフルーツ: カリフォルニア州及びテキサス州 80、フロリダ州 85。レモン: 80。タンジェリン及びマンダリン: カリフォルニア州 80、フロリダ州 95。

² カリフォルニア州ではネーブル種及びその他の品種。フロリダ州及びテキサス州では早生品種(ネーブル種を含む)及び中生品種。

³ 前回の予測を持ち越し

⁴ タンジェロ及びタンゴールを含む。

445. 南アフリカ産柑橘類 ベトナムをはじめアジア市場に目を向ける

[FreshFruitPortal](#) 2024年3月29日

南アフリカの柑橘類の輸出シーズンは4月に始まり、ベトナムがオレンジの最も新しい輸出先となる。

農業・土地改革・農村開発省 (DALRRD) はシーズンの開始を前に、南部アフリカ柑橘類生産者協会 (CGA) と共同で、ベトナム政府との二国間協定の締結を発表した。

CGAの最高執行責任者 (COO) であるポール・ハードマン氏は本サイト (FreshFruitPortal.com) に対し、この市場の開放により、1万5千トンのオレンジ輸出の可能性がもたらされると語った。(以下「」は同氏の発言)

南アフリカは合計約7万5千エーカーでバレンシアオレンジを、約3万7千エーカーでネーブルオレンジを栽培している。(1エーカー=約0.4ヘクタール)

「この協定により、より多くの雇用機会が生まれ、ベトナムの消費者に我々の品質の高いオレンジを再び紹介することになる。南アフリカの柑橘類産業は目覚ましい速度で成長しており、ベトナム市場はこの成長の一部を吸収するだろう。」

南アフリカの柑橘類の出荷シーズンは4月に始まるが、輸出量は5月に増え始める。その時点で、業界はベトナムへの「かなりの量の」出荷を開始することを期待している。

「まずネーブルを輸出し、その後バレンシアの収穫が始まればそれを輸出する。」

さらなる拡大の可能性

ハードマン氏は、ベトナム市場に多くの可能性を見出しており、今回オレンジの輸入が承認されたことで、マンダリン、グレープフルーツ、レモンの申請が続くという。

「アジア市場は全般的に可能性がある。主な理由は、成長している経済、人口の多さ、輸入果実の価値の高さ、果実が多い食生活、そして彼らの品質志向である。」

ベトナム国内の複数の大手小売業者が数千軒の小さなコンビニエンスストアをオープンし、今では良質の柑橘類を扱うことができるという。

FAOSTAT (FAOの統計データベース) によると、南アフリカは世界でも有数の柑橘類輸出国であり、2022年の輸出総額は17億2千万ドルに上り、全世界の輸出額の11.7%を占める。

南アフリカからの柑橘類の主な輸出先は、オランダ (3億4,300万ドル)、イギリス (1億5,400万ドル)、ロシア (1億3,800万ドル)、アラブ首長国連邦 (1億3,700万ドル)、そして中国 (1億3,400万ドル) が続く。

ハードマン氏によると、南アフリカは現在、インドへの貿易拡大に懸命に取り組んでおり、また、タイと韓国にも期待が寄せられている。

執筆者: セバスチャン・ラミレス

海外果樹農業情報 刊行物一覧

No.	調査報告書名	発行年月
108	カナダの果樹農業・政策実態調査報告書	11. 3
109	米国カリフォルニア州におけるアウトウの生産・流通事情調査報告書	11. 6
110	台湾における果実の生産・流通・消費等実態調査報告書	11. 6
111	中東における日本産果実の販売可能性調査	11. 8
112	ブラジルにおけるオレンジ及びオレンジ果汁を中心とした生産・流通事情調査報告書	11. 9
113	中国の主要都市における日本産果実の販売可能性及び中国のアウトウ産地調査報告書	11. 10
114	世界の主要果実の生産・貿易概況 2012 年版	12. 3
115	台湾における日本産果実の流通状況等実態調査報告書	12. 6
116	中国におけるブドウの生産・流通・消費調査報告書	12. 10
117	韓国の対米国 FTA 締結による韓国果樹産業への影響等調査報告書	12. 11
118	台湾における東日本大震災後の日本産果実等流通状況実態調査報告書	13. 3
119	中国におけるモモの生産・流通・消費調査報告書	13. 3
120	世界の主要果実の生産概況 2013 年版	13. 10
121	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入に関連する規制等に係る調査報告書	14. 3
122	世界の主要果実の貿易概況 2013 年版	14. 3
123	世界の主要果実の生産概況 2014 年版	14. 10
124	世界の主要果実の生産概況 2015 年版	15. 3
125	台湾における日本産果実の流通及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	15. 3
126	ニュージーランドの果樹農業及び香港の日本食品・果実事情調査報告書	15. 8
127	海外の果樹産業ニュース 2015 年度版	16. 3
128	台湾における日本産食品の輸入規制強化にともなう日本産果実の流通への影響に係る調査報告書	16. 3
129	海外の果樹産業ニュース 2016 年度上期版	16. 10
130	世界の主要果実の生産概況 2016 年版	17. 2
131	海外の果樹産業ニュース 2016 年度下期版	17. 3
132	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	17. 3
133	海外の果樹産業ニュース 2017 年度上期版	17. 9
134	世界の主要果実の生産概況 2017 年版	18. 2
135	世界の果樹産業ニュース 2017 年度下期版	18. 3
136	台湾における日本産果実の流通・消費の状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	18. 3
137	海外の果樹産業ニュース 2018 年度上期版	18. 10
138	世界の主要果実の生産概況 2018 年版	19. 2
139	海外の果樹産業ニュース 2018 年度下期版	19. 3
140	米国ワシントン州のりんご生産の現状と省力・機械化技術に関する調査報告書	19. 3
141	海外の果樹産業ニュース 2019 年度上期版	19. 10
142	欧州及びイタリアの果樹農業の現状とスマート農業に関する調査報告書	20. 3
143	海外の果樹産業ニュース 2019 年度下期版	20. 3
144	世界の主要果実の生産概況 2019 年版	20. 3
145	海外の果樹産業ニュース 2020 年度上期版	20. 9
146	世界の主要果実の生産概況 2020 年版	21. 3
147	海外の果樹産業ニュース 2020 年度下期版	21. 3
148	世界の醸造用ぶどう栽培の動向 気候変動対応と持続可能性の取組	21. 3
149	世界の主要果実の貿易概況 2021 年版	21. 5
150	海外の果樹産業ニュース 2021 年度上期版	21. 9
151	世界の主要果実の生産概況 2021 年版	22. 3
152	海外の果樹産業ニュース 2021 年度下期版	22. 3
153	世界の生食用ぶどう産業 品種動向と栽培流通技術	22. 3
154	世界の主要果実の貿易概況 2022 年版	22. 5
155	海外の果樹産業ニュース 2022 年度上期版	22. 9
156	海外の果樹産業ニュース 2022 年度下期版	23. 3
157	世界のもも産業 生産・消費動向と栽培流通技術	23. 3
158	世界の主要果実の生産・貿易概況 2022 年版	23. 3
159	日本の果実の貿易概況 2022 年版	23. 4
160	海外の果樹産業ニュース 2023 年度上期版	23. 7
161	海外の果樹産業ニュース 2023 年度中期版	23. 11
162	世界の主要果実の生産・貿易概況 2023 年版	24. 1
163	世界のおとう産業 生産・流通の現状と品種・栽培流通技術	24. 3
164	新型コロナウイルス禍の世界の果樹農業 生産流通消費への影響と今後の対応	24. 3
165	海外の果樹産業ニュース 2023 年度下期版	24. 3
166	日本の果実の貿易概況 2023 年版	24. 4

